

道東自動車道
占冠地区下部工工事

本流鵠川第四橋（下り線）
下部工設計図

令和 7 年 3 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1. 数量総括表	1
2. 全体一般図（その１～２）	2 ～ 3
3. 下部工座標図	4
4. A 1 橋台構造一般図（その１～２）	5 ～ 6
5. A 1 橋台配筋図（その１～１７）	7 ～ 23
6. P 1 橋脚構造一般図	24
7. P 1 橋脚配筋図（その１～８）	25 ～ 32
8. A 2 橋台構造一般図（その１～２）	33 ～ 34
9. A 2 橋台配筋図（その１～１８）	35 ～ 52
10. A 1 橋台裏込め工図	53
11. A 2 橋台裏込め工図	54
12. A 1 橋台土留め工計画図（その１～５）	55 ～ 59
13. A 2 橋台土留め工計画図（その１～８）	60 ～ 67
14. はく落防止対策工詳細図（その１～２）	68 ～ 69

下部工施工

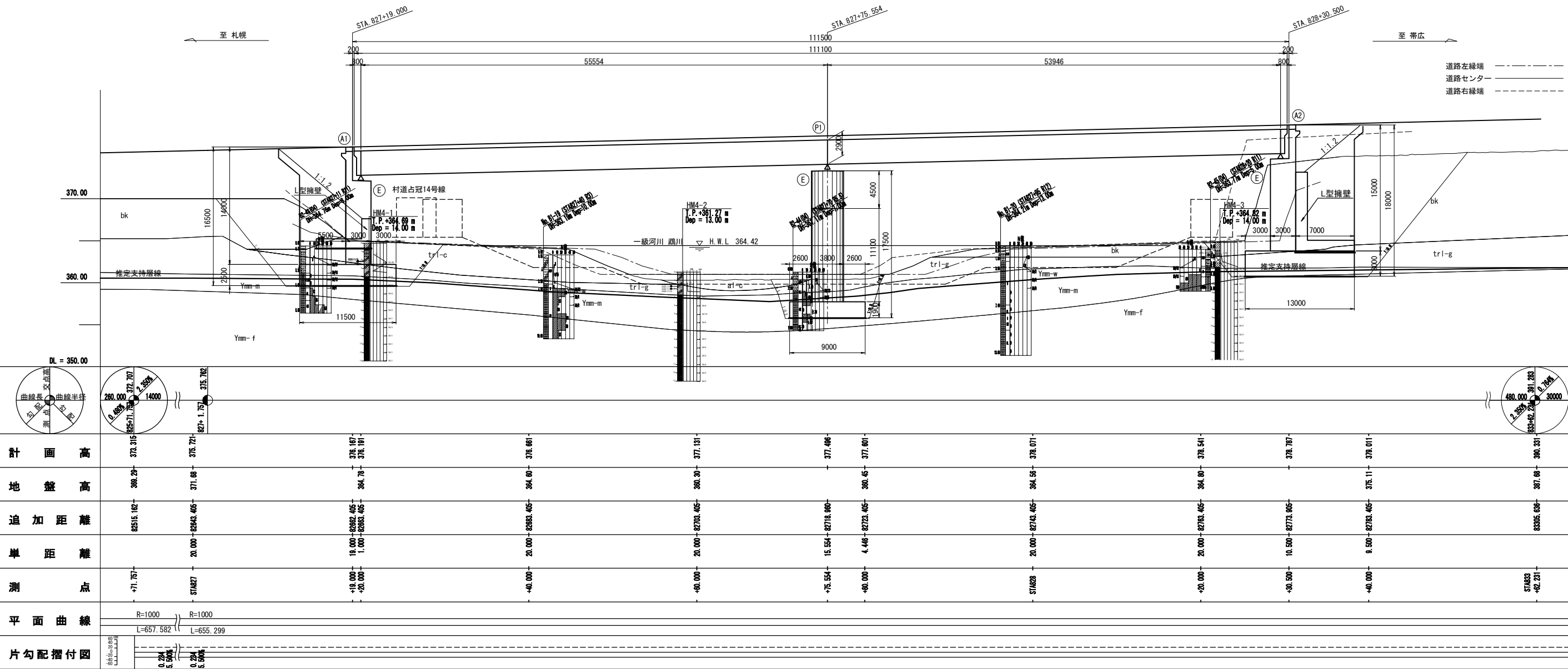
項 目	種 別			単位	第四橋				摘 要
					A 1 橋台	P 1 橋脚	A 2 橋台	合 計	
客土掘削	土砂 A 1			m3	735. 9	698. 5	507. 9	1, 942. 3	
構造物掘削	普通部			m3	－	624. 6	－	624. 6	
	特殊部			m3	2, 492. 8	－	4, 156. 2	6, 649. 0	
構造物裏込め工	裏込め工 B 1			m3	389. 3	－	226. 8	616. 1	
地下排水工	Du-Pφ0. 15-0. 50-0. 50			m	9. 2	－	8. 8	18. 0	※率計上
コンクリート	A 1－3			m3	597. 1	223. 0	707. 8	1, 527. 9	躯体σck=30N/mm2
	B 2－1			m3	317. 7	153. 9	431. 0	902. 6	σck=24N/mm2 フーチング
	D 1－1			m3	13. 2	8. 5	14. 9	36. 6	σck=18N/mm2 均しコンクリート
型わく	C			m2	903. 5	291. 4	1, 129. 4	2, 324. 3	
	D			m2	4. 6	3. 7	4. 9	13. 2	
鉄 筋	躯体	A	D13	t	0. 017	－	0. 017	0. 034	SD345（重ね継手）
			D16～D25	t	6. 403	11. 790	8. 684	26. 877	
			D29～D32	t	8. 583	－	8. 018	16. 601	
			D35	t	10. 876	6. 652	5. 935	23. 463	
			D38	t	0. 806	11. 810	12. 615	25. 231	
			小計	t	26. 685	30. 252	35. 269	92. 206	
		A（E）	D13	t	0. 595	－	0. 719	1. 314	SD345（重ね継手）（防錆処理鉄筋）
			D16～D25	t	5. 465	－	2. 553	8. 018	
			D29～D32	t	12. 128	－	17. 790	29. 918	
			D35	t	8. 034	－	19. 521	27. 555	
			D38	t	15. 668	－	－	15. 668	
			小計	t	41. 890	－	40. 583	82. 473	
		B	D29～D32	t	4. 190 [48]	－	6. 761 [65]	10. 951 [113]	SD345（機械継手）
			D35	t	6. 999 [60]	5. 310 [59]	－	12. 309 [119]	
			D38	t	2. 773 [19]	－	7. 837 [48]	10. 610 [67]	
			D41	t	－	－	－	－	
			D51	t	21. 238 [104]	－	22. 997 [101]	44. 235 [205]	
			小計	t	35. 200 [231]	5. 310 [59]	37. 595 [214]	78. 105 [504]	
		B（H）	D51	t	－	20. 110 [72]	－	20. 110 [72]	SD490（機械継手）
			計	t	－	20. 110 [72]	－	20. 110 [72]	
		C	D13	t	－	－	－	－	SD345（機械式鉄筋定着工法）
			D16～D25	t	0. 986 (178)	1. 237 (261)	1. 866 (214)	4. 089 (653)	
			D29～D32	t	－	－	－	－	
			小計	t	0. 986 (178)	1. 237 (261)	1. 866 (214)	4. 089 (653)	
		C（E）	D13	t	－	－	－	－	SD345（機械式鉄筋定着工法）（防錆処理鉄筋）
			D16～D25	t	0. 694 (310)	－	0. 955 (395)	1. 649 (705)	
			D29～D32	t	3. 674 (181)	－	3. 654 (180)	7. 328 (361)	
			小計	t	4. 368 (491)	－	4. 609 (575)	8. 977 (1066)	
		合計			t	109. 129	56. 909	119. 922	285. 960
はく落防止対策工	A	m2	19. 6	－	24. 5	44. 1			

注1)[]内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。
注2)()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

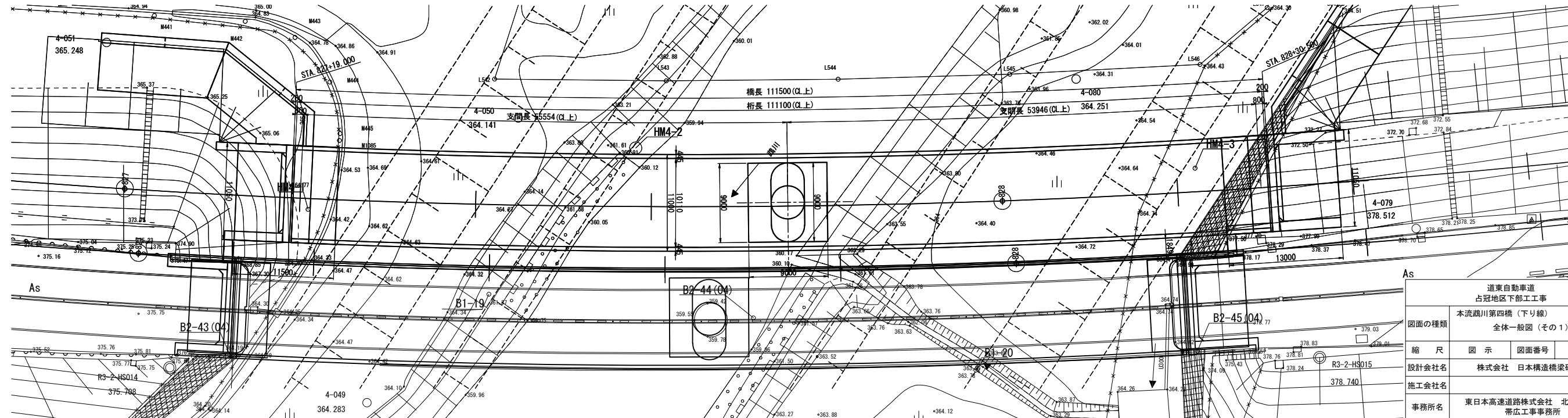
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第四橋（下り線） 数量総括表（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	－
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鵲川第四橋（下り線） 全体一般図（その1）

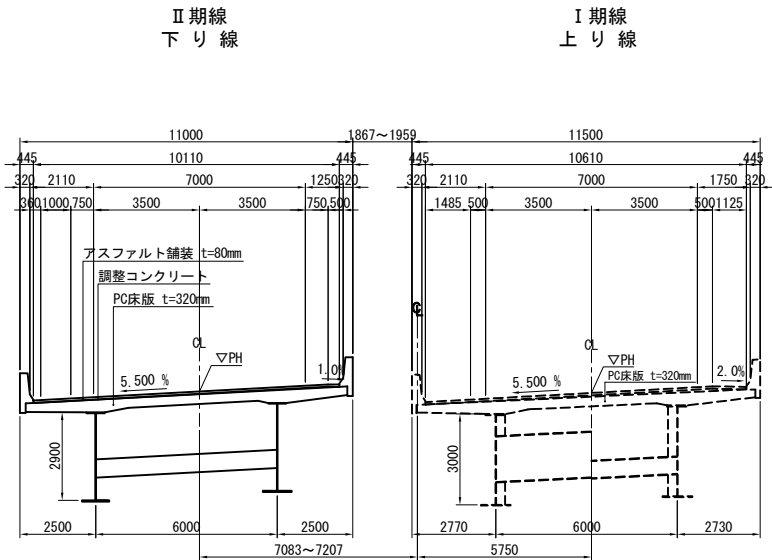
側面図 S=1:500



平面図 S=1:500

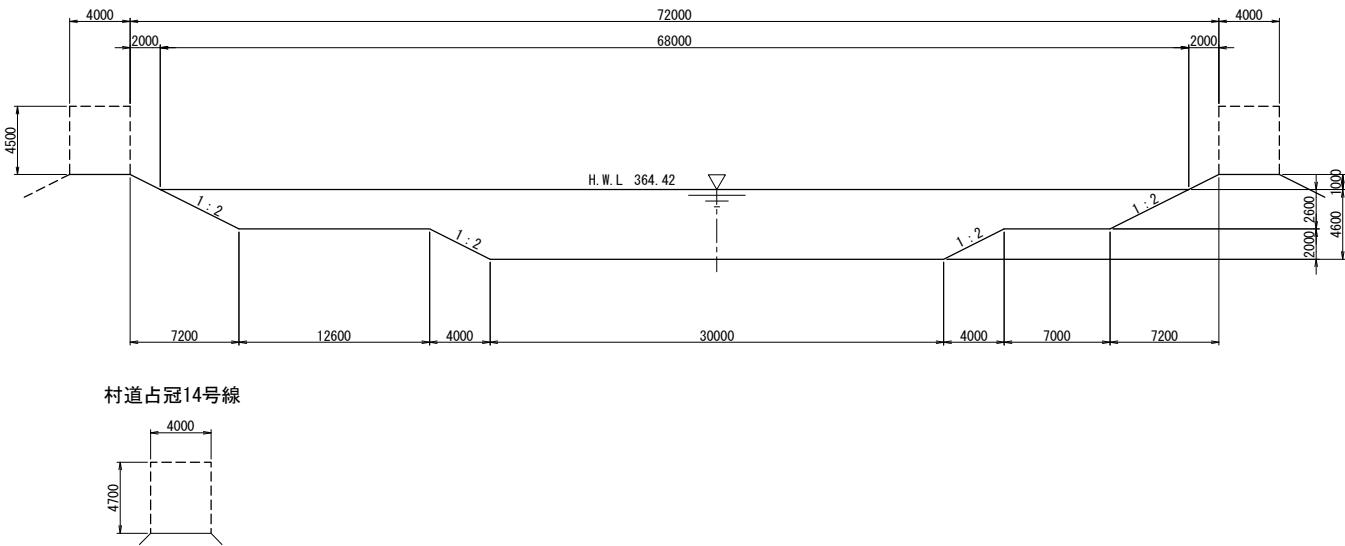


断面図 S=1:250

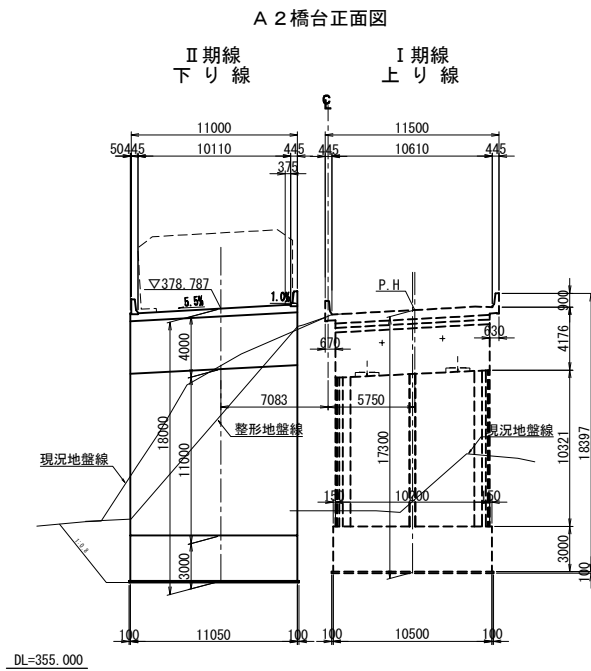
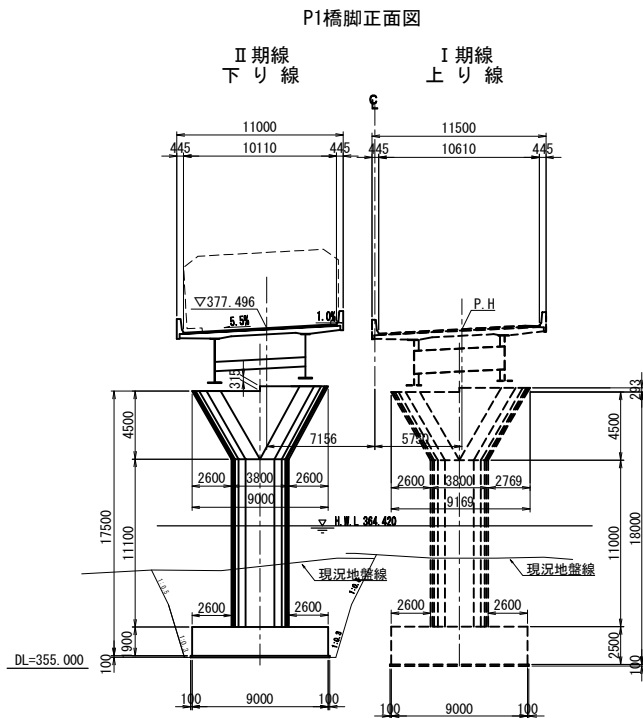
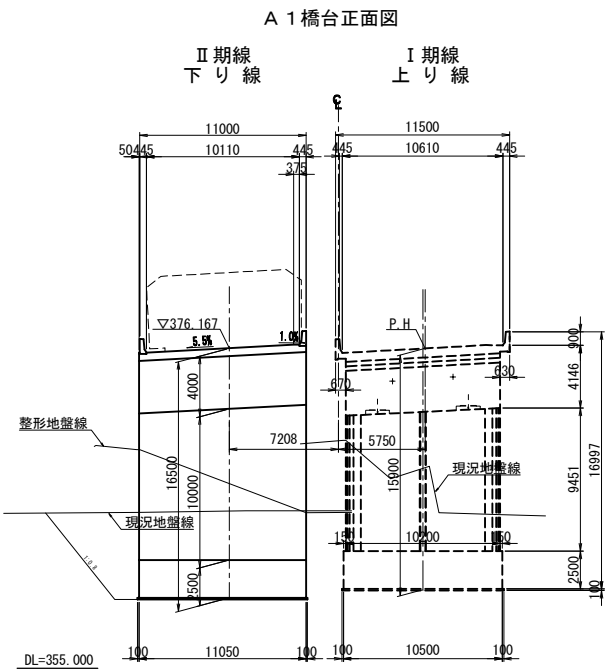


交差条件 S=1:500

一級河川 鵜川
計画高水流量 Q=880(m³/sec)
700+71.387



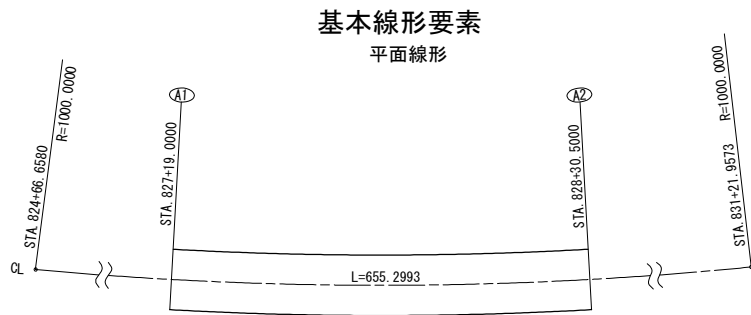
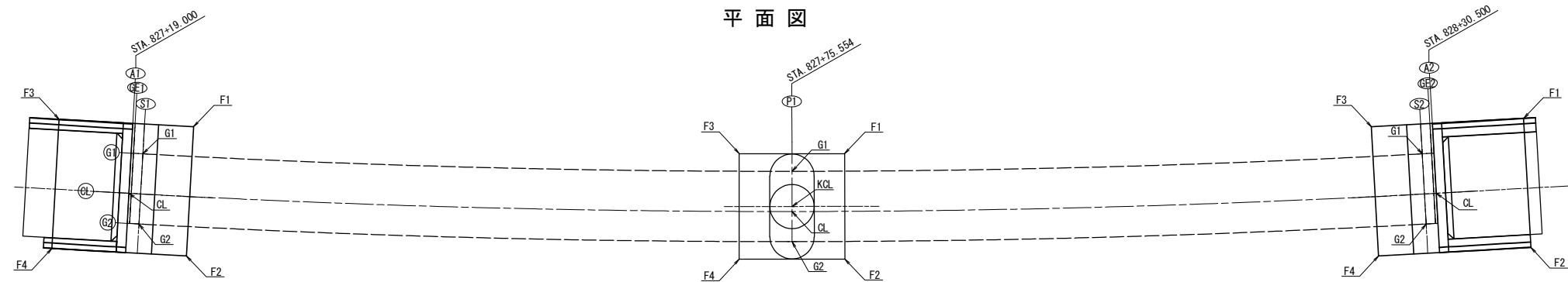
断面図 S=1:500



設計条件

基本 条件	路線名	道東自動車道		
	橋名	本流鵜川第四橋 下り線		
	道路規格	第1種第2級B規格		
	設計速度	100km/h		
	計画交通量	8400台/日	大型車交通量：2024台/日	
	橋長	A1-A2: 111.50m (CL上)		
	桁長	A1-A2: 111.10m (CL上)		
	支間長	A1-A2: 55.554+53.946m (CL上)		
	全幅員	11.000m	非常駐車帯部	—
	有効幅員	10.110m	非常駐車帯部	—
耐荷 性能 条件	平面線形	R= 1000m		
	縦断線形	i=2.350% 		
	横断線形	i=5.500% 		
	斜角	90° 00' 00"		
	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2		
	設計供用期間	100年		
	舗装荷重	アスファルト舗装 t=80mm		
	遮音壁荷重	設置しない (設計荷重は両側w=1.45kN/mとして考慮)		
	雪荷重	考慮しない		
	設計活荷重	B活荷重		
耐久 性能 条件	温度変化条件	-10～ +50℃ (基準温度20℃)		支承・伸縮装置 -40～+40℃ (基準温度0℃)
	橋の重要度区分	B種の橋		
	地域補正係数	B2地域: Cz=0.85, C1z=1.0, C2z=0.85		
	地盤種別	I 種地盤 kh = Cz・kho = 0.85 × 0.20 = 0.17		
	地盤の液状化	なし		
	設計水平震度	レベル1	橋軸方向：0.17	直角方向：0.17
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向：0.81	直角方向：0.81
		レベル2 (Ⅱ)	橋軸方向：0.70	直角方向：0.70
	固有周期	レベル1	橋軸方向：0.87	直角方向：0.66
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向：1.35	直角方向：1.36
レベル2 (Ⅱ)		橋軸方向：1.37	直角方向：1.36	
耐久 性能 条件	架橋環境条件	地域区分C 200m以上		
	塩害対策区分	該当なし		
	維持管理の制約	なし		
	部材の設計耐久期間	100年		
	鋼桁塗装仕様	C塗装系		
上部 構造 条件	鉄筋被り	床版：40mm、下部工：80mm (土中、水中)		
	橋梁形式	鋼2径間連続合成少数版桁橋		
	防護柵形式	フロリダ型 S B種		
	使用材料	主要鋼材	SS400、SM400、SM490Y、SM520、SM570、S10T	
		コンクリート	σck=40N/mm2 (床版) σck=30N/mm2 (地覆、壁高欄)	
鉄筋		SD345		
下部 構造 条件		P C鋼材	1S28.6 (SWPR19L)	
	架設方法	トラッククレーンバント工法		
	構造形式	逆 T 式橋台 (A1, A2橋台)、張出式橋脚 (P1橋脚)		
	基礎形式	直接基礎 (A1, A2橋台、P1橋脚)		
	使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2 (躯体)	
σck=24N/mm2 (フーチング)				
		σck=18N/mm2 (均しコンクリート)		
支持層	鉄筋	SD345、SD490		
		中部蝦夷層群 (Ymm-m)	N値218	
支承形式	橋軸方向：免震支承 橋軸直角方向：免震支承			
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル連結		
		段差防止構造		
維持管理条件	点検方法	上部工検査路、下部工検査路		
		本線から：法面階段、桁下から：A1橋台昇降梯子		
その他検討事項	地震時の点検補修部位	支承部他		
	第三者被害対策	はく落防止、落下物防止柵 (交差道路に対して)		
	振動・騒音条件	なし		
適用基準等	道路標示方書・同解説 I～V編 (平成29年11月) 日本道路協会			
	設計要領第二集 (平成28年8月) 東日本高速道路株式会社			

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋 (下り線) 全体一般図 (その2)		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



主要点座標値

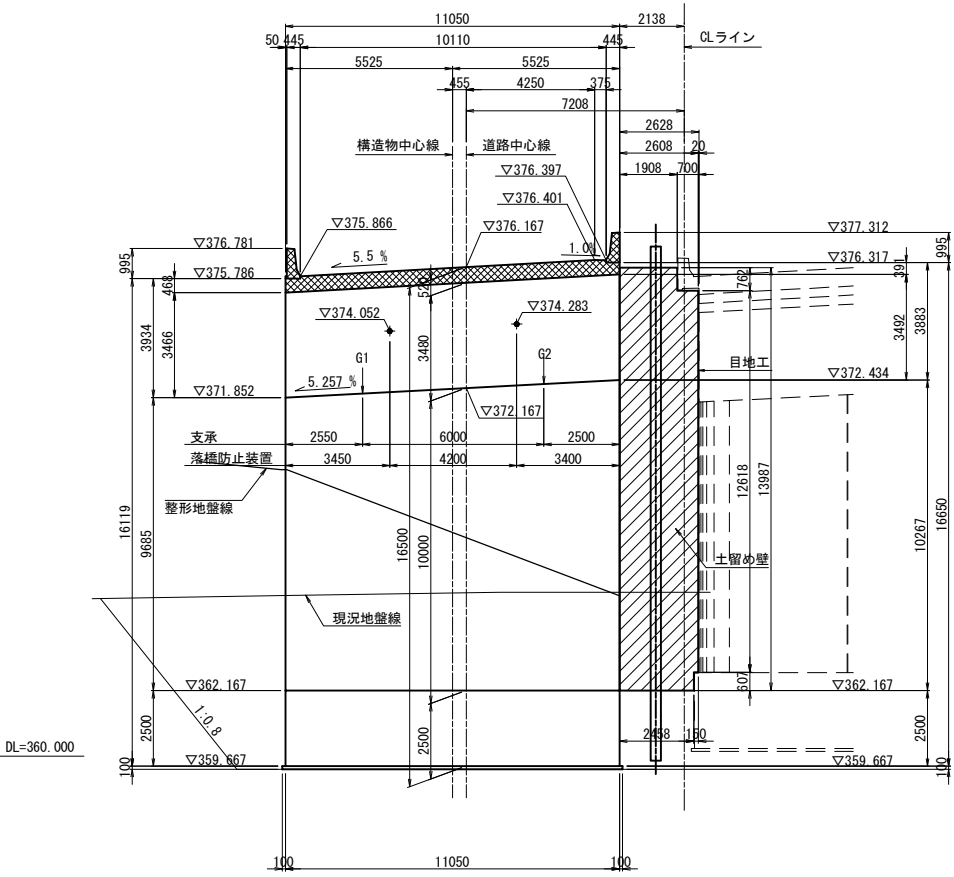
主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
KE 50-1	824+66.6580	-108597.863833	15913.813199	R=1000.0000
KE 50-2	831+21.9573	-108212.790074	16429.552511	

下部工座標値

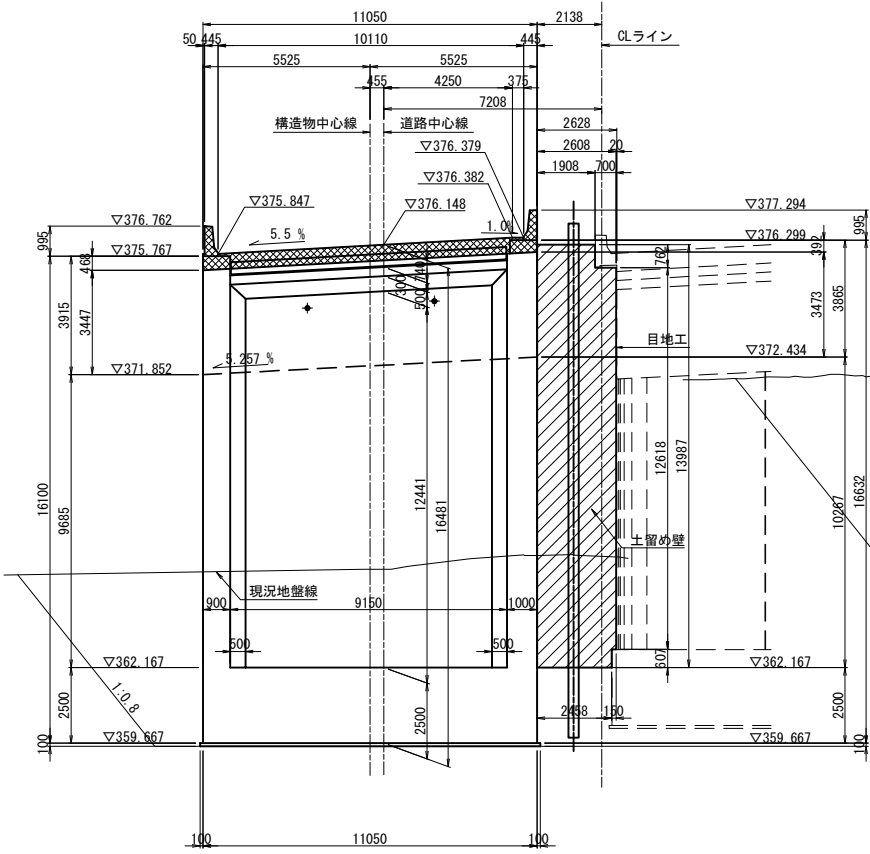
	A1橋台		P1橋脚		A2橋台	
	X	Y	X	Y	X	Y
F1	-108482.8596	16142.7105	-108452.4036	16189.1598	-108416.2326	16234.4412
F2	-108492.1862	16148.6366	-108459.7149	16194.4081	-108424.8418	16241.3682
F3	-108489.0270	16133.0041	-108457.6520	16181.8485	-108424.3820	16224.3127
F4	-108498.3536	16138.9302	-108464.9633	16187.0968	-108432.9912	16231.2397
G1	-108487.2639	16140.5328	-108456.2463	16186.3788	-108423.7355	16229.1832
G2	-108492.3281	16143.7506	-108461.1205	16189.8777	-108428.4102	16232.9445
CL	-108490.6957	16141.5286	-108459.0328	16188.3790	-108425.7813	16232.1128
KCL	-	-	-108458.6834	16188.1283	-	-

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） 下部工座標図		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

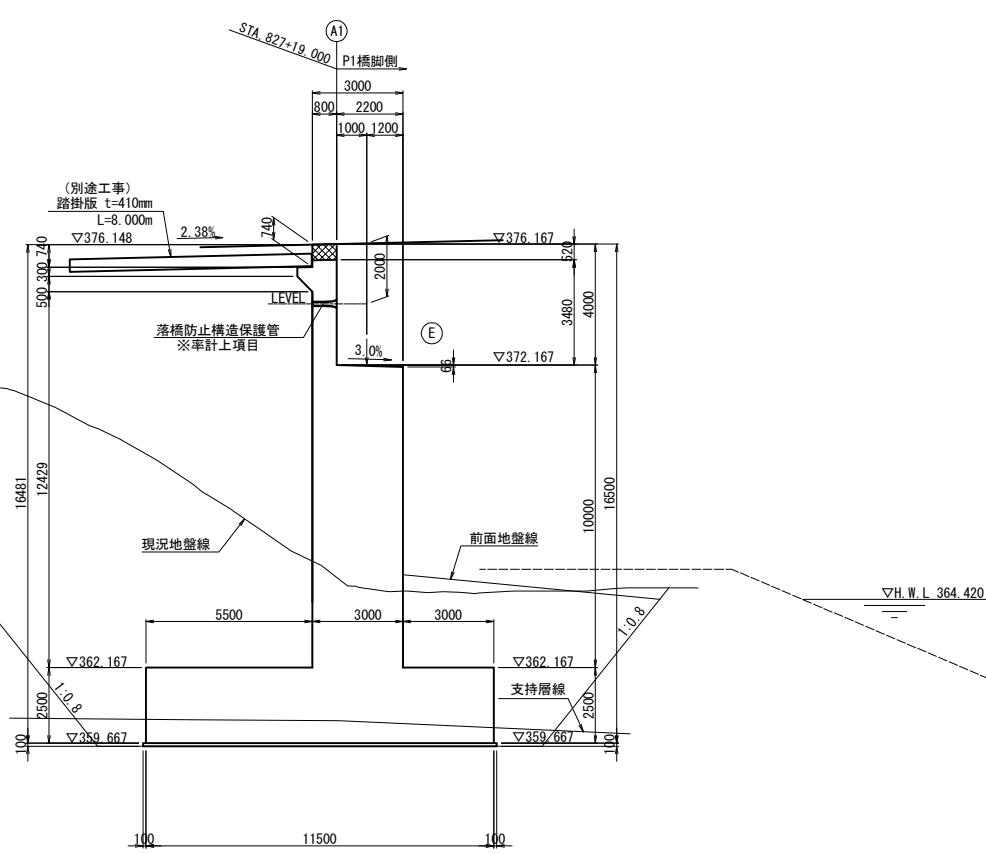
正面図（1-1）



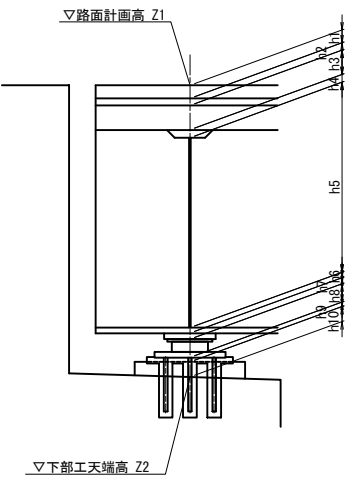
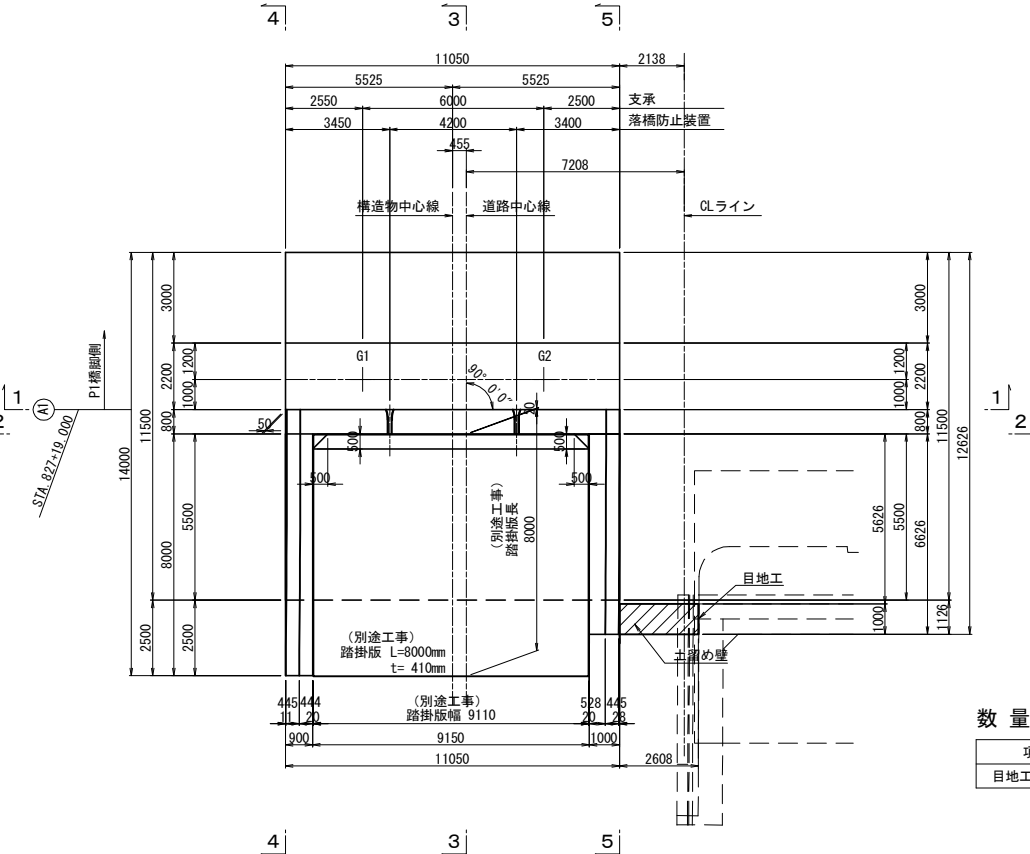
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



構造高表

		A1 橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	376.002	376.332
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.005	0.019
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.028	0.028
ソールプレート厚	h7	0.047	0.047
支承高	h8	0.333	0.333
沓座モルタル厚	h9	0.033	0.033
台座	h10	0.200	0.200
構造高合計	Σh	4.046	4.060
下部工天端高	Z2	371.956	372.272

使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
鉄筋	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
	躯体	SD345
	フーチング	SD345

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	13.4	土留め壁

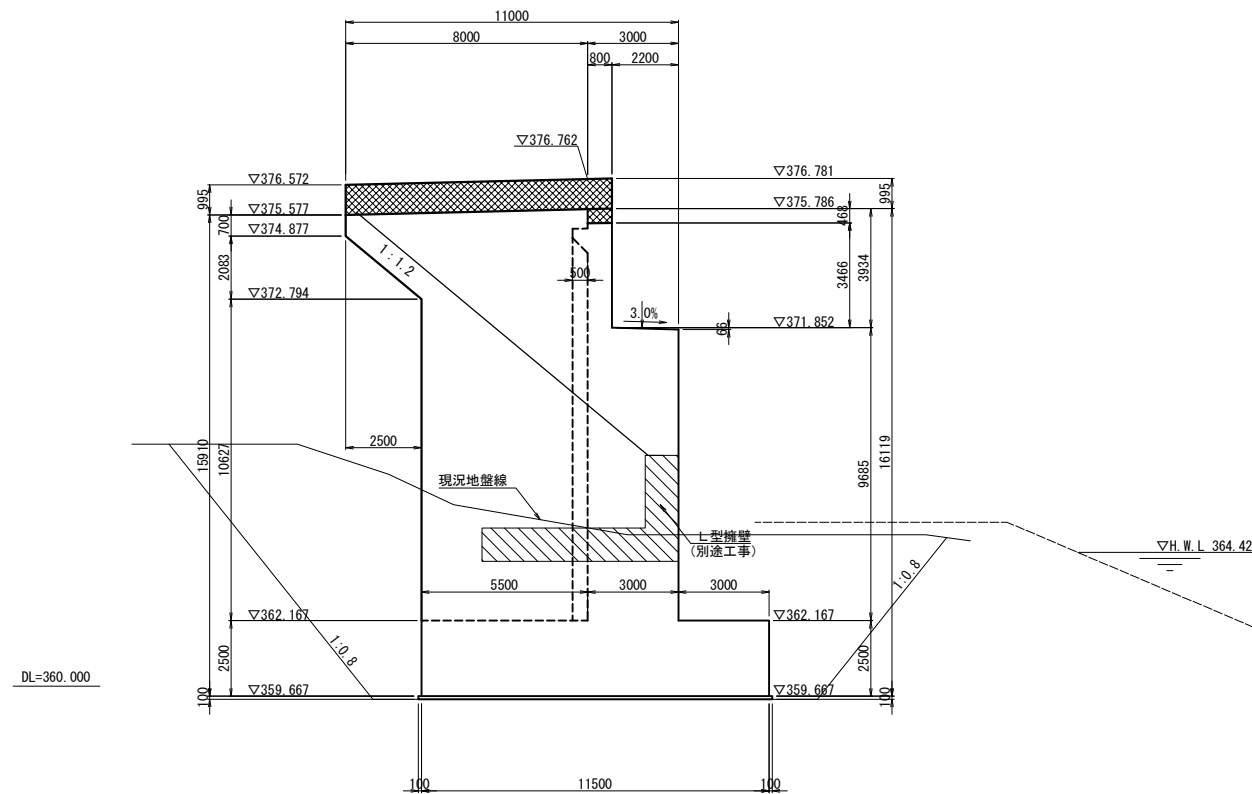
数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 E 1	m3	2,214.8	土砂
		m3	278.0	軟岩

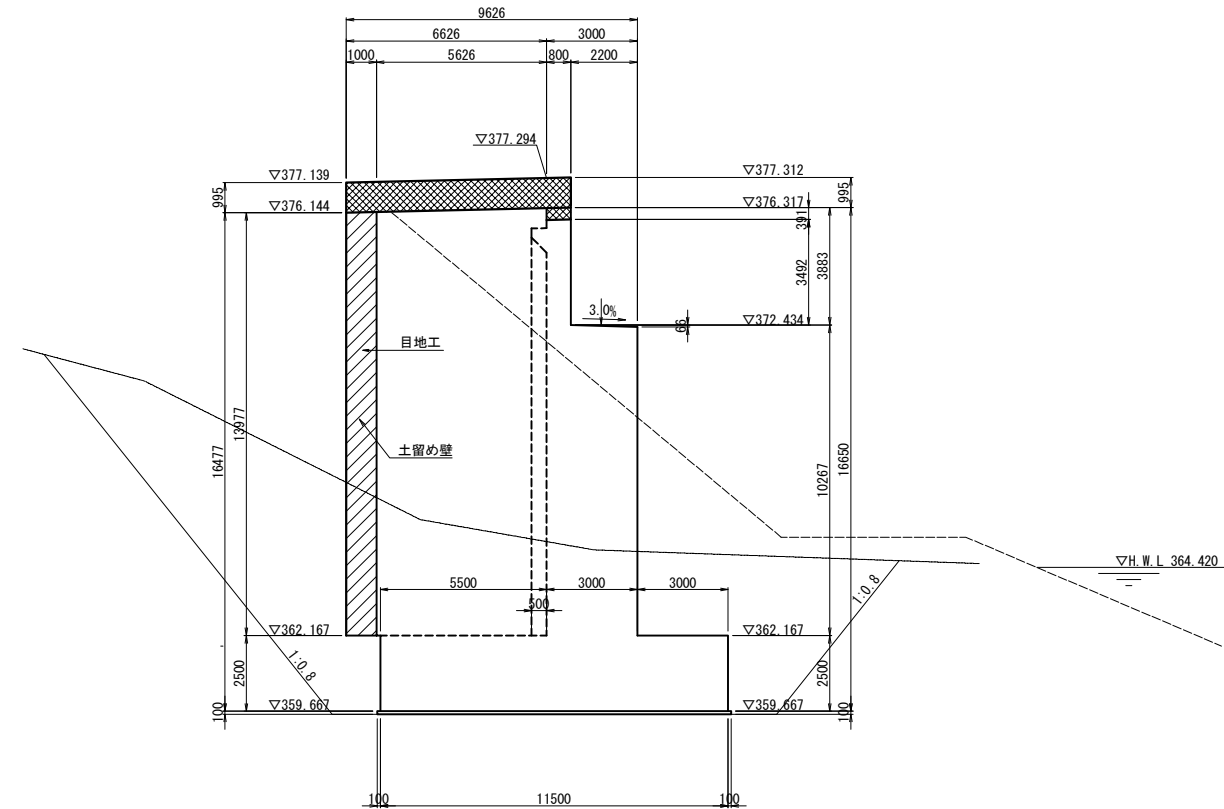
注) : は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台構造一般図（その 1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

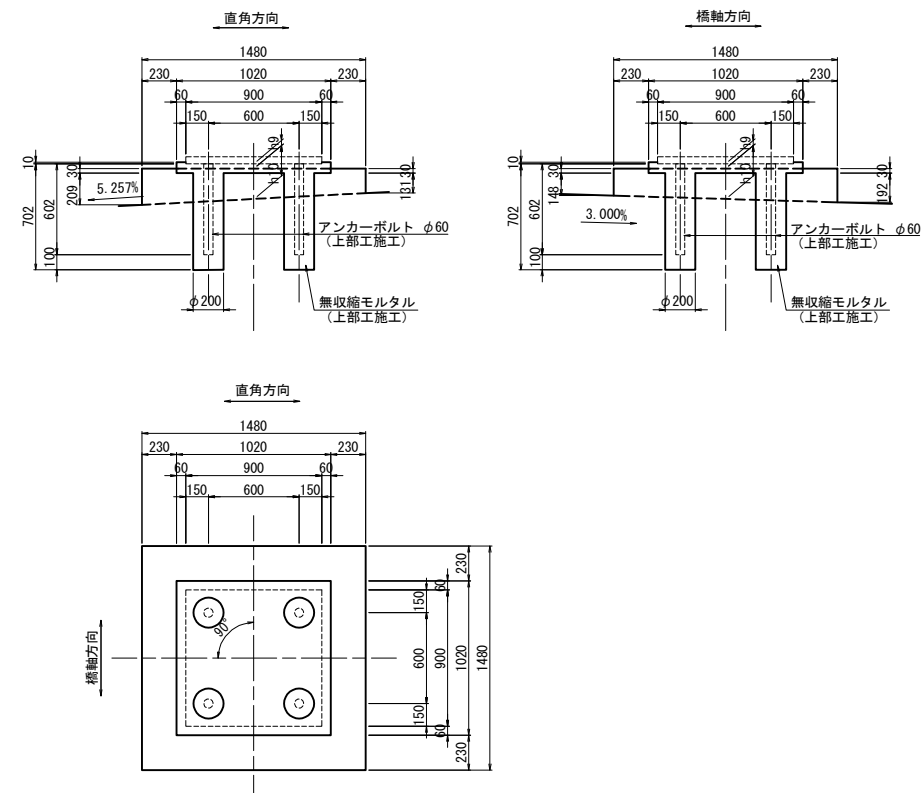
断面図(4-4)



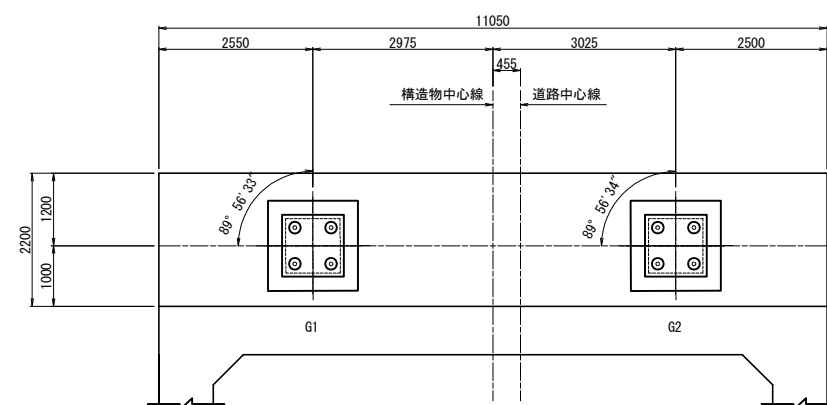
断面図(5-5)



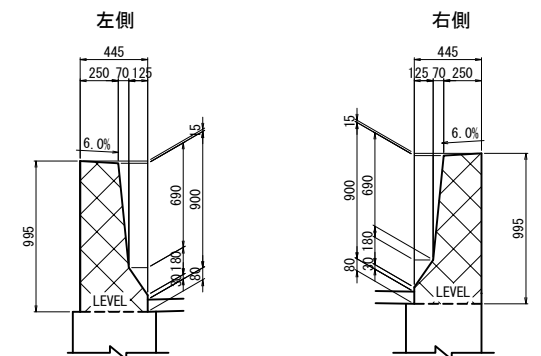
支承箱抜き詳細図 S=1:50






支承配置図 S=1:125



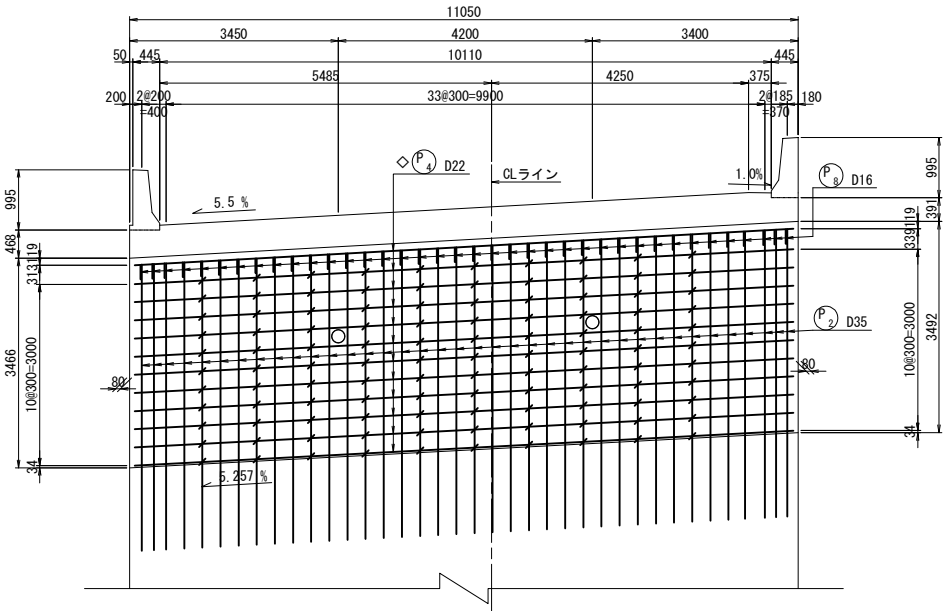
壁高欄詳細 S=1:50



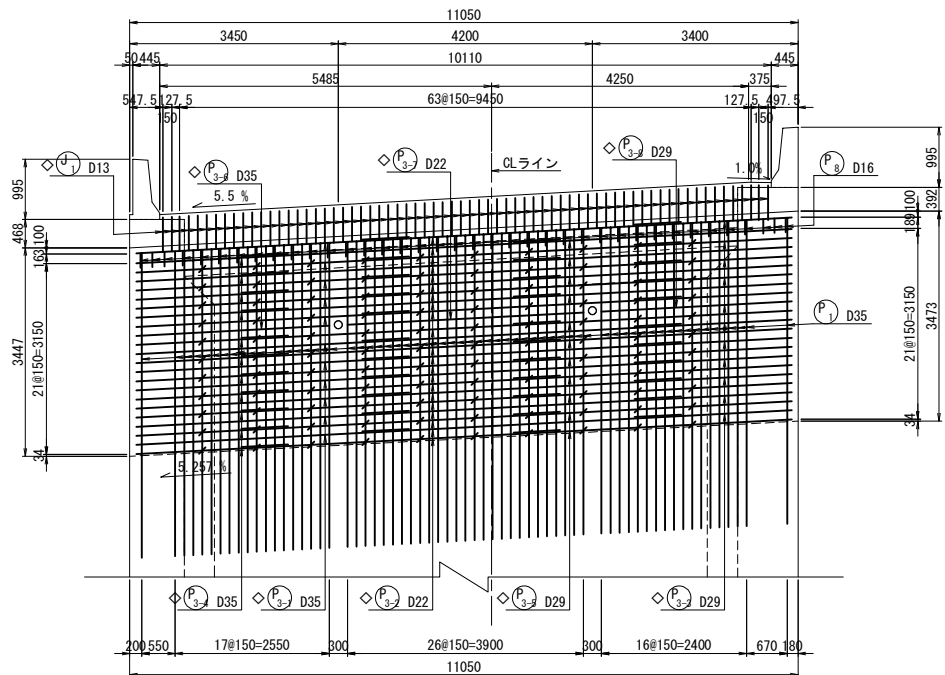
注):  は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。
 擁壁断面図を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流露川第四橋（下り線） A1 橋台構造（一般図）（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

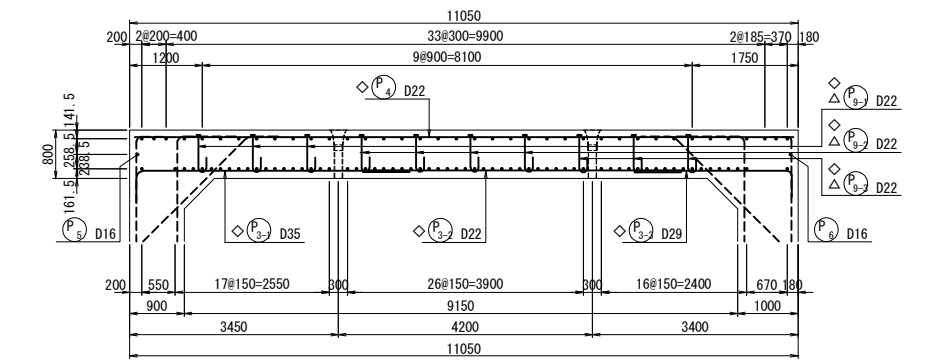
パラペット正面図
2 - 2



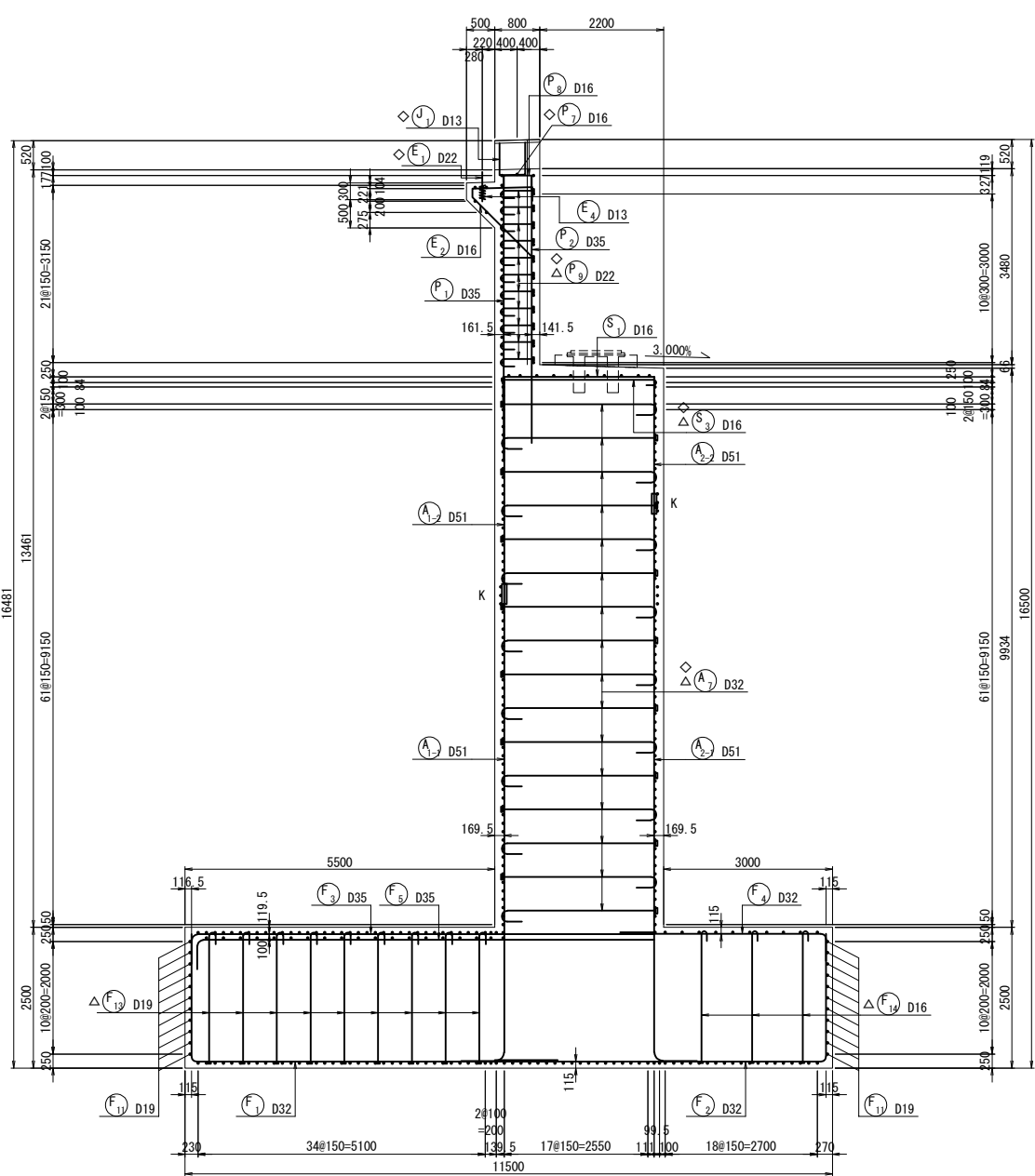
パラペット背面図
3 - 3



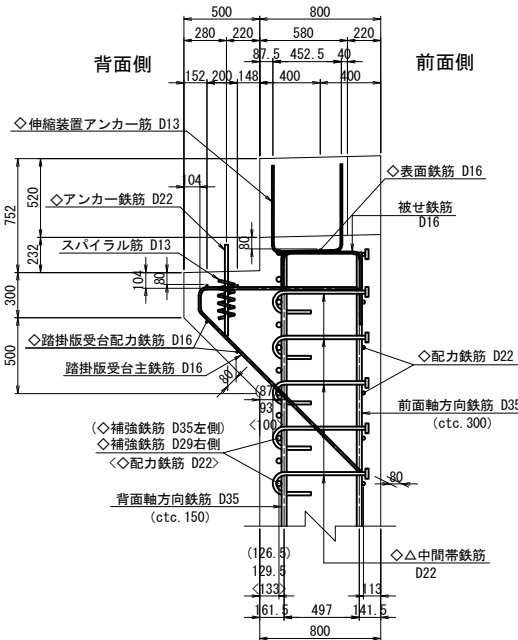
パラペット平面図
4 - 4



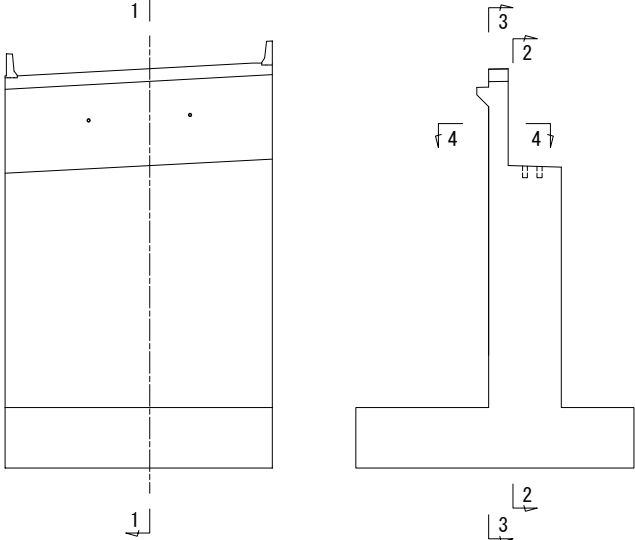
側面図
1 - 1



パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50



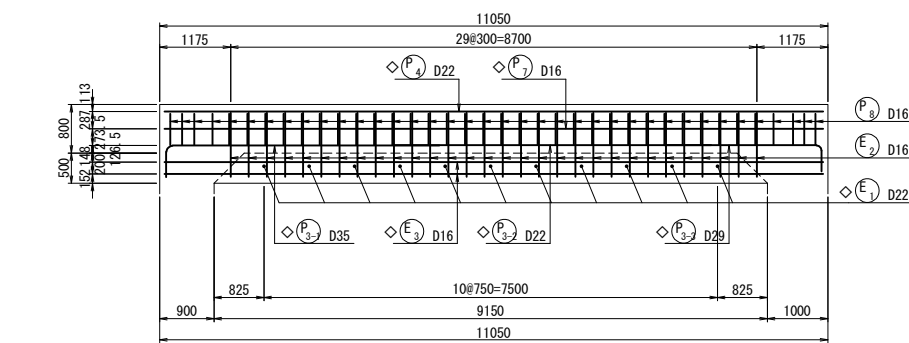
位置図



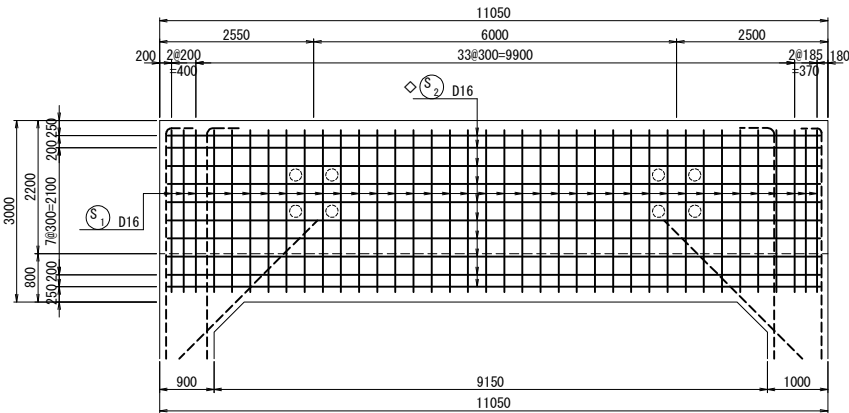
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

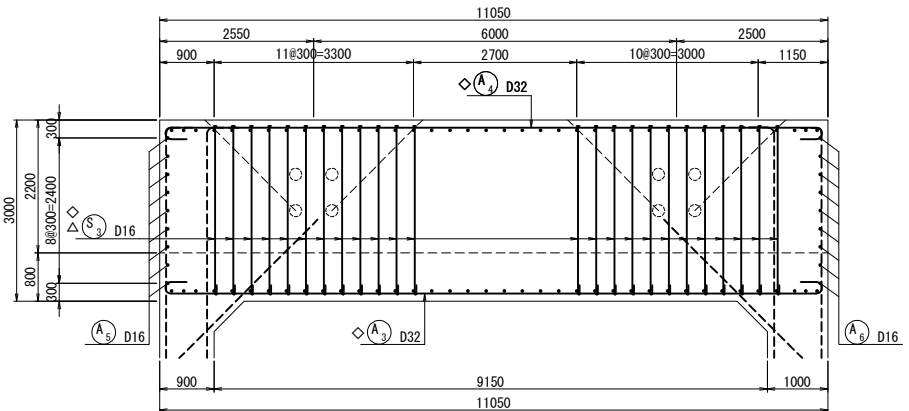
踏掛版受台平面図
1 - 1



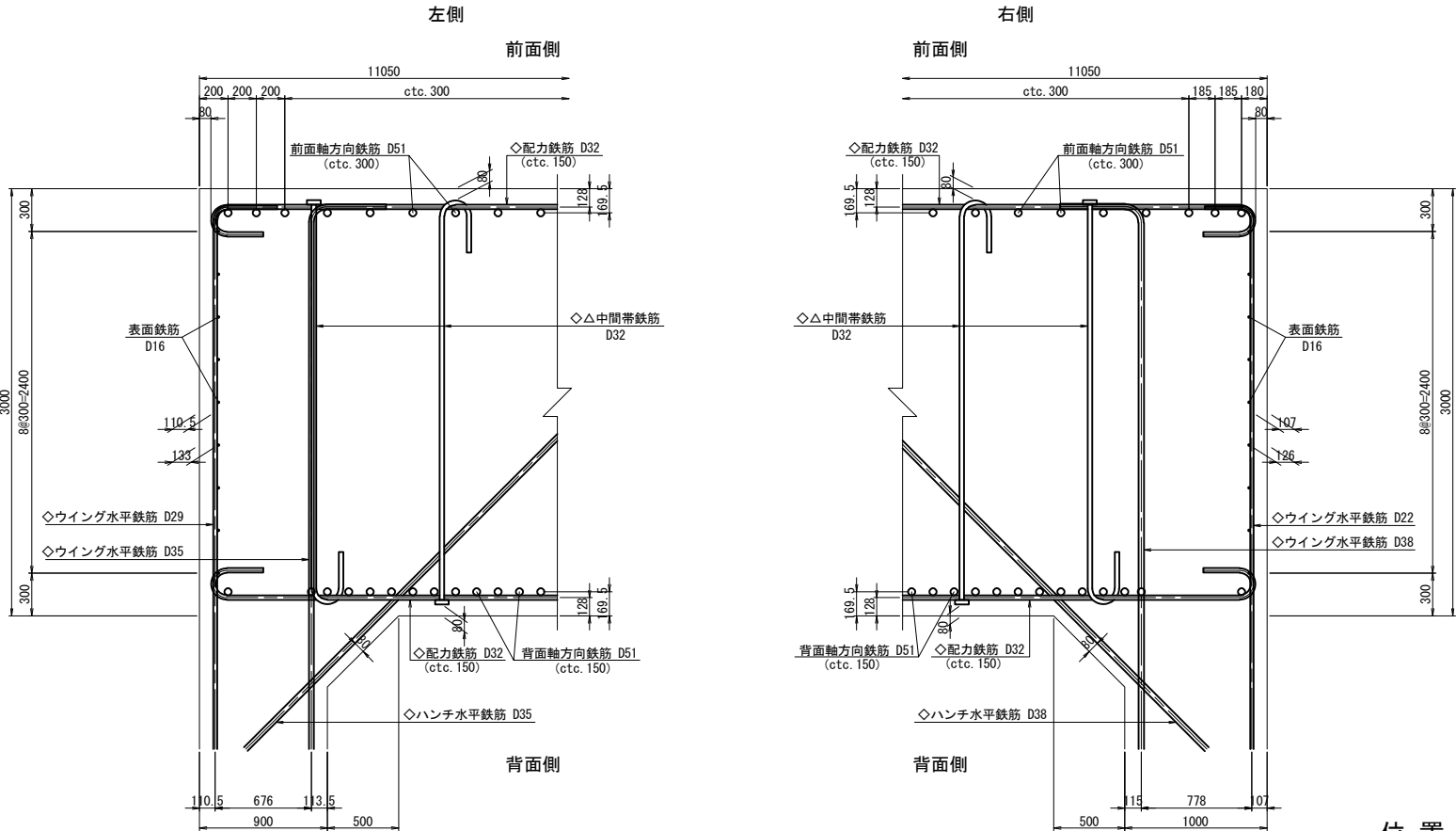
橋座平面図
2 - 2



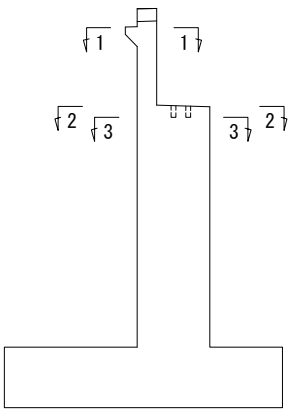
水平補強筋平面図
3 - 3



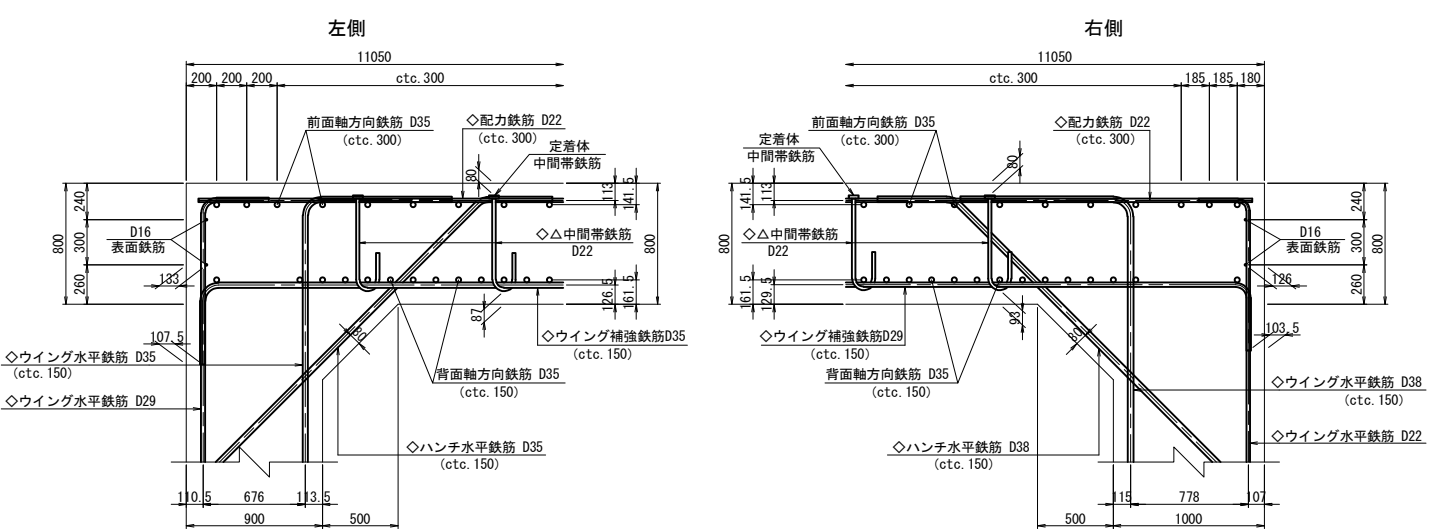
縦壁端部かぶり詳細図 S=1：50



位置図



パラペット端部かぶり詳細図 S=1：50

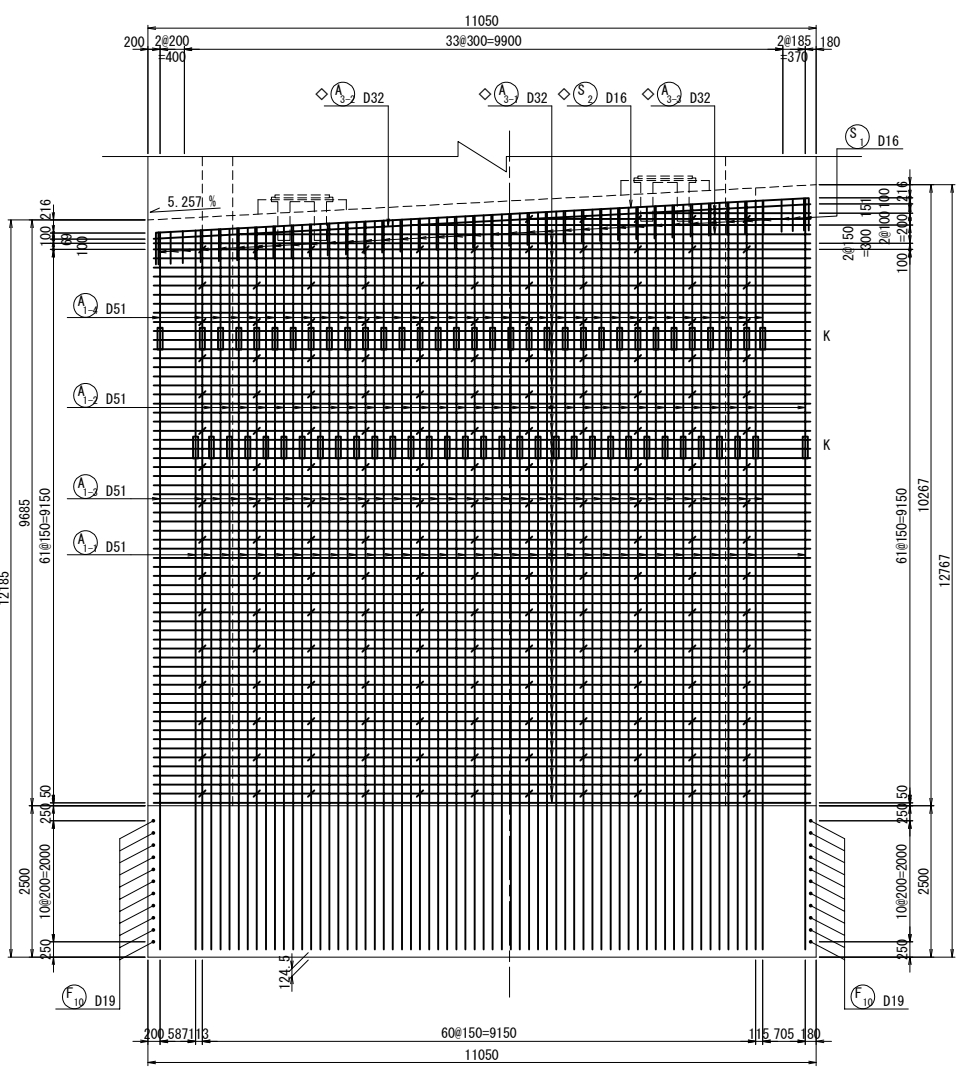
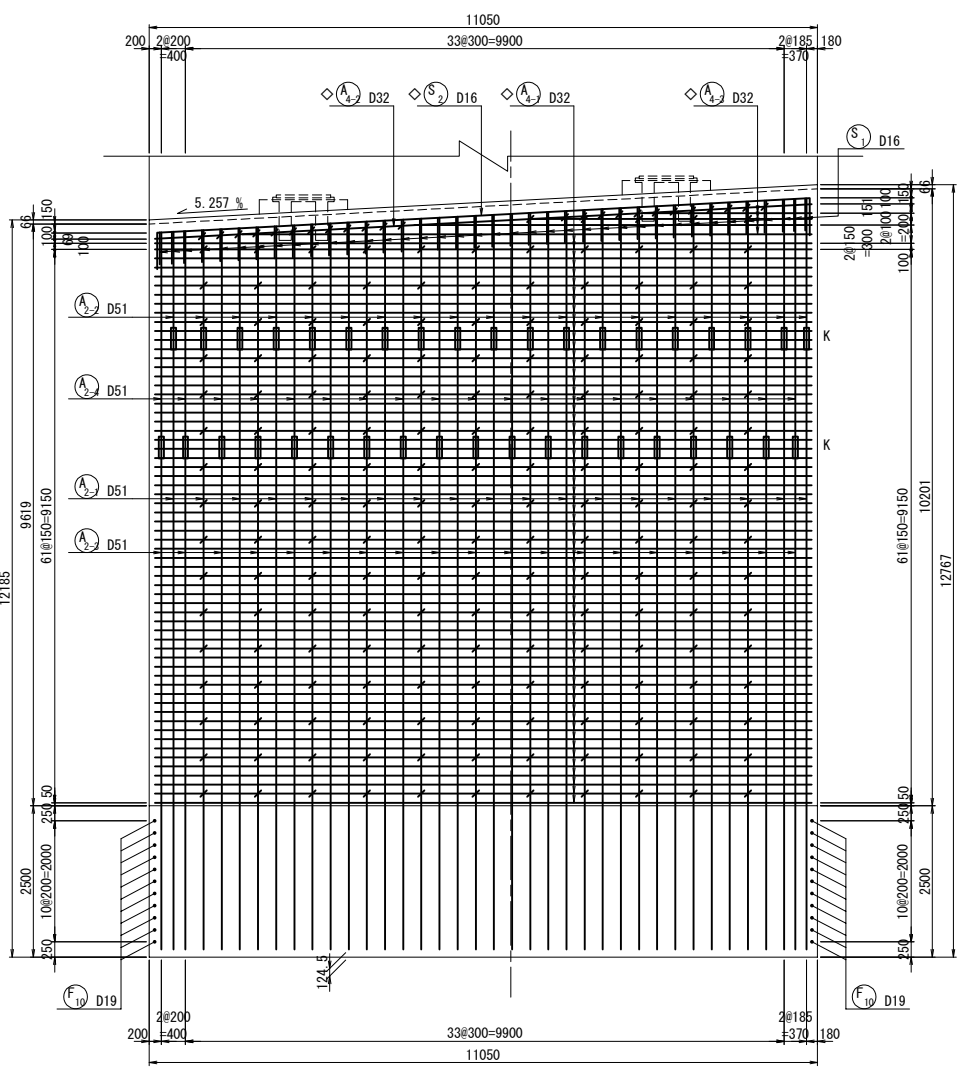


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

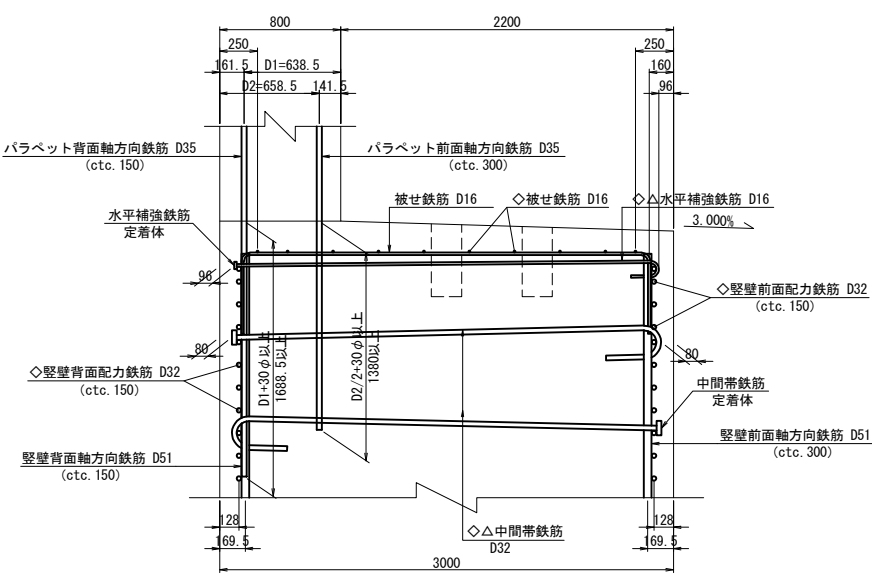
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

縦壁正面図
1 - 1

縦壁背面図
2 - 2

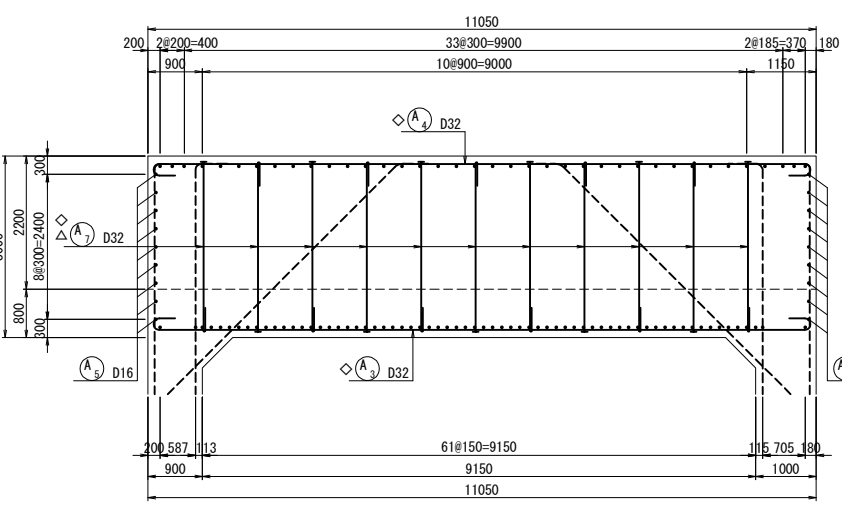
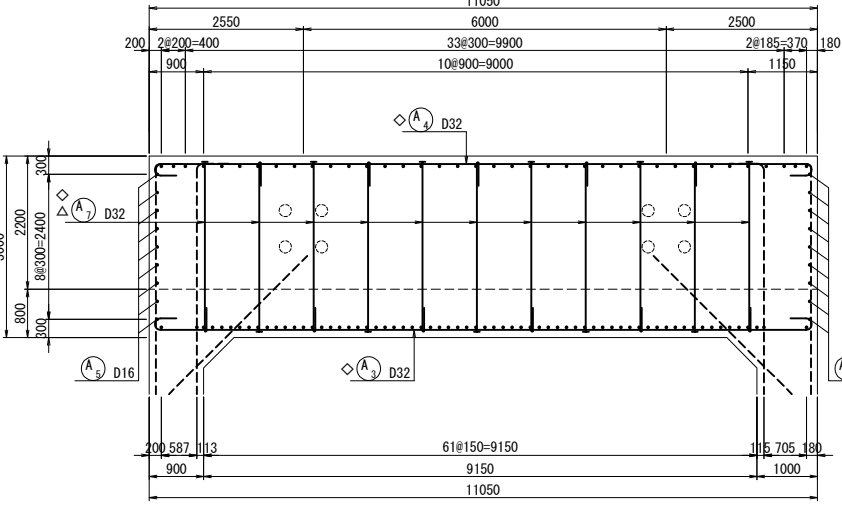


橋座かぶり詳細図 S=1 : 50

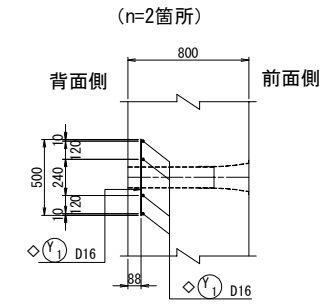


縦壁平面図（支承アンカー部）
3 - 3

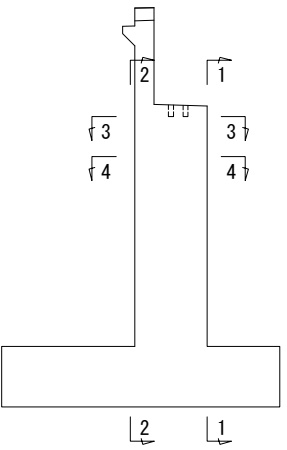
縦壁平面図（標準部）
4 - 4



落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50

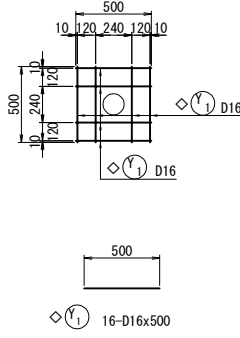


位置図

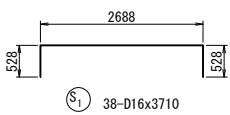
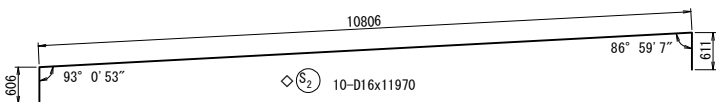
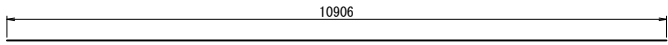
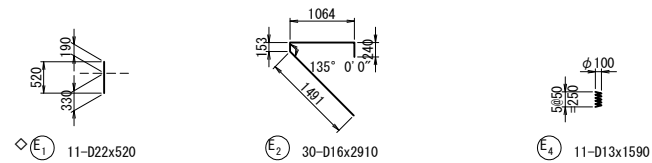
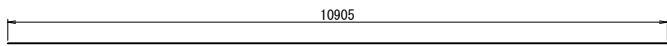
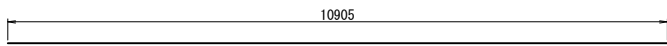
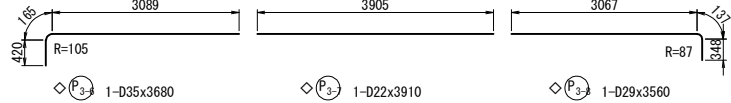
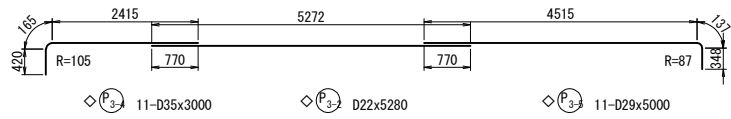
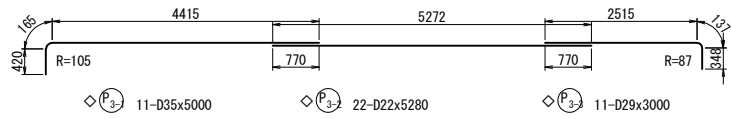
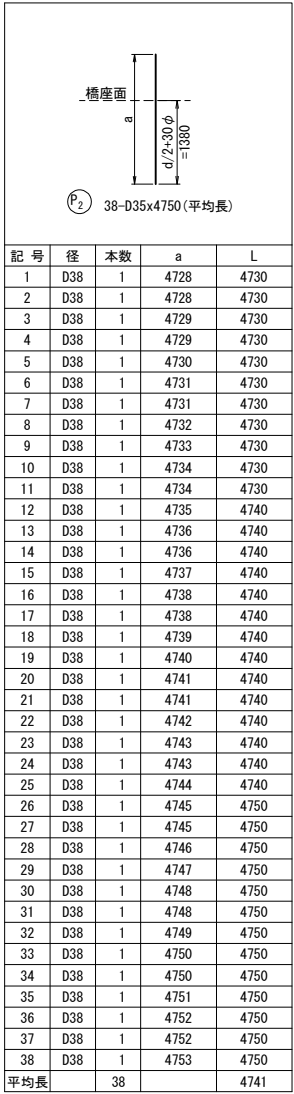
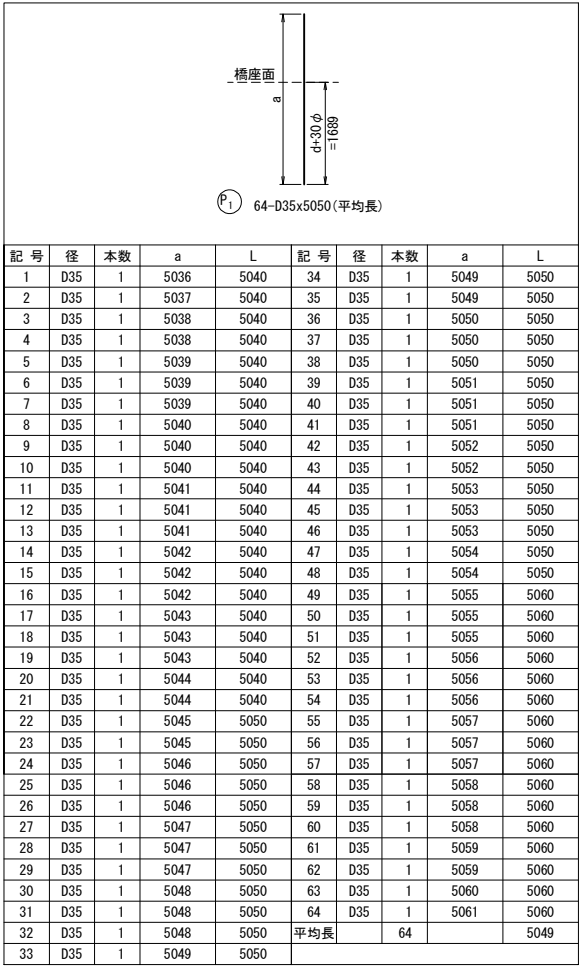


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

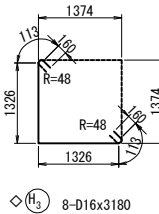
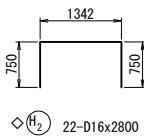
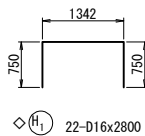
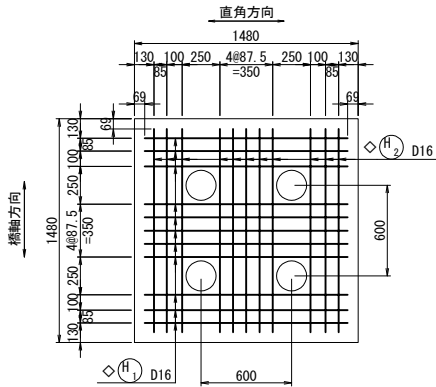
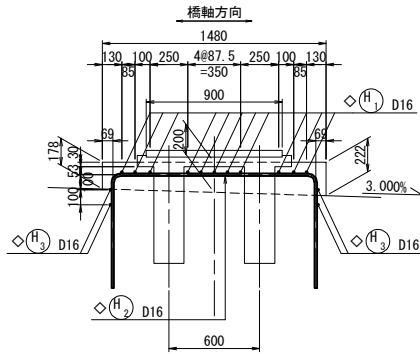
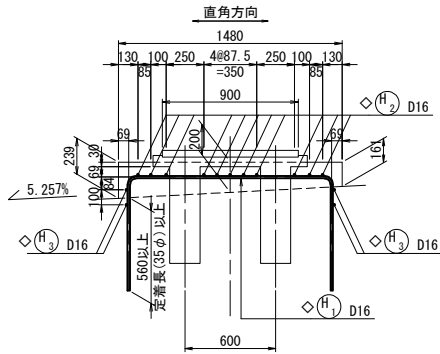
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表わす。



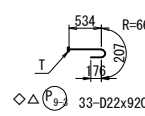
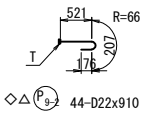
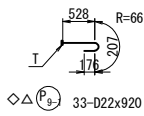
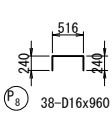
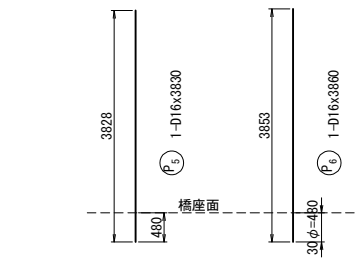
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

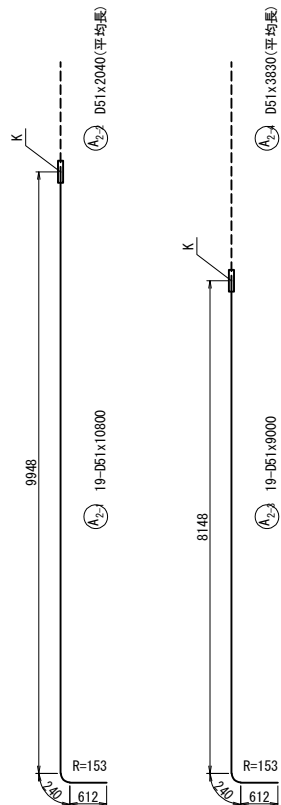
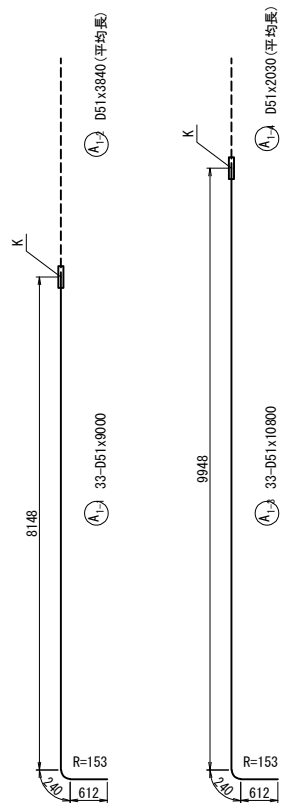


支承補強鉄筋 S=1:50
(n=2箇所)



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。



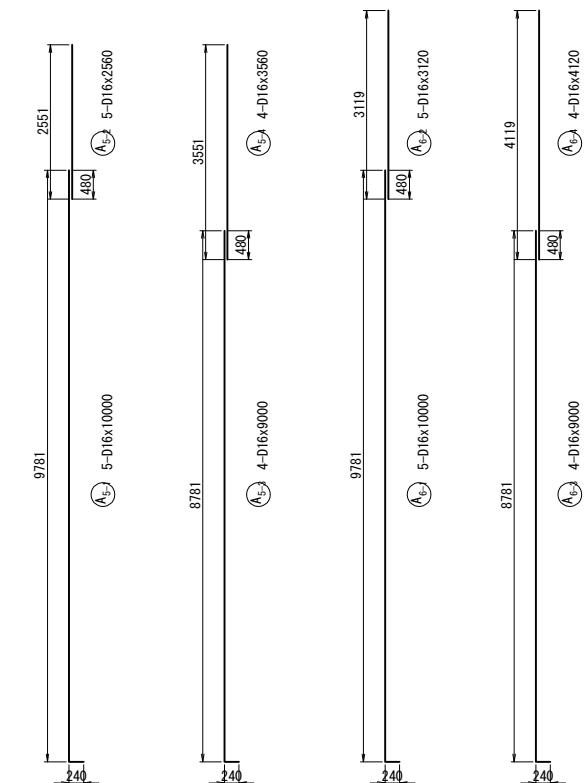
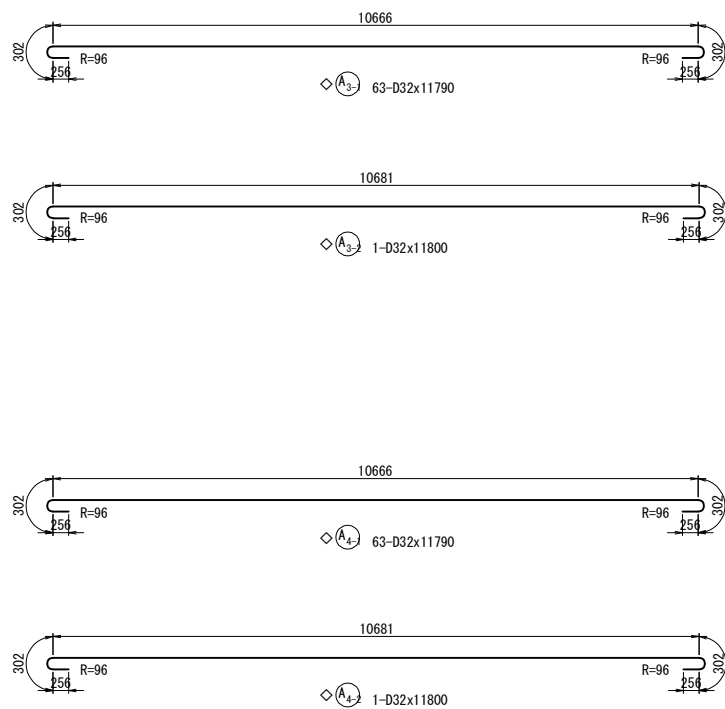


記号	径	本数	a	L
1	D51	1	3585	3590
2	D51	1	3599	3600
3	D51	1	3615	3620
4	D51	1	3630	3630
5	D51	1	3646	3650
6	D51	1	3662	3660
7	D51	1	3678	3680
8	D51	1	3694	3690
9	D51	1	3709	3710
10	D51	1	3725	3730
11	D51	1	3741	3740
12	D51	1	3757	3760
13	D51	1	3773	3770
14	D51	1	3788	3790
15	D51	1	3804	3800
16	D51	1	3820	3820
17	D51	1	3836	3840
18	D51	1	3852	3850
19	D51	1	3867	3870
20	D51	1	3883	3880
21	D51	1	3899	3900
22	D51	1	3915	3920
23	D51	1	3931	3930
24	D51	1	3946	3950
25	D51	1	3962	3960
26	D51	1	3978	3980
27	D51	1	3994	3990
28	D51	1	4010	4010
29	D51	1	4025	4030
30	D51	1	4041	4040
31	D51	1	4057	4060
32	D51	1	4073	4070
33	D51	1	4116	4120
平均長		33		3837

記号	径	本数	a	L
1	D51	1	1765	1770
2	D51	1	1791	1790
3	D51	1	1823	1820
4	D51	1	1854	1850
5	D51	1	1886	1890
6	D51	1	1917	1920
7	D51	1	1949	1950
8	D51	1	1981	1980
9	D51	1	2012	2010
10	D51	1	2044	2040
11	D51	1	2075	2080
12	D51	1	2107	2110
13	D51	1	2139	2140
14	D51	1	2170	2170
15	D51	1	2202	2200
16	D51	1	2233	2230
17	D51	1	2265	2270
18	D51	1	2297	2300
19	D51	1	2316	2320
平均長		19		2044

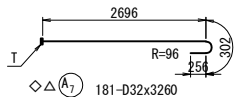
記号	径	本数	a	L
1	D51	1	1754	1750
2	D51	1	1791	1790
3	D51	1	1807	1810
4	D51	1	1823	1820
5	D51	1	1838	1840
6	D51	1	1854	1850
7	D51	1	1870	1870
8	D51	1	1886	1890
9	D51	1	1902	1900
10	D51	1	1917	1920
11	D51	1	1933	1930
12	D51	1	1949	1950
13	D51	1	1965	1970
14	D51	1	1981	1980
15	D51	1	1996	2000
16	D51	1	2012	2010
17	D51	1	2028	2030
18	D51	1	2044	2040
19	D51	1	2060	2060
20	D51	1	2075	2080
21	D51	1	2091	2090
22	D51	1	2107	2110
23	D51	1	2123	2120
24	D51	1	2139	2140
25	D51	1	2154	2150
26	D51	1	2170	2170
27	D51	1	2186	2190
28	D51	1	2202	2200
29	D51	1	2218	2220
30	D51	1	2233	2230
31	D51	1	2249	2250
32	D51	1	2265	2270
33	D51	1	2279	2280
平均長		33		2028

記号	径	本数	a	L
1	D51	1	3554	3550
2	D51	1	3575	3580
3	D51	1	3607	3610
4	D51	1	3638	3640
5	D51	1	3670	3670
6	D51	1	3702	3700
7	D51	1	3733	3730
8	D51	1	3765	3770
9	D51	1	3796	3800
10	D51	1	3828	3830
11	D51	1	3860	3860
12	D51	1	3891	3890
13	D51	1	3923	3920
14	D51	1	3954	3950
15	D51	1	3986	3990
16	D51	1	4018	4020
17	D51	1	4049	4050
18	D51	1	4081	4080
19	D51	1	4106	4110
平均長		19		3829



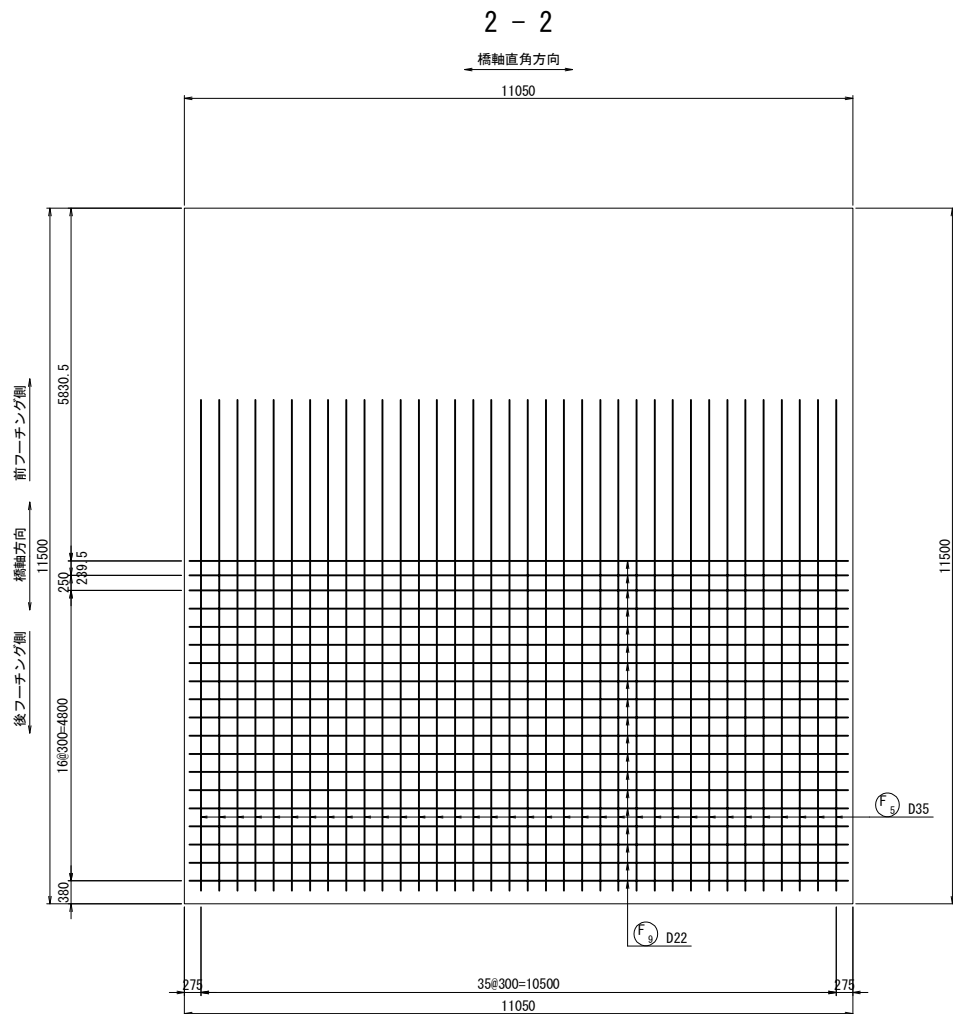
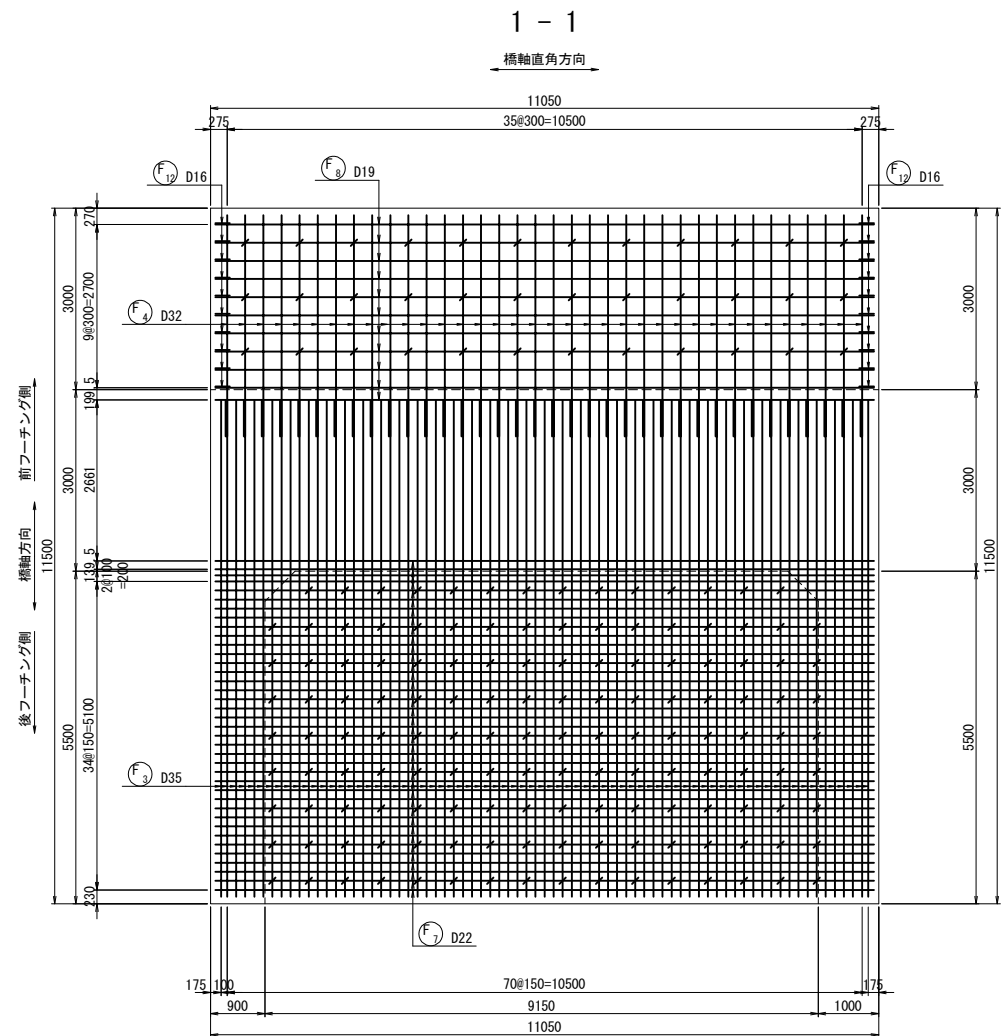
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	2675	3230
2	D32	1	4574	5130
3	D32	1	6473	7030
4	D32	1	9321	9880
平均長		4		6318

記号	径	本数	a	L
1	D32	1	2675	3230
2	D32	1	4574	5130
3	D32	1	6473	7030
4	D32	1	9321	9880
平均長		4		6318

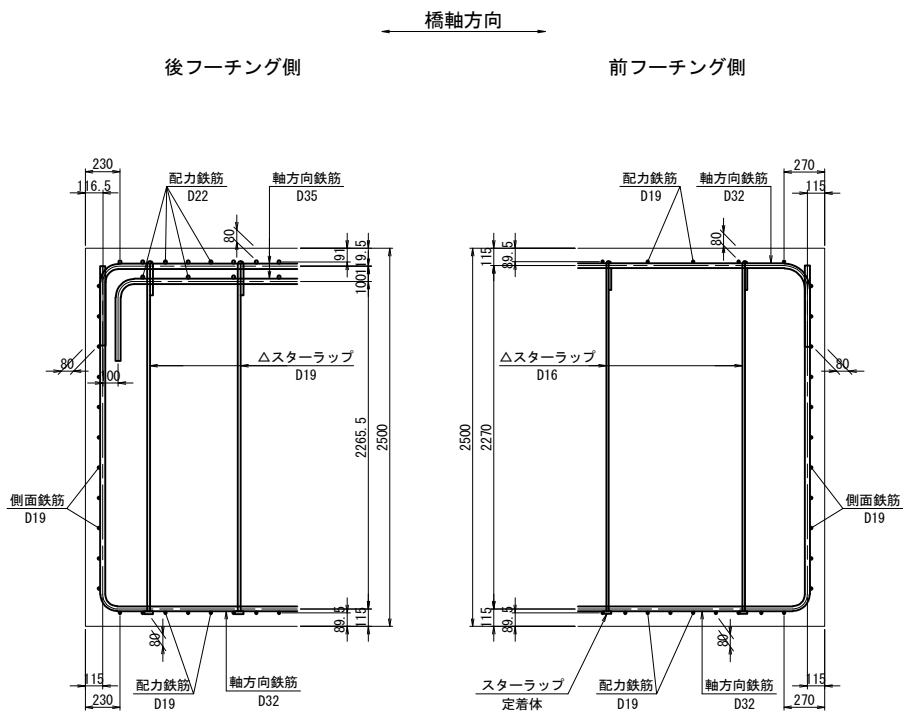
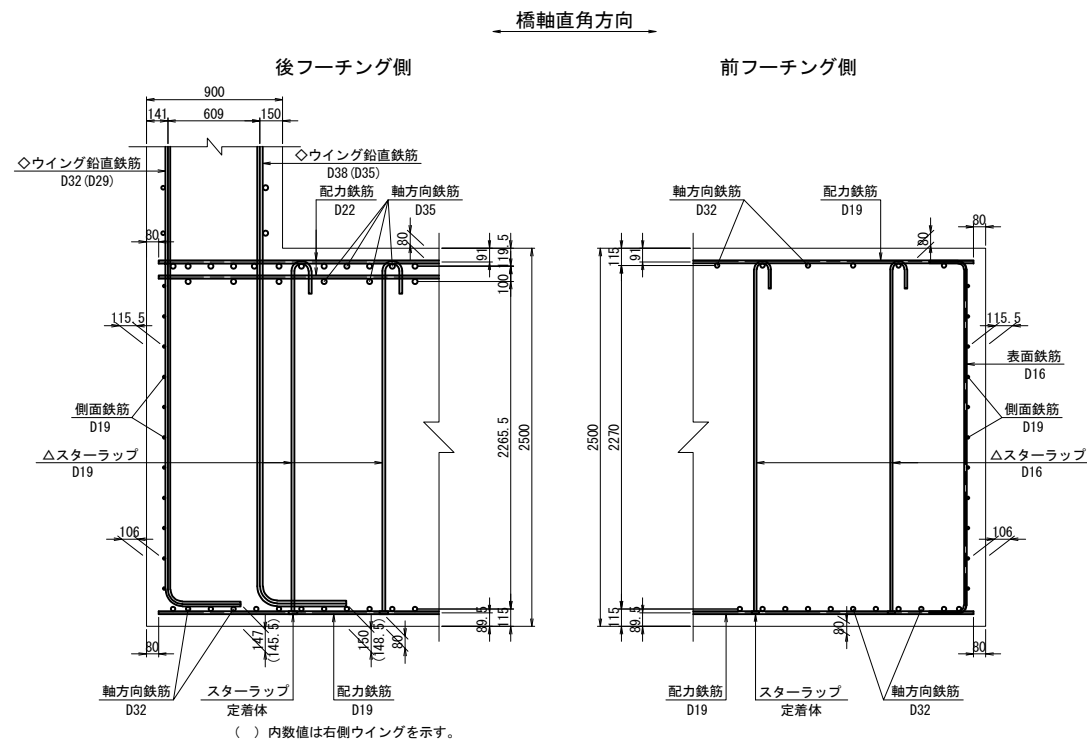


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表す。

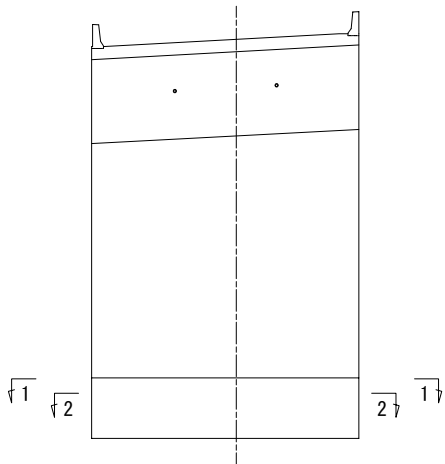
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1 : 50

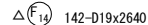
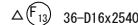
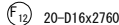


位置図



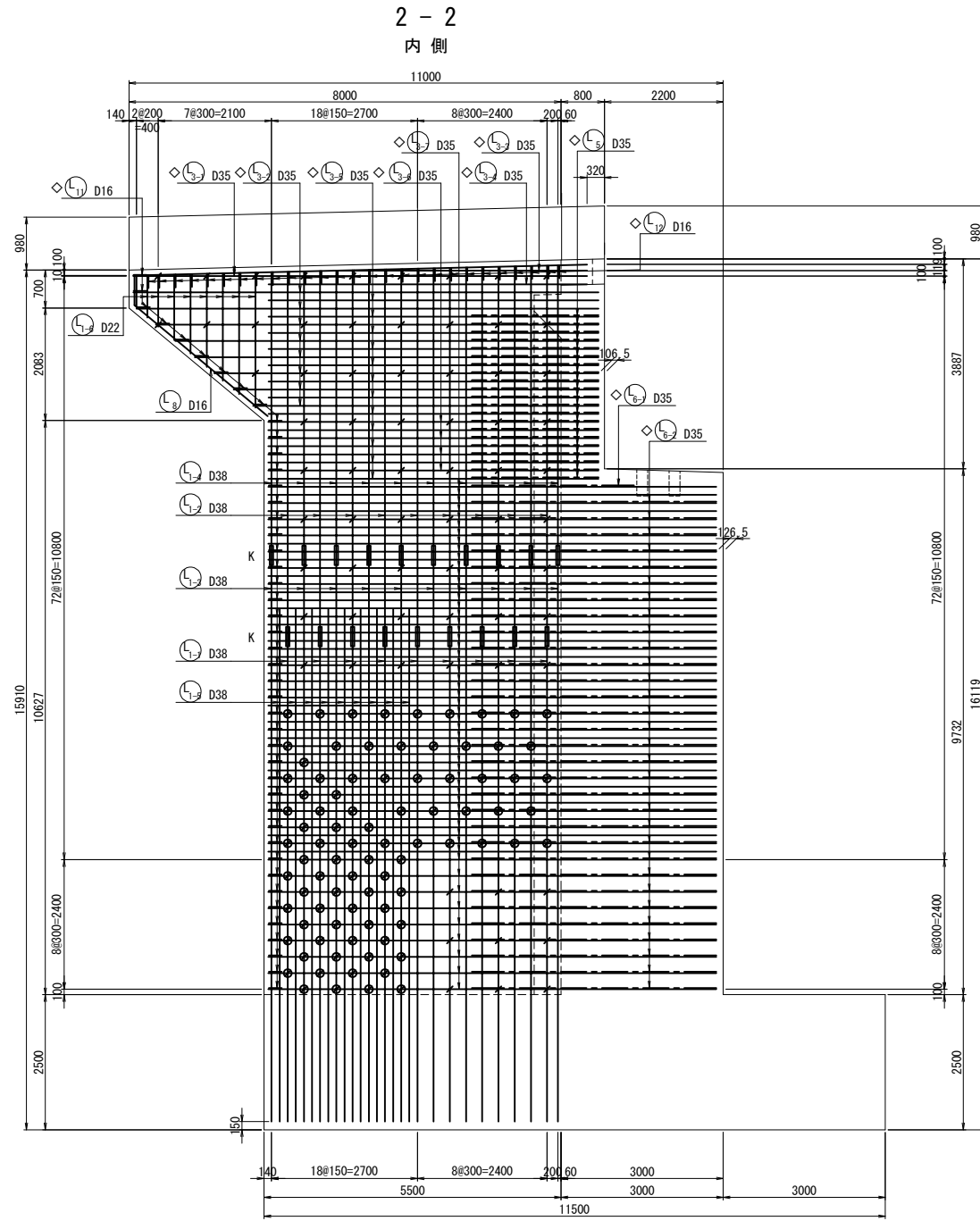
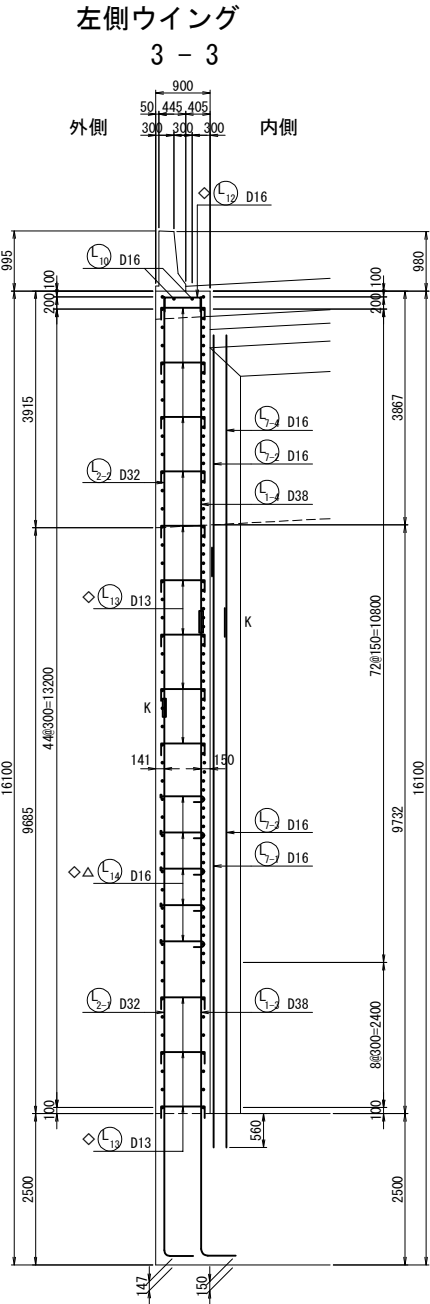
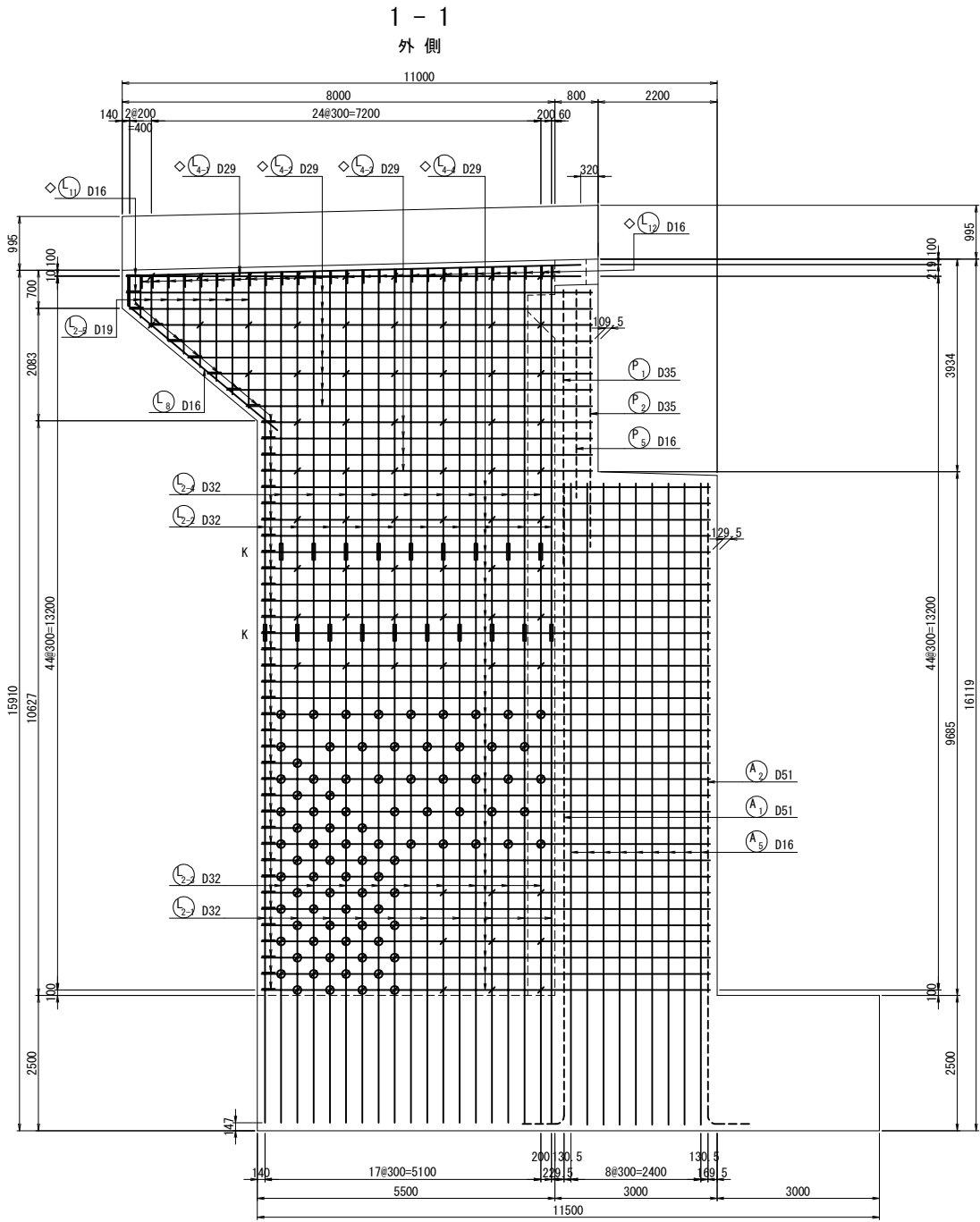
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

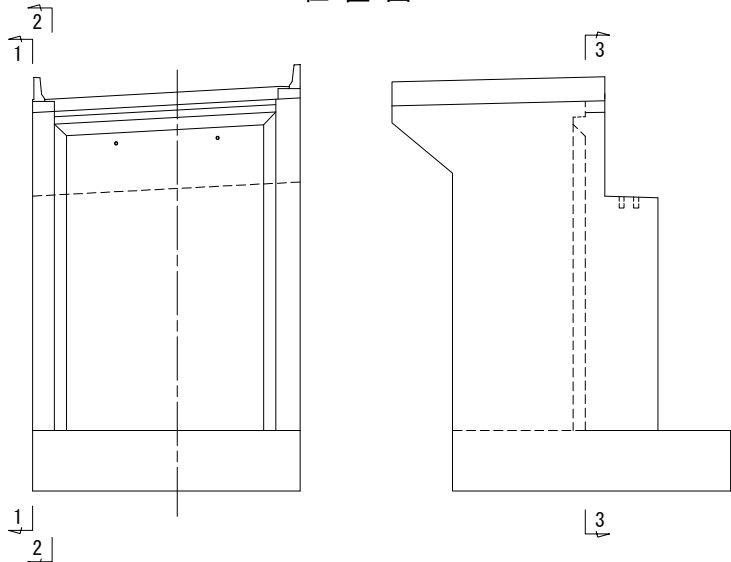


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



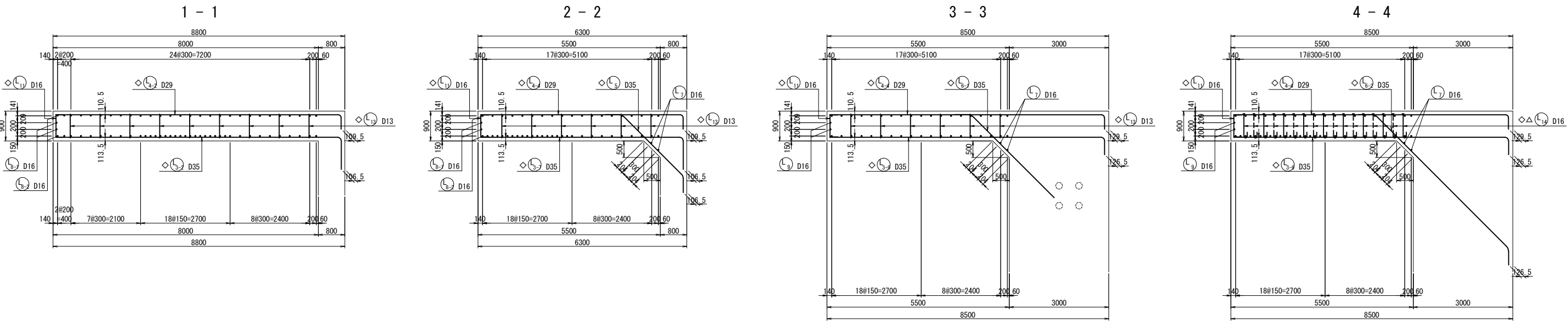
位置図



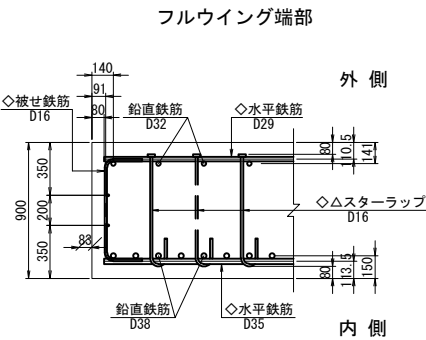
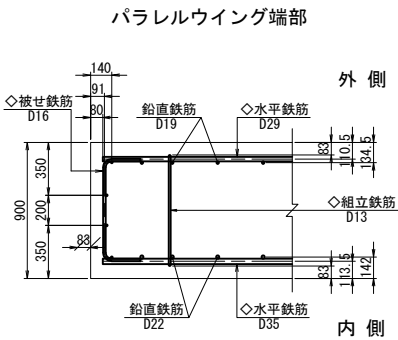
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) — は機械継手を表わす。
注8) ● は鉄筋を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

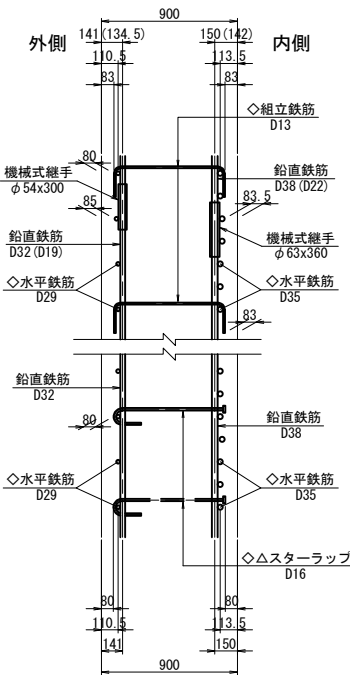
左側ウイング



左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

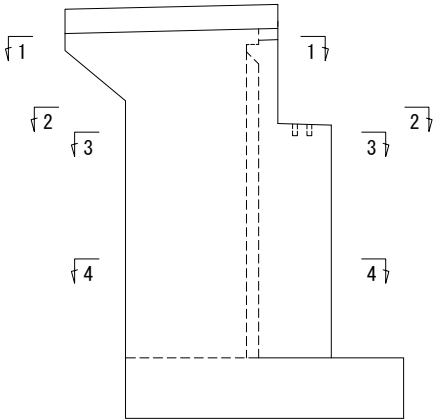



左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

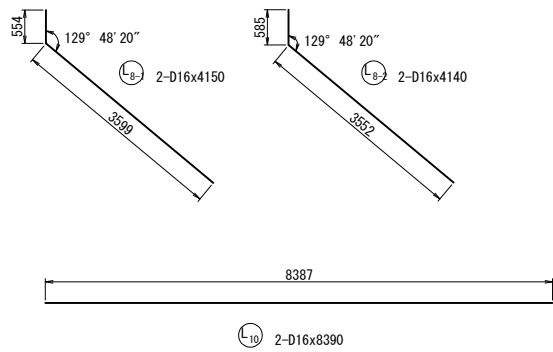
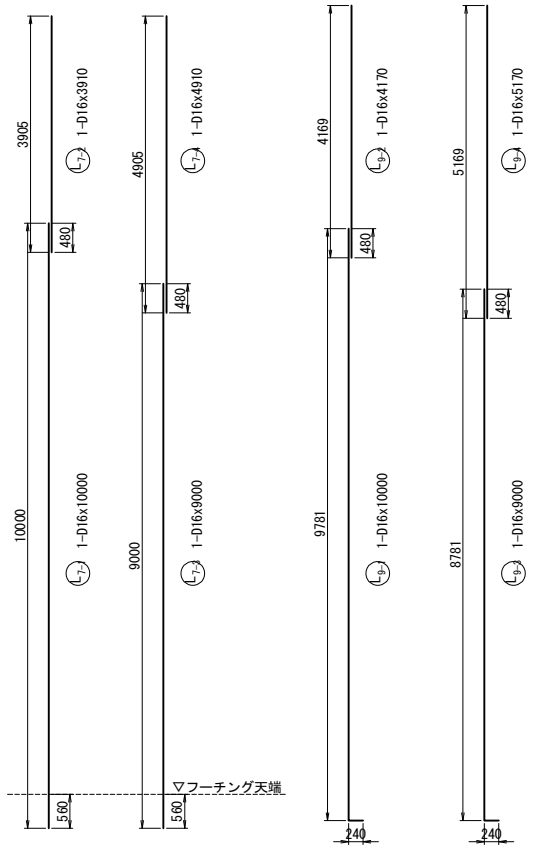
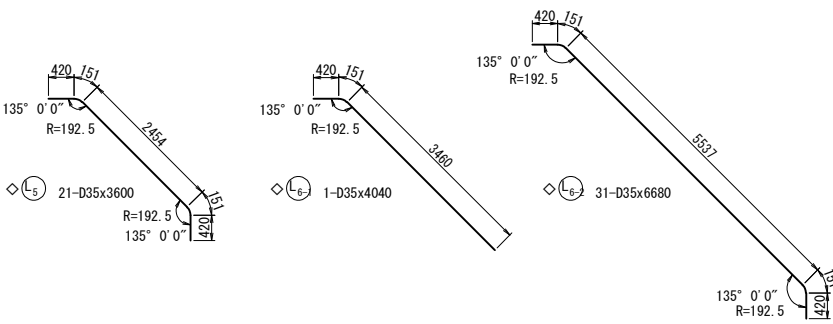
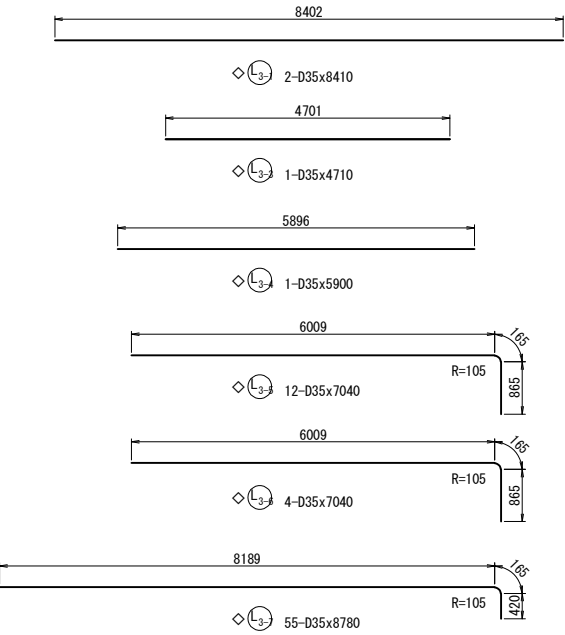
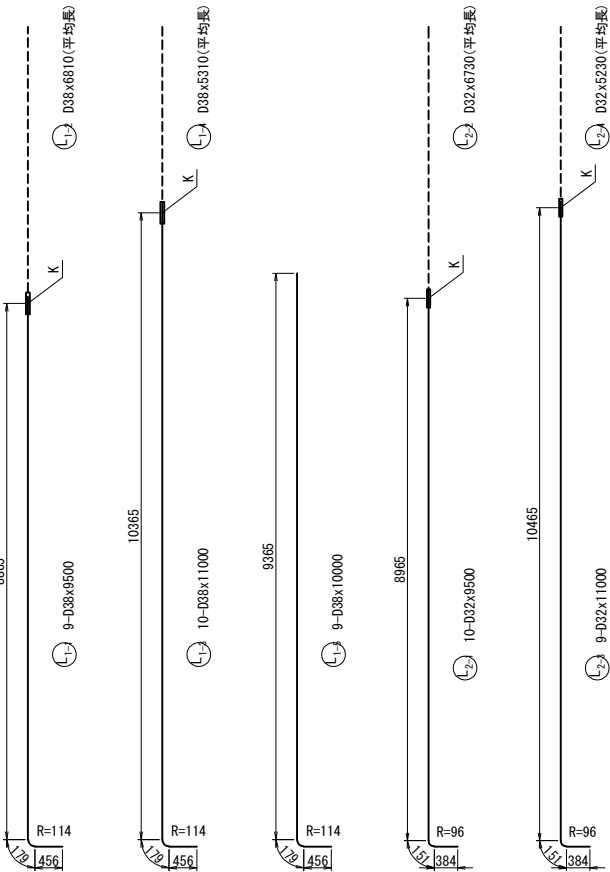
位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7)  は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング



記 号	径	本数	a	L
1	D38	1	6751	6750
2	D38	1	6765	6770
3	D38	1	6780	6780
4	D38	1	6794	6790
5	D38	1	6808	6810
6	D38	1	6822	6820
7	D38	1	6836	6840
8	D38	1	6851	6850
9	D38	1	6865	6870
平均長		9		6809

記 号	径	本数	a	L
1	D38	1	5244	5240
2	D38	1	5258	5260
3	D38	1	5272	5270
4	D38	1	5287	5290
5	D38	1	5301	5300
6	D38	1	5315	5320
7	D38	1	5329	5330
8	D38	1	5344	5340
9	D38	1	5358	5360
10	D38	1	5370	5370
平均長		10		5309

記 号	径	本数	a	L
1	D22	1	785	790
2	D22	1	957	960
3	D22	1	1214	1210
4	D22	1	1471	1470
5	D22	1	1728	1730
6	D22	1	1985	1990
7	D22	1	2242	2240
8	D22	1	2500	2500
平均長		8		1611

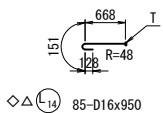
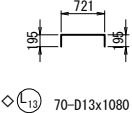
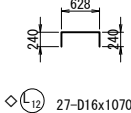
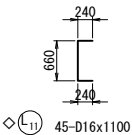
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	6665	6670
2	D32	1	6679	6680
3	D32	1	6693	6690
4	D32	1	6708	6710
5	D32	1	6722	6720
6	D32	1	6736	6740
7	D32	1	6750	6750
8	D32	1	6765	6770
9	D32	1	6779	6780
10	D32	1	6791	6790
平均長		10		6730

記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	5172	5170
2	D32	1	5186	5190
3	D32	1	5201	5200
4	D32	1	5215	5220
5	D32	1	5229	5230
6	D32	1	5243	5240
7	D32	1	5257	5260
8	D32	1	5272	5270
9	D32	1	5286	5290
平均長		9		5230

記 号	径	本数	a	L
1	D19	1	785	790
2	D19	1	957	960
3	D19	1	1214	1210
4	D19	1	1471	1470
5	D19	1	1728	1730
6	D19	1	1985	1990
7	D19	1	2242	2240
8	D19	1	2500	2500
平均長		8		1611

記 号	径	本数	a	L
1	D35	1	6289	7320
2	D35	1	6649	7680
3	D35	1	7009	8040
4	D35	1	7369	8400
5	D35	1	7729	8760
6	D35	1	8089	9120
7	D35	1	8449	9480
8	D35	1	8509	9540
平均長		8		8543

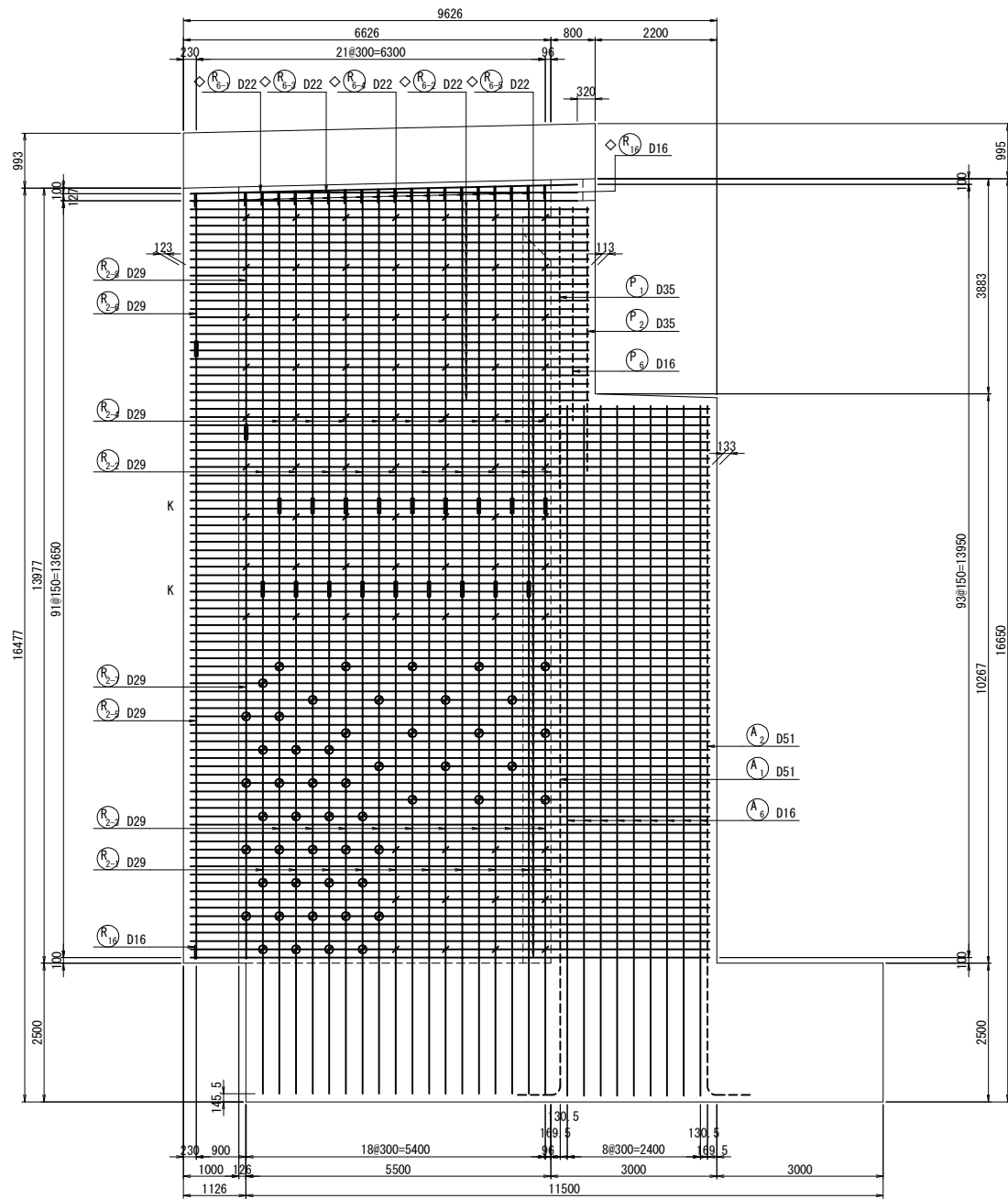
記 号	径	本数	a	L
1	D29	1	6304	6790
2	D29	1	6664	7150
3	D29	1	7024	7510
4	D29	1	7384	7870
5	D29	1	7744	8230
6	D29	1	8104	8590
7	D29	1	8464	8950
8	D29	1	8524	9010
平均長		8		8013



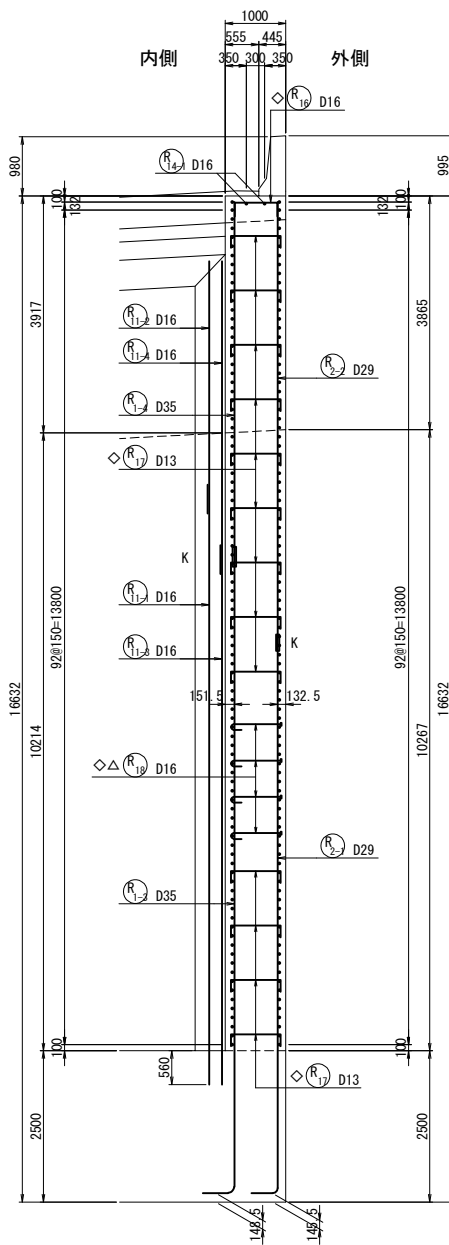
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

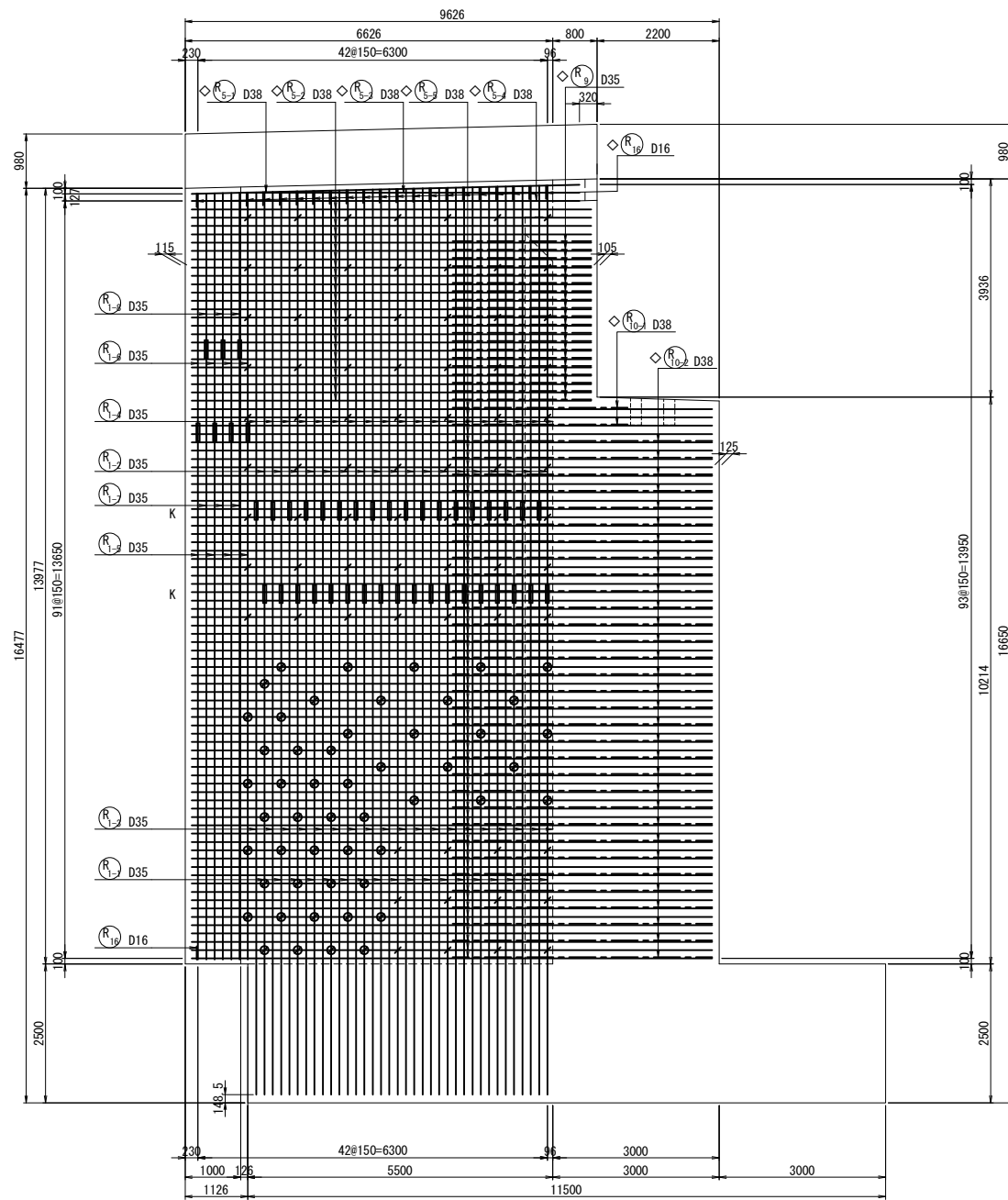
1 - 1
外側



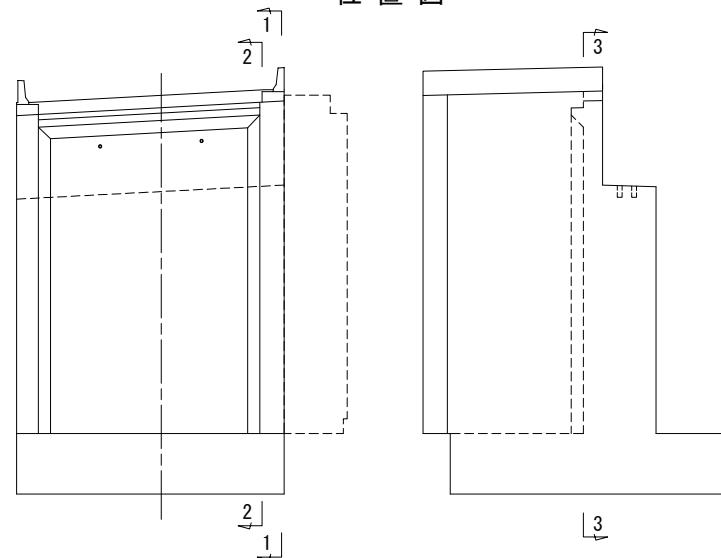
右側ウイング
3 - 3



2 - 2
内側



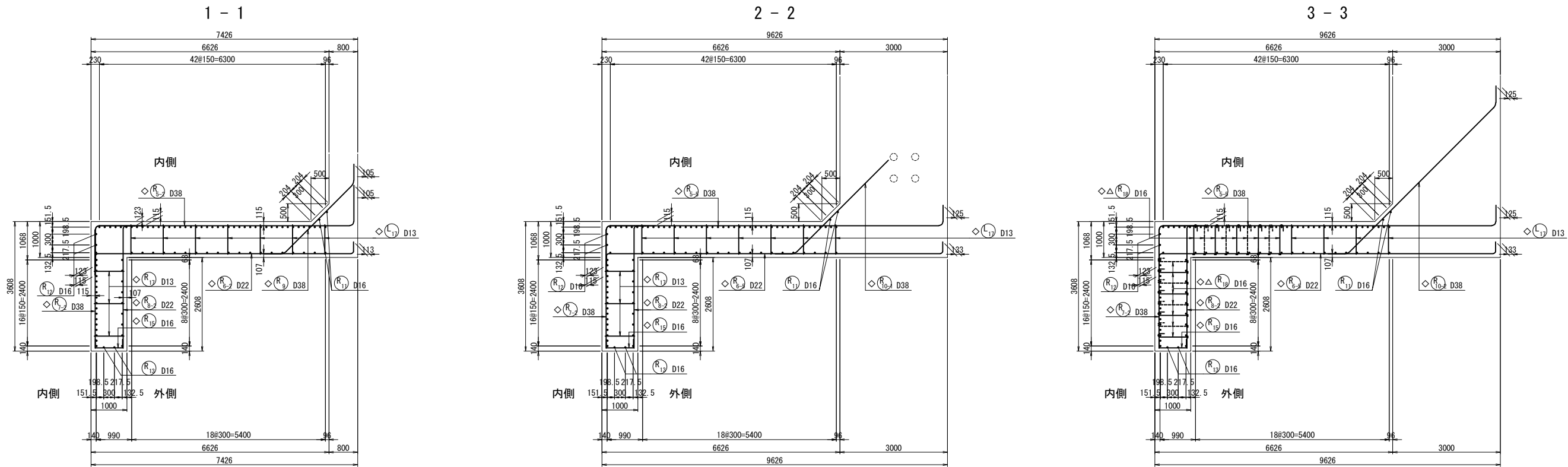
位置図



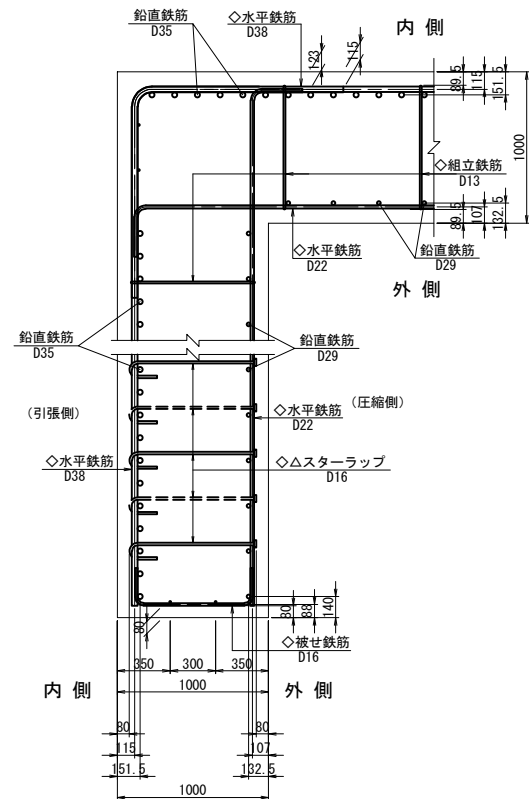
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) は機械継手を表す。
- 注8) は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

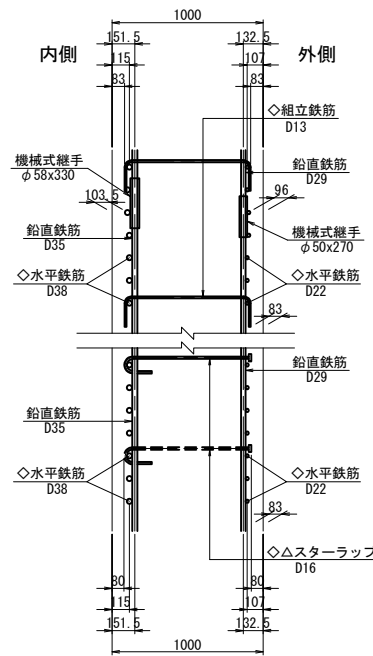
右側ウイング



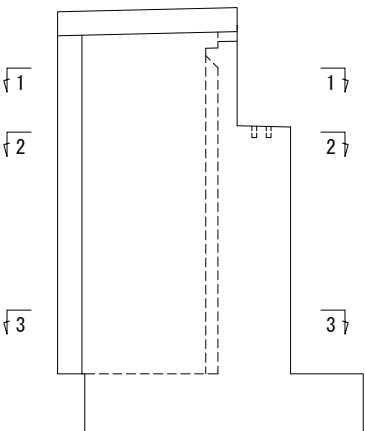
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



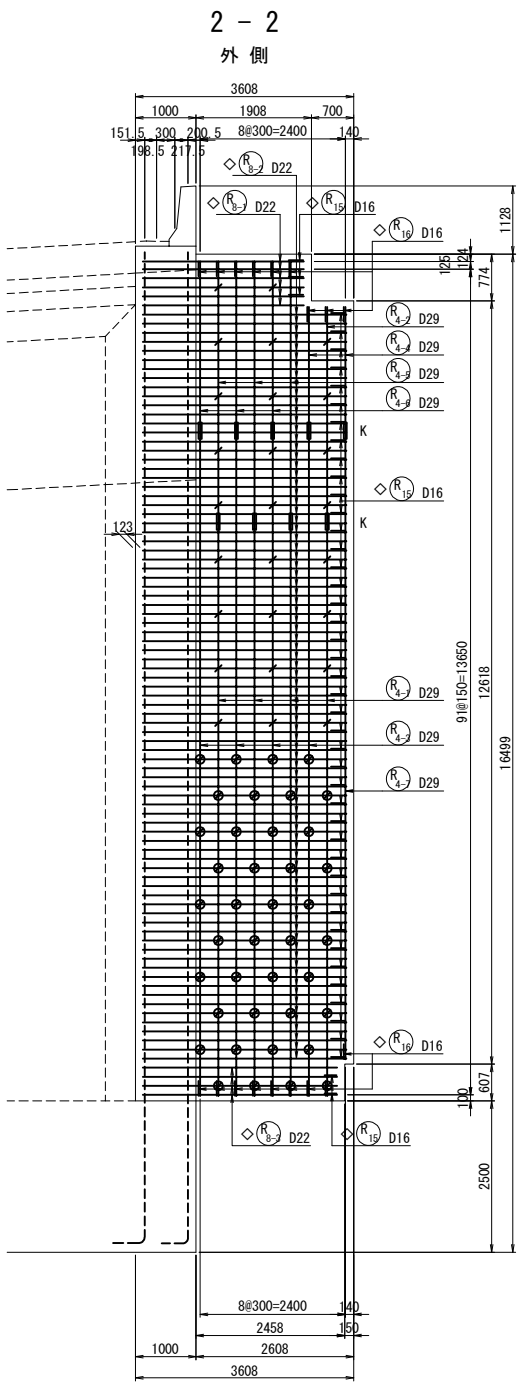
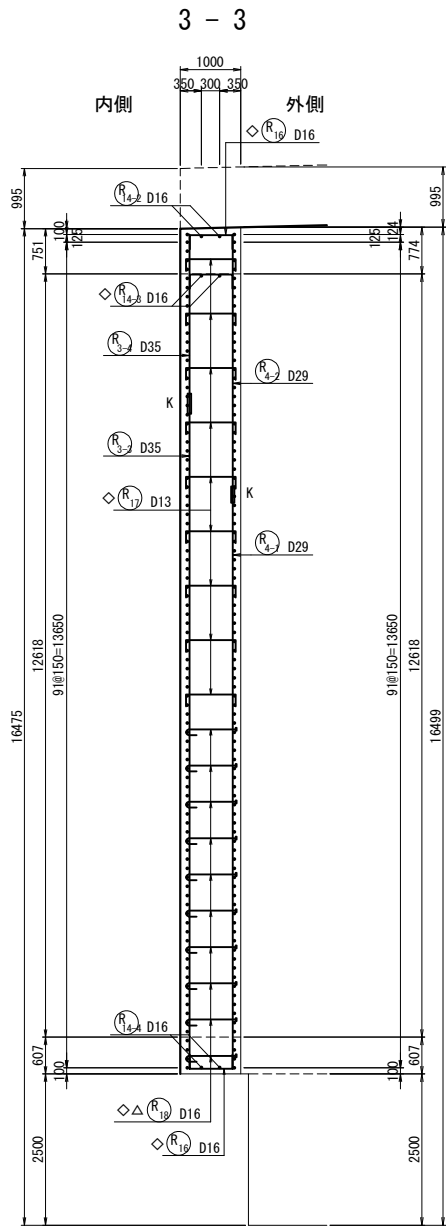
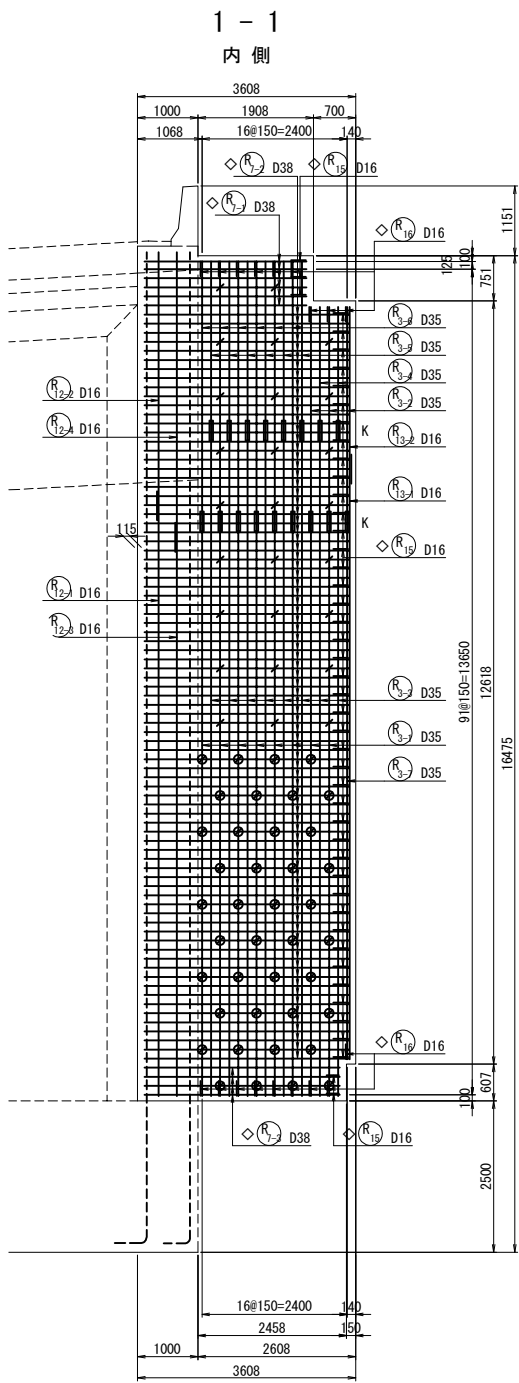
位置図



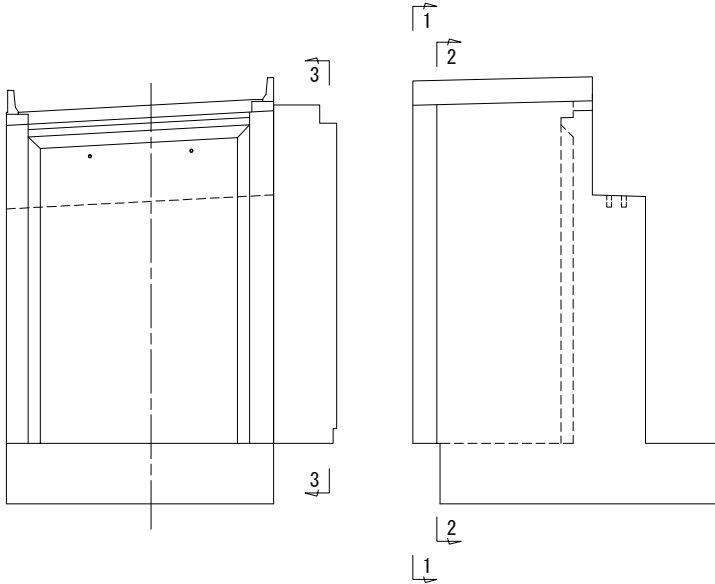
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング



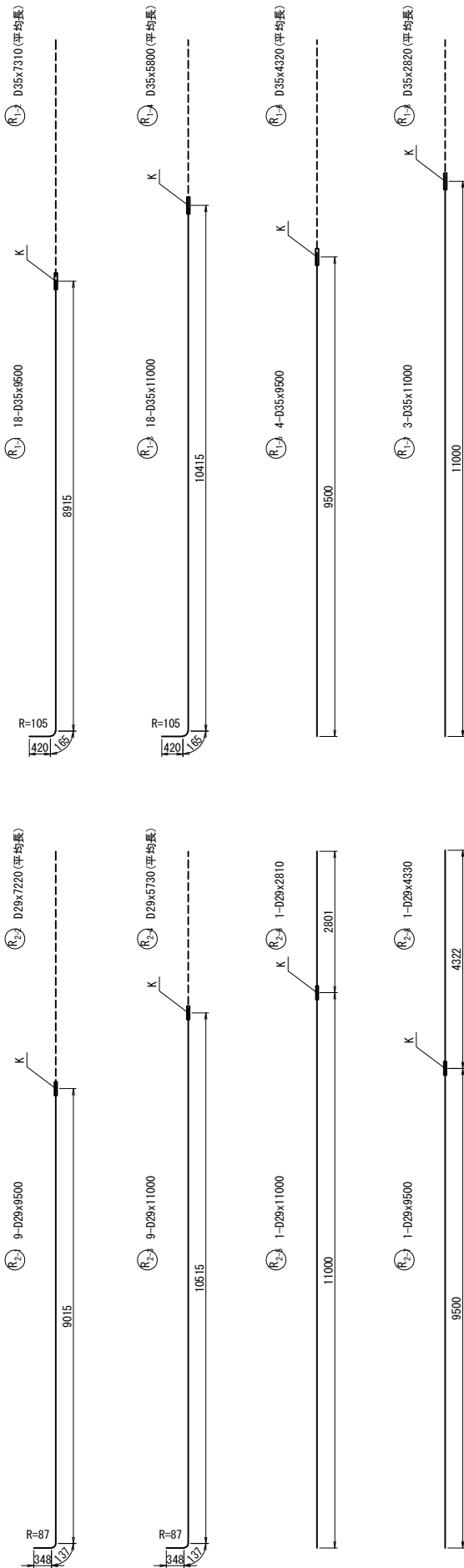
位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) —は機械継手を表わす。
注8) ●は鉄筋を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング



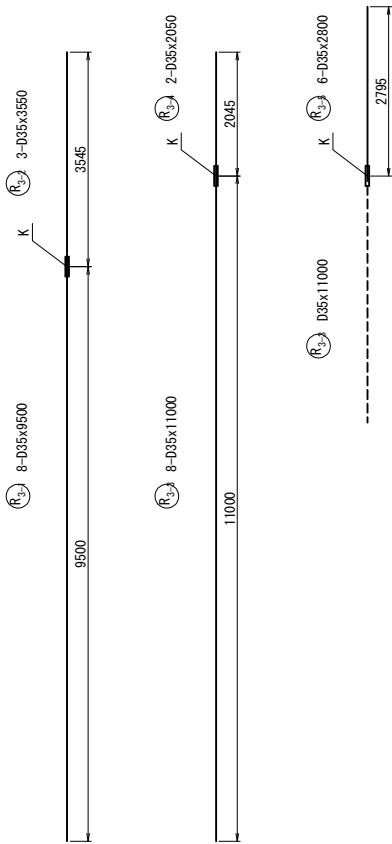
18-D35x7310 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D35	1	7242	7240
2	D35	1	7249	7250
3	D35	1	7256	7260
4	D35	1	7263	7260
5	D35	1	7270	7270
6	D35	1	7277	7280
7	D35	1	7284	7280
8	D35	1	7291	7290
9	D35	1	7298	7300
10	D35	1	7305	7310
11	D35	1	7312	7310
12	D35	1	7319	7320
13	D35	1	7326	7330
14	D35	1	7333	7330
15	D35	1	7340	7340
16	D35	1	7347	7350
17	D35	1	7354	7350
18	D35	1	7361	7360
平均長		18		7302

9-D29x7220 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	7163	7160
2	D29	1	7177	7180
3	D29	1	7191	7190
4	D29	1	7205	7210
5	D29	1	7219	7220
6	D29	1	7233	7230
7	D29	1	7247	7250
8	D29	1	7261	7260
9	D29	1	7275	7280
平均長		9		7220

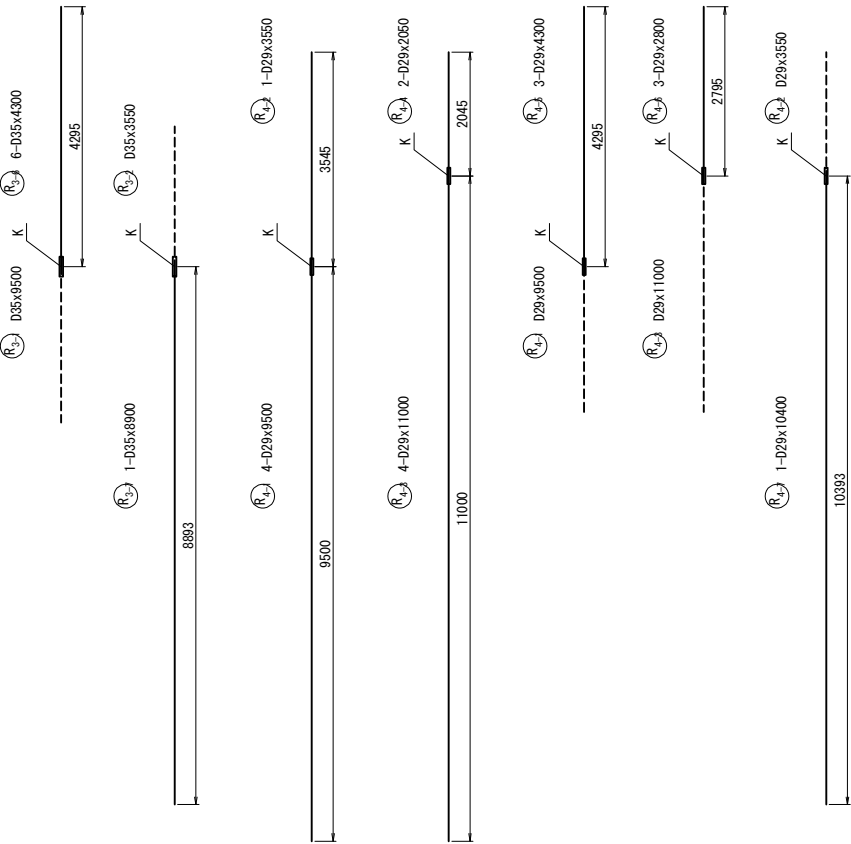
18-D35x5800 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D35	1	5738	5740
2	D35	1	5745	5750
3	D35	1	5752	5750
4	D35	1	5759	5760
5	D35	1	5766	5770
6	D35	1	5773	5770
7	D35	1	5780	5780
8	D35	1	5787	5790
9	D35	1	5794	5790
10	D35	1	5801	5800
11	D35	1	5808	5810
12	D35	1	5815	5820
13	D35	1	5822	5820
14	D35	1	5829	5830
15	D35	1	5836	5840
16	D35	1	5843	5840
17	D35	1	5850	5850
18	D35	1	5857	5860
平均長		18		5798

9-D29x5730 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	5670	5670
2	D29	1	5684	5680
3	D29	1	5698	5700
4	D29	1	5712	5710
5	D29	1	5726	5730
6	D29	1	5740	5740
7	D29	1	5754	5750
8	D29	1	5768	5770
9	D29	1	5782	5780
平均長		9		5726

4-D35x4320 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D35	1	4302	4300
2	D35	1	4309	4310
3	D35	1	4316	4320
4	D35	1	4323	4320
平均長		4		4313



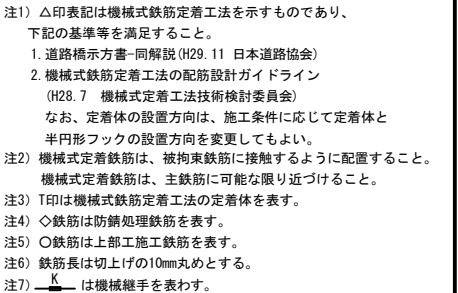
3-D35x2820 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D35	1	2806	2810
2	D35	1	2813	2810
3	D35	1	2820	2820
平均長		3		2813



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) は機械継手を表わす。

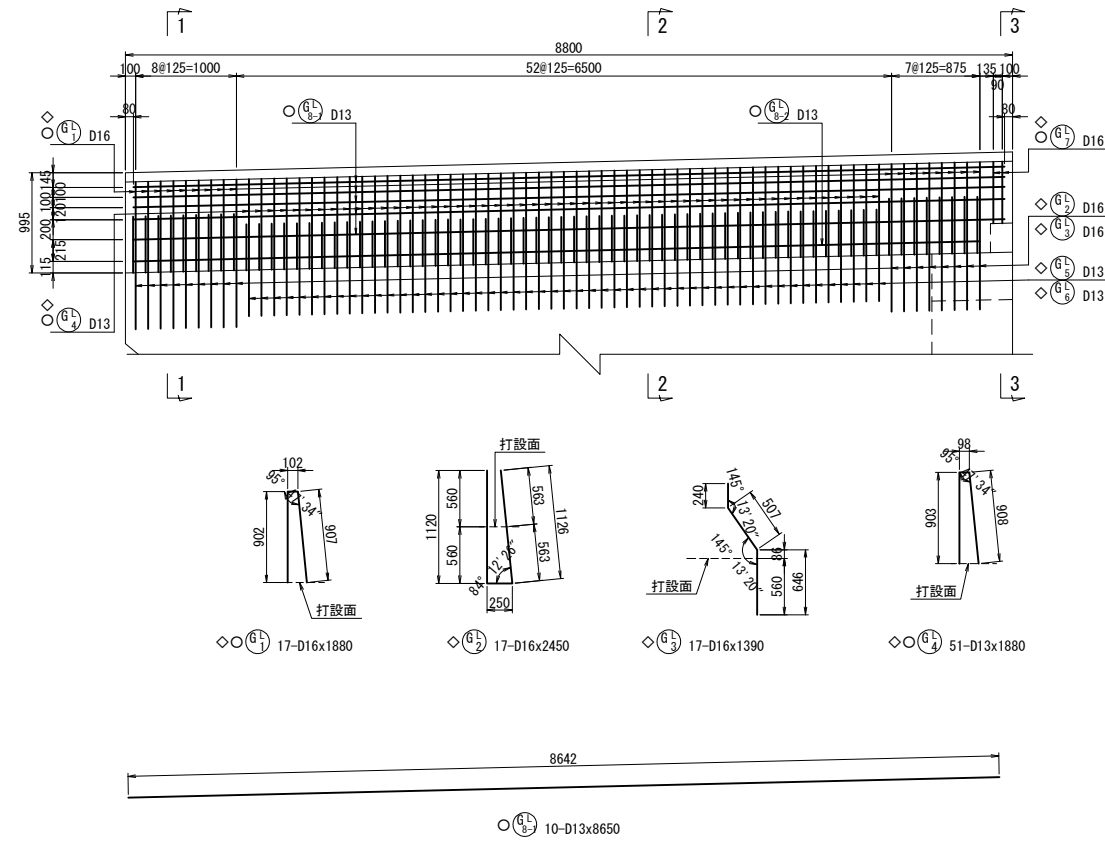
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング

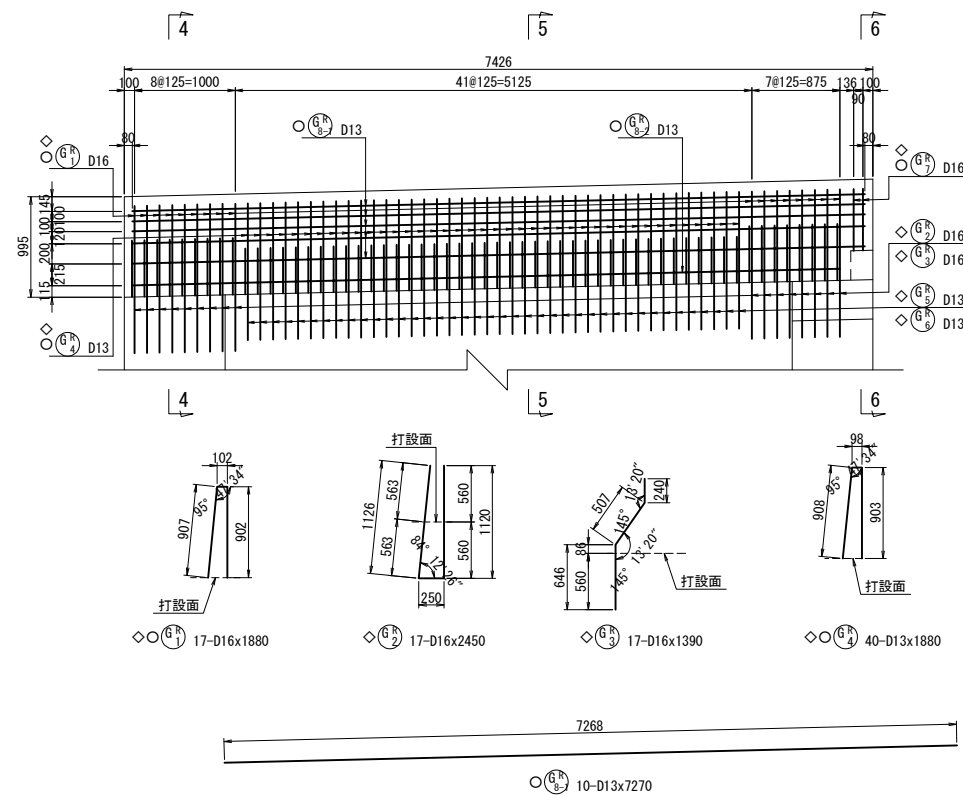


道東自動車道 占冠地区下留工事			
図面の種類	本流越川第四橋（下り線） A1橋台配筋図（その15）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

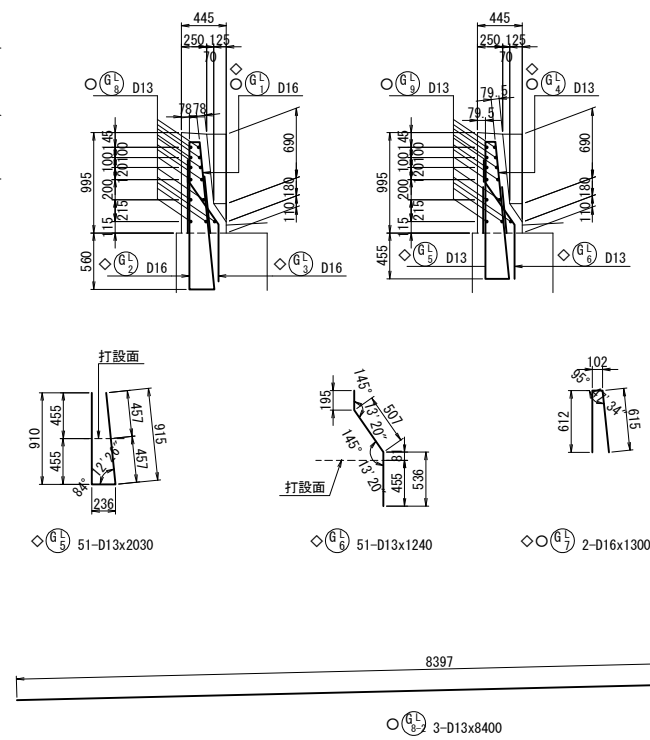
左壁欄側面展開図



右壁欄側面展開図

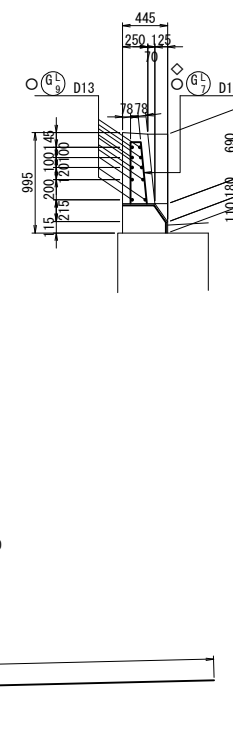


1 - 1



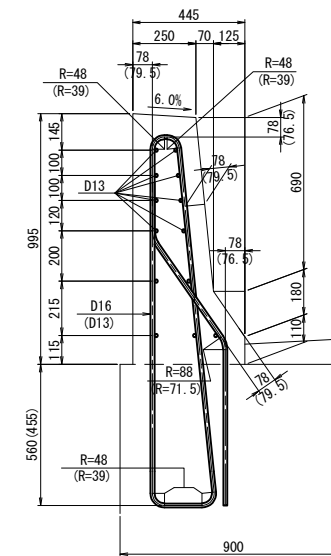
2 - 2

3 - 3



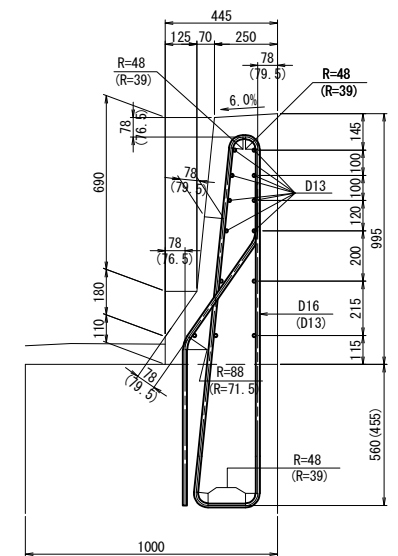
壁高欄かぶり詳細図 S=1 : 30

左側



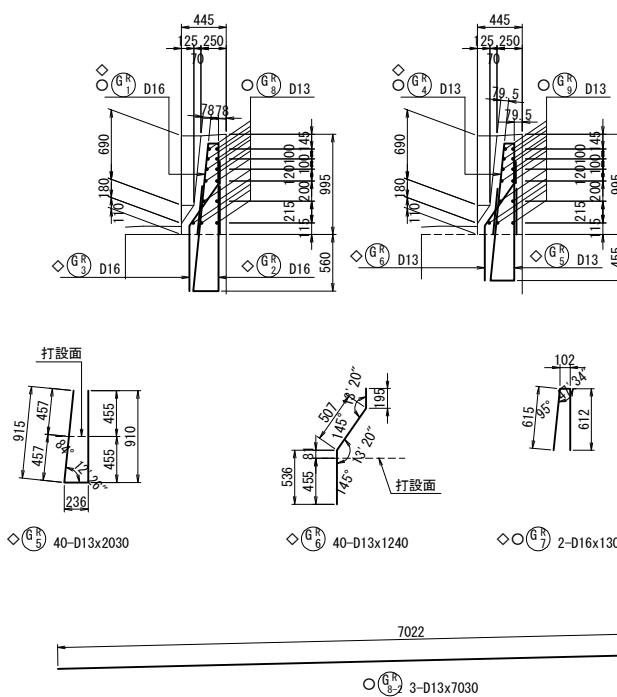
注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

右側



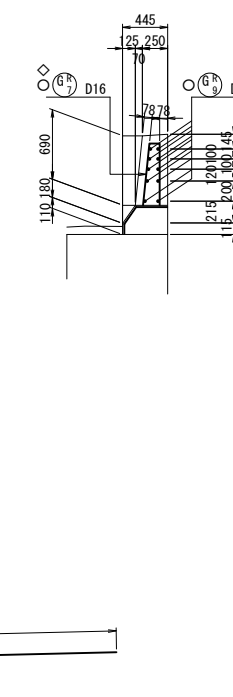
注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

4 - 4

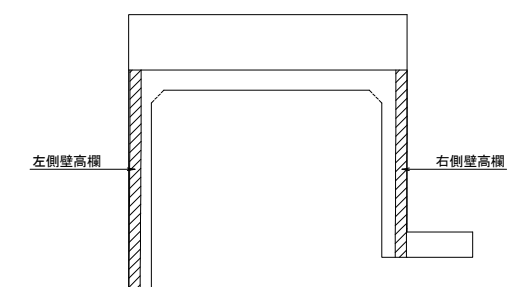


5 - 5

6 - 6



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注3) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類		本流鶴川第四橋（下り線） A 1橋台図筋図（その 1 の 6）	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 7）

鉄筋表

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	P3-1	D35	5000	11	7.51	37.6	414	┐
◇	P3-2	D22	5280	22	3.04	16.1	354	┐
◇	P3-3	D29	3000	11	5.04	15.1	166	┐
◇	P3-4	D35	3000	11	7.51	22.5	248	┐
◇	P3-5	D29	5000	11	5.04	25.2	277	┐
◇	P3-6	D35	3680	1	7.51	27.6	28	┐
◇	P3-7	D22	3910	1	3.04	11.9	12	┐
◇	P3-8	D29	3560	1	5.04	17.9	18	┐
◇	P4	D22	10910	12	3.04	33.2	398	┐
◇	P7	D16	10910	1	1.56	17.0	17	┐
◇ △	P9-1	D22	920	33	3.04	2.80	92	┐ (33) C
◇ △	P9-2	D22	910	44	3.04	2.77	122	┐ (44) C
◇ △	P9-3	D22	920	33	3.04	2.80	92	┐ (33) C
							2238 kg	
◇	E1	D22	520	11	3.04	1.58	17	
◇	E3	D16	10910	4	1.56	17.0	68	┐
							85 kg	
◇	Y1	D16	500	16	1.56	0.780	12	┐
							12 kg	
◇	A3-1	D32	11790	63	6.23	73.5	4631	┐
◇	A3-2	D32	11800	1	6.23	73.5	74	┐
◇	A3-3	D32	6320	4	6.23	39.4	158	┐ (平均長)
◇	A4-1	D32	11790	63	6.23	73.5	4631	┐
◇	A4-2	D32	11800	1	6.23	73.5	74	┐
◇	A4-3	D32	6320	4	6.23	39.4	158	┐ (平均長)
◇ △	A7	D32	3260	181	6.23	20.3	3674	┐ (181) C
							13400 kg	
◇	S2	D16	11970	10	1.56	18.7	187	┐
◇ △	S3	D16	3020	24	1.56	4.71	113	┐ (24) C
							300 kg	
◇	H1	D16	2800	22	1.56	4.37	96	┐
◇	H2	D16	2800	22	1.56	4.37	96	┐
◇	H3	D16	3180	8	1.56	4.96	40	┐
							232 kg	
◇	L3-1	D35	8410	2	7.51	63.2	126	┐
◇	L3-2	D35	8550	8	7.51	64.2	514	┐ (平均長)
◇	L3-3	D35	4710	1	7.51	35.4	35	┐
◇	L3-4	D35	5900	1	7.51	44.3	44	┐
◇	L3-5	D35	7040	12	7.51	52.9	635	┐
◇	L3-6	D35	7040	4	7.51	52.9	212	┐
◇	L3-7	D35	8780	55	7.51	65.9	3625	┐
◇	L4-1	D29	8410	2	5.04	42.4	85	┐
◇	L4-2	D29	8020	8	5.04	40.4	323	┐ (平均長)
◇	L4-3	D29	6510	4	5.04	32.8	131	┐
◇	L4-4	D29	8690	32	5.04	43.8	1402	┐
◇	L5	D35	3600	21	7.51	27.0	567	┐
◇	L6-1	D35	4040	1	7.51	30.3	30	┐
◇	L6-2	D35	6680	31	7.51	50.2	1556	┐
◇	L11	D16	1100	45	1.56	1.72	77	┐
◇	L12	D16	1070	27	1.56	1.67	45	┐
◇	L13	D13	1080	70	0.995	1.07	75	┐
◇ △	L14	D16	950	85	1.56	1.48	126	┐ (85) C
							9608 kg	
◇	R5-1	D38	7000	1	8.95	62.7	63	┐
◇	R5-2	D38	9620	24	8.95	86.1	2066	┐
◇	R5-3	D38	6070	1	8.95	54.3	54	┐
◇	R5-4	D38	7000	1	8.95	62.7	63	┐
◇	R5-5	D38	11240	67	8.95	101	6767	┐
◇	R6-1	D22	6990	1	3.04	21.2	21	┐
◇	R6-2	D22	7800	24	3.04	23.7	569	┐
◇	R6-3	D22	6070	1	3.04	18.5	19	┐
◇	R6-4	D22	6990	1	3.04	21.2	21	┐
◇	R6-5	D22	9980	67	3.04	30.3	2030	┐
◇	R7-1	D38	4050	6	8.95	36.2	217	┐
◇	R7-2	D38	4750	83	8.95	42.5	3528	┐
◇	R7-3	D38	4600	4	8.95	41.2	165	┐
◇	R8-1	D22	3010	4	3.04	9.15	37	┐
◇	R8-2	D22	3710	83	3.04	11.3	938	┐
◇	R8-3	D22	3560	4	3.04	10.8	43	┐
◇	R9	D38	3840	20	8.95	34.4	688	┐
◇	R10-1	D38	4230	2	8.95	37.9	76	┐
◇	R10-2	D38	6920	32	8.95	61.9	1981	┐
◇	R15	D16	1210	47	1.56	1.89	89	┐
◇	R16	D16	1170	41	1.56	1.83	75	┐
◇	R17	D13	1180	101	0.995	1.17	118	┐
◇ △	R18	D16	1050	91	1.56	1.64	149	┐ (91) C
							19777 kg	
◇	J1	D13	1570	68	0.995	1.56	106	┐
							106 kg	

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要	
下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)								
◇	GL2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GL3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GL5	D13	2030	51	0.995	2.02	103	┐
◇	GL6	D13	1240	51	0.995	1.23	63	┐
							268 kg	
◇	GR2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GR3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GR5	D13	2030	40	0.995	2.02	81	┐
◇	GR6	D13	1240	40	0.995	1.23	49	┐
							232 kg	
下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)								
鉄筋質量集計 (SD345)								
	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	(機械式定着)			
	D38	15668 kg	-	-	15668 kg			
	D35	8034 kg	-	-	8034 kg			
	D32	9726 kg	-	3674 kg	13400 kg	(181)		
	D29	2402 kg	-	-	2402 kg			
	D22	4459 kg	-	306 kg	4765 kg	(110)		
	D16	1006 kg	-	388 kg	1394 kg	(200)		
	D13	595 kg	-	-	595 kg			
	合 計	41890 kg	-	4368 kg	46258 kg	(491)		

種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋 (SD345)							
P1	D35	5050	64	7.51	37.9	2426	
P2	D35	4750	38	7.51	35.7	1357	
P5	D16	3830	1	1.56	5.97	6	
P6	D16	3860	1	1.56	6.02	6	
P8	D16	960	38	1.56	1.50	57	┐
						3852 kg	
E2	D16	2910	30	1.56	4.54	136	┐
E4	D13	1590	11	0.995	1.58	17	┐
						153 kg	

A1-1	D51	9000	33	15.9	143	4719	┐ K [33] B
A1-2	D51	3840	33	15.9	61.1	2016	┐ K (平均長) B
A1-3	D51	10800	33	15.9	172	5676	┐ K [33] B
A1-4	D51	2030	33	15.9	32.3	1066	┐ K (平均長) B
A2-1	D51	10800	19	15.9	172	3268	┐ K [19] B
A2-2	D51	2050	19	15.9	32.6	619	┐ K (平均長) B
A2-3	D51	9000	19	15.9	143	2717	┐ K [19] B
A2-4	D51	3830	19	15.9	60.9	1157	┐ K (平均長) B
A5-1	D16	10000	5	1.56	15.6	78	┐
A5-2	D16	2560	5	1.56	3.99	20	┐
A5-3	D16	9000	4	1.56	14.0	56	┐
A5-4	D16	3560	4	1.56	5.55	22	┐
A6-1	D16	10000	5	1.56	15.6	78	┐
A6-2	D16	3120	5	1.56	4.87	24	┐
A6-3	D16	9000	4	1.56	14.0	56	┐
A6-4	D16	4120	4	1.56	6.43	26	┐
						21598 kg	

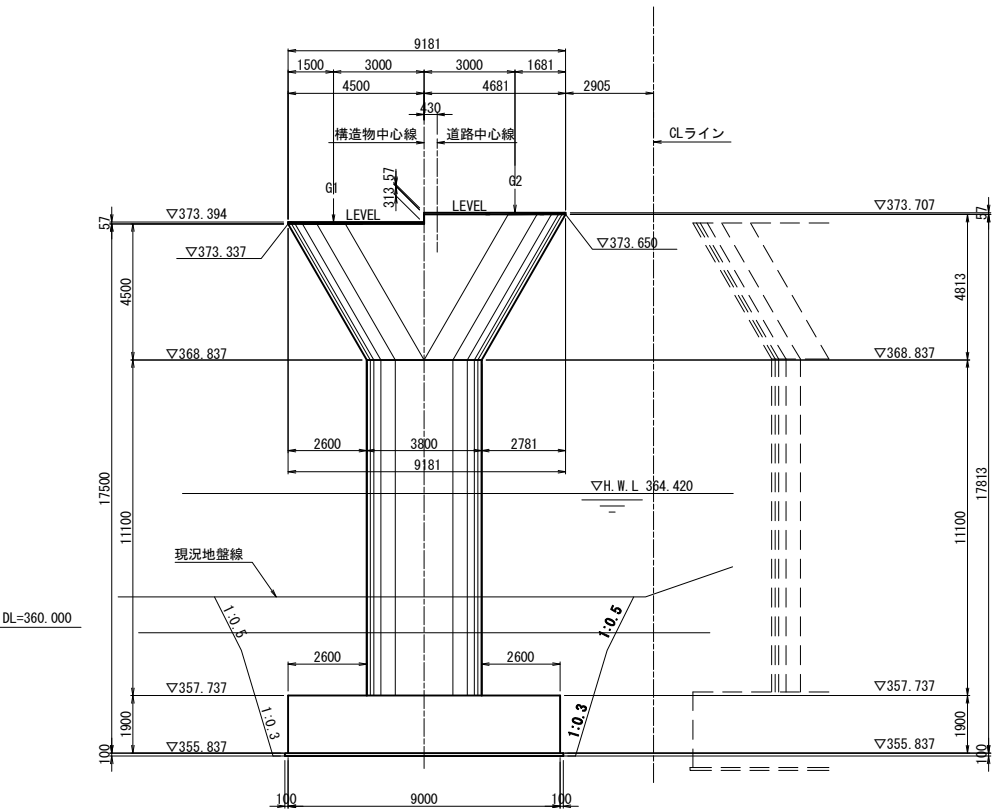
S1	D16	3710	38	1.56	5.79	220	┐
						220 kg	

F1	D32	8730	73	6.23	54.4	3971	┐
F2	D32	8120	73	6.23	50.6	3694	┐
F3	D35	8700	73	7.51	65.3	4767	┐
F4	D32	4100	36	6.23	25.5	918	┐
F5	D35	8600	36	7.51	64.6	2326	┐
F6	D19	10890	76	2.25	24.5	1862	┐
F7	D22	10890	38	3.04	33.1	1258	┐
F8	D19	10890	11	2.25	24.5	270	┐
F9	D22	10890	19	3.04	33.1	629	┐
F10	D19	11850	22	2.25	26.7	587	┐
F11	D19	10890	22	2.25	24.5	539	┐
F12	D16	2760	20	1.56	4.31	86	┐
F13	D16	2540	36	1.56	3.96	143	┐ (36) C
F14	D19	2640	142	2.25	5.94	843	┐ (142) C
						21893 kg	

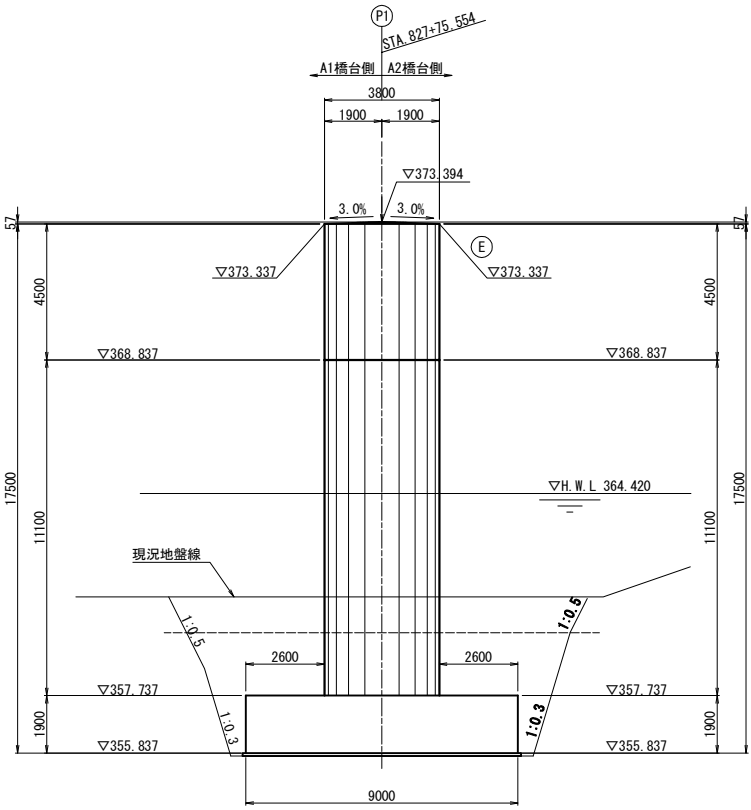
L1-1	D38	9500	9	8.95	85.0	765	┐ K [9] B
L1-2	D38	6810	9	8.95	60.9	548	┐ K (平均長) B
L1-3	D38	11000	10	8.95	98.5	985	┐ K [10] B

種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋 (SD345)							
L1-4	D38	5310	10	8.95	47.5	475	┐ K (平均長) B
L1-5	D38	10000	9	8.95	89.5	806	┐
L1-6	D22	1620	8	3.04	4.92	39	┐ (平均長) B
L2-1	D32	9500	10	6.23	59.2	592	┐ K [10] B
L2-2	D32	6730	10	6.23	41.9	419	┐ K (平均長) B
L2-3	D32	11000	9	6.23	68.5	617	┐ K [9] B
L2-4	D32	5230	9	6.23	32.6	293	┐ K (平均長) B
L2-5	D19	1620	8	2.25	3.65	29	┐ (平均長) B
L7-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	
L7-2	D16	3910	1	1.56	6.10	6	
L7-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14	
L7-4	D16	4910	1	1.56	7.66	8	
L8-1	D16	4150	2	1.56	6.47	13	┐
L8-2	D16	4140	2	1.56	6.46	13	┐
L9-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	┐
L9-2	D16	4170	1	1.56	6.51	7	
L9-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14	┐
L9-4	D16	5170	1	1.56	8.07	8	
L10	D16	8390	2	1.56	13.1	26	┐
						5709 kg	

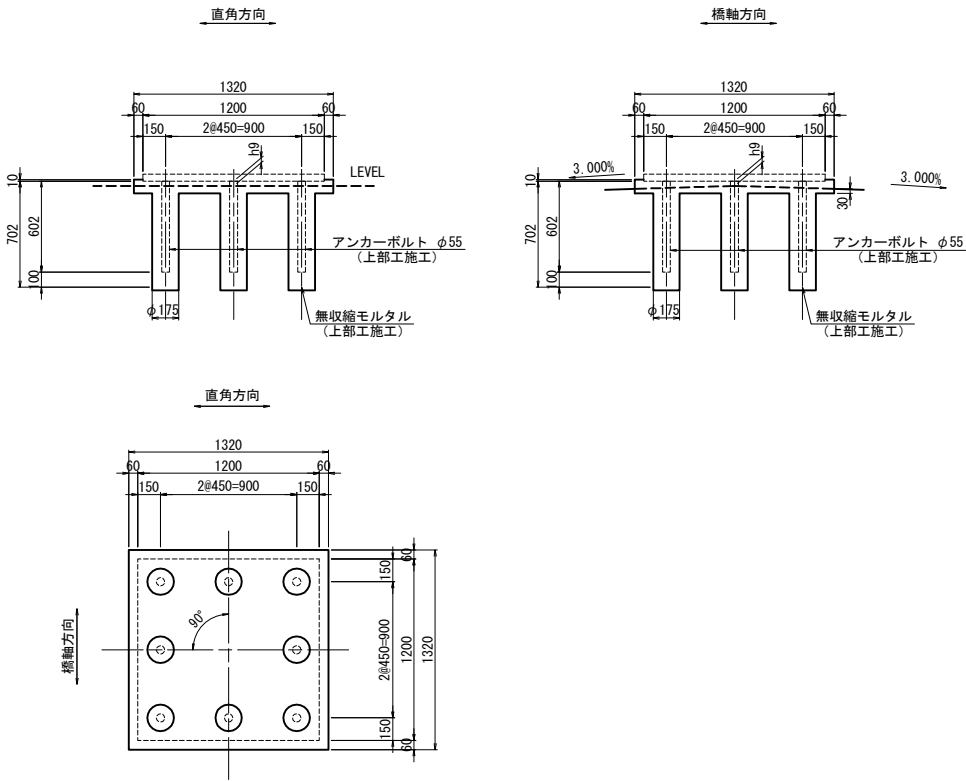
正面図（1-1）



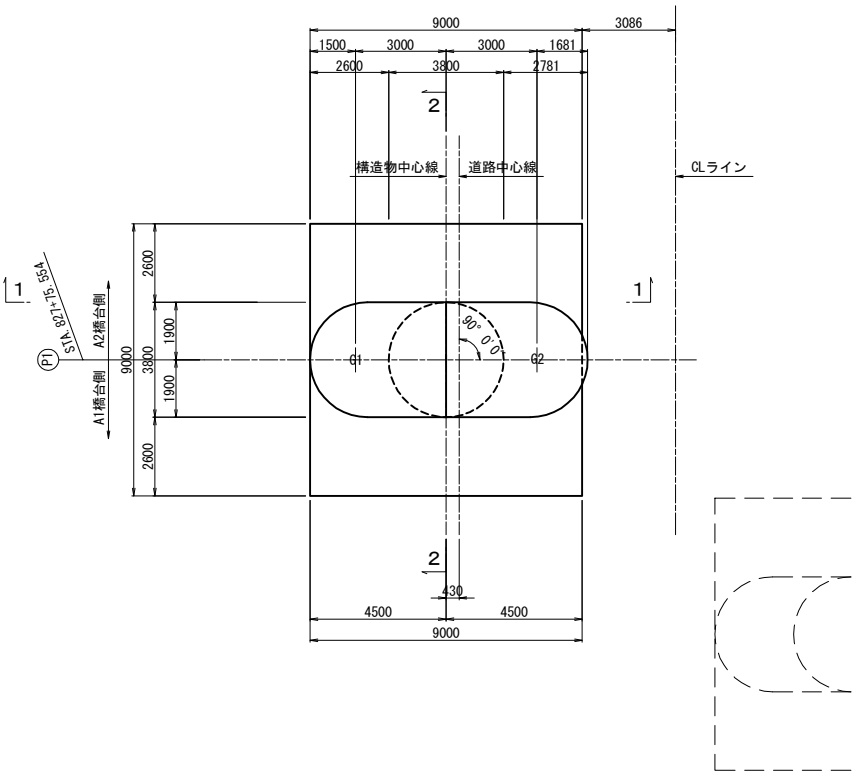
断面図（2-2）



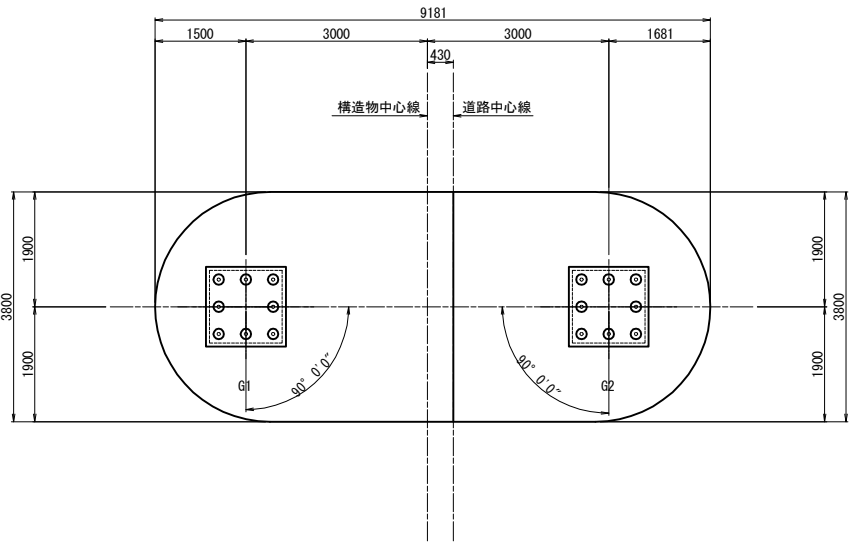
支承箱抜き詳細図 S=1:50



平面図



支承配置図 S=1:125



構造高表

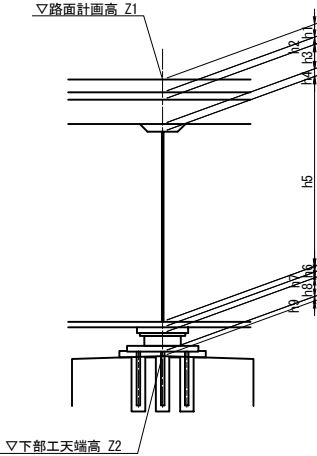
		P1橋脚	
		G1	G2
路面計画高	Z1	377.308	377.638
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.005	0.019
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.058	0.060
ソールプレート厚	h7	0.052	0.052
支承高	h8	0.369	0.369
番座モルタル厚	h9	0.030	0.030
構造高合計	Σh	3.914	3.930
下部工天端高	Z2	373.394	373.707

使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
鉄筋	躯体	SD345 (梁) SD490 (柱)
	フーチング	SD345

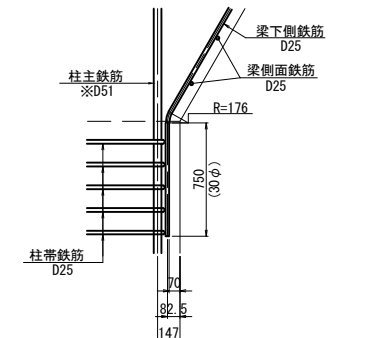
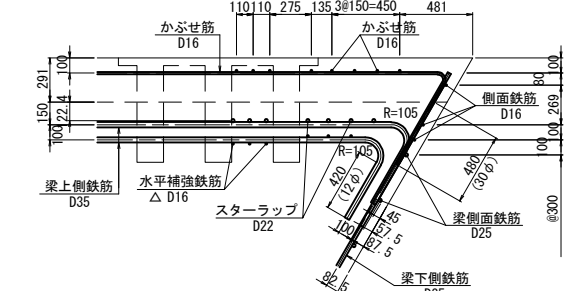
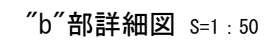
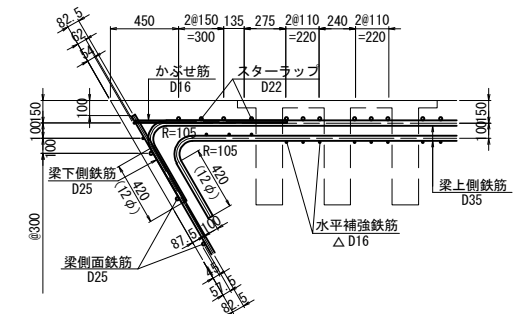
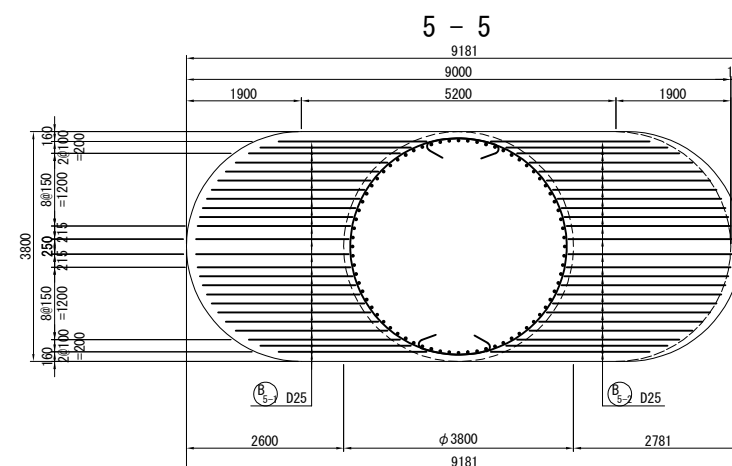
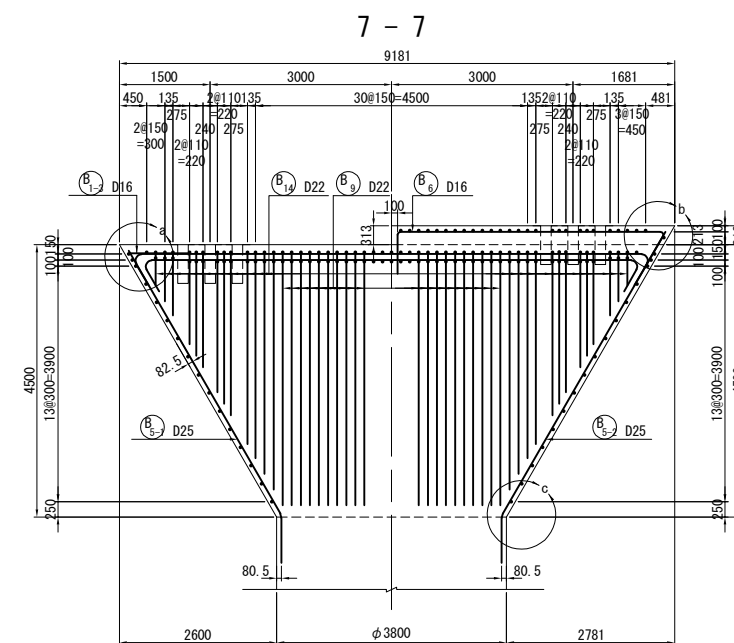
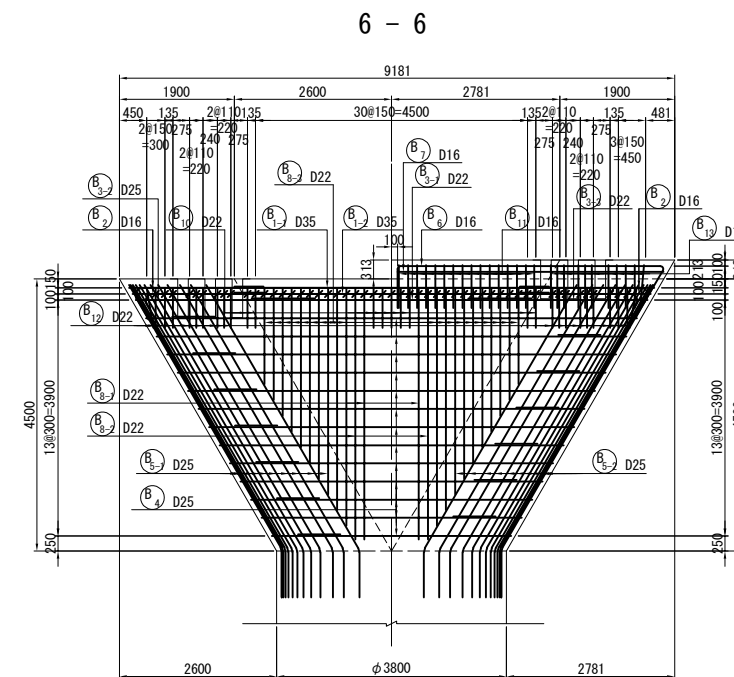
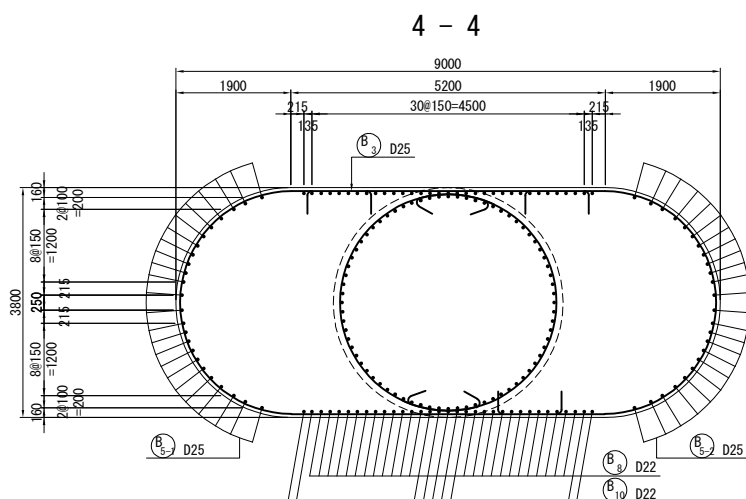
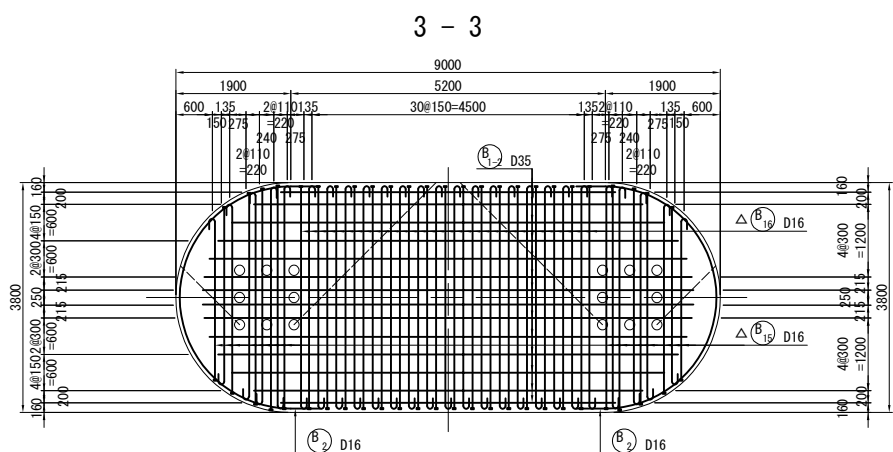
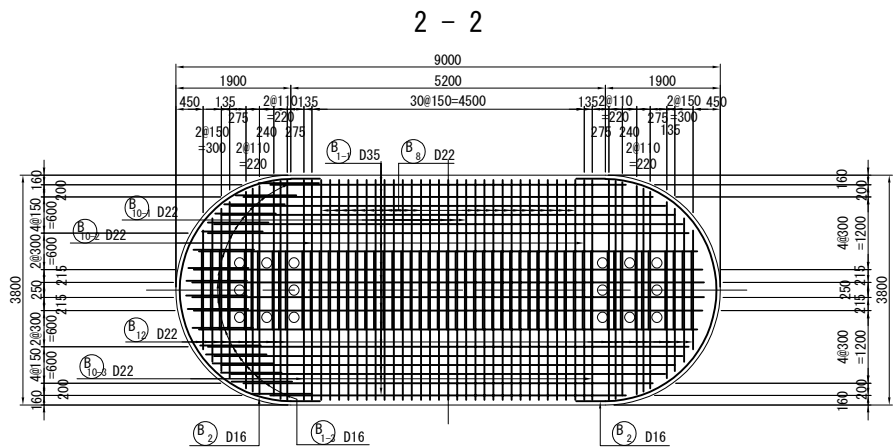
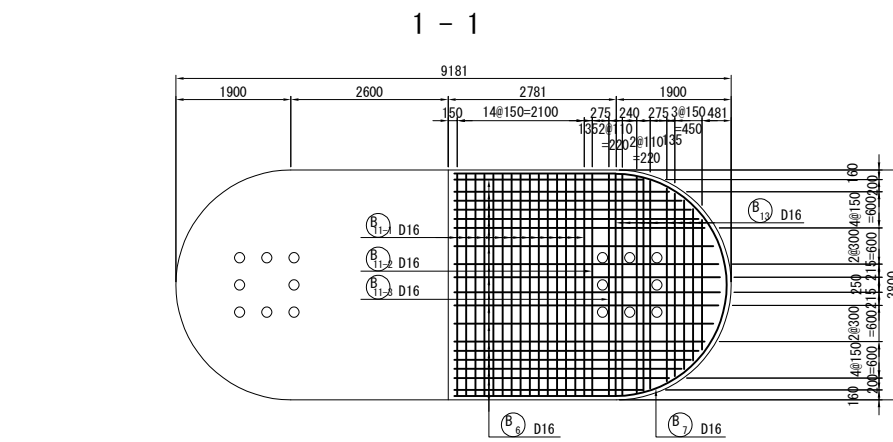
数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	普通部	m3	225.1	土砂
		m3	399.5	軟岩

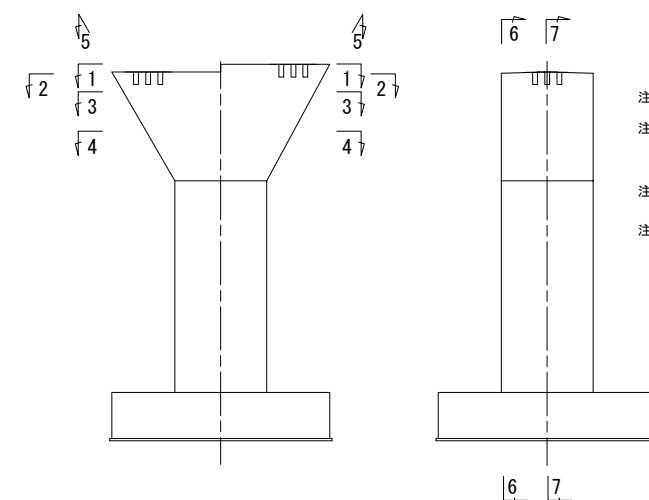



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋梁研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鷗川第四橋（下り線）P 1 橋脚配筋図（その 1） S=1 : 125

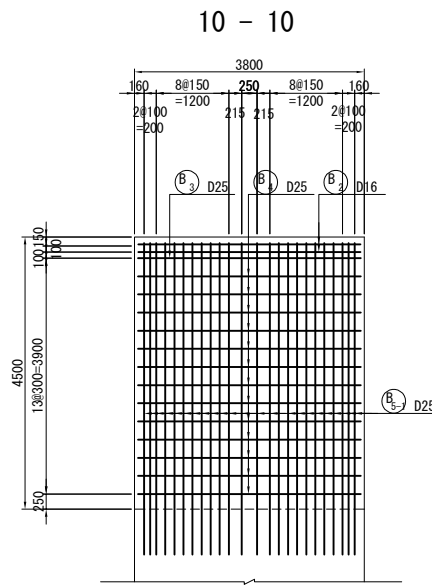
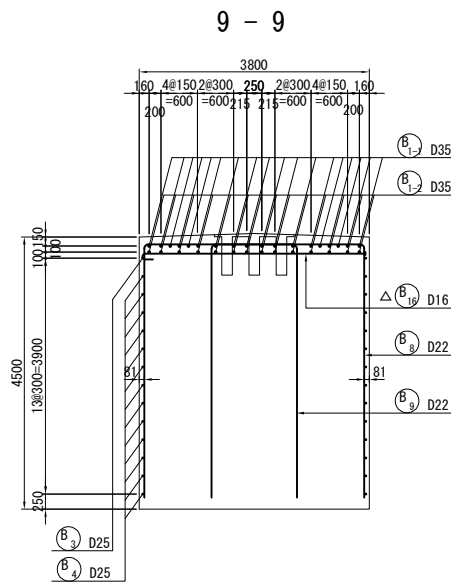
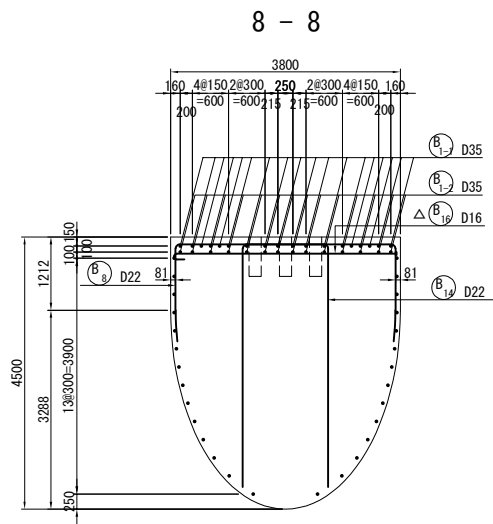


位置図

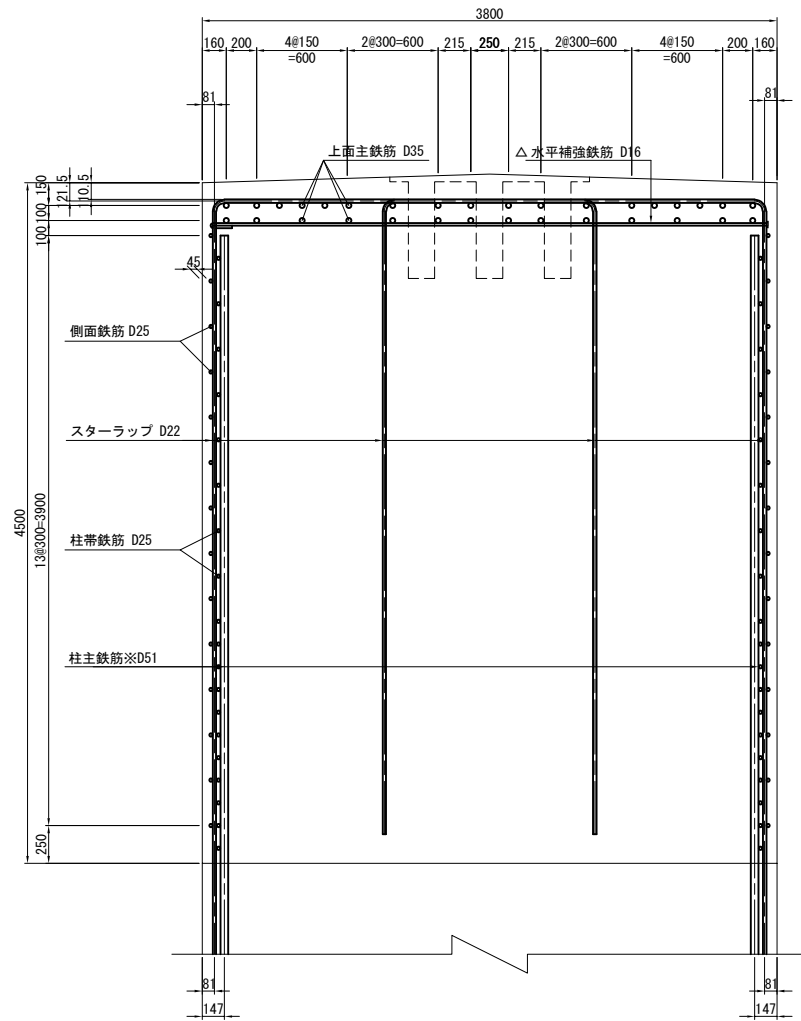


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- ① 道路橋示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)
- ② 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着技術検討委員会)
- なお、定着式の設置方向は、施工条件に応じて定着棒と半円形フックの設置方向を変更するように。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋と接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能限り近づけること。
- 注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
-  △は、機械縦手型を示す。

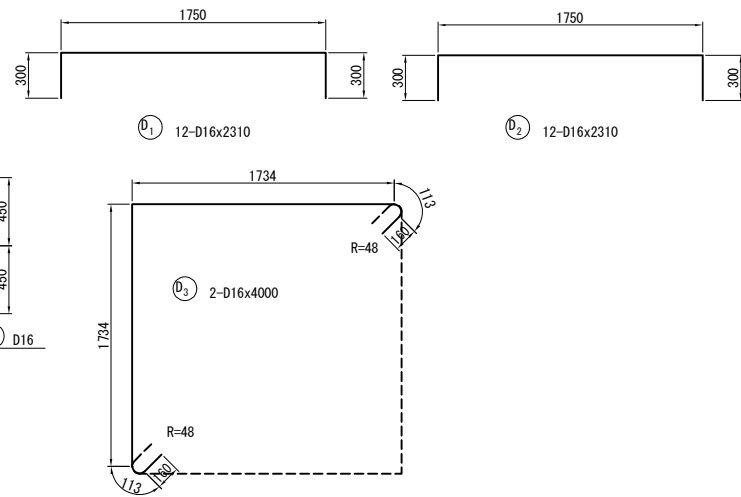
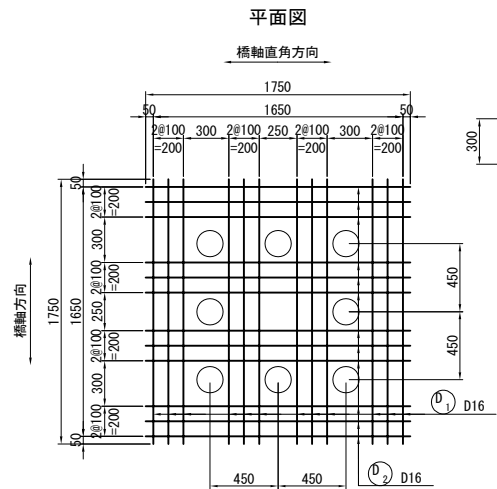
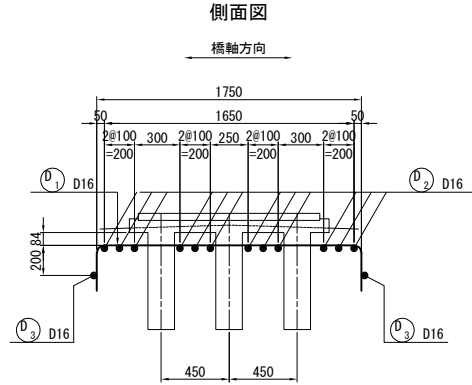
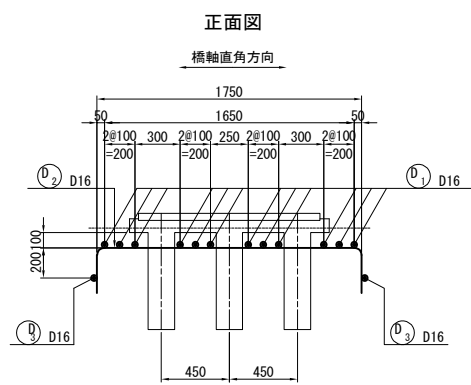
道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	本流越川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本橋道橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



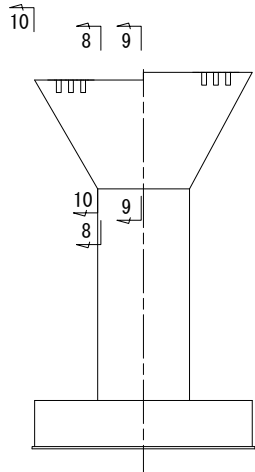
はりかぶり詳細図 S=1 : 50




支承部補強鉄筋 S=1 : 50
2箇所

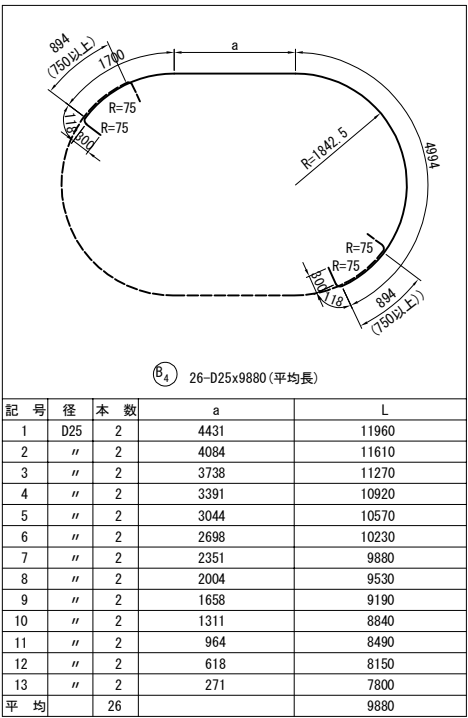
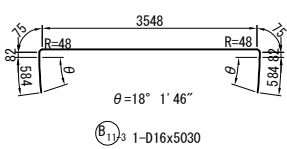
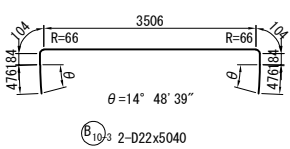
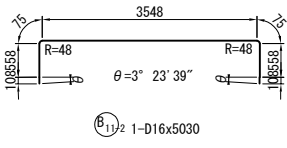
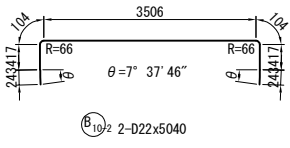
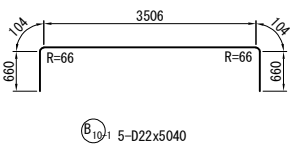
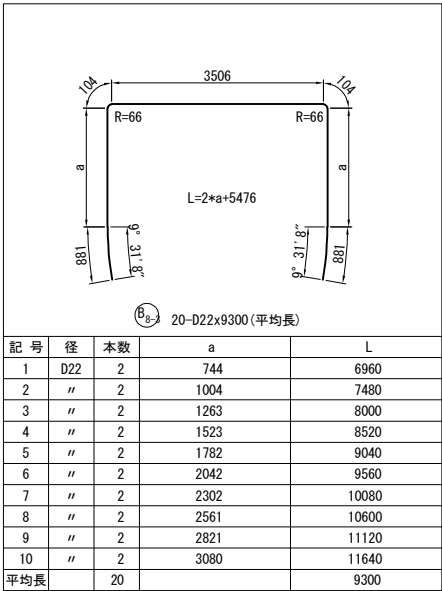
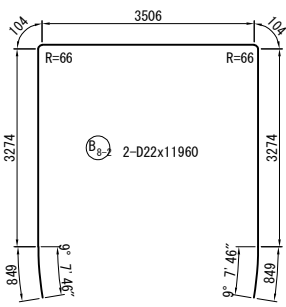
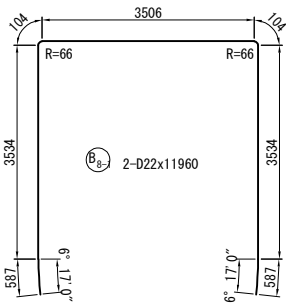
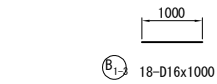
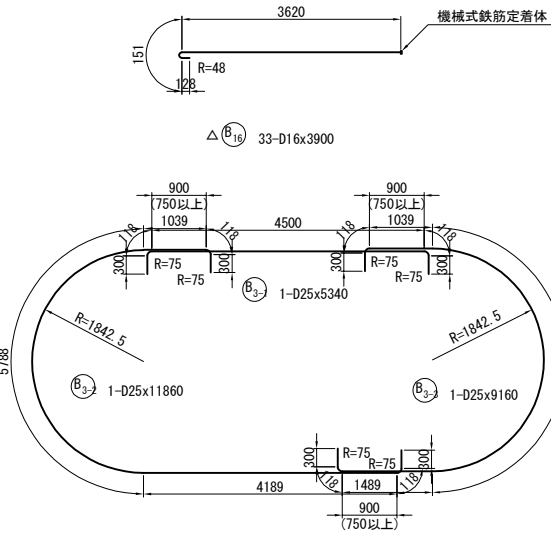
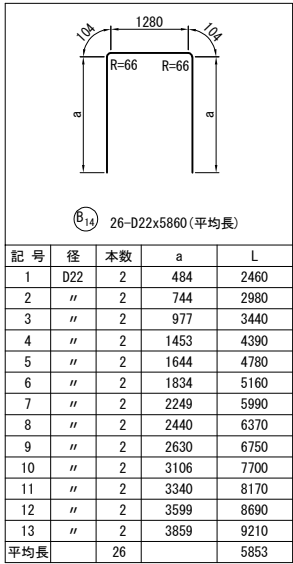
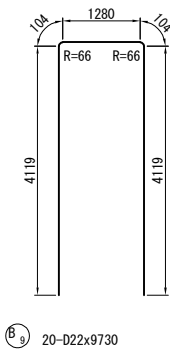
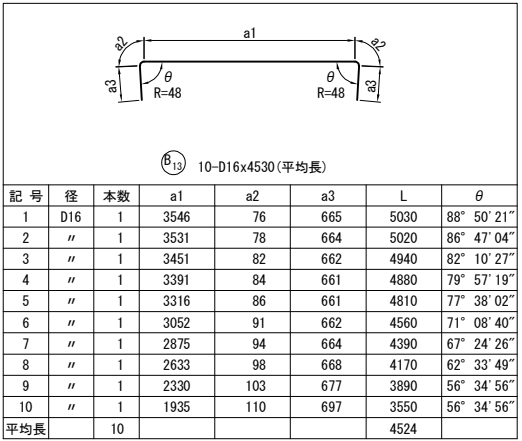
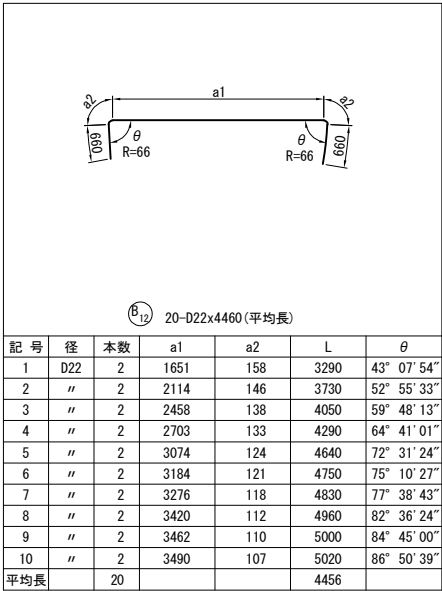
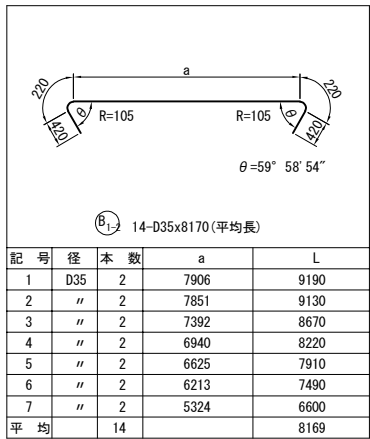
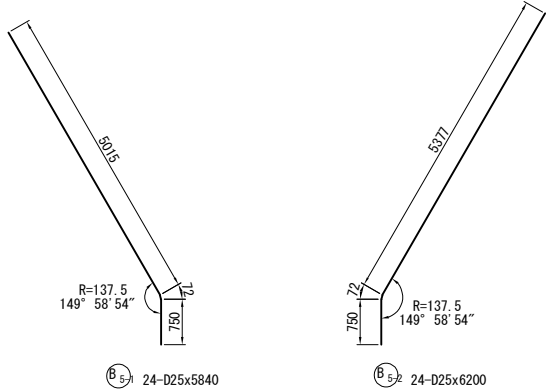
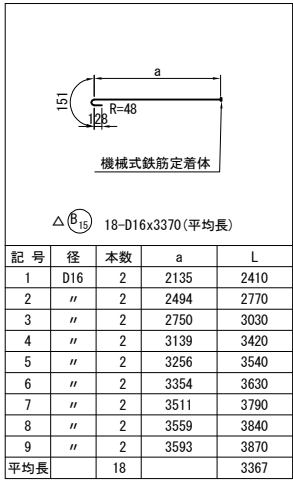
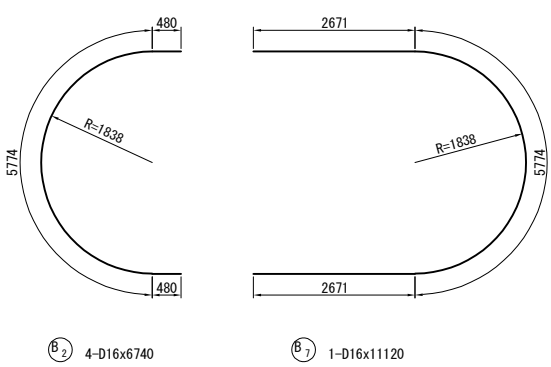
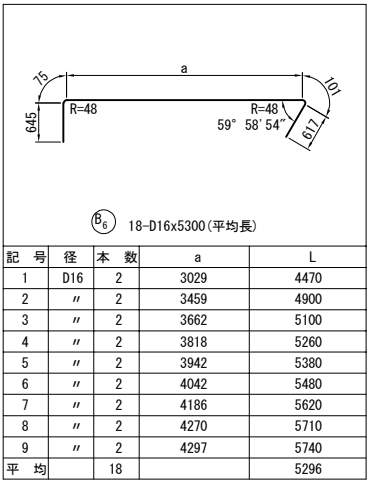
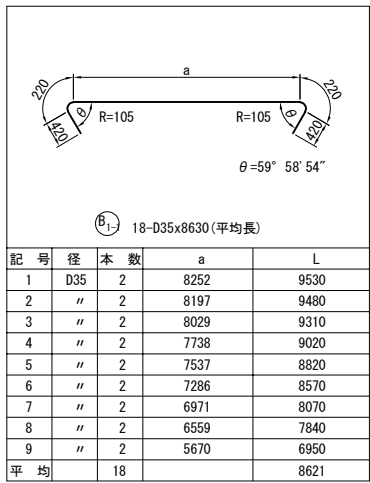


位置図



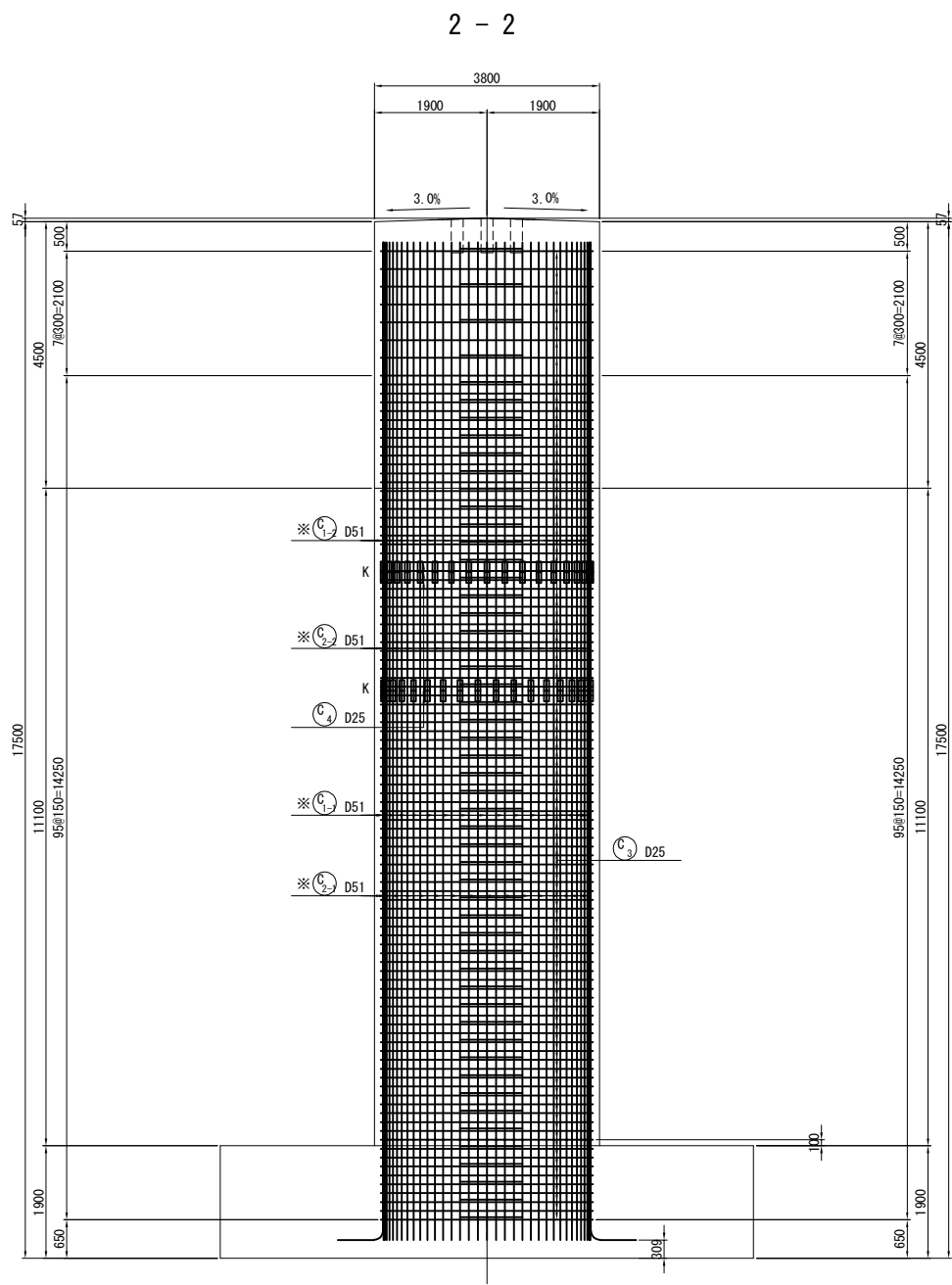
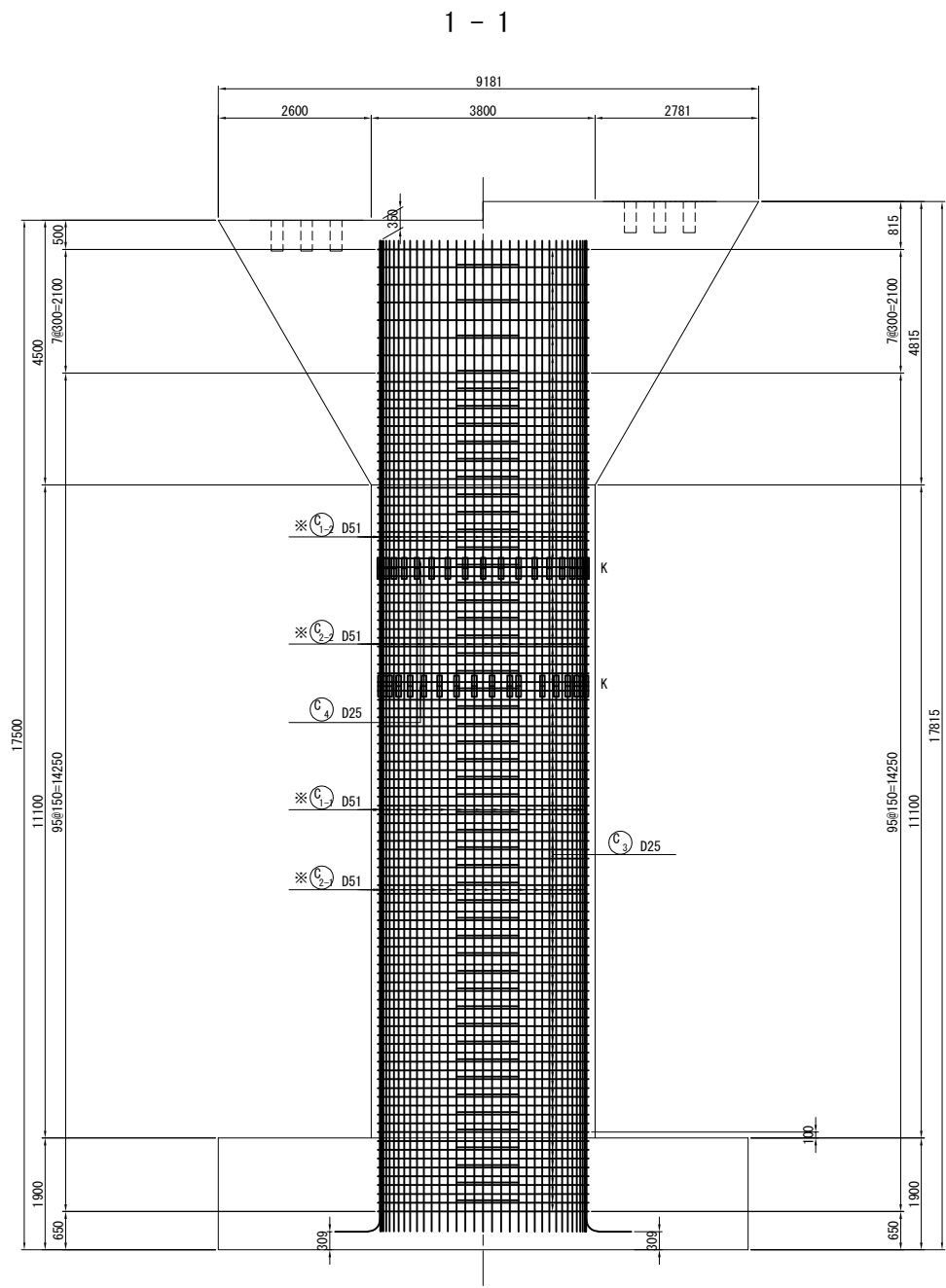
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5)  は、機械継手位置を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

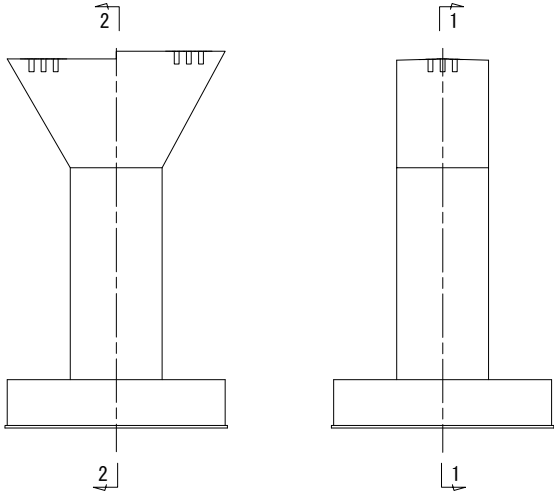


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) は、機械継手位置を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

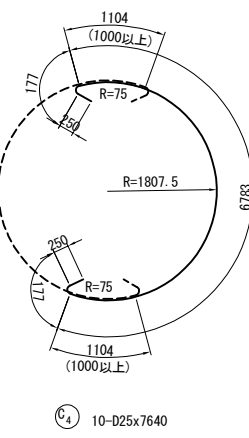
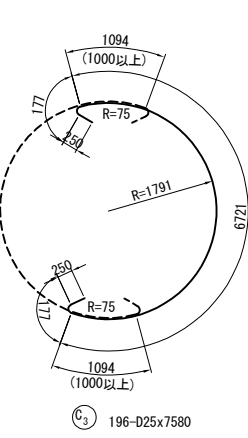
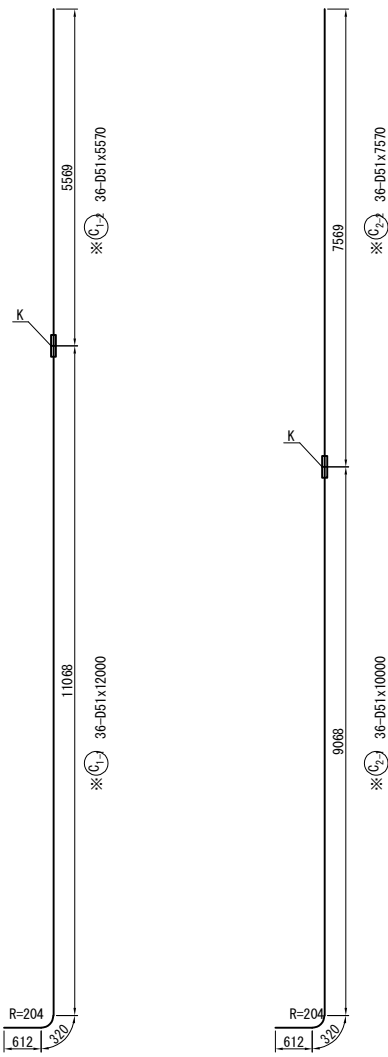
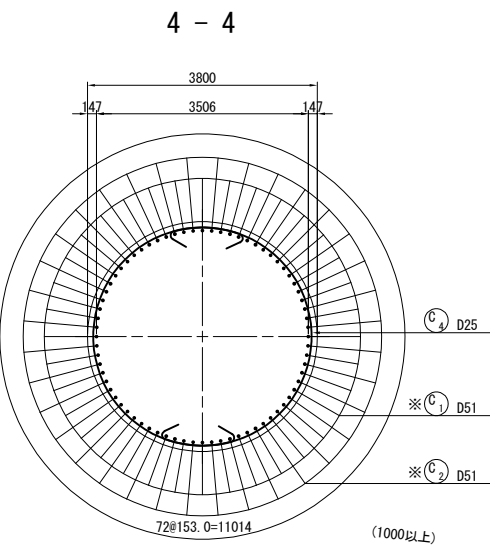
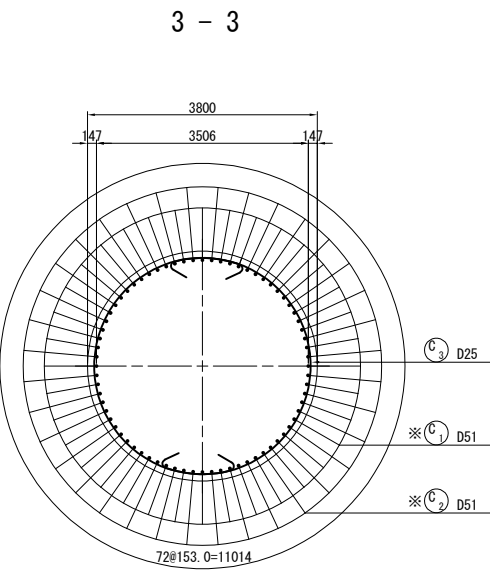


位置図

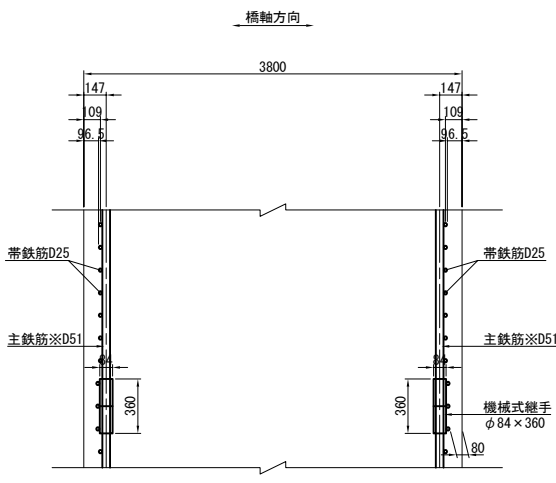


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) —△— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。

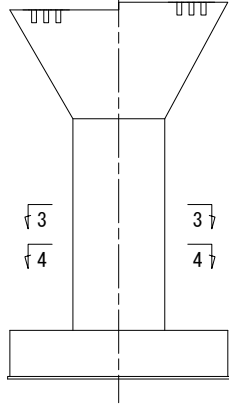
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1：50

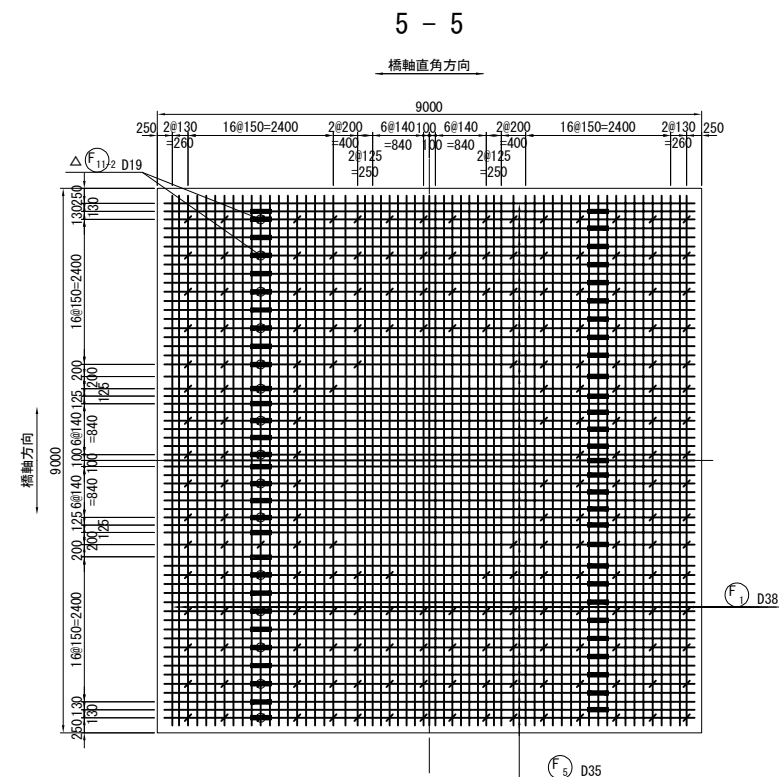
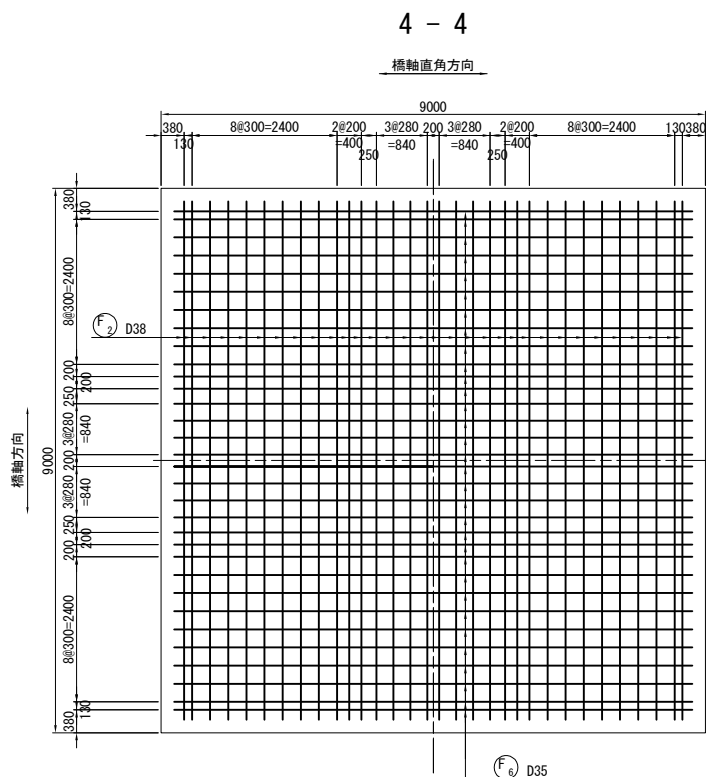
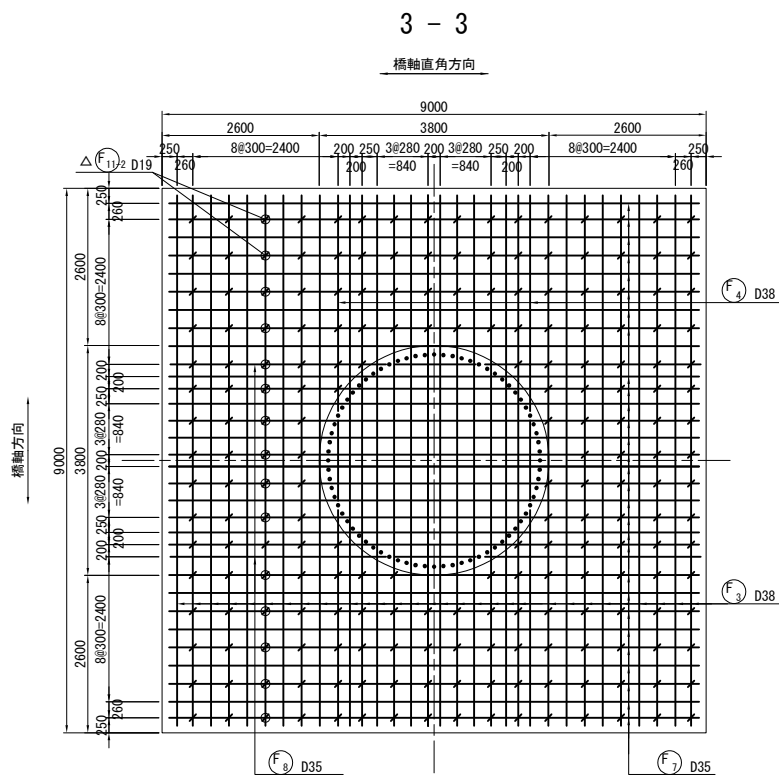
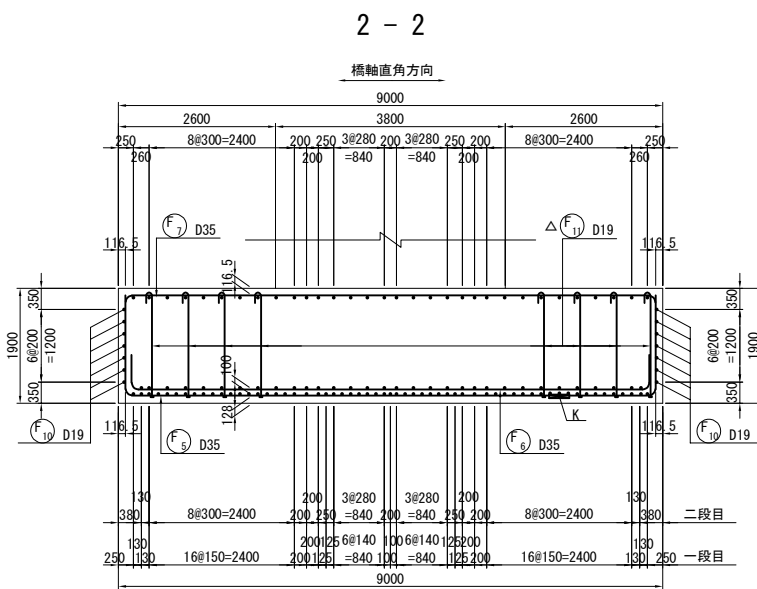
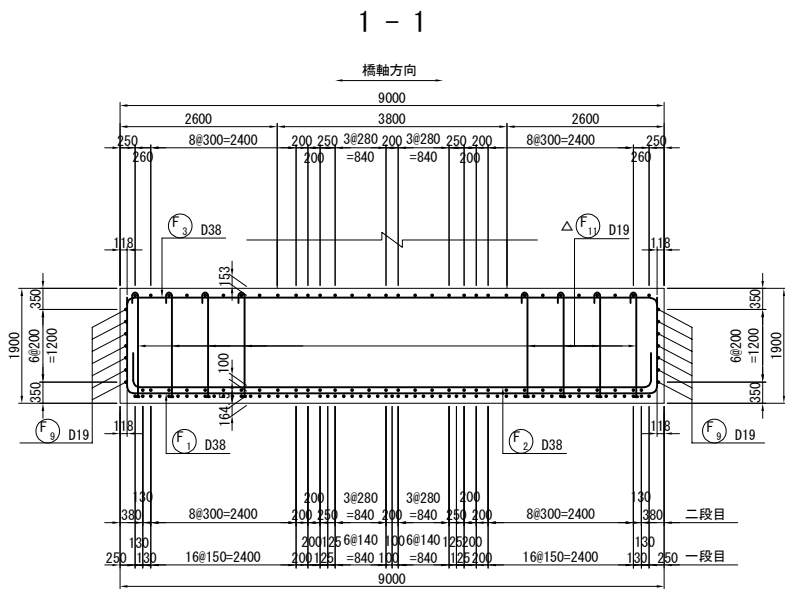


位置図

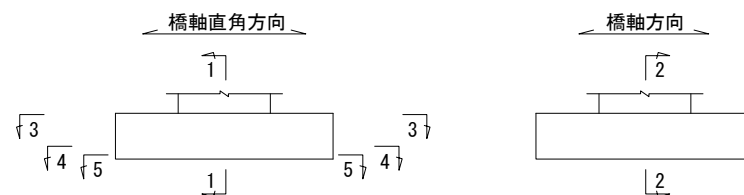




注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
注3) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注4) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

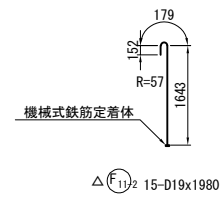
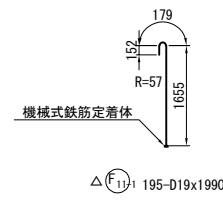
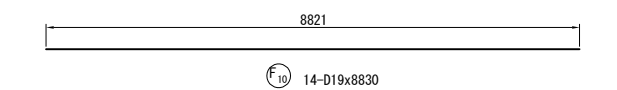
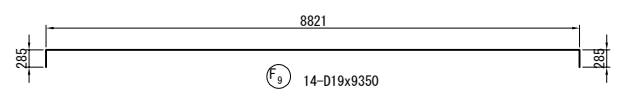
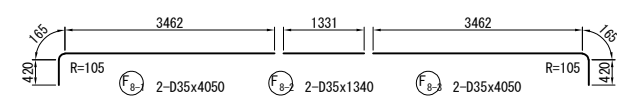
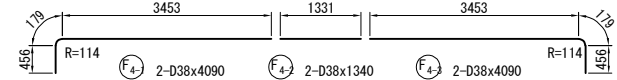
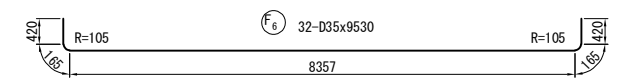
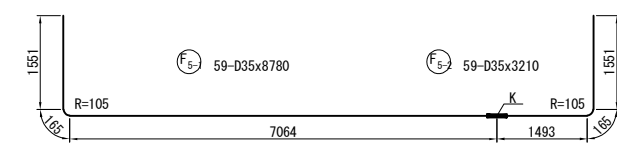
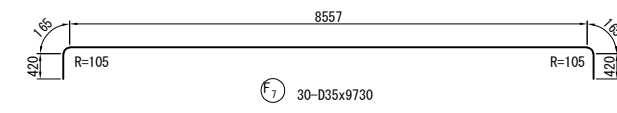
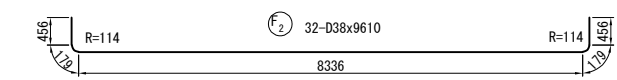
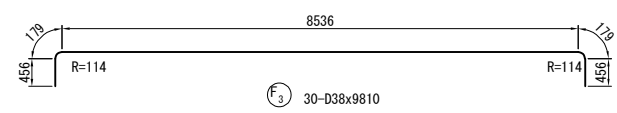


位置図

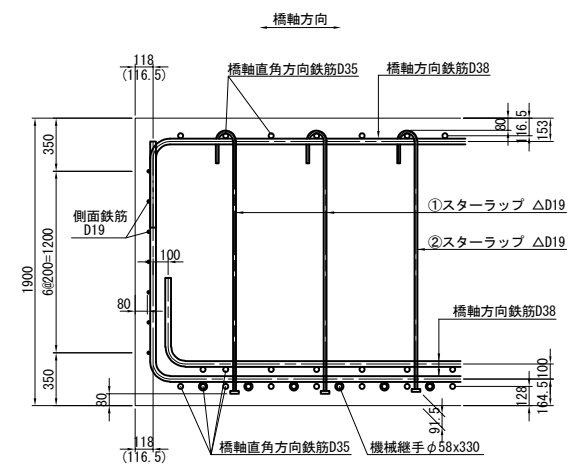


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) 社の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注5)  は、機械継手位置を示す。
- 注6)  は、△(F₁₁)₂ D19 を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1：50



※（ ）内は橋軸直角方向を示す。

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
注3) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注4) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。



は、機械継手位置を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋							
B 1-1	D35	8630	18	7.51	64.8	1166	┐ (平均長)
B 1-2	D35	8170	14	7.51	61.4	860	┐ (平均長)
B 1-3	D16	1000	18	1.56	1.56	28	┐
B 2	D16	6740	4	1.56	10.5	42	┐
B 3-1	D25	5340	1	3.98	21.3	21	┐
B 3-2	D25	11860	1	3.98	47.2	47	┐
B 3-3	D25	9160	1	3.98	36.5	37	┐
B 4	D25	9880	26	3.98	39.3	1022	┐ (平均長)
B 5-1	D25	5840	24	3.98	23.2	557	┐
B 5-2	D25	6200	24	3.98	24.7	593	┐
B 6	D16	5300	18	1.56	8.27	149	┐ (平均長)
B 7	D16	11120	1	1.56	17.3	17	┐
B 8-1	D22	11960	2	3.04	36.4	73	┐
B 8-2	D22	11960	2	3.04	36.4	73	┐
B 8-3	D22	9300	20	3.04	28.3	566	┐ (平均長)
B 9	D22	9730	20	3.04	29.6	592	┐
B 10-1	D22	5040	5	3.04	15.3	77	┐
B 10-2	D22	5040	2	3.04	15.3	31	┐
B 10-3	D22	5040	2	3.04	15.3	31	┐
B 11-1	D16	5030	15	1.56	7.85	118	┐
B 11-2	D16	5030	1	1.56	7.85	8	┐
B 11-3	D16	5030	1	1.56	7.85	8	┐
B 12	D22	4460	20	3.04	13.6	272	┐ (平均長)
B 13	D16	4530	10	1.56	7.07	71	┐ (平均長)
B 14	D22	5860	26	3.04	17.8	463	┐ (平均長)
B 15	D16	3370	18	1.56	5.26	95	┐ (平均長)
B 16	D16	3900	33	1.56	6.08	201	┐ (33)
7218 kg							
※	C 1-1	D51	12000	36	15.9	191	┐ K <36>
※	C 1-2	D51	5570	36	15.9	88.6	┐ K
※	C 2-1	D51	10000	36	15.9	159	┐ K <36>
※	C 2-2	D51	7570	36	15.9	120	┐ K
	C 3	D25	7580	196	3.98	30.2	┐
	C 4	D25	7640	10	3.98	30.4	┐
26333 kg							
	D1	D16	2310	12	1.56	3.60	┐
	D2	D16	2310	12	1.56	3.60	┐
	D3	D16	4000	2	1.56	6.24	┐
98 kg							

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
F 1	D38	11840	59	8.95	106	6254	┐
F 2	D38	9610	32	8.95	86.0	2752	┐
F 3	D38	9810	30	8.95	87.8	2634	┐
F 4-1	D38	4090	2	8.95	36.6	73	┐
F 4-2	D38	1340	2	8.95	12.0	24	┐
F 4-3	D38	4090	2	8.95	36.6	73	┐
F 5-1	D35	8780	59	7.51	65.9	3888	┐ K <59>
F 5-2	D35	3210	59	7.51	24.1	1422	┐
F 6	D35	9530	32	7.51	71.6	2291	┐
F 7	D35	9730	30	7.51	73.1	2193	┐
F 8-1	D35	4050	2	7.51	30.4	61	┐
F 8-2	D35	1340	2	7.51	10.1	20	┐
F 8-3	D35	4050	2	7.51	30.4	61	┐
F 9	D19	9350	14	2.25	21.0	294	┐
F 10	D19	8830	14	2.25	19.9	279	┐
F 11-1	D19	1990	195	2.25	4.48	874	┐ (195)
F 11-2	D19	1980	15	2.25	4.46	67	┐ (15)
23260							kg
下部工施工鉄筋							
鉄筋質量集計 (SD345)							
	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	<機械継手> (機械式定着)		
D38	11810 kg	-	-	11810 kg			
D35	6652 kg	5310 kg	-	11962 kg	<59>		
D25	8500 kg	-	-	8500 kg			
D22	2178 kg	-	-	2178 kg			
D19	573 kg	-	941 kg	1514 kg	(210)		
D16	539 kg	-	296 kg	835 kg	(51)		
合 計	30252 kg	5310 kg	1237 kg	36799 kg	<59> (261)		
鉄筋質量集計 (SD490)							
	鉄筋B			合計	<機械継手> (機械式定着)		
D51	20110 kg			20110 kg	<72>		
合 計	20110 kg			20110 kg	<72>		

△印はC鉄筋（機械式鉄筋定着工法）を示す。
※印はSD490鉄筋を示す。

鉄筋加工寸法表 (SD345)


<div>主筋 せん断補強筋</div> <div>鋭角フック</div> <div>半円形フック</div> <div>直角フック</div> <div>△L=2L-a</div>									
主筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$	
		a	△L	a	△L	a	△L	a	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49
せん断補強筋及び帯鉄筋	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66
	径	$R=2.5\phi$		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$	
				a	△L	a	△L	a	△L
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14
	D16	40		94	99	84	55	63	17
フック	D19	47.5		112	117	99	66	75	20
	D22	55		130	136	115	76	86	24
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31
	径	$R=3.0\phi$		鋭角フック		半円形フック		直角フック	
				a		a		a	△L

鉄筋加工寸法表 (SD490)

<div>主筋 せん断補強筋</div> <div>直角フック</div> <div>△L=2L-a</div>				
主筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=4.0\phi$	$\theta = 90^\circ$	
		a	△L	
	D13	52	82	22
	D16	64	101	28
	D19	76	119	33
	D22	88	138	28
	D25	100	157	43
	D29	116	182	50
	D32	128	201	55
	D35	140	220	60
帯鉄筋	D38	152	239	65
	D41	164	258	70
	D51	204	321	88

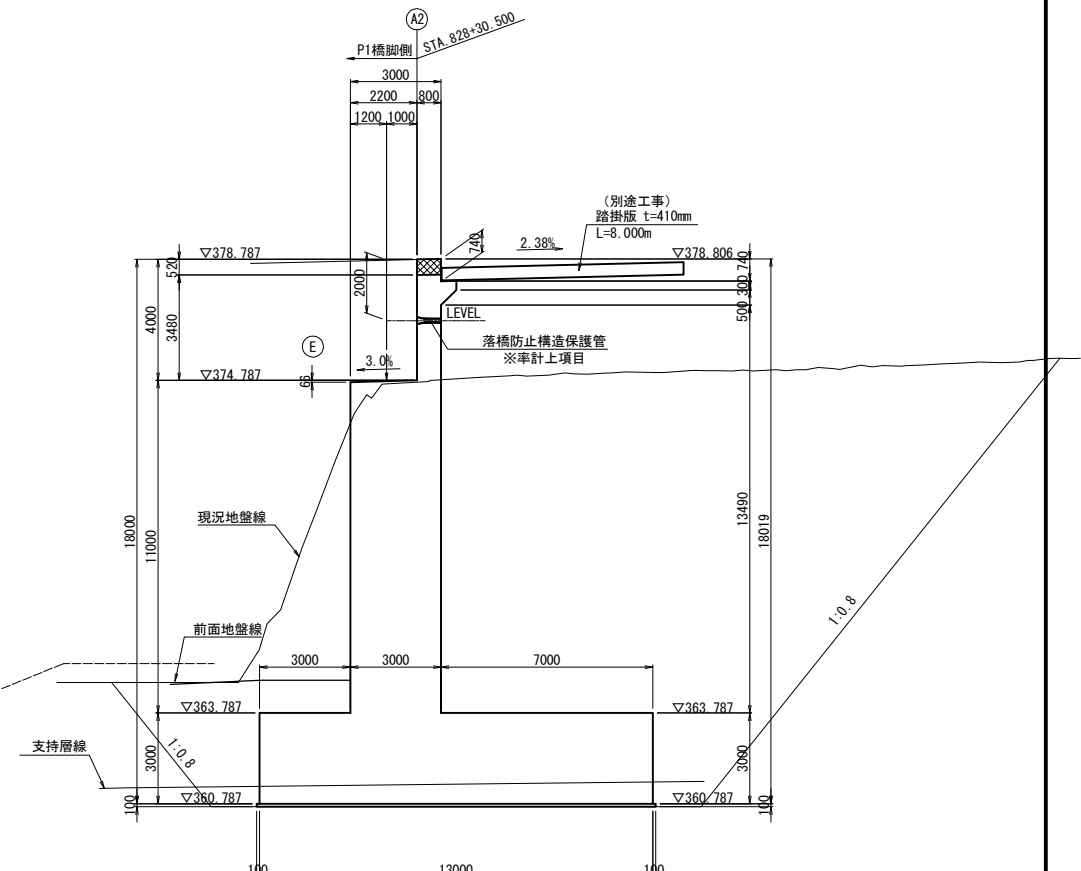
機械式鉄筋定着工法数量表（下部工施工）

鉄筋径	箇 所 数				
	0<=L≤1m	1m<=L≤2m	2m<=L≤3m	3m<=L≤4m	4m<=L≤5m
D16			4	47	
D19		210			
合計					261

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注5)  は、機械継手位置を示す。
- 注6) ※印はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

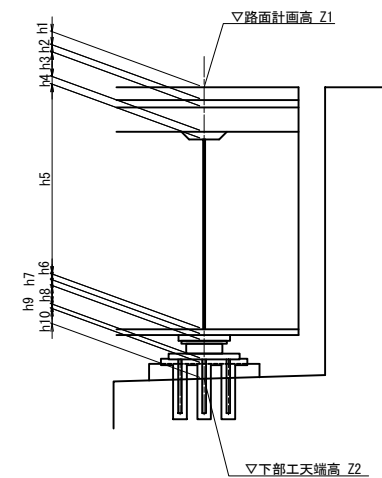
断面図(3-3)



4

3

5



		A2橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	378.575	378.905
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.005	0.019
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.028	0.028
ソールプレート厚	h7	0.047	0.047
支承高	h8	0.333	0.333
宍座モルタル厚	h9	0.036	0.036
台座	h10	0.150	0.150
構造高合計	Σh	3.999	4.013
下部工天端高	Z2	374.576	374.892

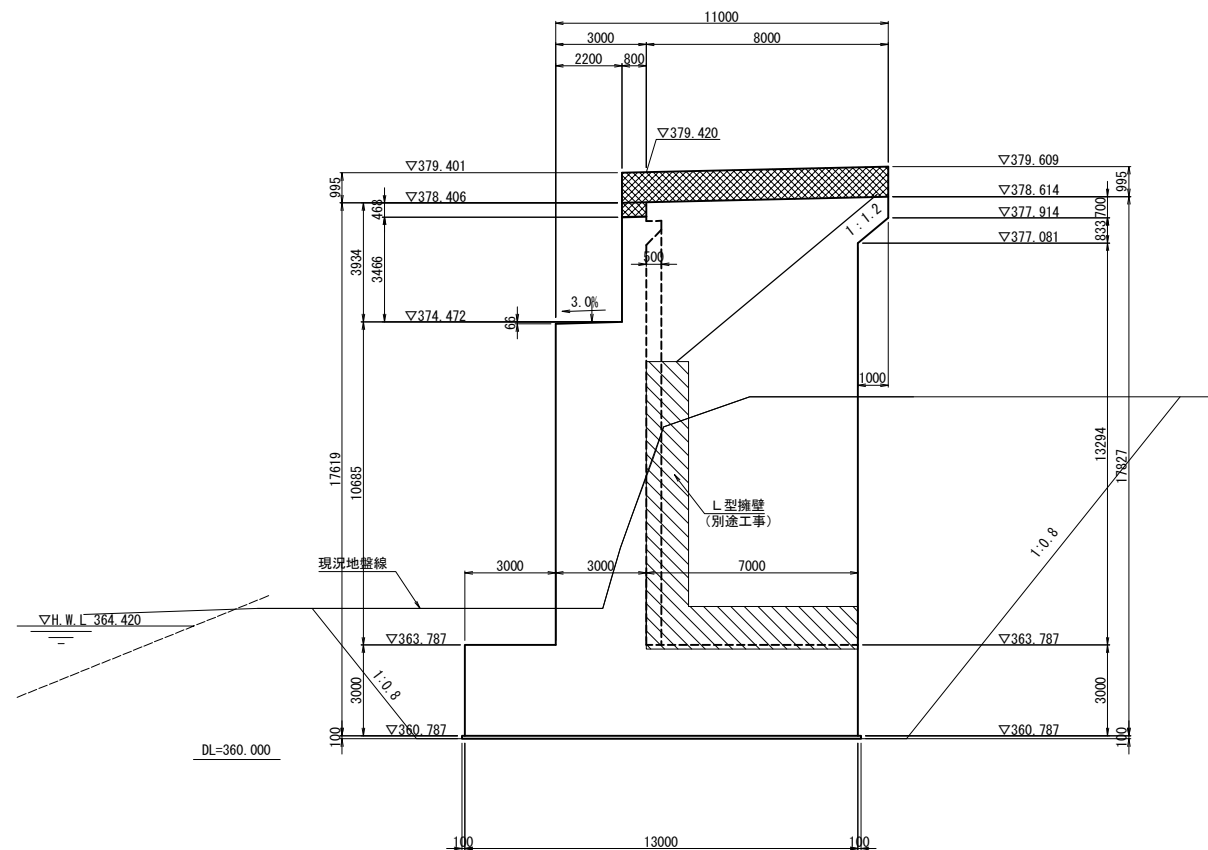
コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄 筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
目地工		m2	11.4	土留め壁

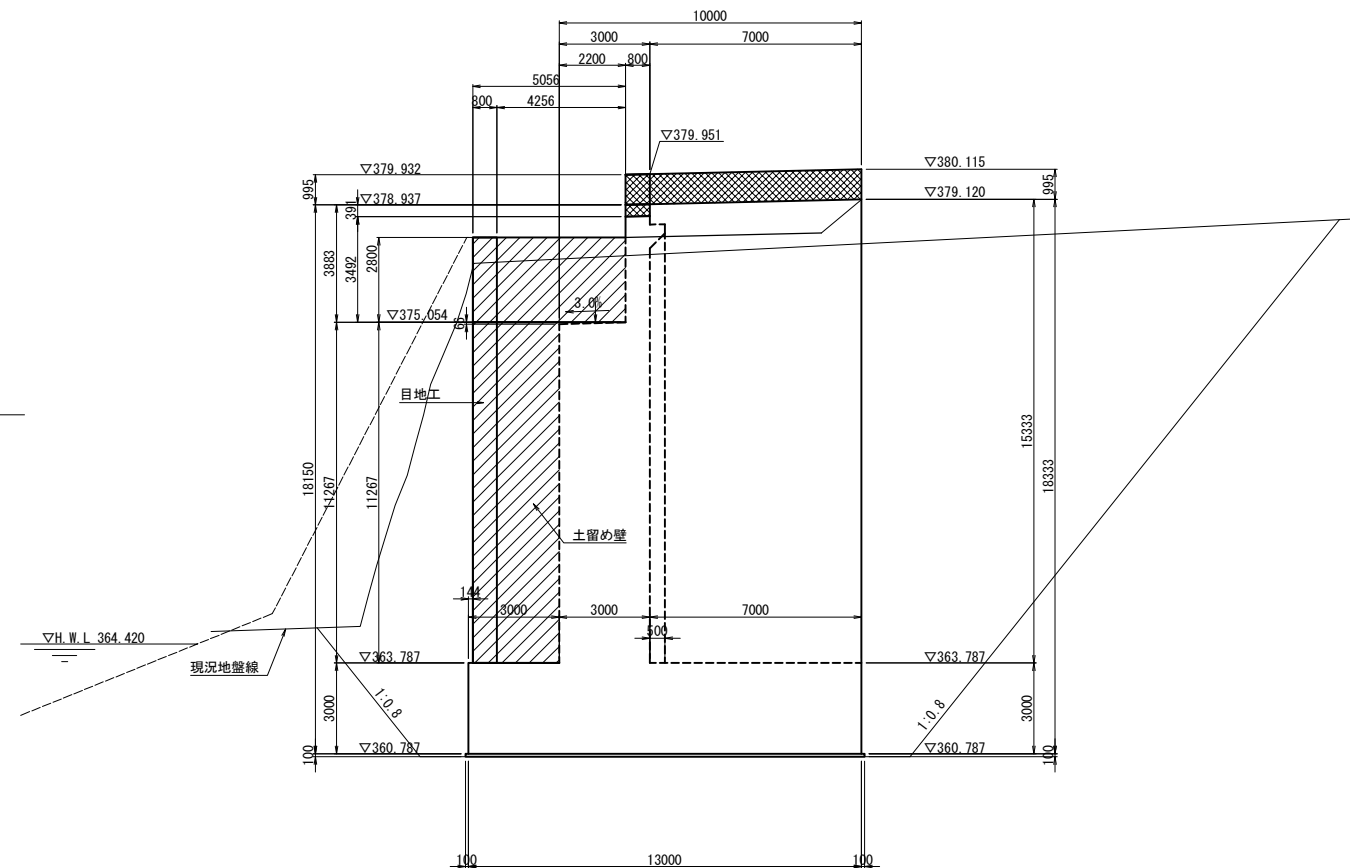
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 E 2	m3	3,892.6	土砂
		m3	227.4	軟岩
		m3	36.2	硬岩

道東自動車道 占冠地区下部土工工事			
図面の種類		本流鶴川第四橋（下り線） A 2橋台構造一般図（その１）	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

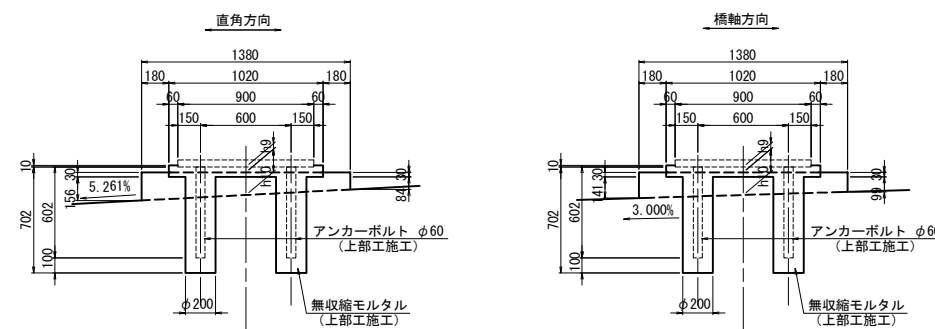
断面図(4-4)



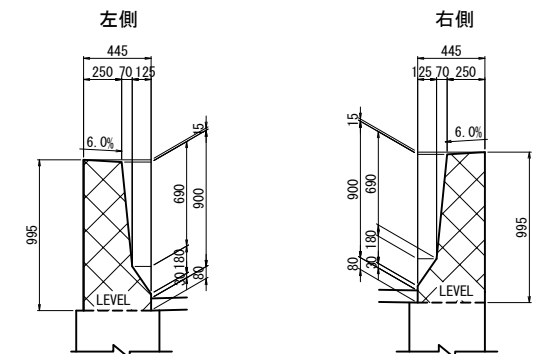
断面図(5-5)



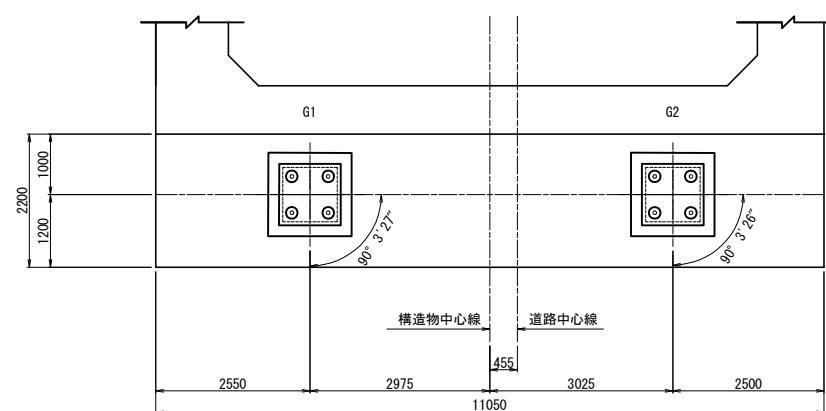
支承箱抜き詳細図 S=1:50






壁高欄詳細 S=1:50



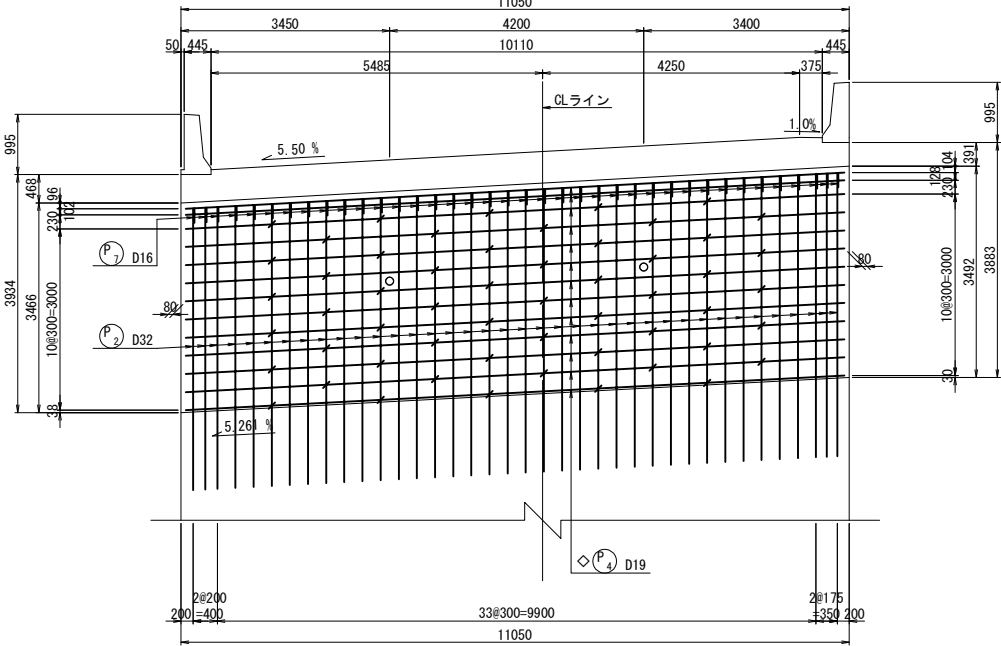
支承配置図 S=1:125



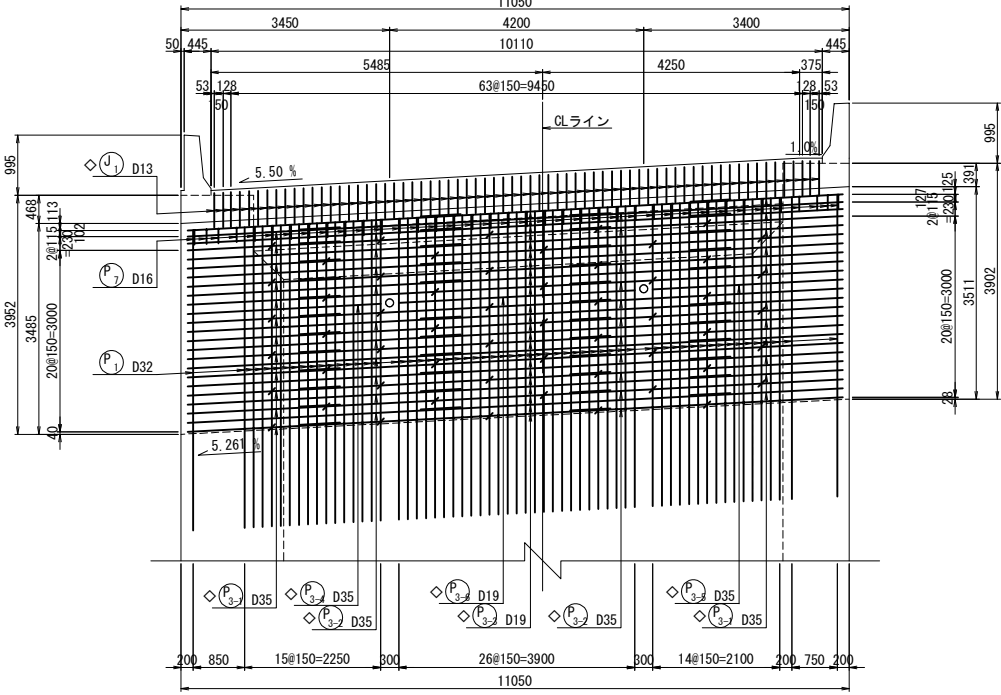
注):  は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。
 擁壁断面図を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第四橋（下り線） A2橋台構造一般図（その2）		
縮 尺	図 式	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

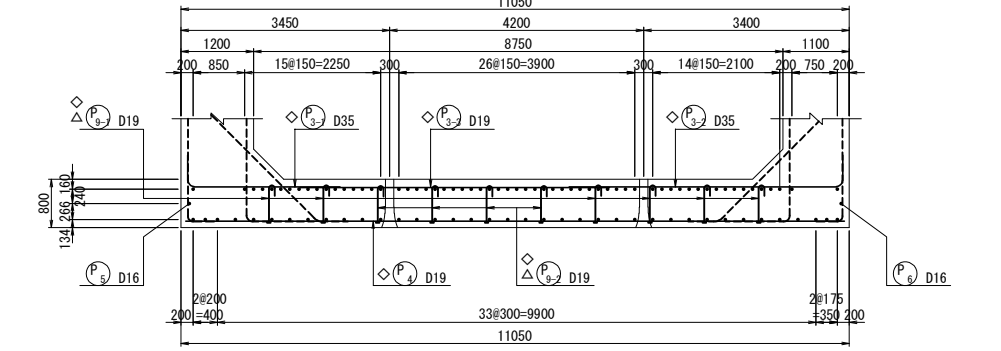
パラペット正面図
2 - 2



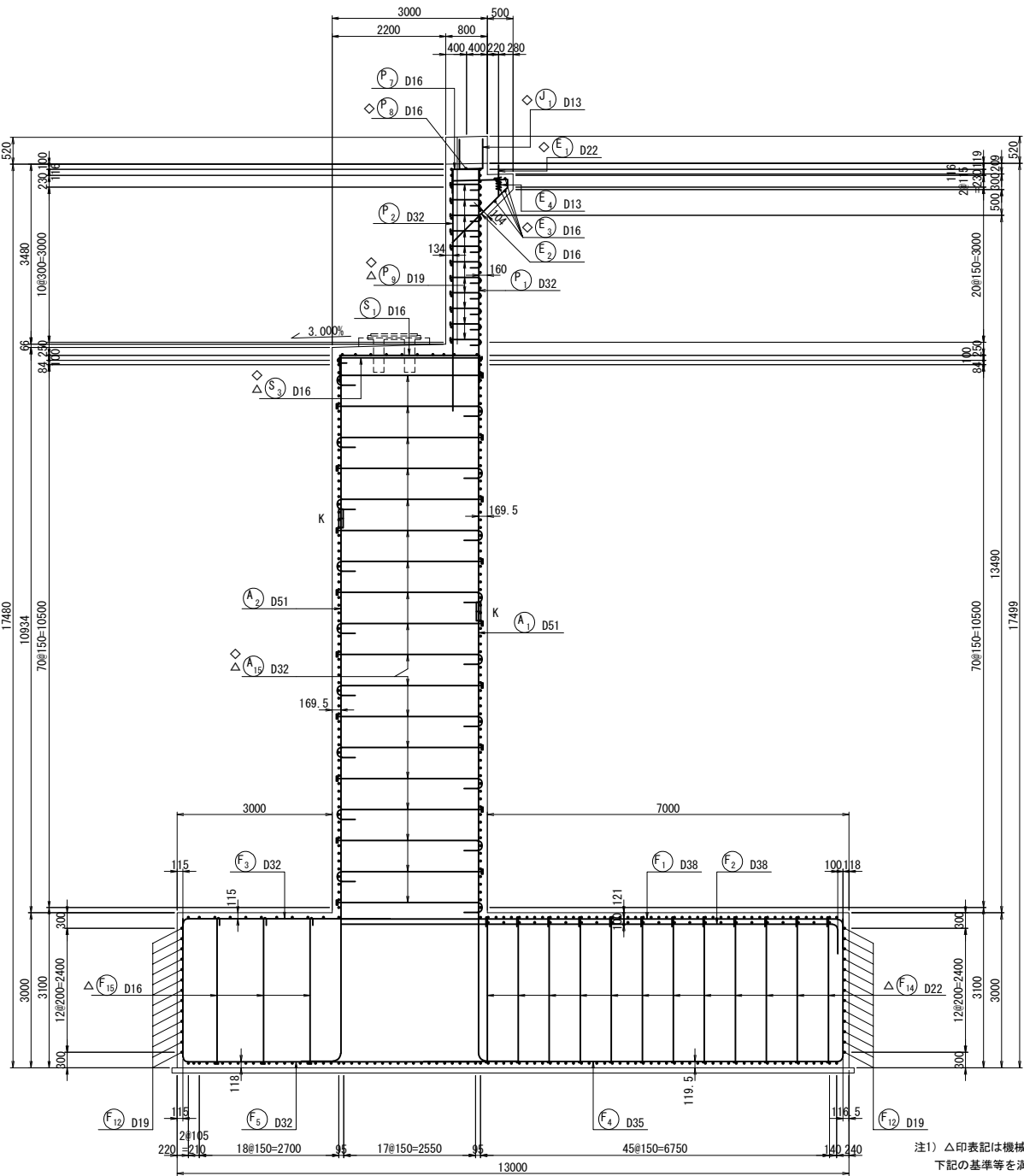
パラペット背面図
3 - 3



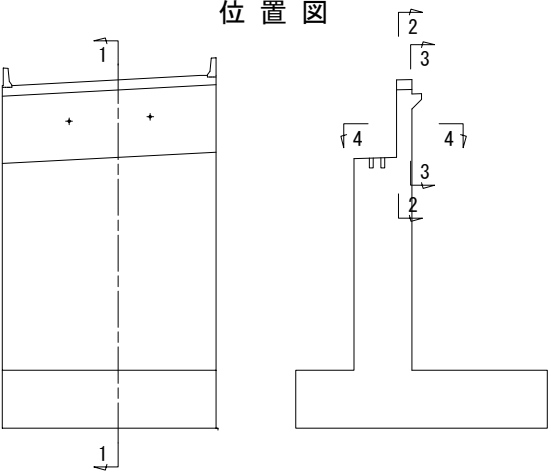
パラペット平面図
4 - 4



側面図
1 - 1



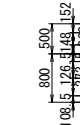
位置図



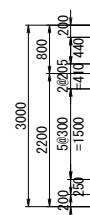
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

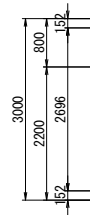
1 - 1



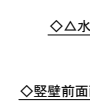
2 - 2



3 - 3



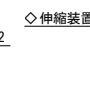
S=1 : 50



S=1 : 50



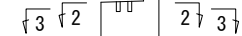
S=1 : 50



S=1 : 50



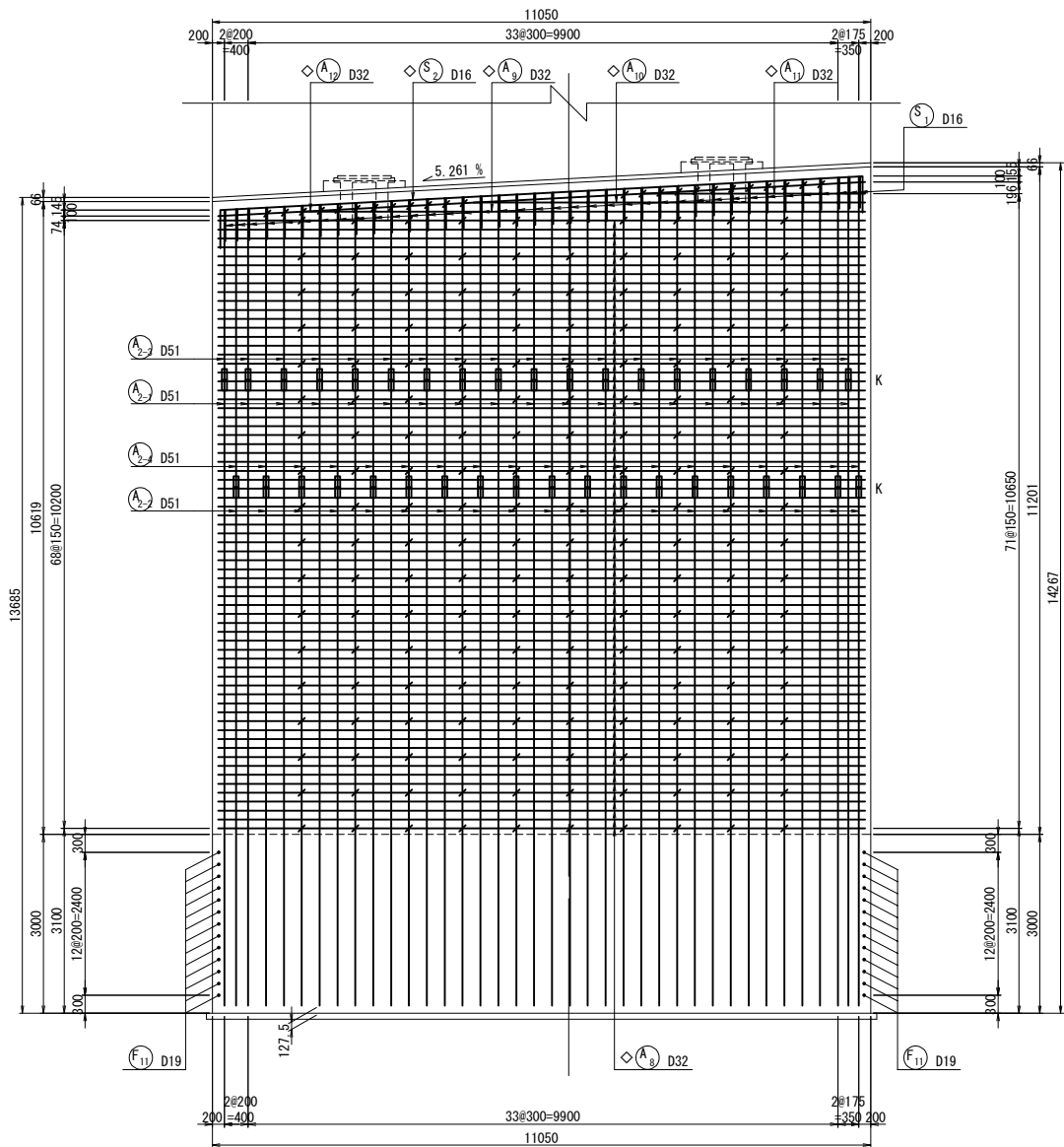
位置図



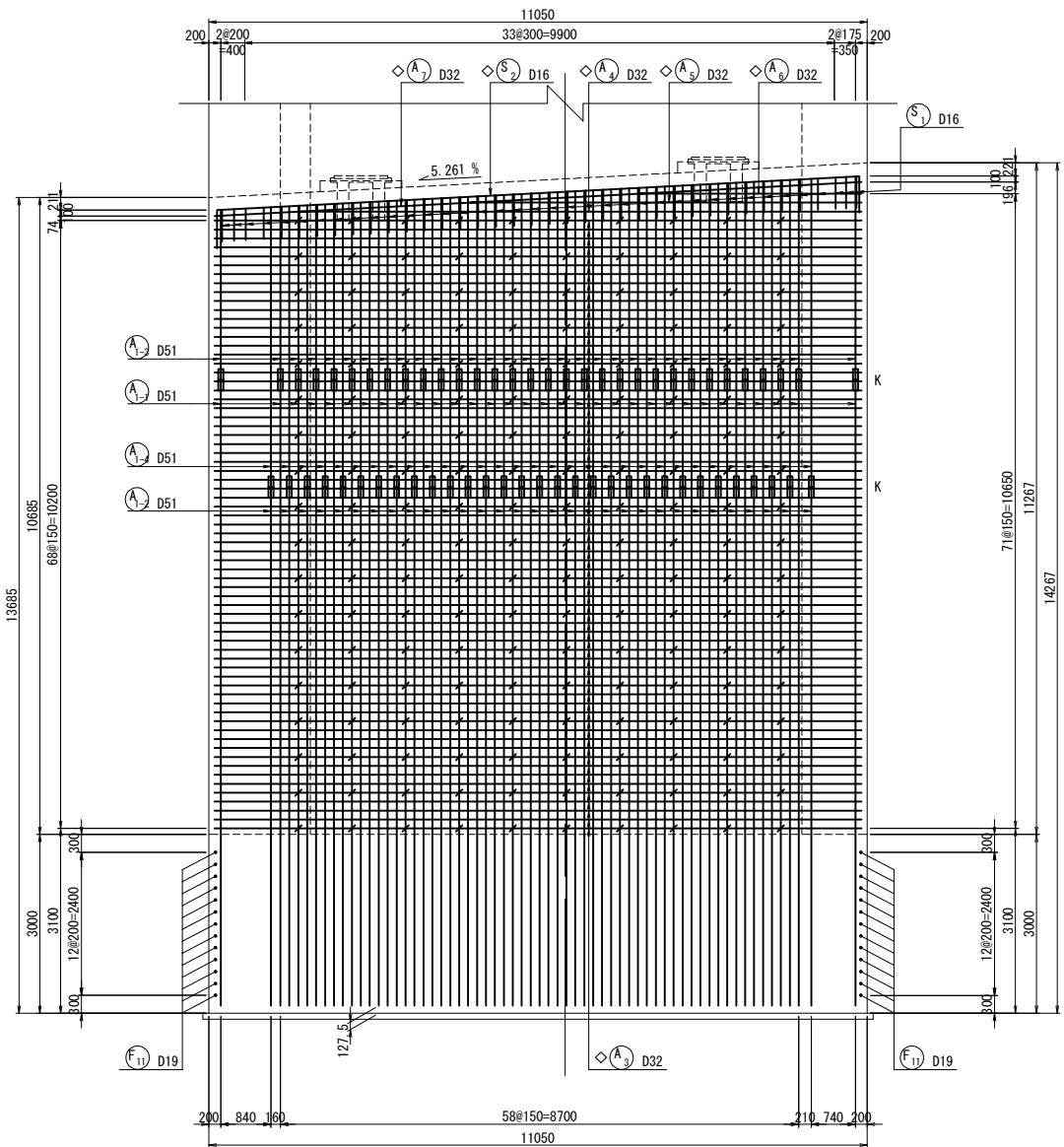
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するようには配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工丸筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流越川線第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

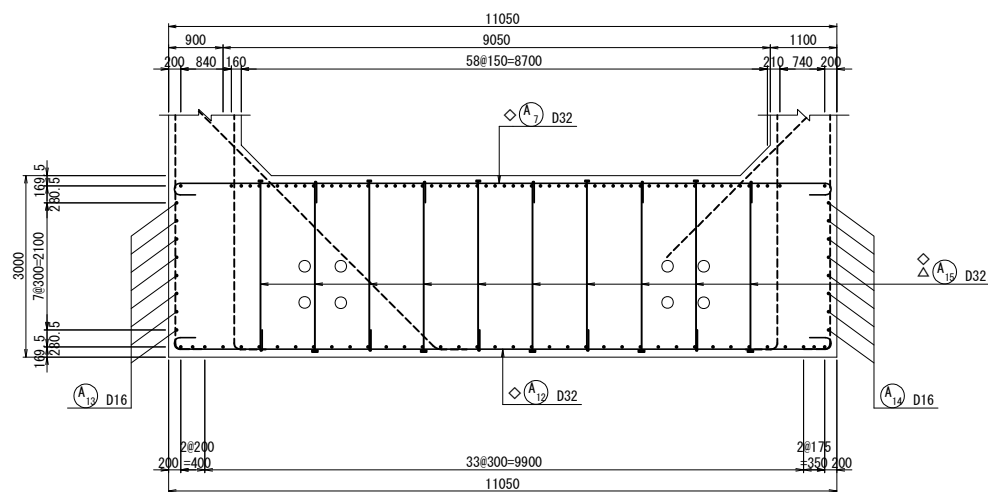
縦壁正面図
1 - 1



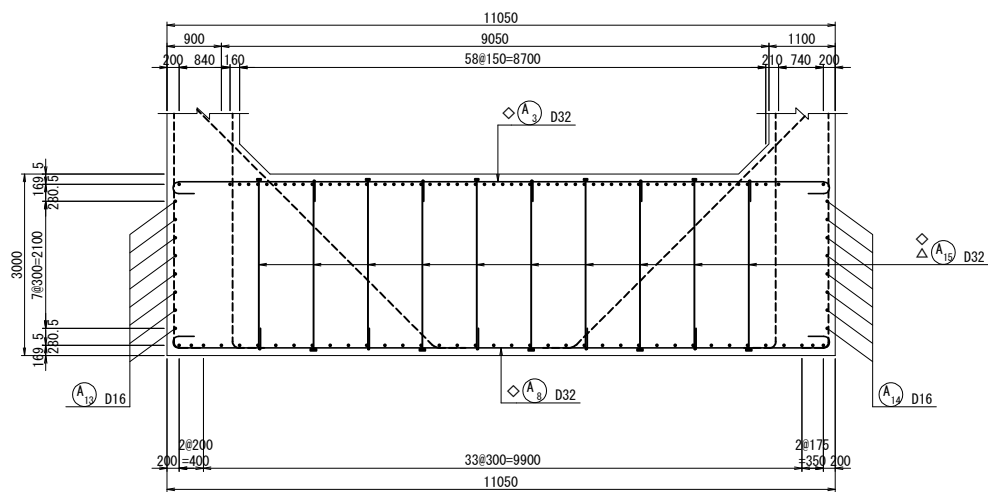
縦壁背面図
2 - 2



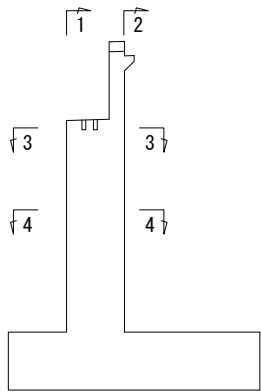
縦壁平面図（支承アンカー部）
3 - 3



縦壁平面図（標準部）
4 - 4



位置図



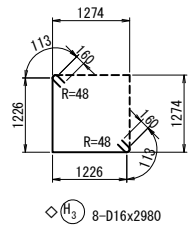
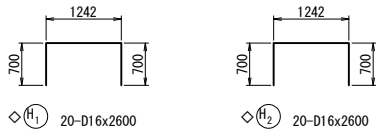
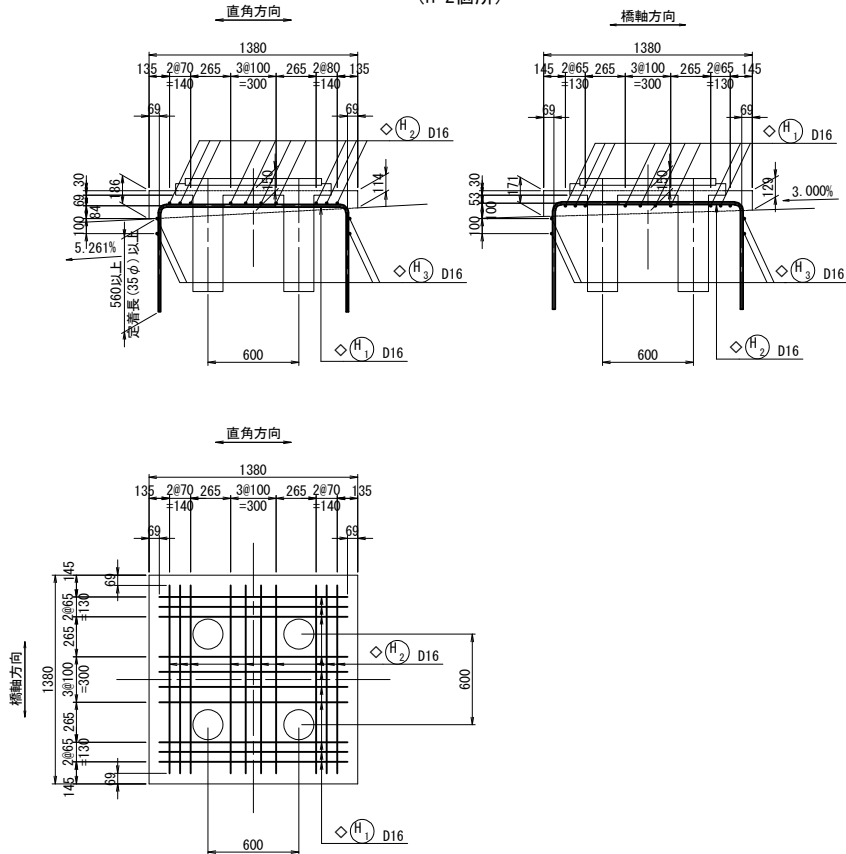
1 2

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

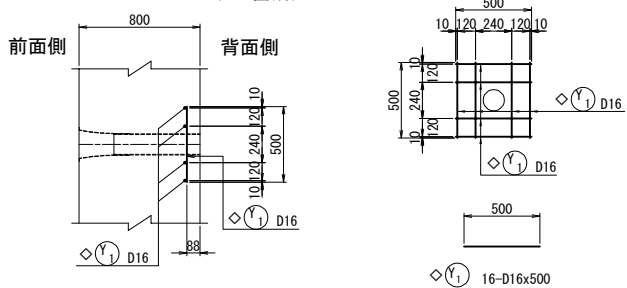
支承補強鉄筋 S=1:50

(n=2箇所)

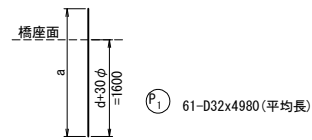


落橋防止構造用心鉄筋 S=1：50

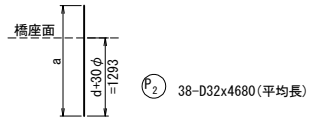
(n=2箇所)



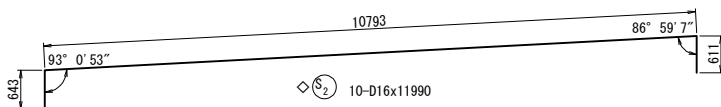
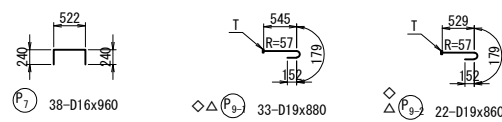
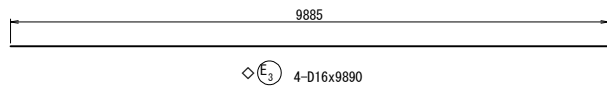
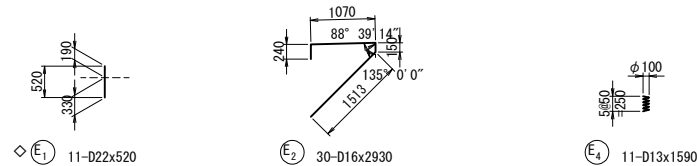
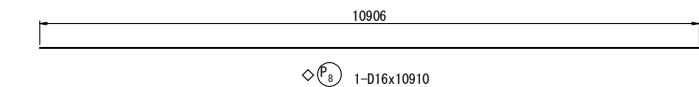
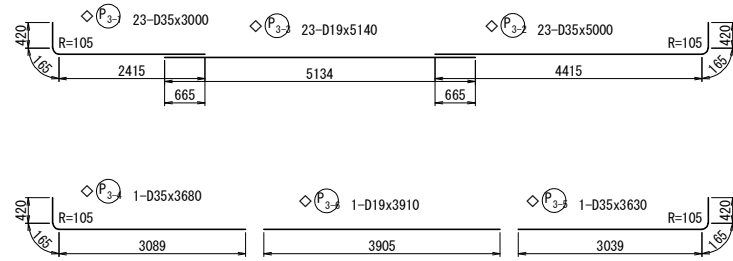
注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。



記号	径	本数	a	L	記号	径	本数	a	L
1	D32	1	4966	4970	32	D32	1	4979	4980
2	D32	1	4968	4970	33	D32	1	4979	4980
3	D32	1	4969	4970	34	D32	1	4980	4980
4	D32	1	4969	4970	35	D32	1	4980	4980
5	D32	1	4969	4970	36	D32	1	4981	4980
6	D32	1	4970	4970	37	D32	1	4981	4980
7	D32	1	4970	4970	38	D32	1	4981	4980
8	D32	1	4970	4970	39	D32	1	4982	4980
9	D32	1	4971	4970	40	D32	1	4982	4980
10	D32	1	4971	4970	41	D32	1	4982	4980
11	D32	1	4971	4970	42	D32	1	4983	4980
12	D32	1	4972	4970	43	D32	1	4983	4980
13	D32	1	4972	4970	44	D32	1	4983	4980
14	D32	1	4972	4970	45	D32	1	4984	4980
15	D32	1	4973	4970	46	D32	1	4984	4980
16	D32	1	4973	4970	47	D32	1	4985	4990
17	D32	1	4974	4970	48	D32	1	4985	4990
18	D32	1	4974	4970	49	D32	1	4985	4990
19	D32	1	4975	4980	50	D32	1	4986	4990
20	D32	1	4975	4980	51	D32	1	4986	4990
21	D32	1	4975	4980	52	D32	1	4986	4990
22	D32	1	4976	4980	53	D32	1	4987	4990
23	D32	1	4976	4980	54	D32	1	4987	4990
24	D32	1	4976	4980	55	D32	1	4988	4990
25	D32	1	4977	4980	56	D32	1	4988	4990
26	D32	1	4977	4980	57	D32	1	4988	4990
27	D32	1	4977	4980	58	D32	1	4989	4990
28	D32	1	4978	4980	59	D32	1	4989	4990
29	D32	1	4978	4980	60	D32	1	4989	4990
30	D32	1	4978	4980	61	D32	1	4991	4990
31	D32	1	4979	4980	平均長		61		4980

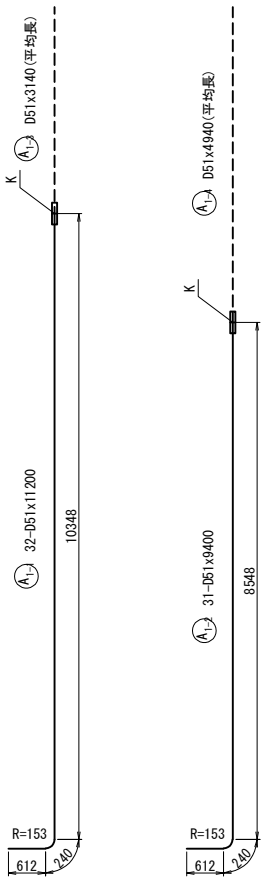


記号	径	本数	a	L	記号	径	本数	a	L
1	D32	1	4660	4660	20	D32	1	4672	4670
2	D32	1	4660	4660	21	D32	1	4673	4670
3	D32	1	4660	4660	22	D32	1	4674	4670
4	D32	1	4661	4660	23	D32	1	4674	4670
5	D32	1	4662	4660	24	D32	1	4675	4680
6	D32	1	4663	4660	25	D32	1	4676	4680
7	D32	1	4663	4660	26	D32	1	4677	4680
8	D32	1	4664	4660	27	D32	1	4677	4680
9	D32	1	4665	4670	28	D32	1	4678	4680
10	D32	1	4665	4670	29	D32	1	4679	4680
11	D32	1	4666	4670	30	D32	1	4679	4680
12	D32	1	4667	4670	31	D32	1	4680	4680
13	D32	1	4667	4670	32	D32	1	4681	4680
14	D32	1	4668	4670	33	D32	1	4681	4680
15	D32	1	4669	4670	34	D32	1	4682	4680
16	D32	1	4670	4670	35	D32	1	4683	4680
17	D32	1	4670	4670	36	D32	1	4684	4680
18	D32	1	4671	4670	37	D32	1	4684	4680
19	D32	1	4672	4670	38	D32	1	4684	4680
平均長							38		4672



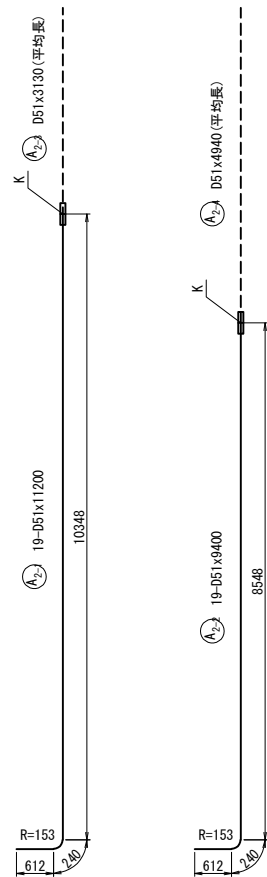
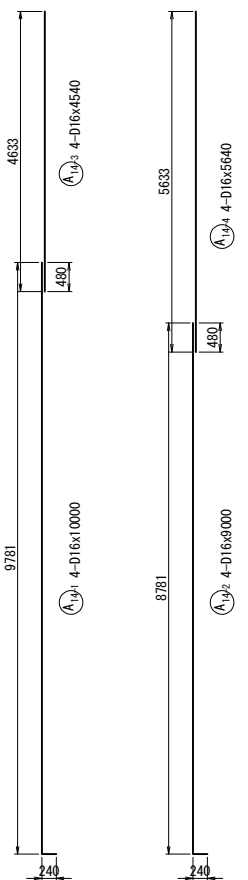
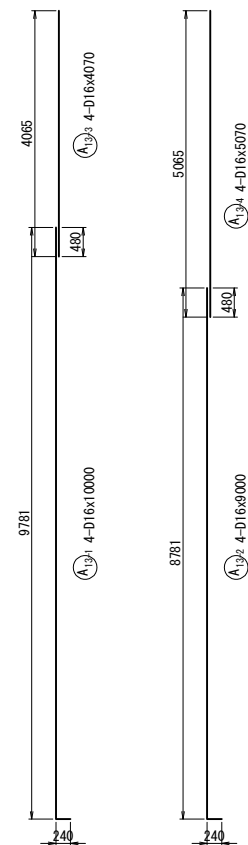
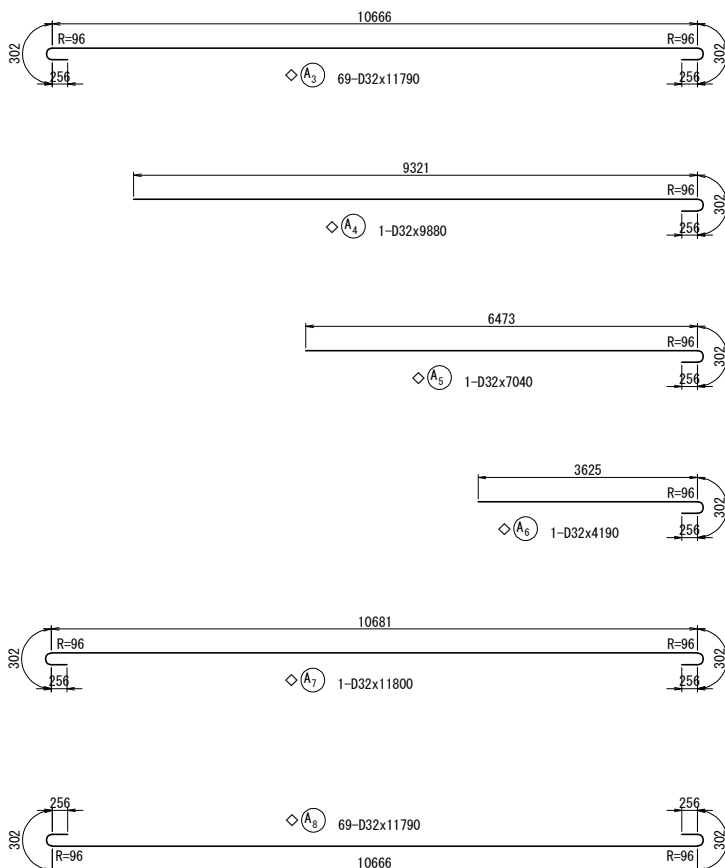
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路標示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		



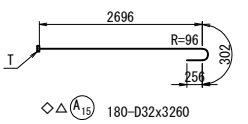
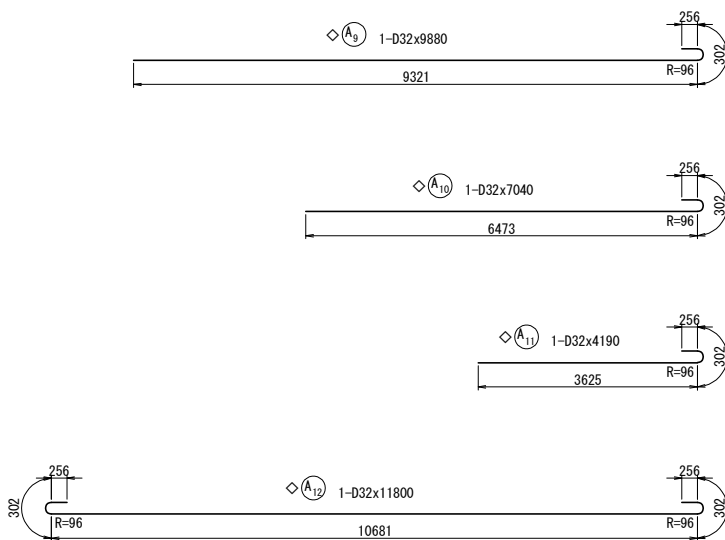
A1-2 32-D51x3140 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D51	1	2851	2850
2	D51	1	2904	2900
3	D51	1	2920	2920
4	D51	1	2935	2940
5	D51	1	2951	2950
6	D51	1	2967	2970
7	D51	1	2983	2980
8	D51	1	2999	3000
9	D51	1	3014	3010
10	D51	1	3030	3030
11	D51	1	3046	3050
12	D51	1	3062	3060
13	D51	1	3078	3080
14	D51	1	3093	3090
15	D51	1	3109	3110
16	D51	1	3125	3130
17	D51	1	3141	3140
18	D51	1	3157	3160
19	D51	1	3172	3170
20	D51	1	3188	3190
21	D51	1	3204	3200
22	D51	1	3220	3220
23	D51	1	3236	3240
24	D51	1	3251	3250
25	D51	1	3267	3270
26	D51	1	3283	3280
27	D51	1	3299	3300
28	D51	1	3315	3320
29	D51	1	3330	3330
30	D51	1	3346	3350
31	D51	1	3362	3360
32	D51	1	3412	3410
平均長		32		3133

A1-2 31-D51x4940 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D51	1	4695	4700
2	D51	1	4712	4710
3	D51	1	4727	4730
4	D51	1	4743	4740
5	D51	1	4759	4760
6	D51	1	4775	4780
7	D51	1	4791	4790
8	D51	1	4806	4810
9	D51	1	4822	4820
10	D51	1	4838	4840
11	D51	1	4854	4850
12	D51	1	4870	4870
13	D51	1	4885	4890
14	D51	1	4901	4900
15	D51	1	4917	4920
16	D51	1	4933	4930
17	D51	1	4949	4950
18	D51	1	4964	4960
19	D51	1	4980	4980
20	D51	1	4996	5000
21	D51	1	5012	5010
22	D51	1	5028	5030
23	D51	1	5043	5040
24	D51	1	5059	5060
25	D51	1	5075	5080
26	D51	1	5091	5090
27	D51	1	5107	5110
28	D51	1	5122	5120
29	D51	1	5138	5140
30	D51	1	5154	5150
31	D51	1	5173	5170
平均長		31		4933



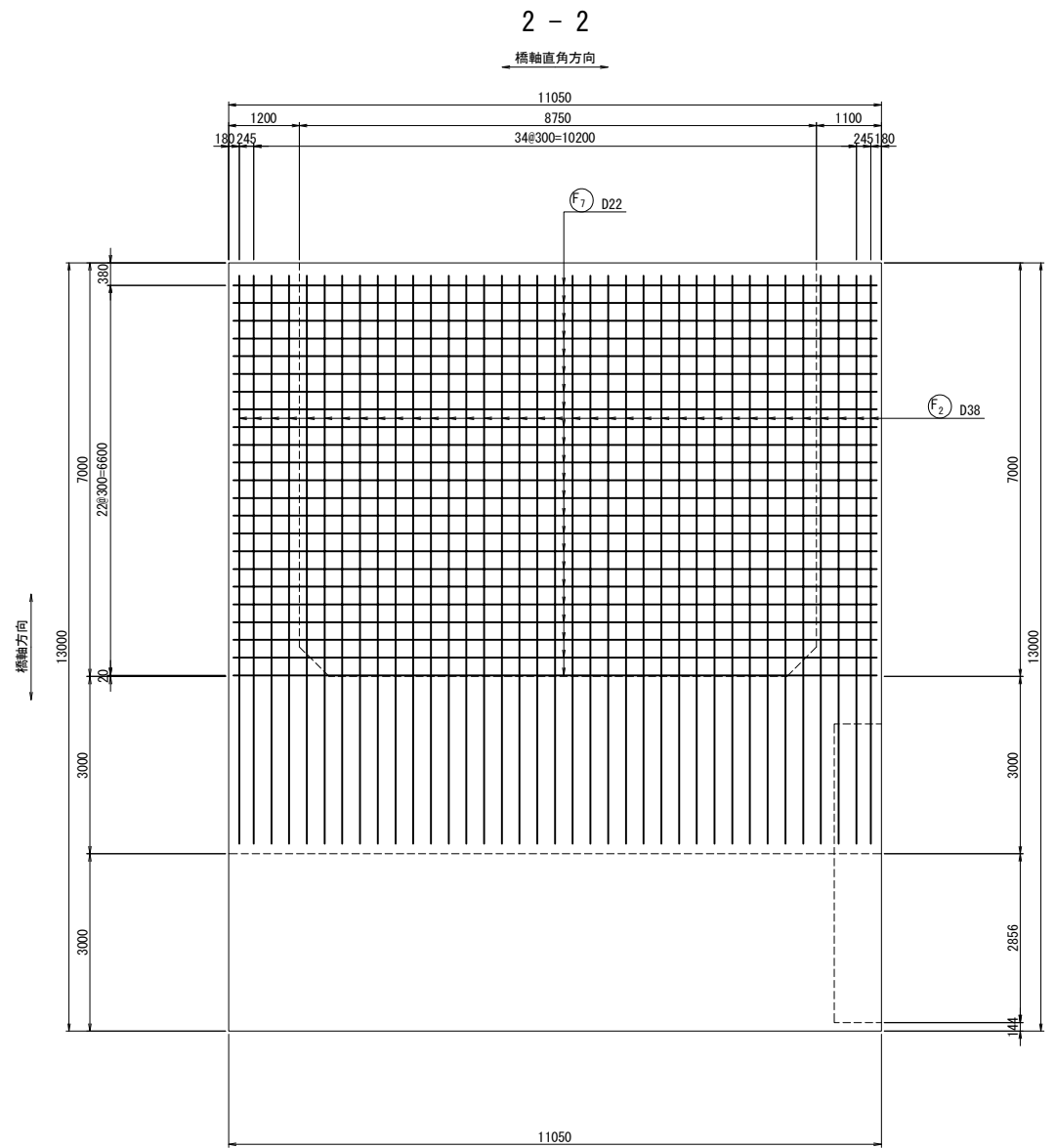
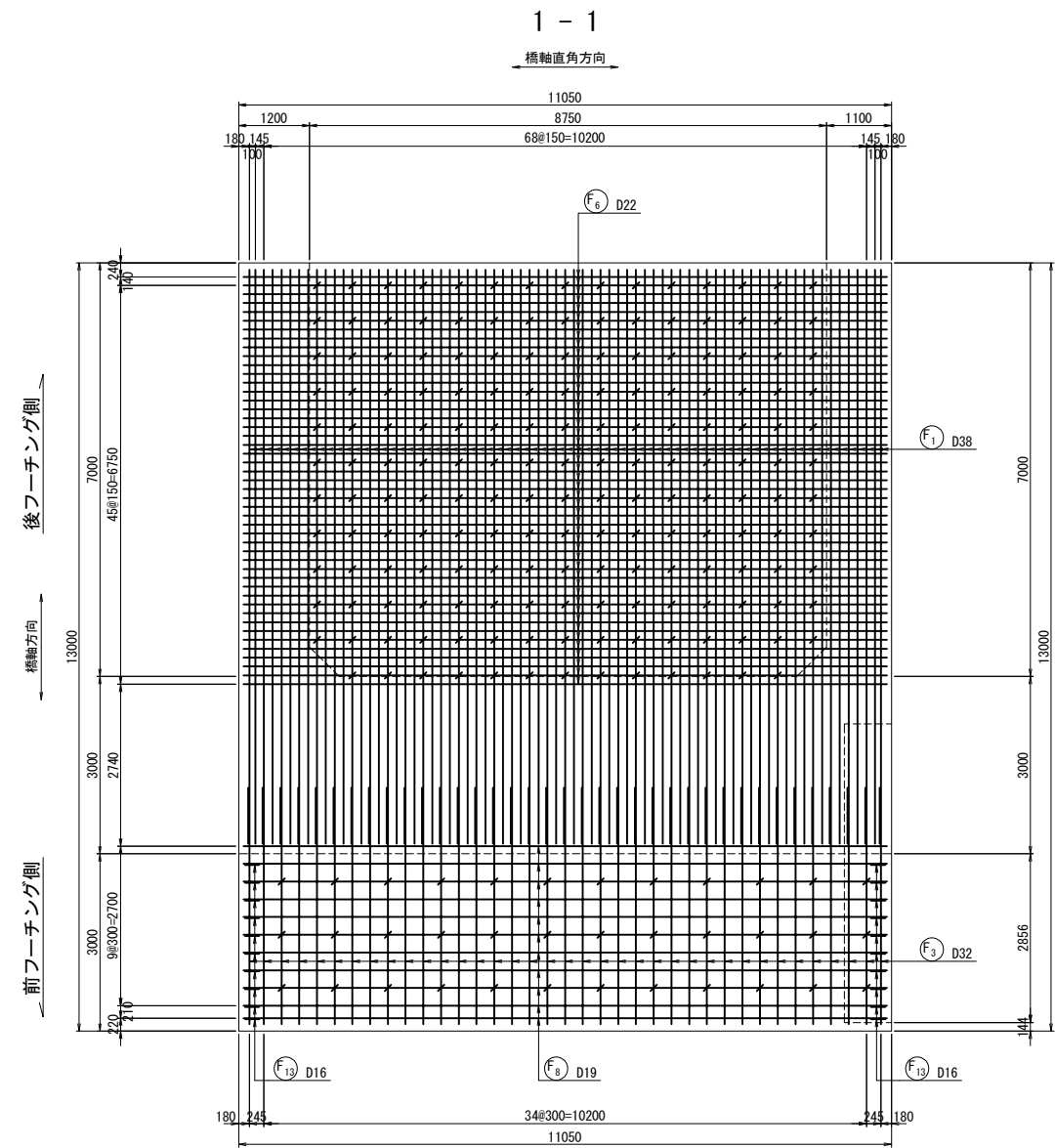
A2-2 19-D51x3130 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D51	1	2851	2850
2	D51	1	2872	2870
3	D51	1	2904	2900
4	D51	1	2935	2940
5	D51	1	2967	2970
6	D51	1	2999	3000
7	D51	1	3030	3030
8	D51	1	3062	3060
9	D51	1	3093	3090
10	D51	1	3125	3130
11	D51	1	3157	3160
12	D51	1	3188	3190
13	D51	1	3220	3220
14	D51	1	3251	3250
15	D51	1	3283	3280
16	D51	1	3315	3320
17	D51	1	3346	3350
18	D51	1	3378	3380
19	D51	1	3403	3400
平均長		19		3126

A2-2 19-D51x4940 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D51	1	4662	4660
2	D51	1	4688	4690
3	D51	1	4720	4720
4	D51	1	4751	4750
5	D51	1	4783	4780
6	D51	1	4814	4810
7	D51	1	4846	4850
8	D51	1	4878	4880
9	D51	1	4909	4910
10	D51	1	4941	4940
11	D51	1	4972	4970
12	D51	1	5004	5000
13	D51	1	5036	5040
14	D51	1	5067	5070
15	D51	1	5099	5100
16	D51	1	5130	5130
17	D51	1	5162	5160
18	D51	1	5194	5190
19	D51	1	5212	5210
平均長		19		4940

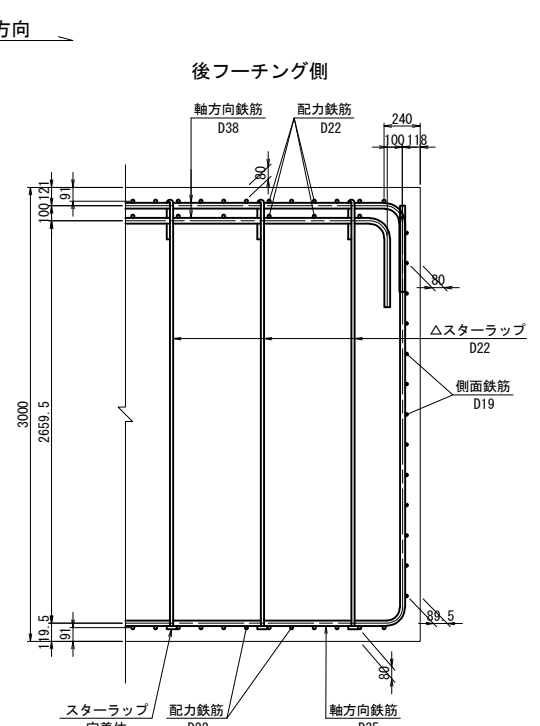
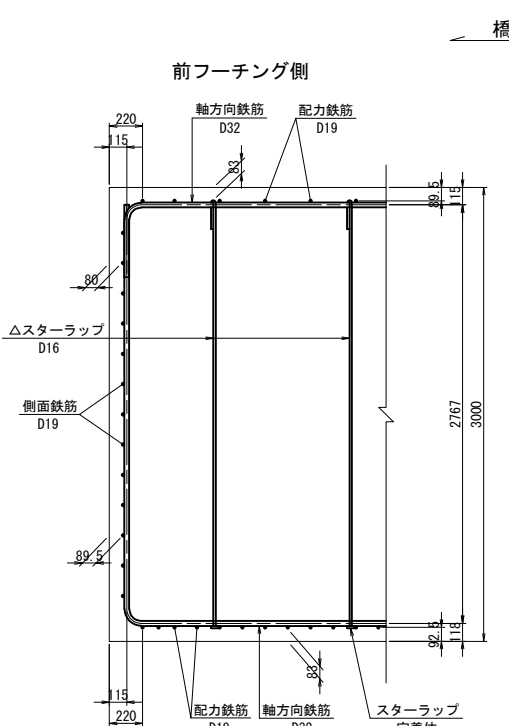
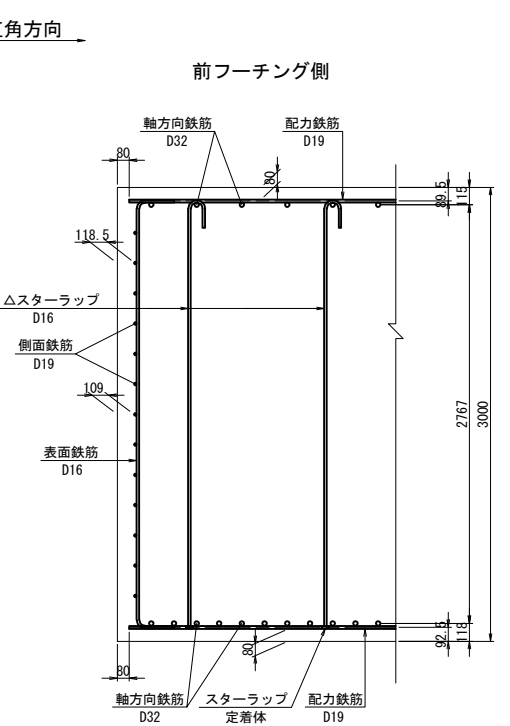
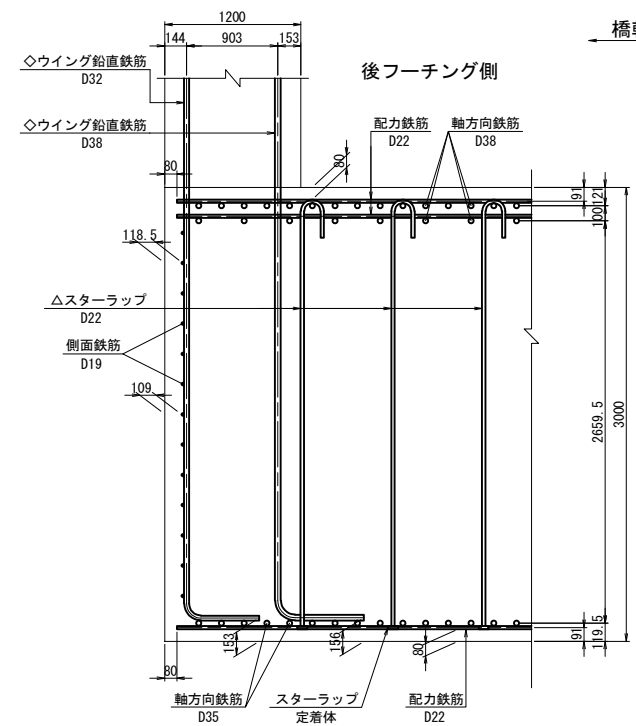


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

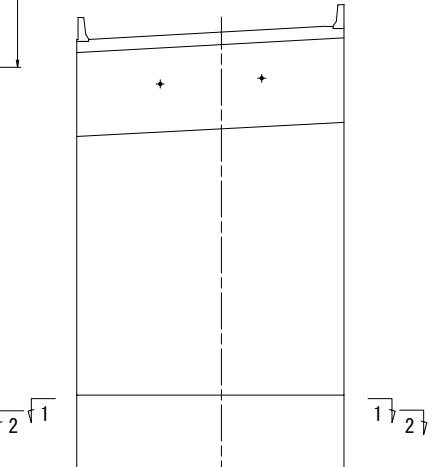
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1:50

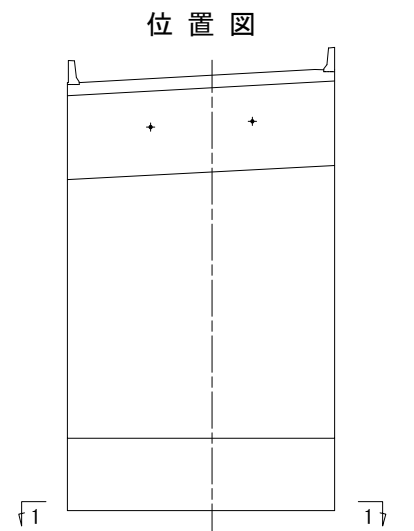


位置図

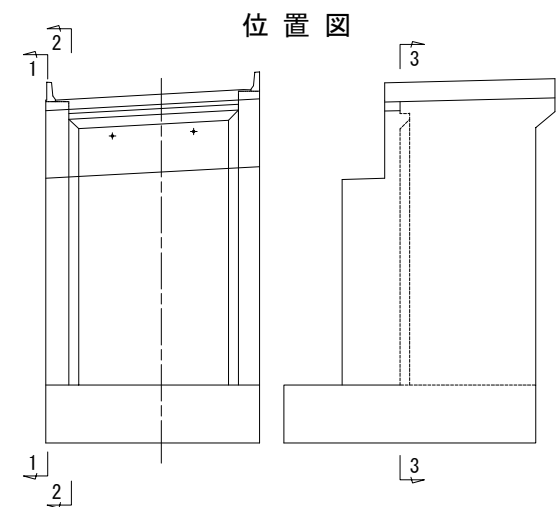
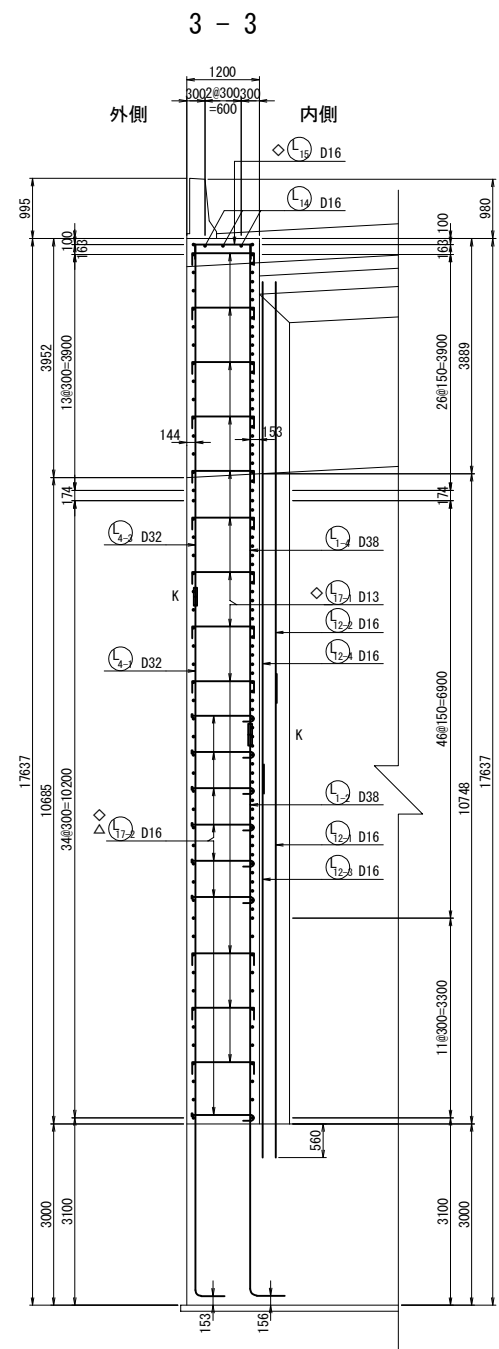
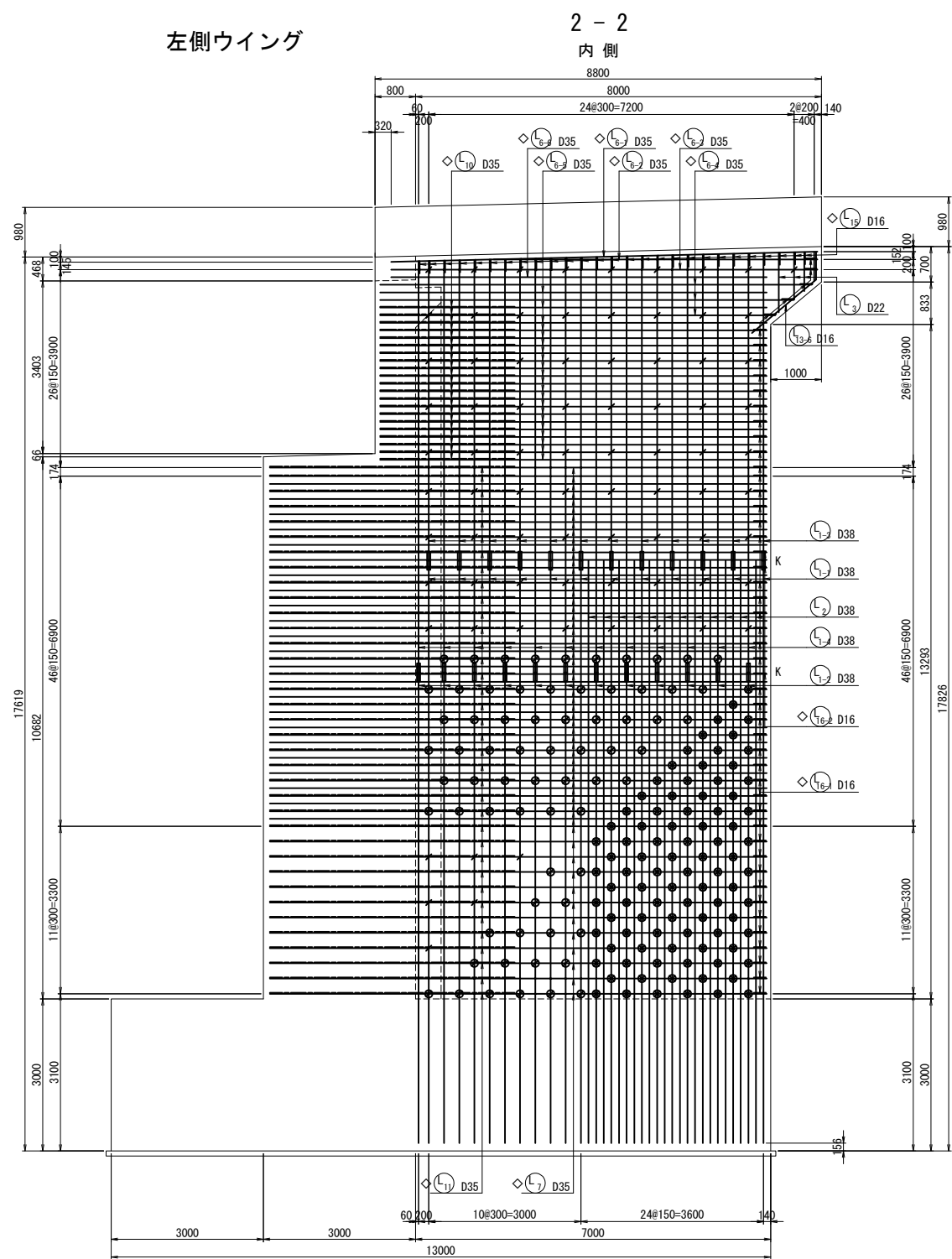
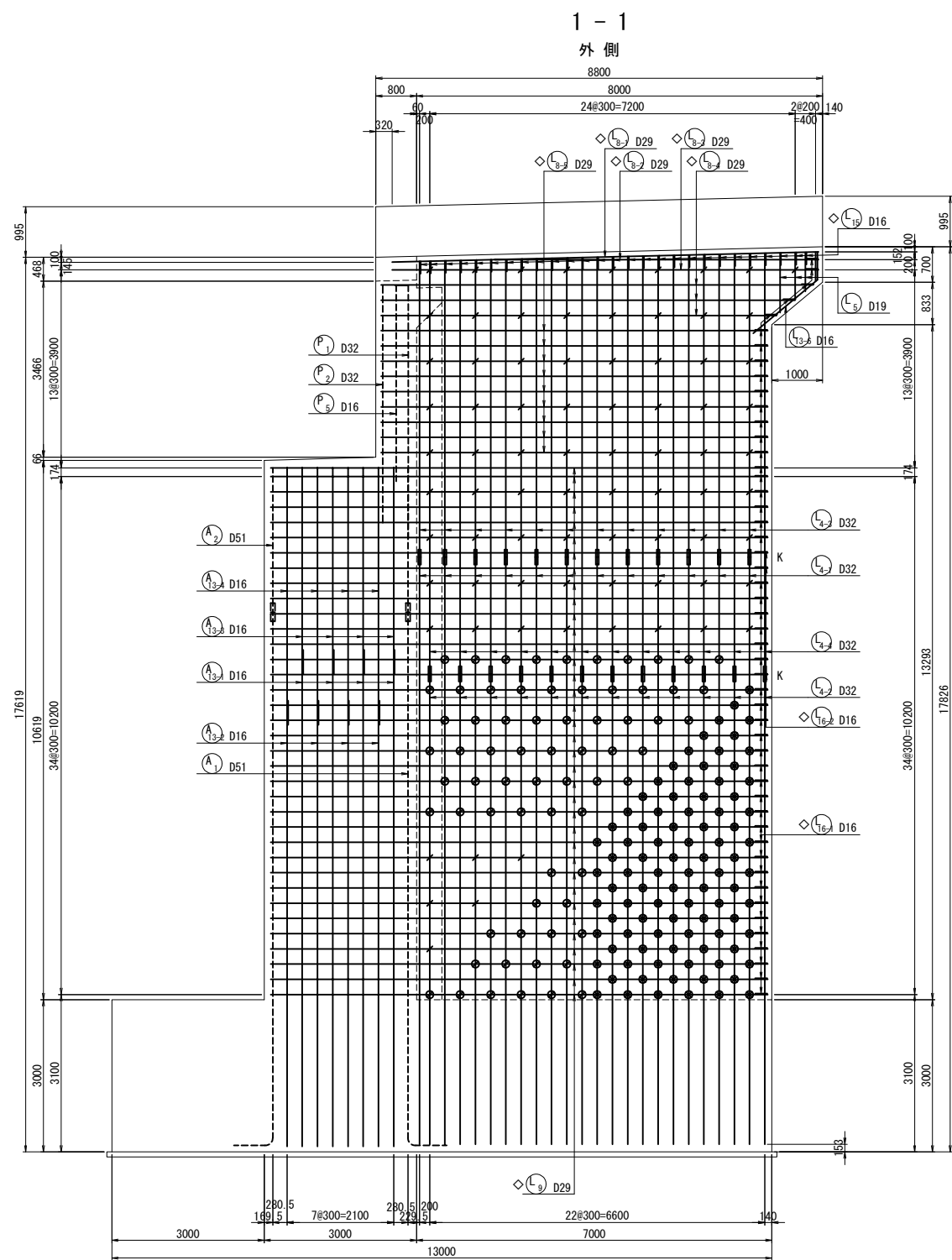


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



道東自動車道 占冠地区下留工事			
図面の種類	本流越川第四橋（下り線） A 2橋台配筋図（その7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

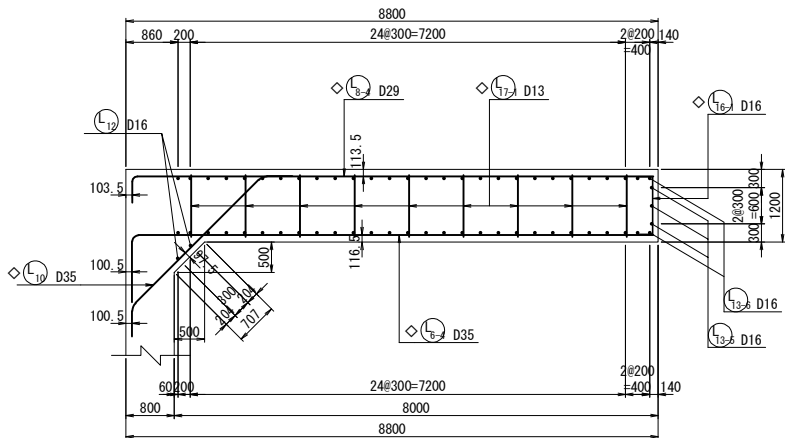


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表わす。
注8) ⊙ は鉄筋を表わす。
注9) ⊗ は鉄筋を表わす。

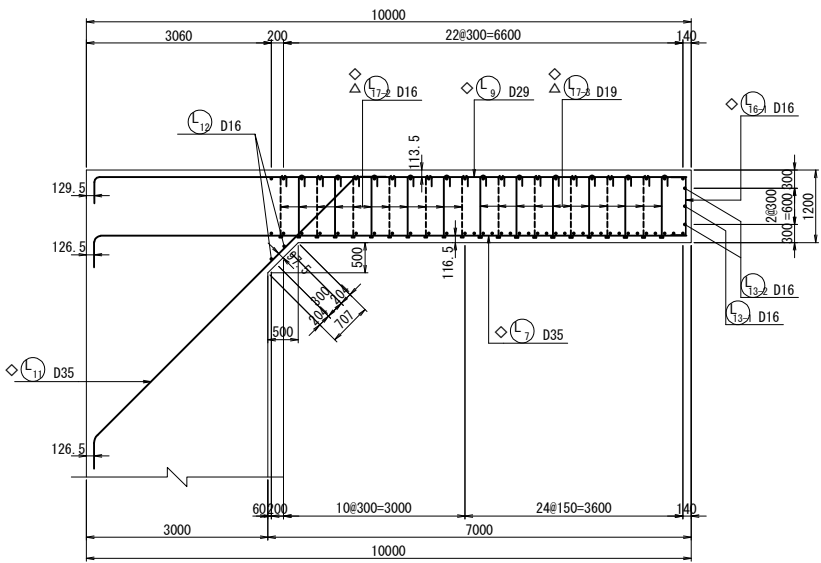
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング

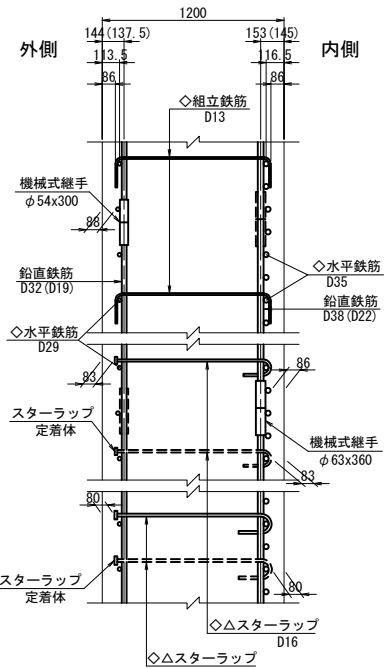
1 - 1



4 - 4

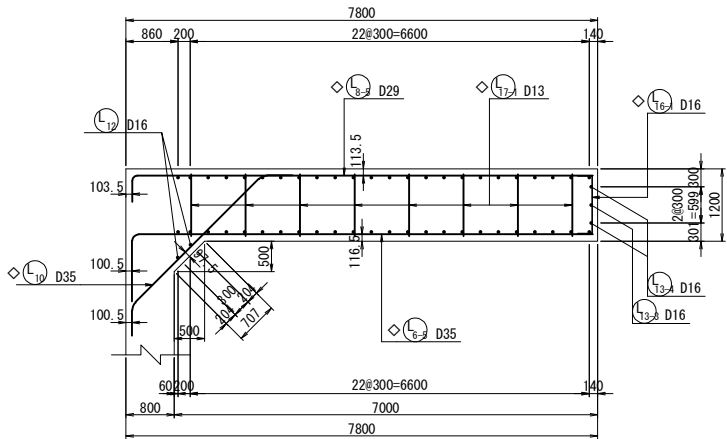


左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

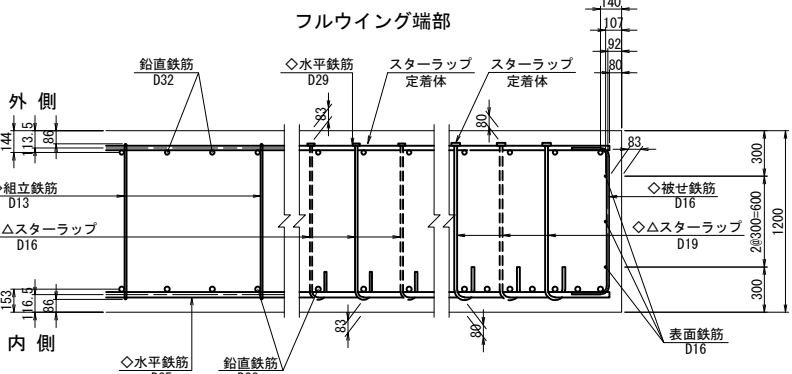


※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

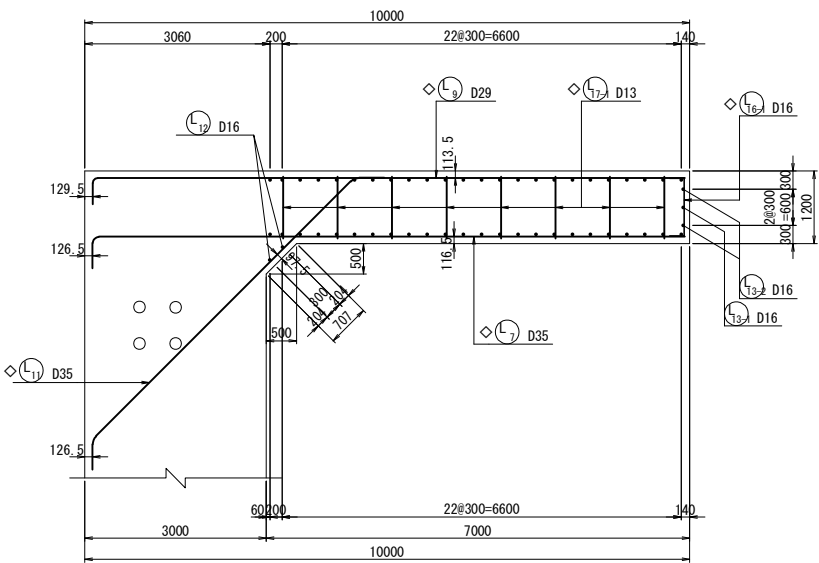
2 - 2



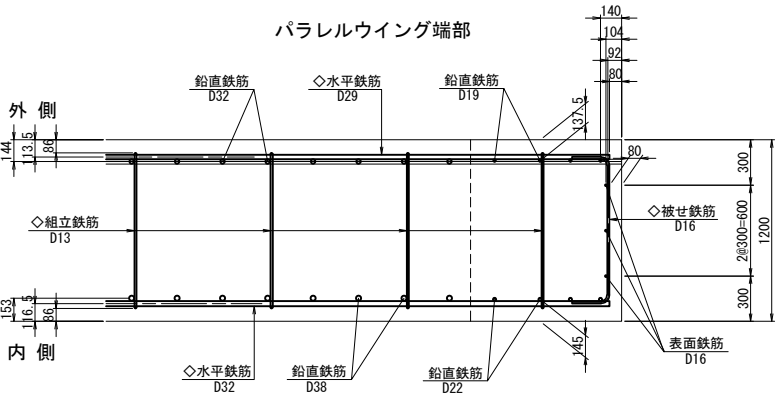
左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



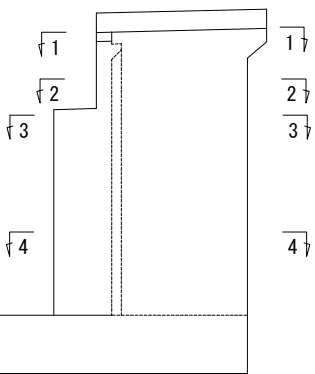
3 - 3



パラレルウイング端部



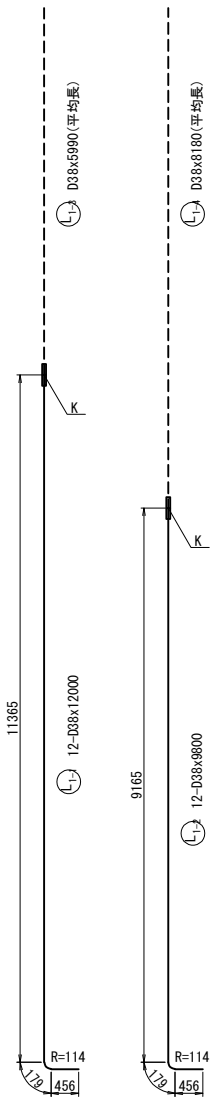
位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング

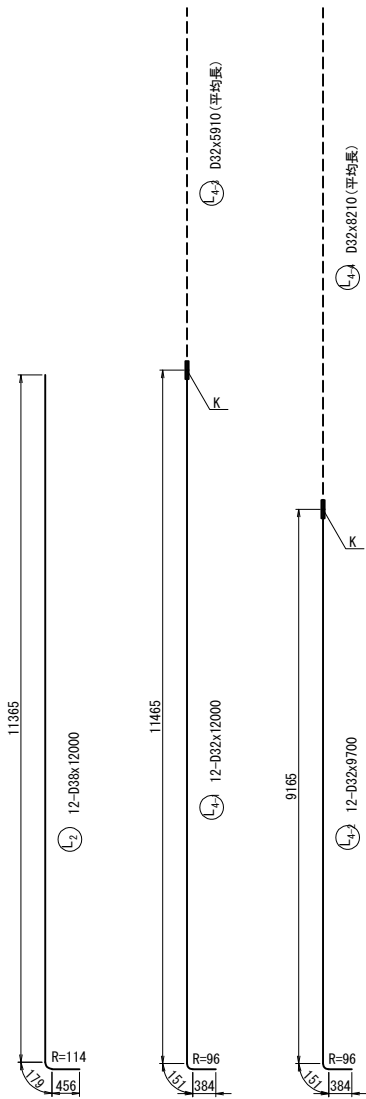


記号	径	本数	a	L
1	D38	1	5909	5910
2	D38	1	5923	5920
3	D38	1	5937	5940
4	D38	1	5951	5950
5	D38	1	5966	5970
6	D38	1	5980	5980
7	D38	1	5994	5990
8	D38	1	6008	6010
9	D38	1	6022	6020
10	D38	1	6036	6040
11	D38	1	6050	6050
12	D38	1	6065	6070
平均長		12		5988

記号	径	本数	a	L
1	D38	1	8104	8100
2	D38	1	8116	8120
3	D38	1	8130	8130
4	D38	1	8144	8140
5	D38	1	8159	8160
6	D38	1	8173	8170
7	D38	1	8187	8190
8	D38	1	8201	8200
9	D38	1	8215	8220
10	D38	1	8229	8230
11	D38	1	8243	8240
12	D38	1	8258	8260
平均長		12		8180

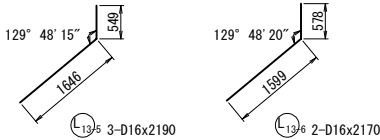
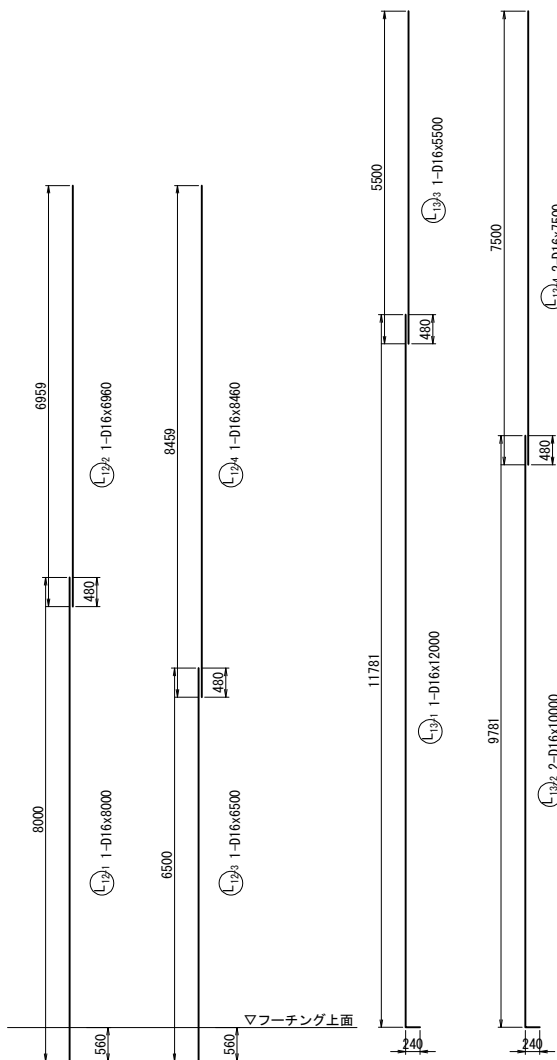
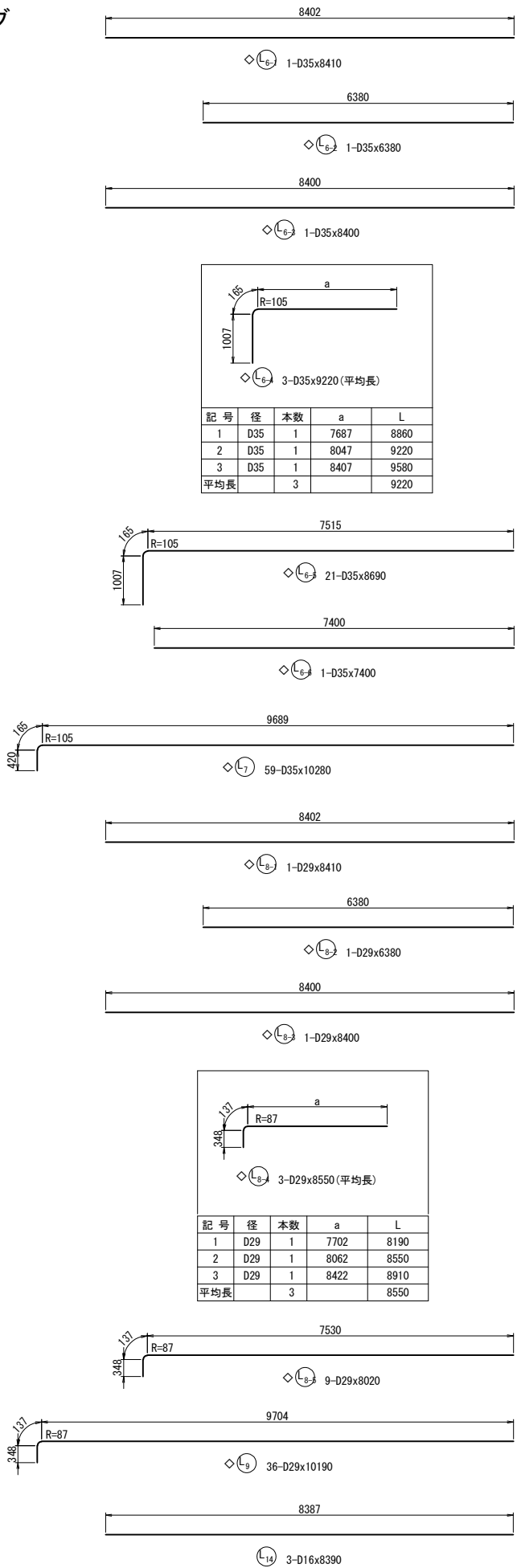
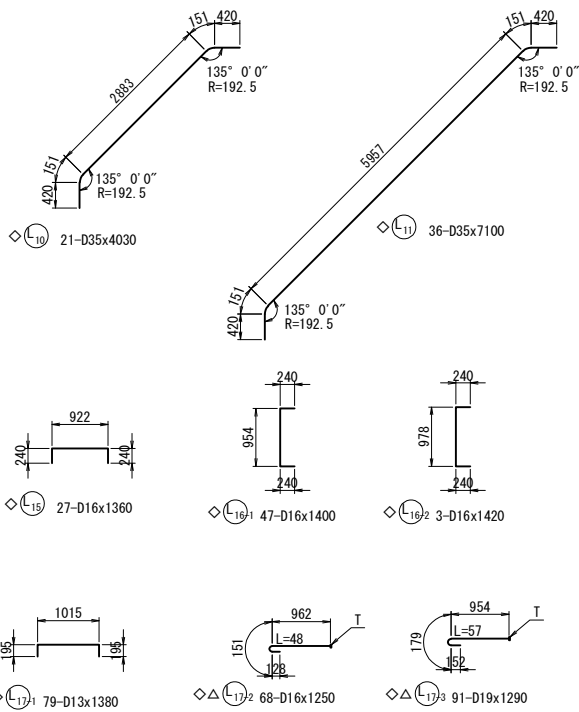
記号	径	本数	a	L
1	D22	1	772	770
2	D22	1	934	930
3	D22	1	1177	1180
平均長		3		960

記号	径	本数	a	L
1	D19	1	772	770
2	D19	1	934	930
3	D19	1	1177	1180
平均長		3		960



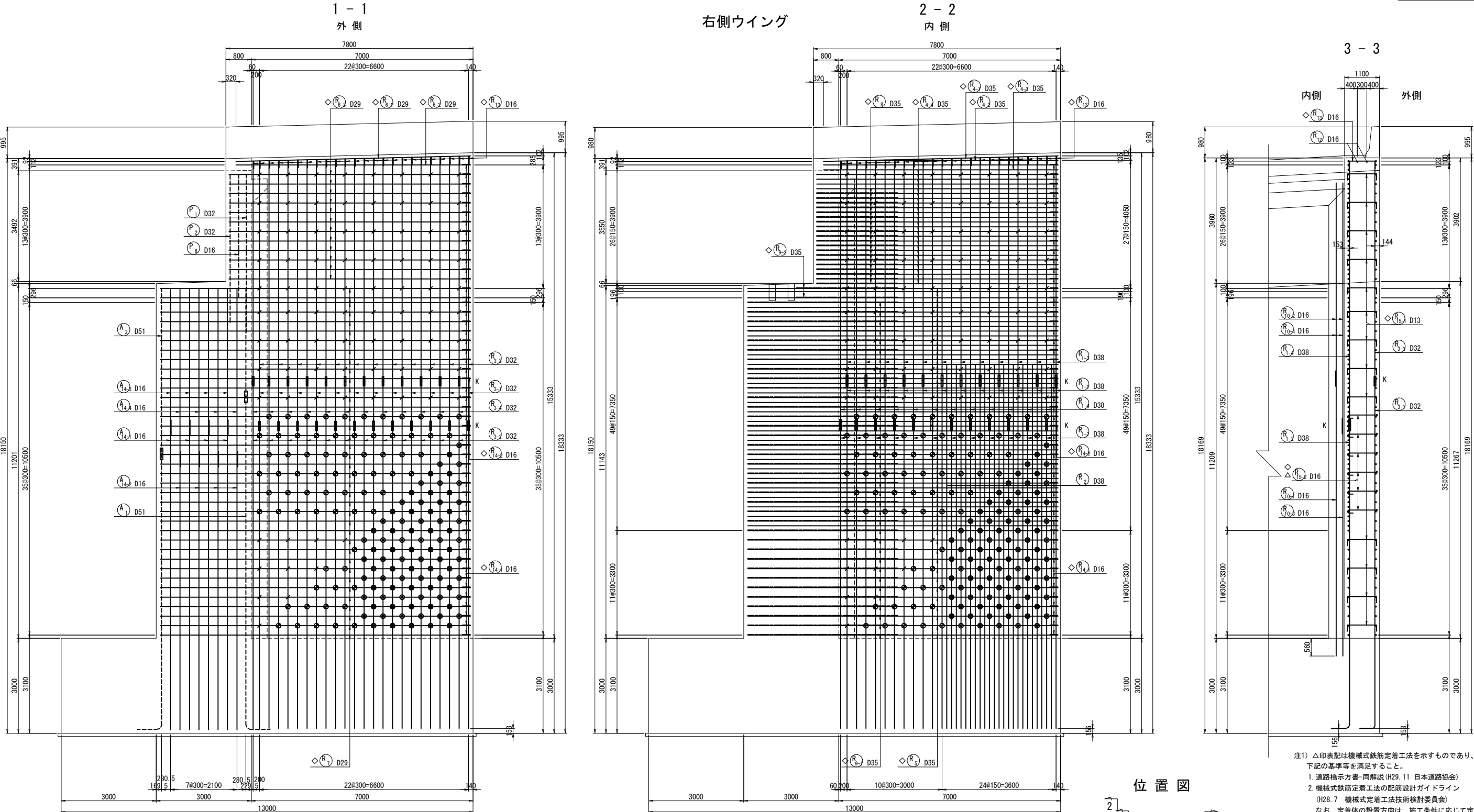
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	5825	5830
2	D32	1	5837	5840
3	D32	1	5851	5850
4	D32	1	5865	5870
5	D32	1	5880	5880
6	D32	1	5894	5890
7	D32	1	5908	5910
8	D32	1	5922	5920
9	D32	1	5936	5940
10	D32	1	5950	5950
11	D32	1	5964	5960
12	D32	1	5979	5980
平均長		12		5902

記号	径	本数	a	L
1	D32	1	8130	8130
2	D32	1	8144	8140
3	D32	1	8158	8160
4	D32	1	8172	8170
5	D32	1	8187	8190
6	D32	1	8201	8200
7	D32	1	8215	8220
8	D32	1	8229	8230
9	D32	1	8243	8240
10	D32	1	8257	8260
11	D32	1	8271	8270
12	D32	1	8286	8290
平均長		12		8208

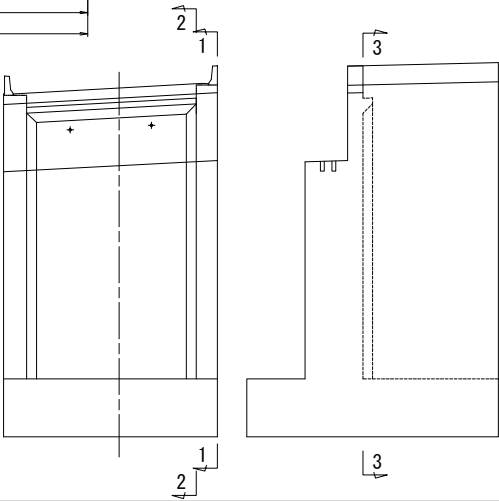


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



位置図

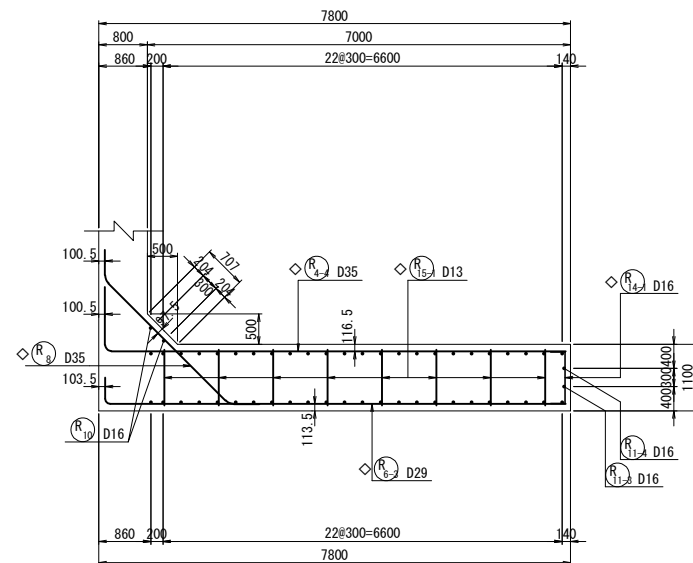


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) Kは機械継手を表す。
注8) ⊙は ϕ_{16} 鉄筋を表す。
注9) ⊗は ϕ_{16} 鉄筋を表す。

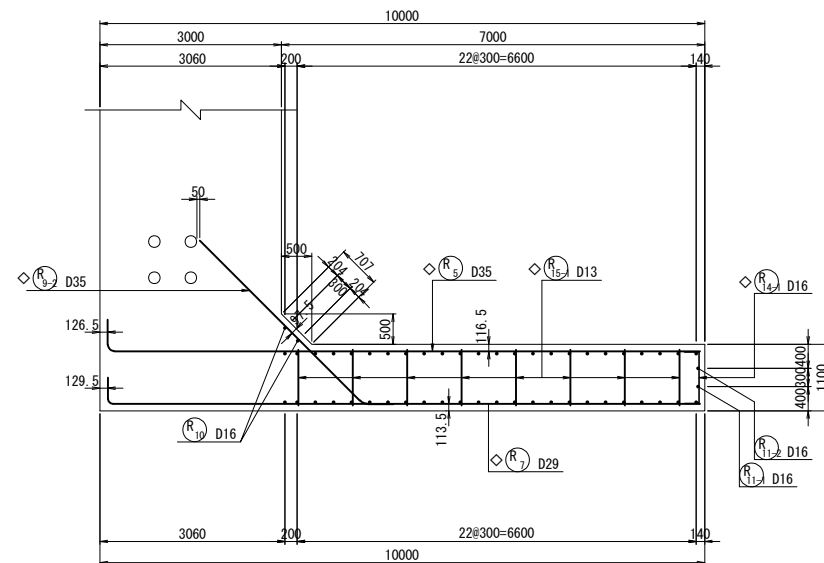
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング

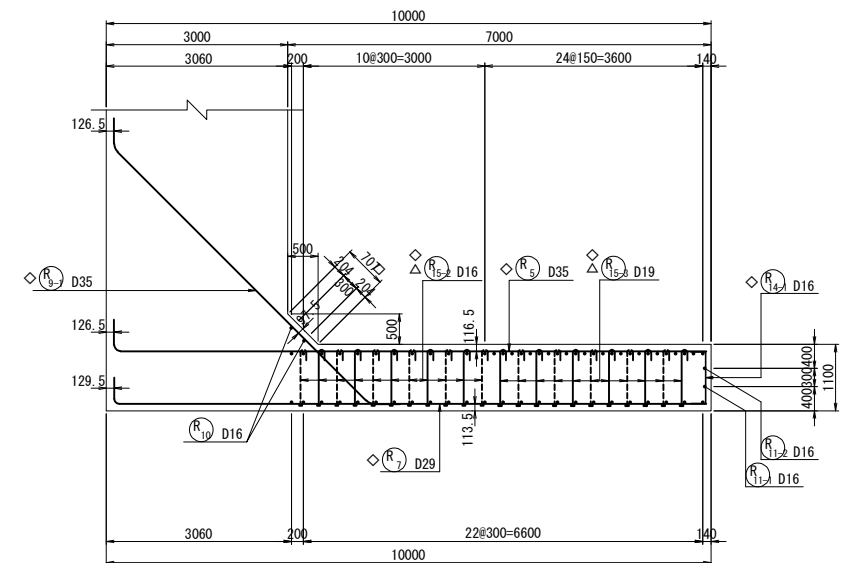
1 - 1



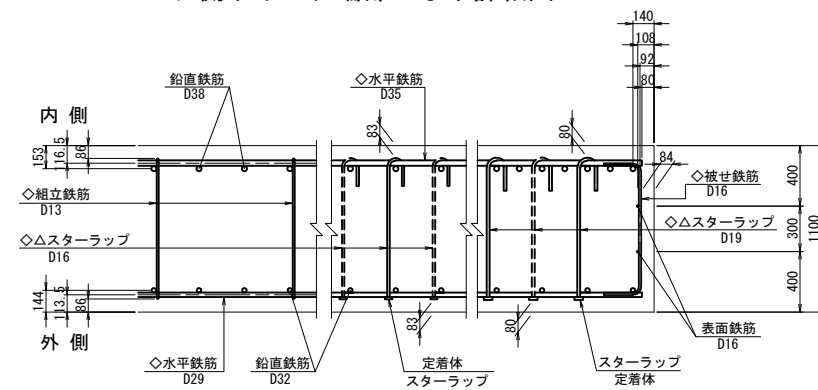
2 - 2



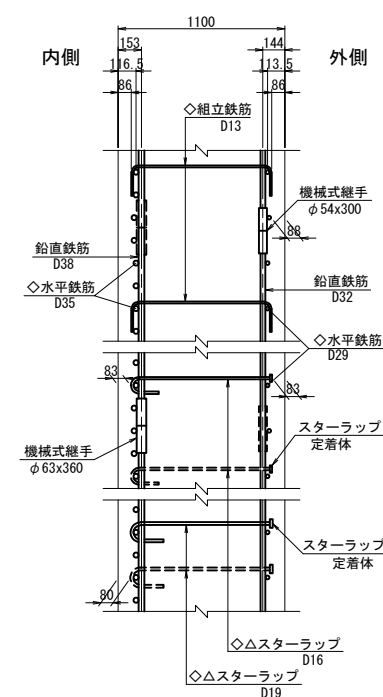
3 - 3



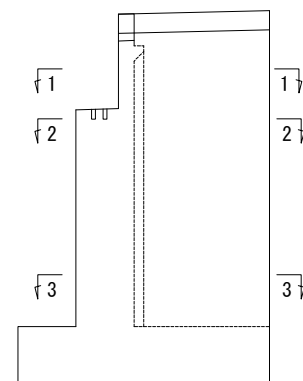
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



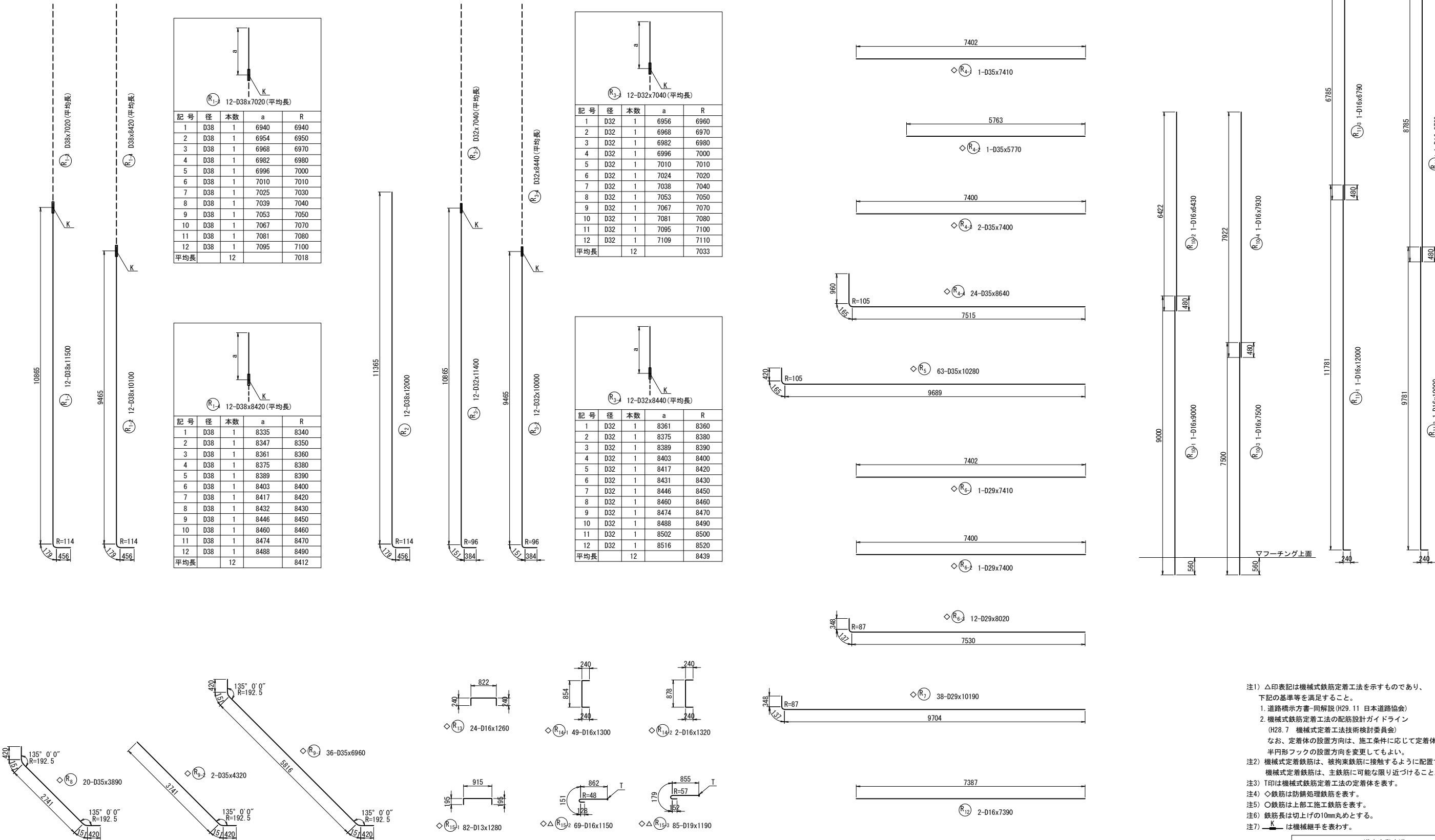
位置図



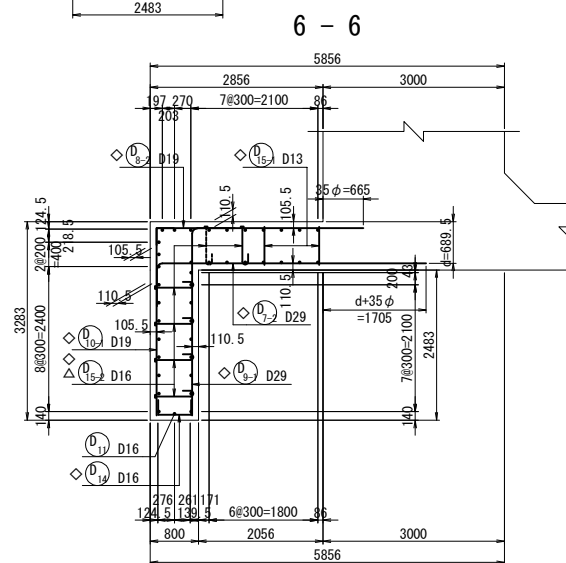
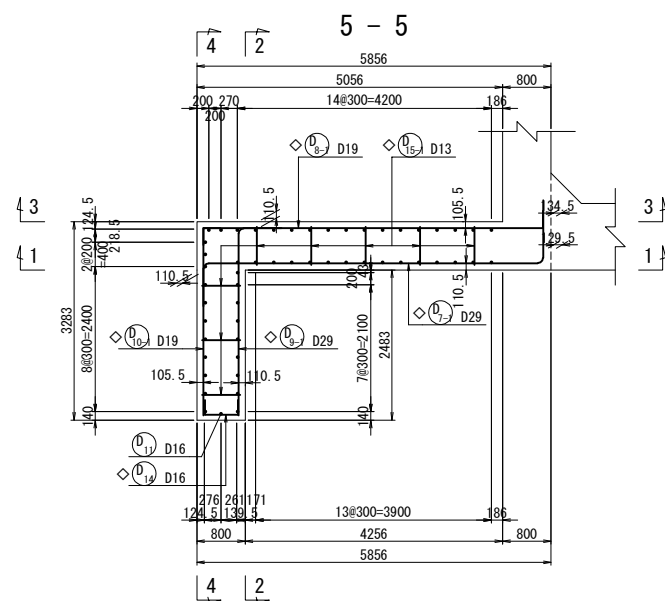
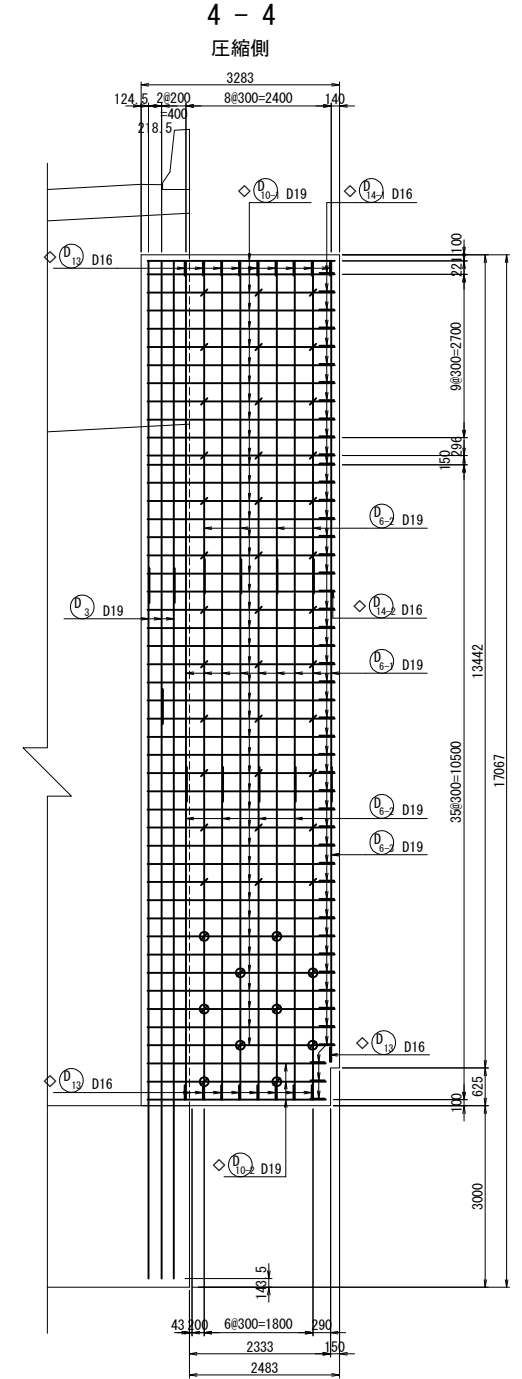
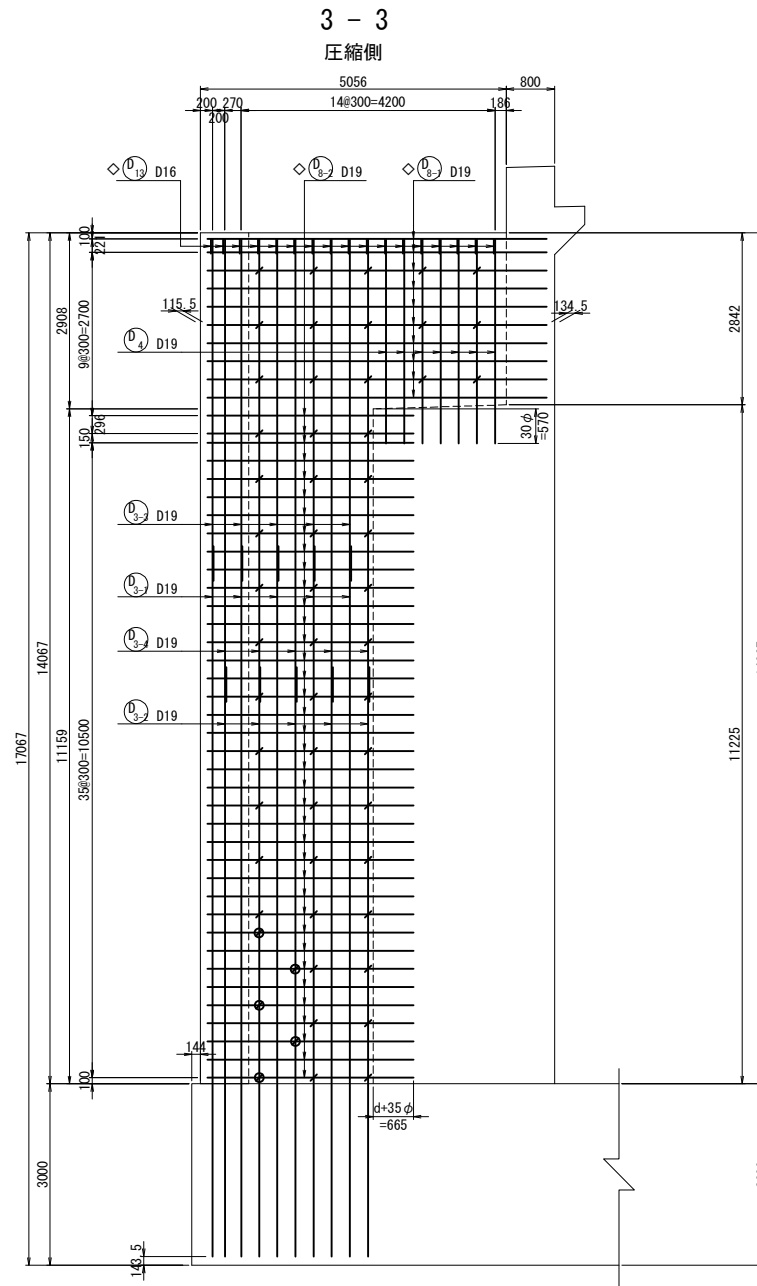
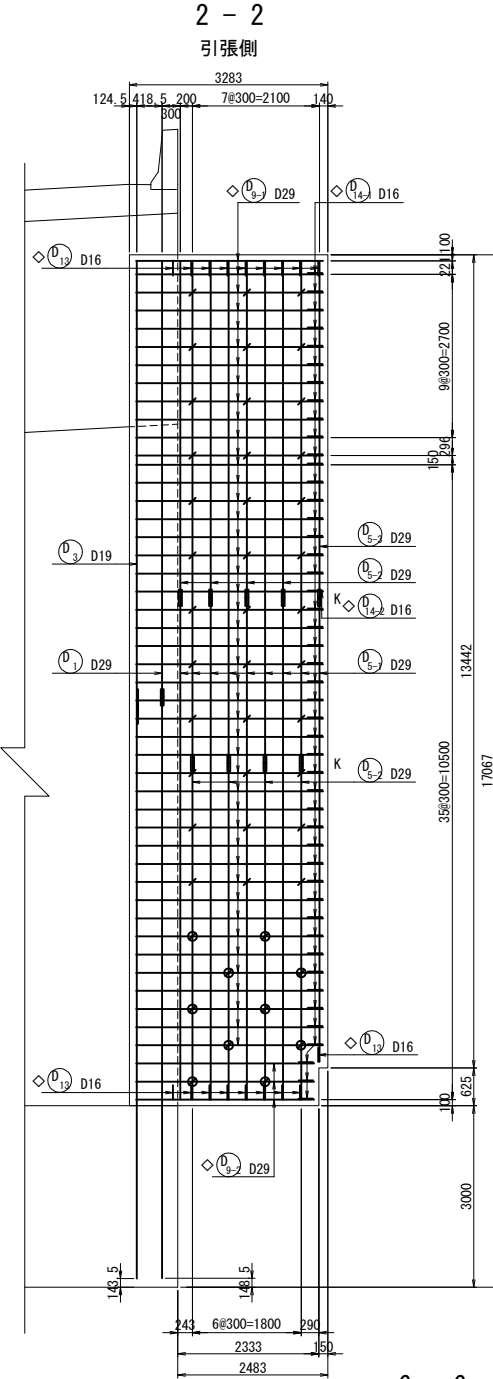
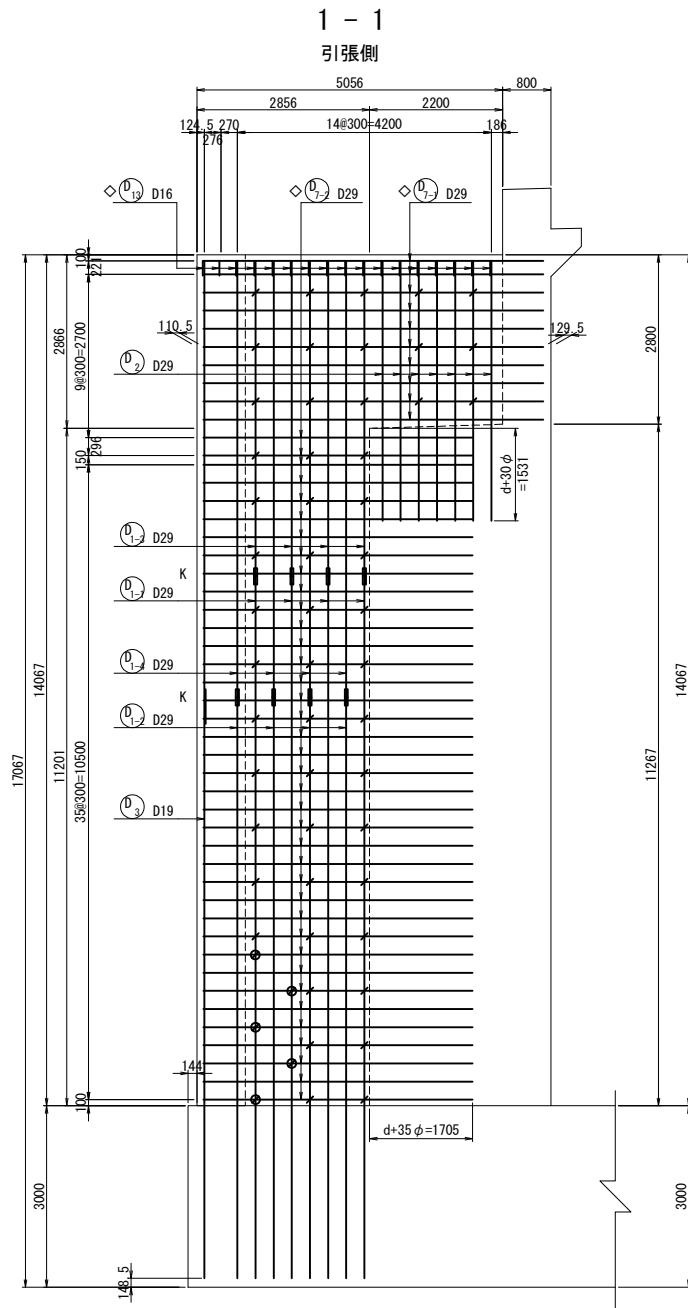
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) 1印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) △鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋筋は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) $\frac{K}{\text{---}}$ は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流越川第四橋（下り線） A2橋台設防図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

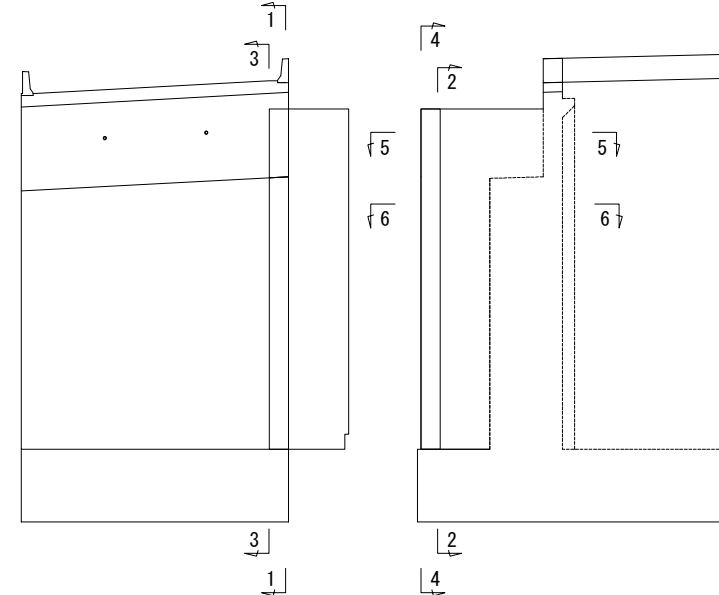
右側ウイング



右側土留壁



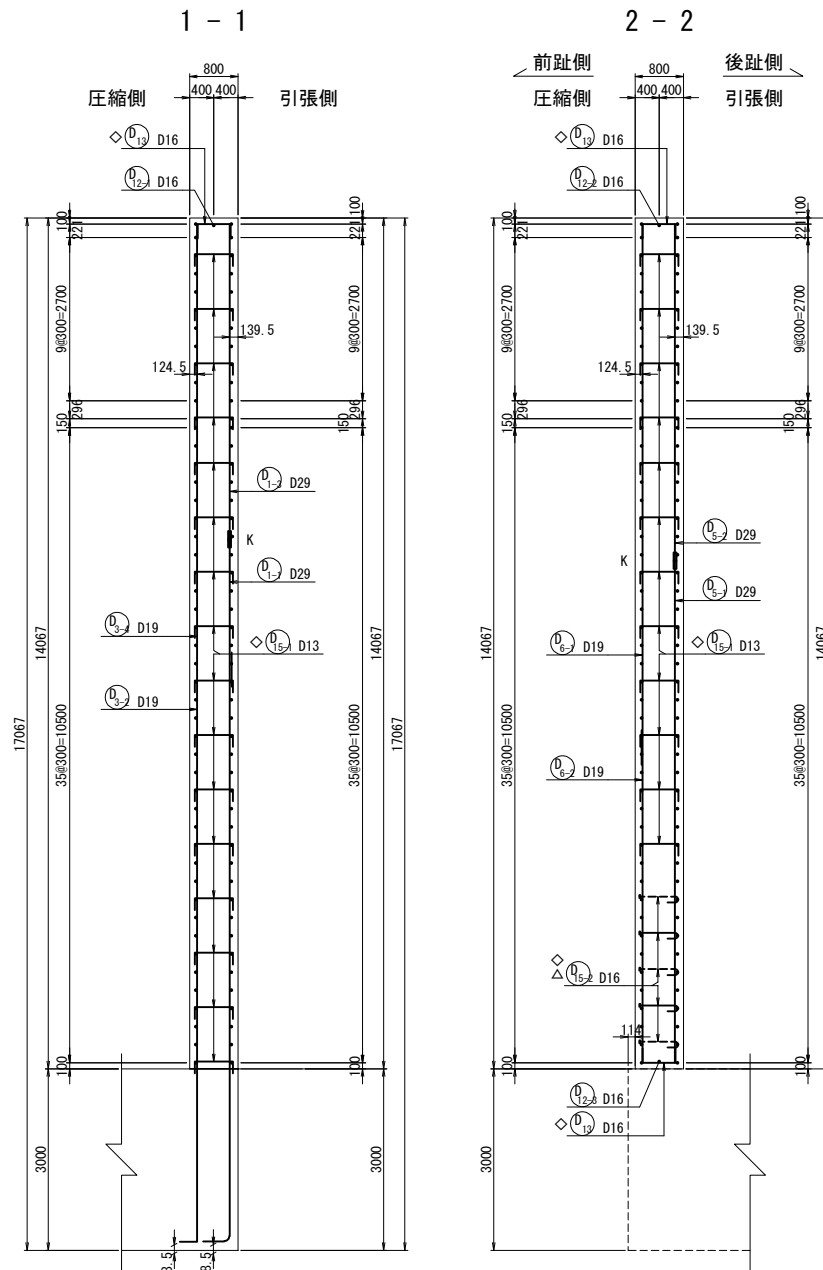
位置図



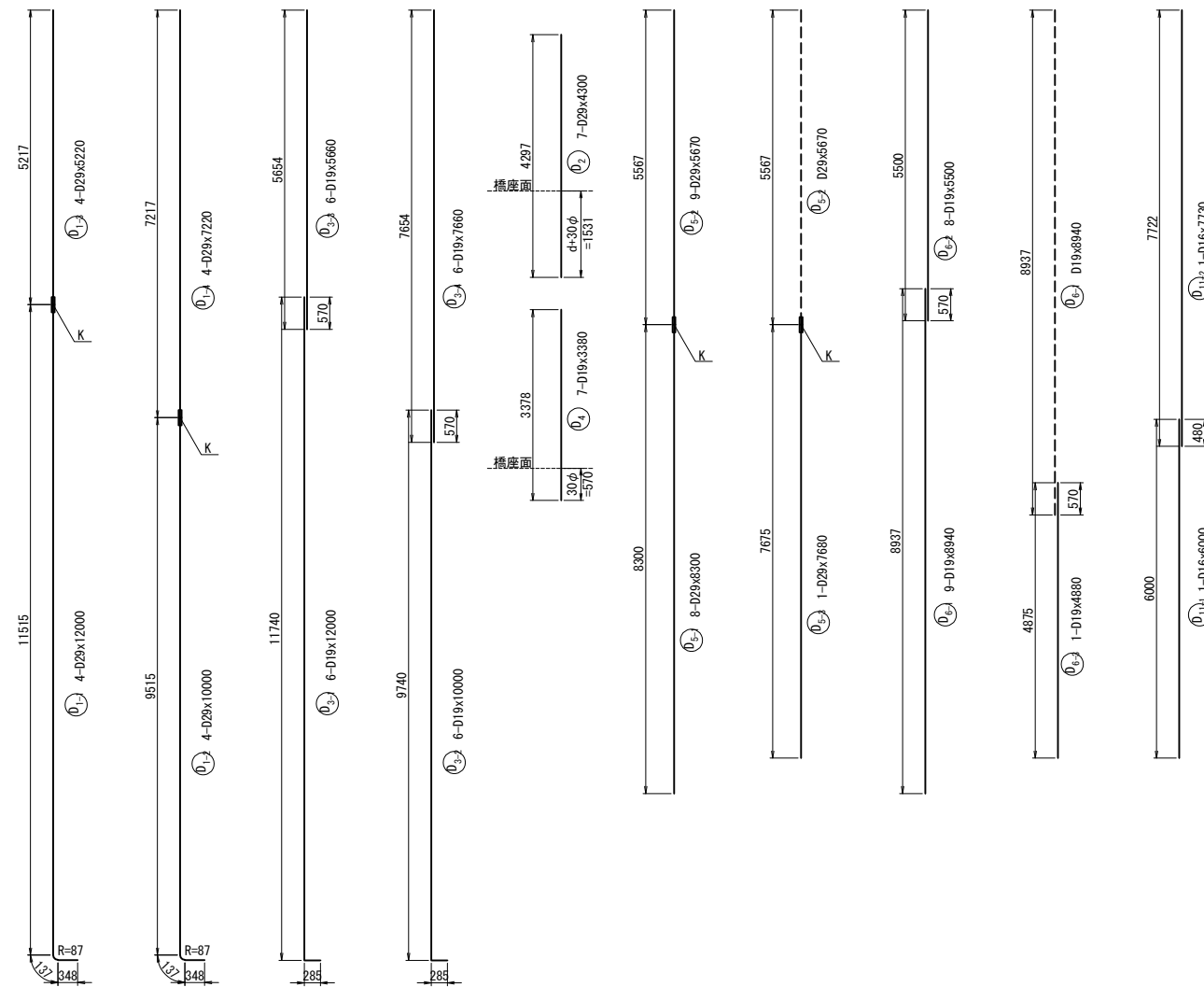
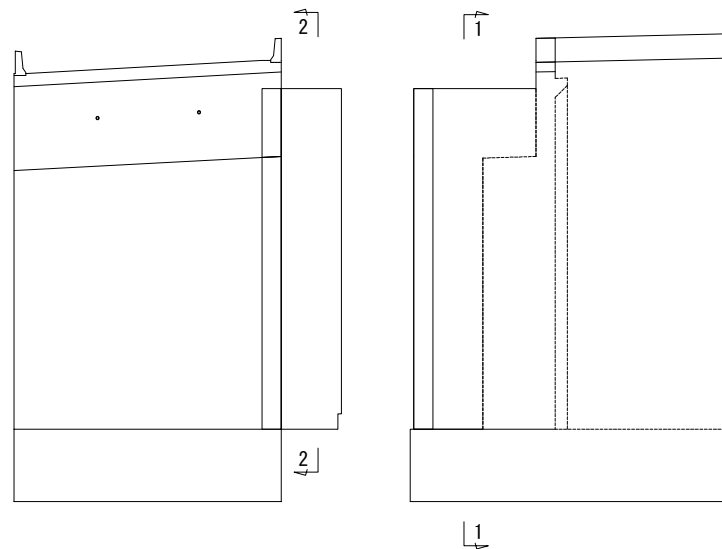
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上りの10mm丸めとする。
- 注7) $\frac{K}{\phi}$ は機械継手を表す。
- 注8) $\frac{\phi}{\phi}$ は $\frac{\phi}{\phi}$ 鉄筋を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流越川第四橋（下り線） A 2橋台配筋図（その１４）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

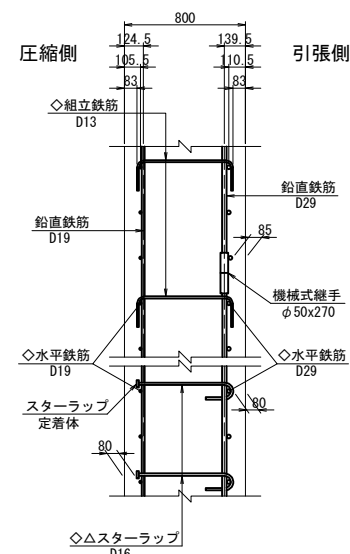
右側土留壁



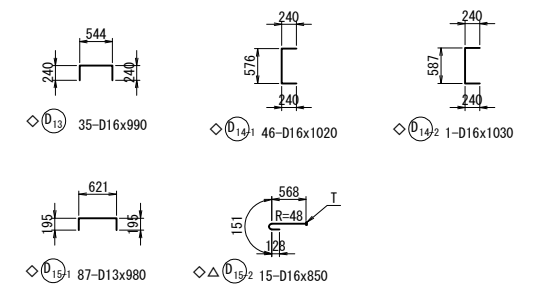
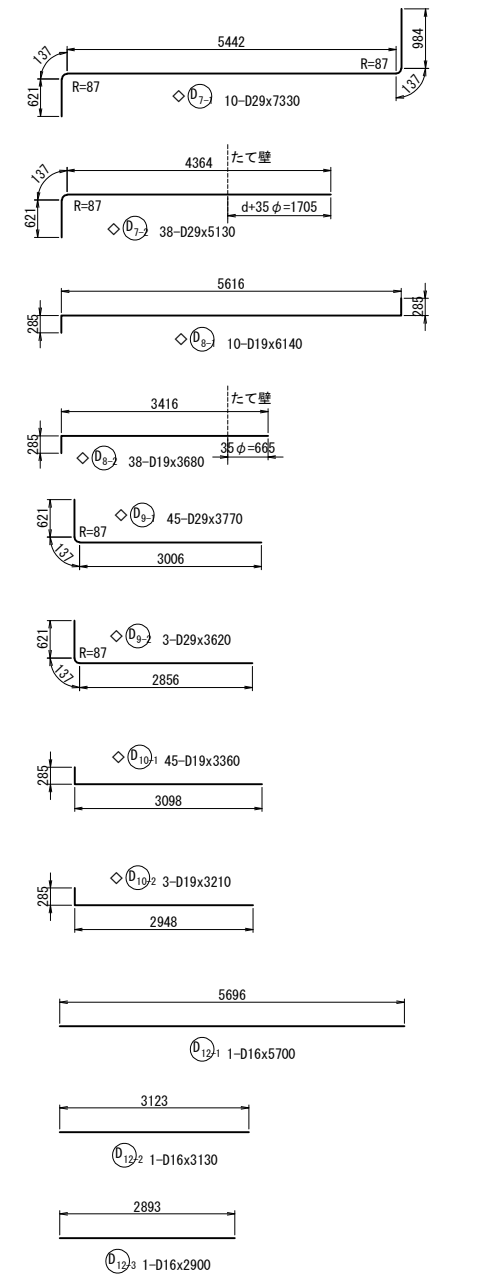
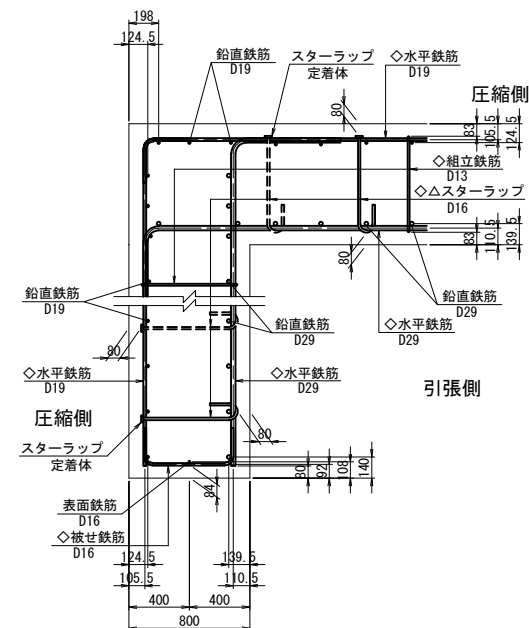
位置図



右側土留壁詳細図 S=1 : 50



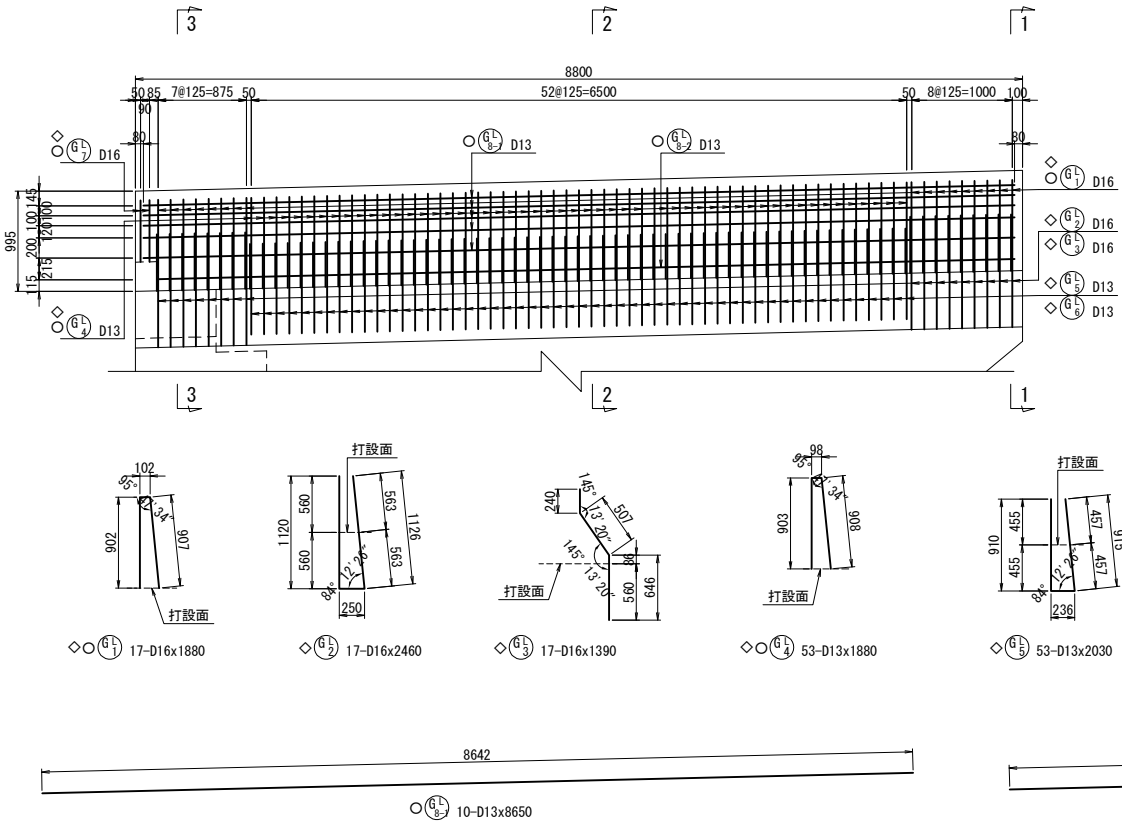
右側土留壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50



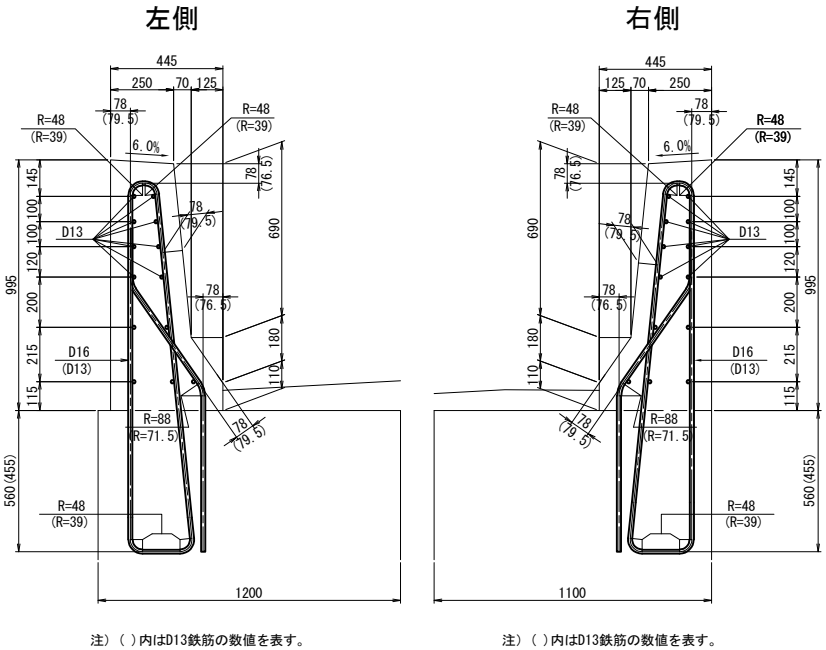
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- ① 道路橋標示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)
- 2 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) ▽印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- ① ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- ② ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸とする。
- 注5) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流鶴川第四橋(下り線)		
	A2橋台配面図(その15)		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

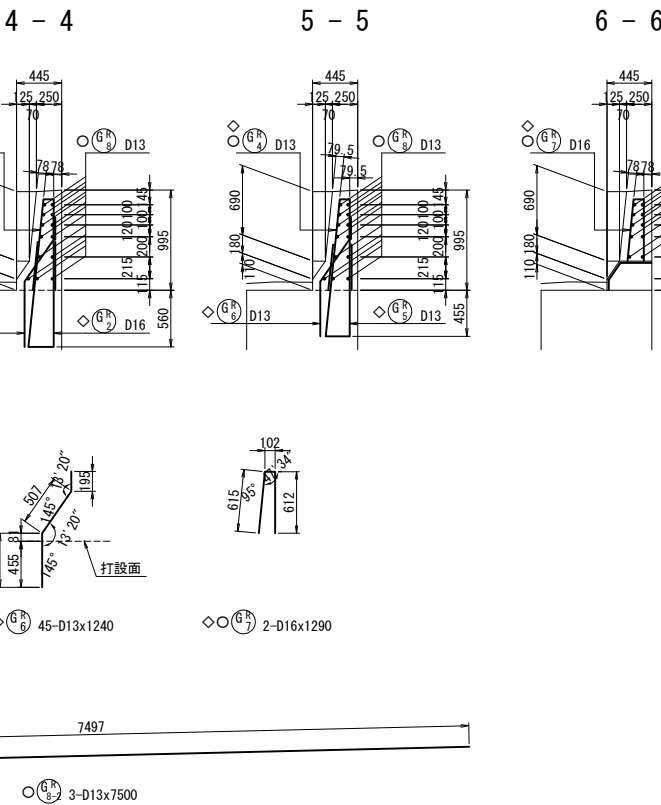
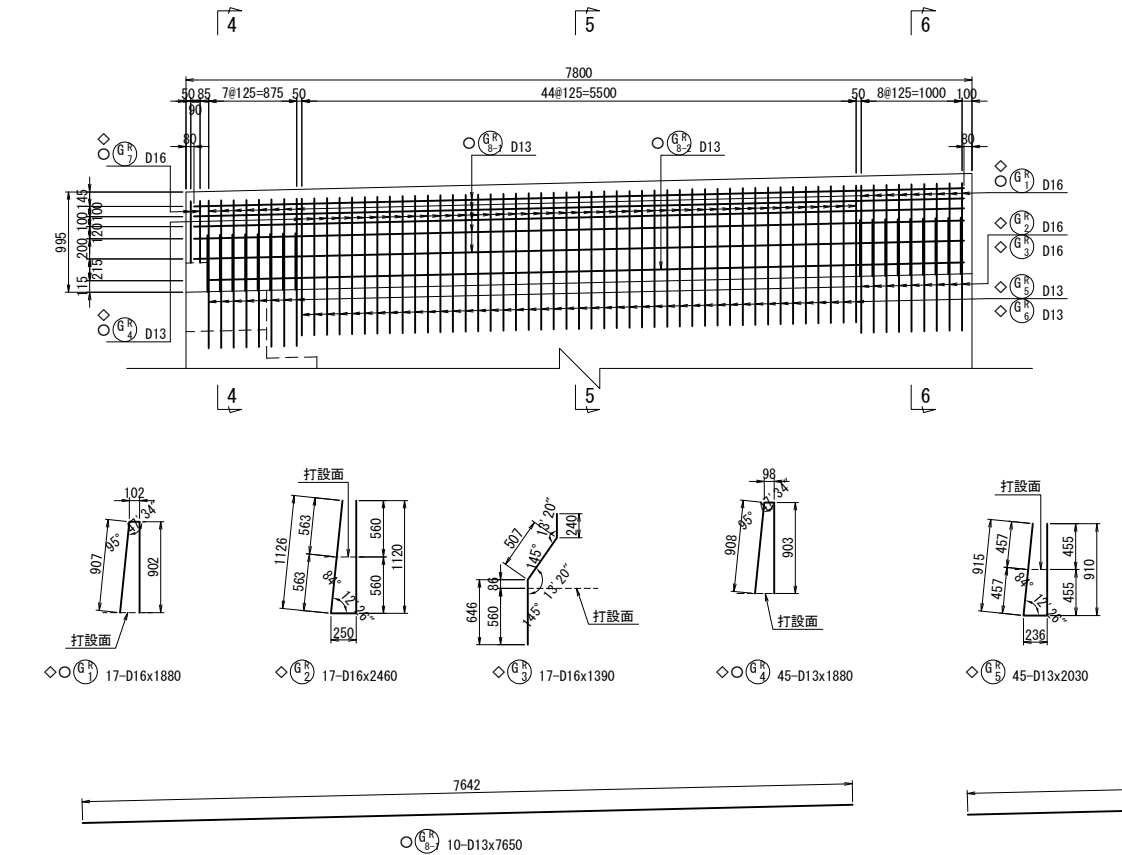
左壁欄側面展開図



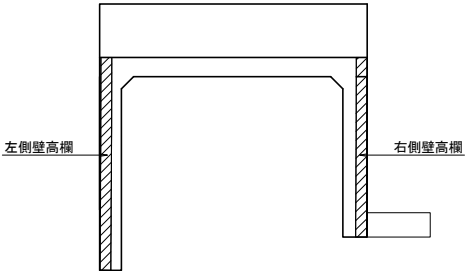
壁高欄かぶり詳細図 S=1 : 30



右壁欄側面展開図



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注3) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	帯広工事事務所		

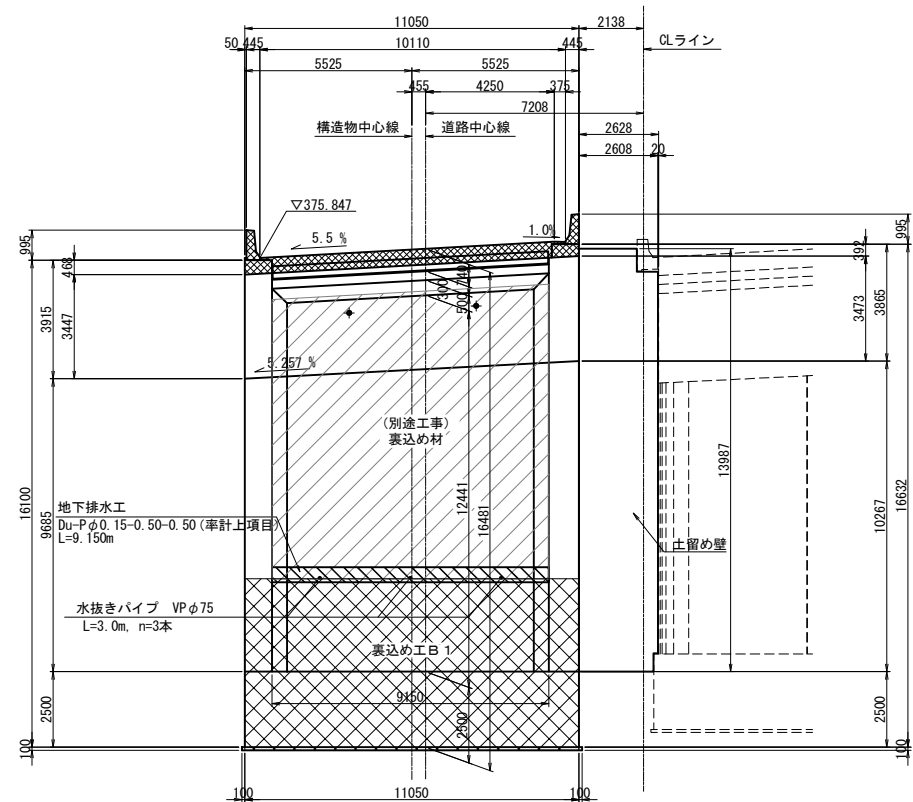
鉄筋加工寸法表 (SD345)

<div><div>主筋 せん断補強筋</div><div><div>鋭角フック</div><div>半円形フック</div><div>直角フック</div></div><div>△L=2L-a</div></div>											
主筋	径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		θ = 135°	
				a	△L	a	△L	a	△L	a	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		θ = 135°	
				a	△L	a	△L	a	△L		
	D13		32.5	77	80	68	45	51	14		
	D16		40	94	99	84	55	63	17		
	D19		47.5	112	117	99	66	75	20		
	D22		55	130	136	115	76	86	24		
	D25		62.5	147	155	131	86	98	27		
フック	D29		72.5	171	179	152	99	114	31		
	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a	△L		
	D13		39		92		123		61		17
	D16		48		113		151		75		21
	D19		57		134		179		89		25
	D22		66		156		207		104		28
ク	D25		75		177		236		118		32
	D29		87		205		273		137		37

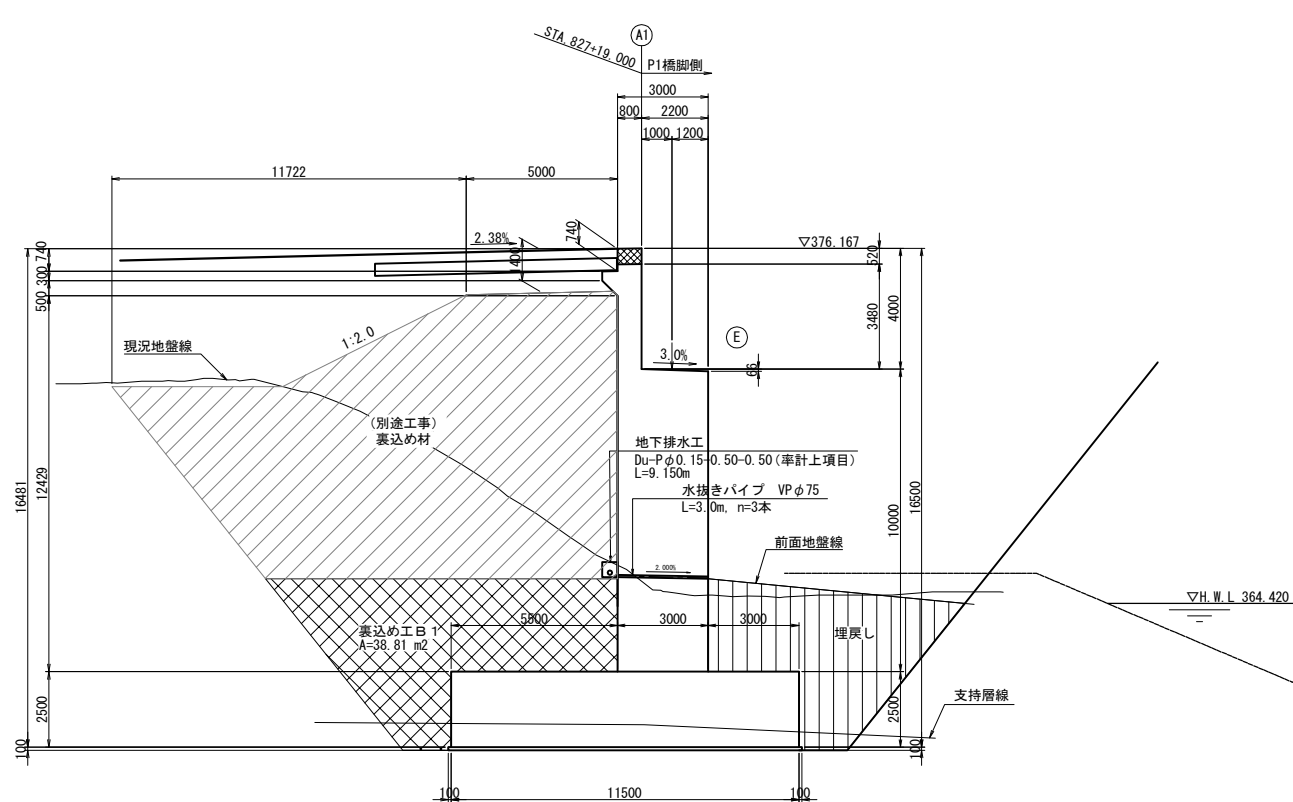
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。
注8) []内は機械継手箇所数を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第四橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 8）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

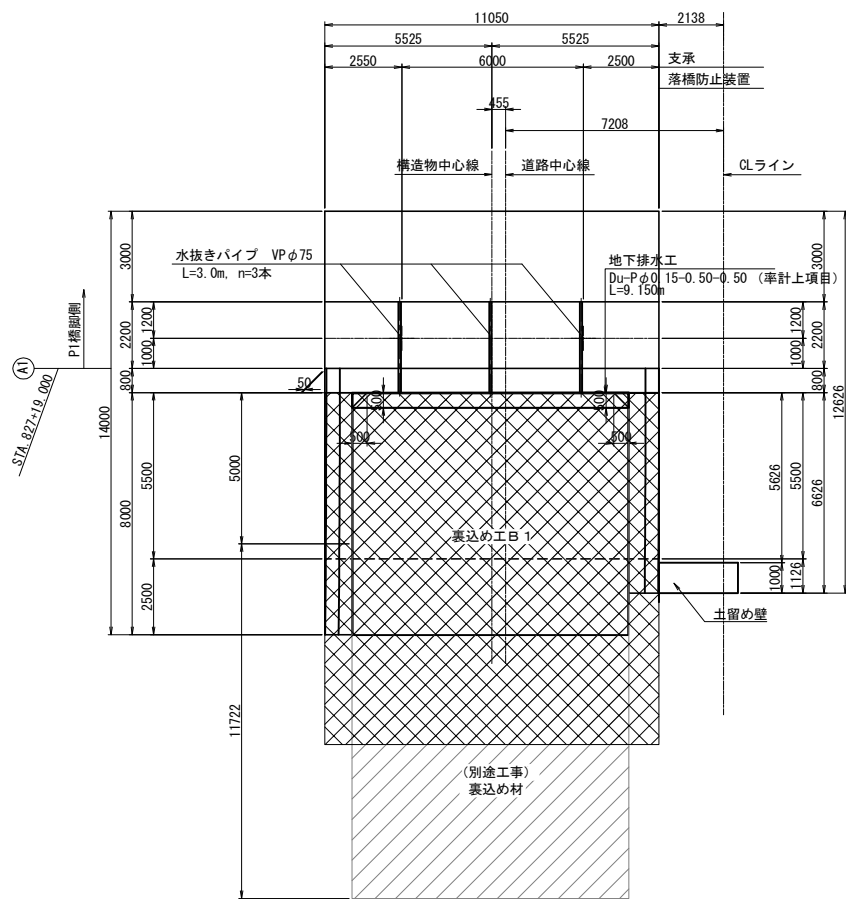
背面図



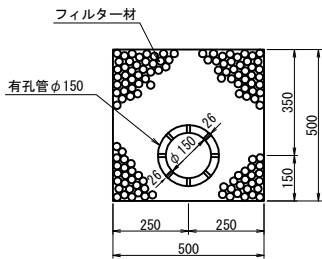
断面図



平面図



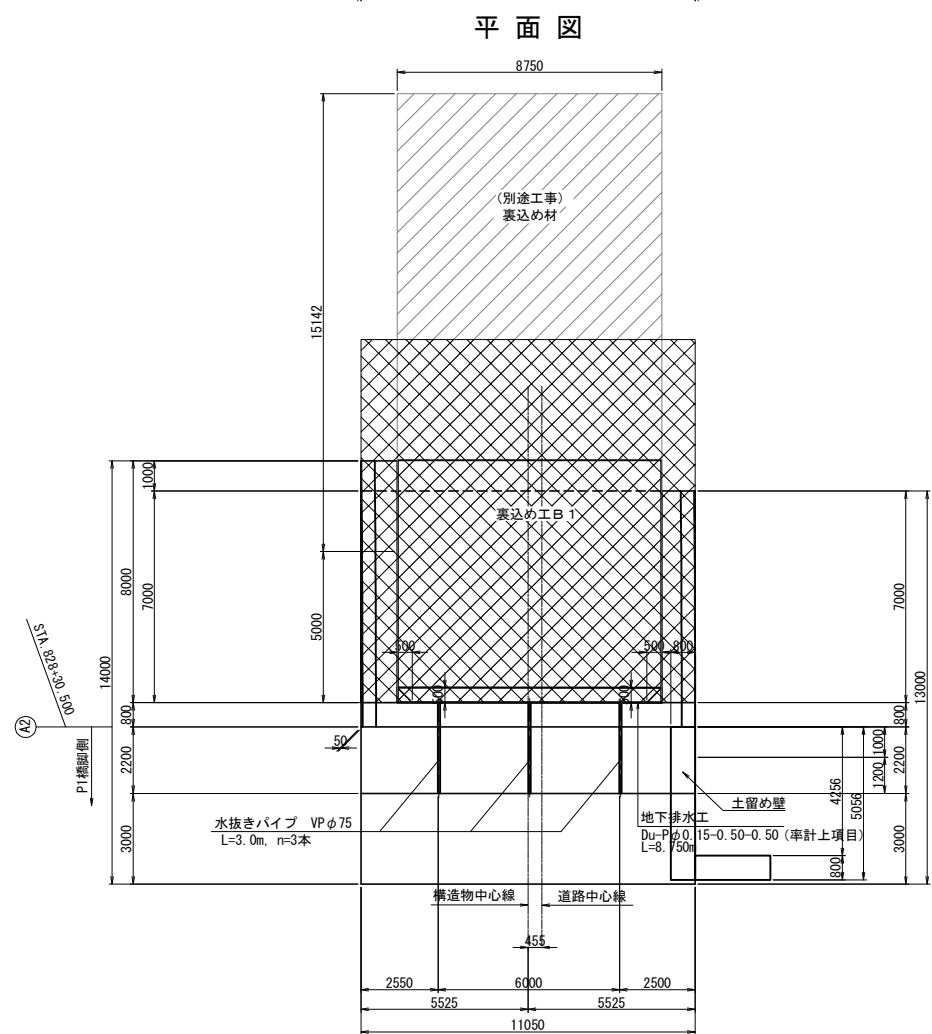
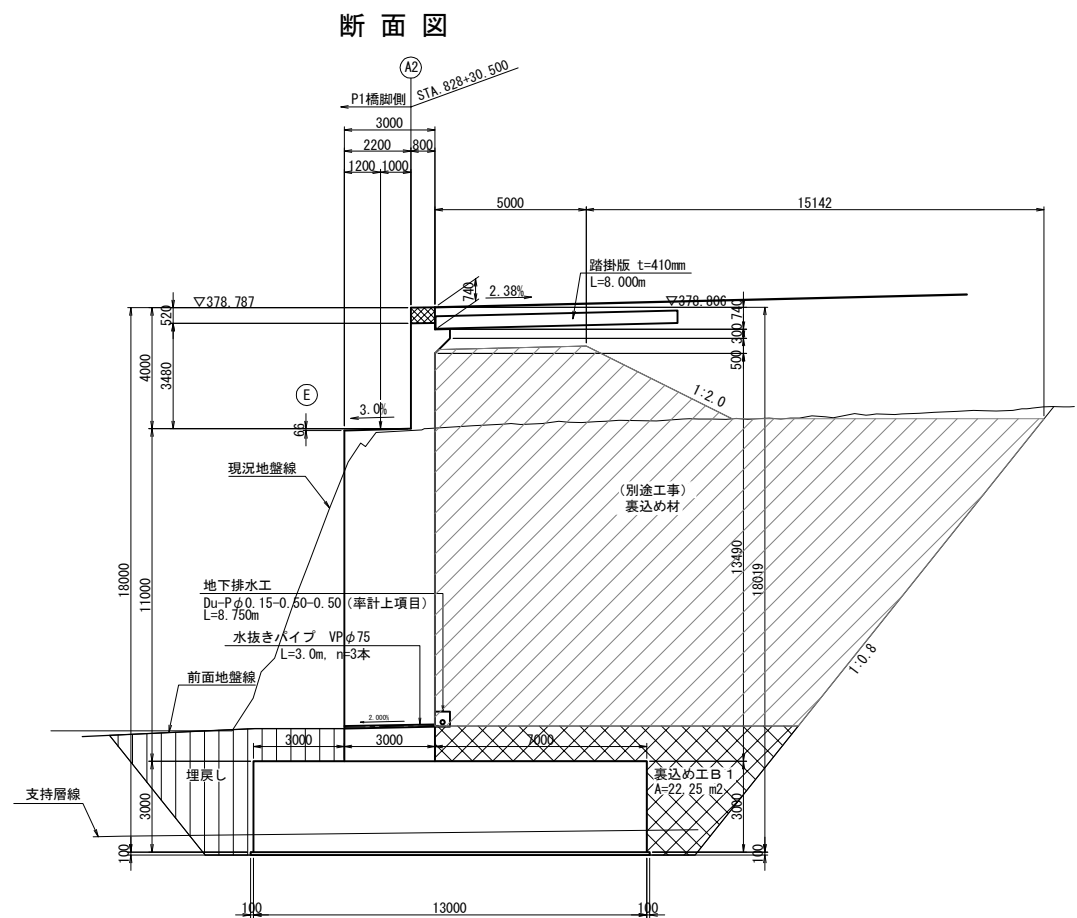
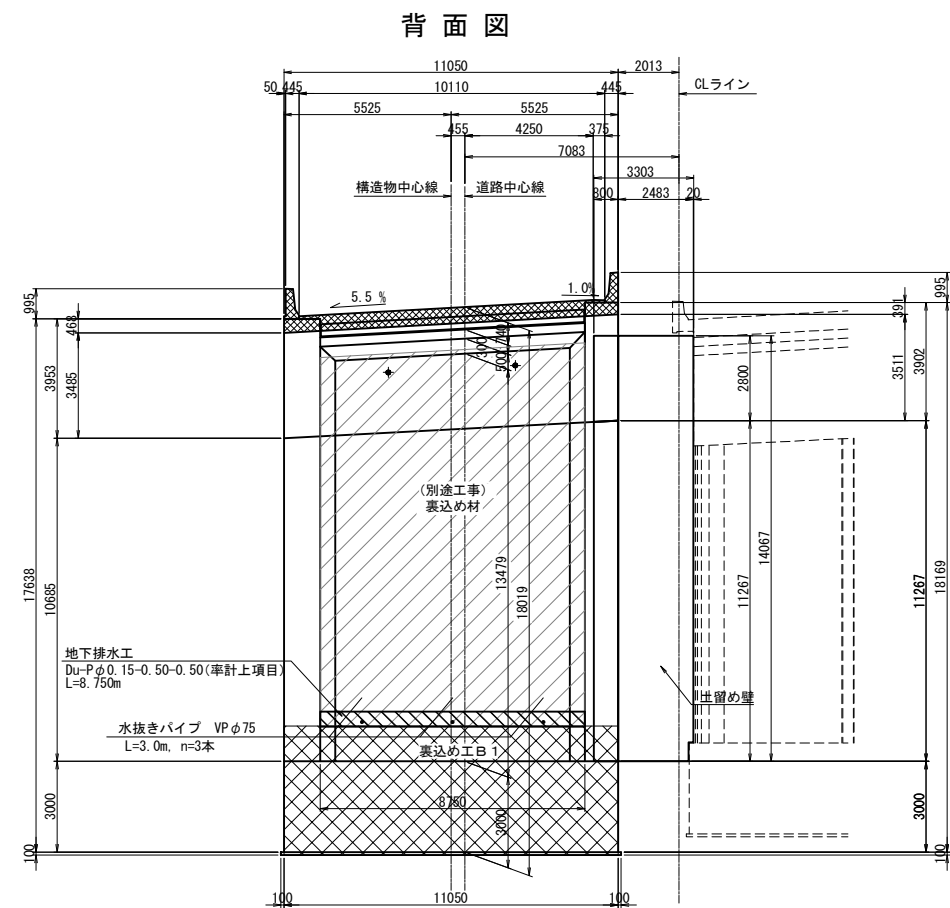
地下排水工詳細図 S=1:25



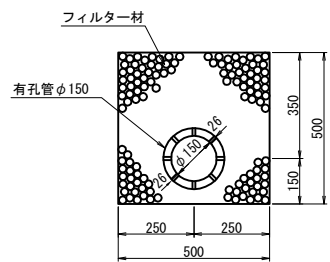
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m3	389.3	下部工施工
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	9.2	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 1 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



地下排水工詳細図 S=1:25

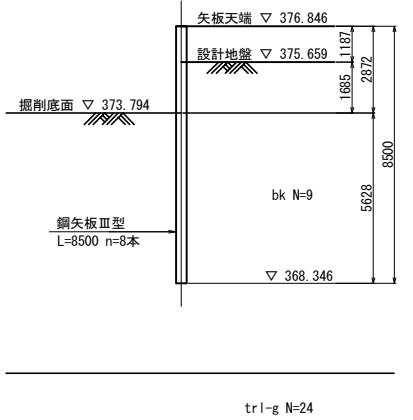
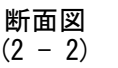
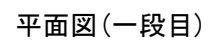


裏込め工及び地下排水工

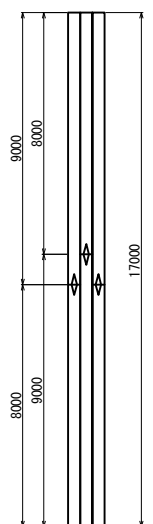
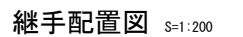
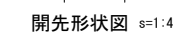
項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m ³	226.8	下部工施工
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	8.8	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第四橋（下り線） A 2 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

側面図



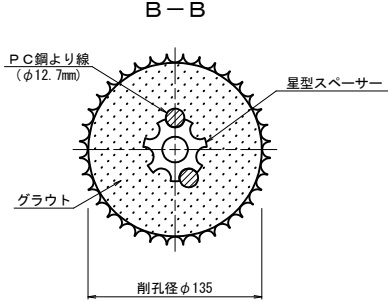
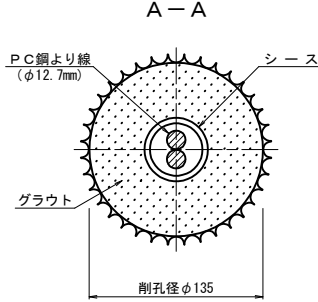
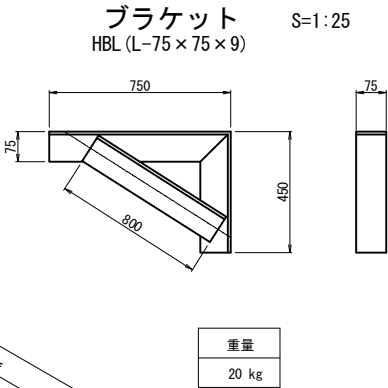
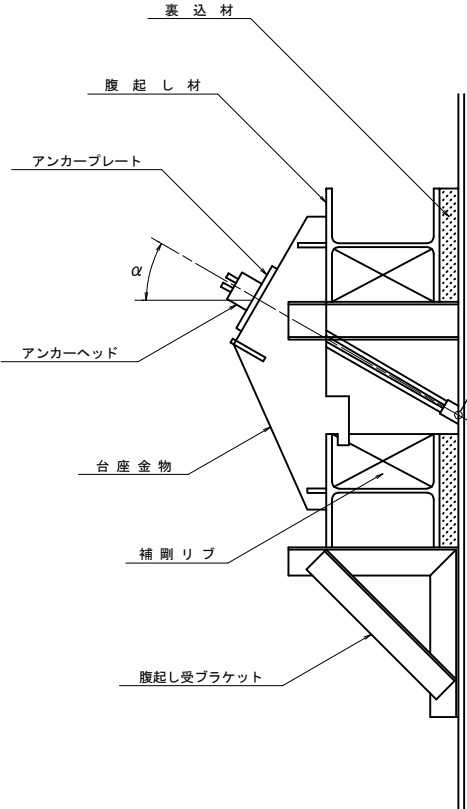
B-B断面图 $s=1:40$



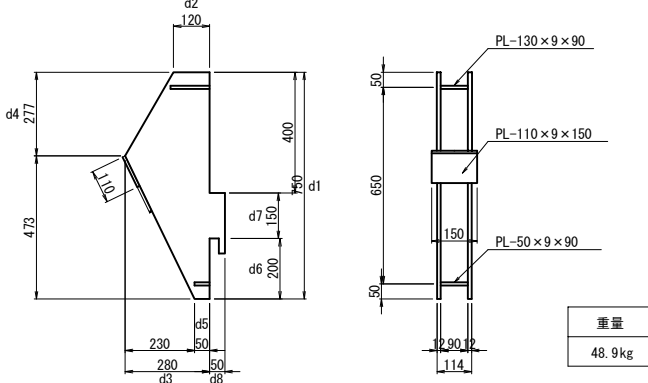
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第四橋（下り橋） 図 1 橋台 土留り設計画图（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(一段目：2×φ12.7mm)
(二段目：2×φ12.7mm)

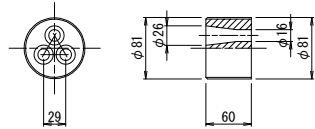
断面図 S=1:5



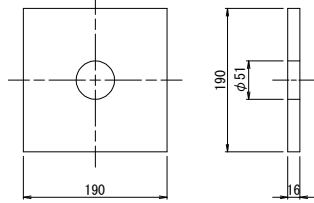
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



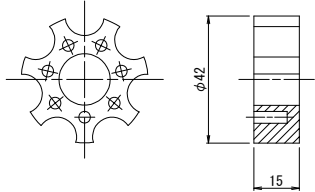
寸法表

	Lf	La	LA	α
一段目	19500	3000	22500	45°
二段目	16000	3000	19000	45°

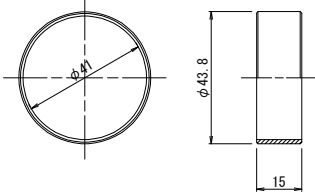
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(一段目)	19.500	3.000	0.200	135	22.700	2×φ12.7mm	3	68.100	149.85
残置式アンカー(二段目)	16.000	3.000	0.200	135	19.200	2×φ12.7mm	4	76.800	157.18

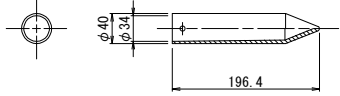
星型スペーサー S=1:2.5



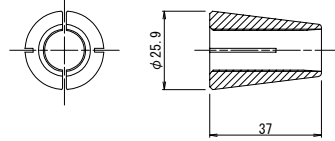
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



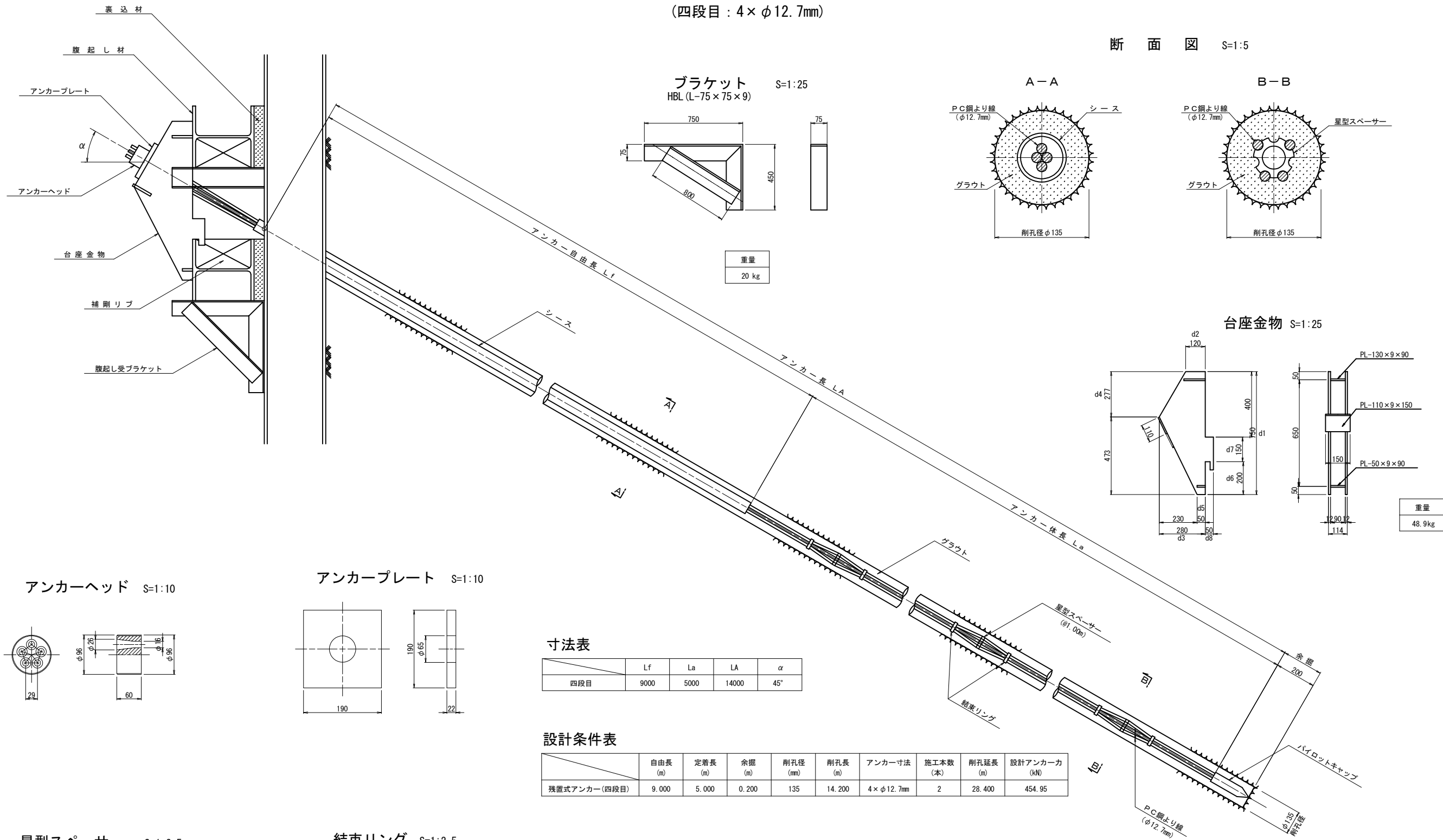
クサビ S=1:2.5 (12.7mm用)



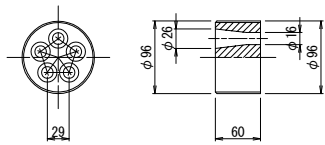
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第四橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その3）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(四段目：4×φ12.7mm)

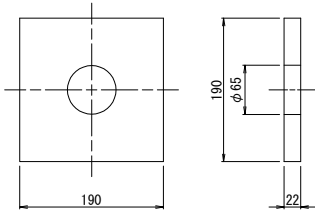
断面図 S=1:5



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



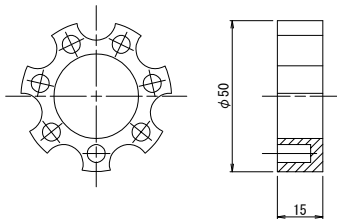
寸法表

	Lf	La	LA	α
四段目	9000	5000	14000	45°

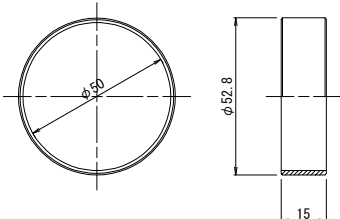
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(四段目)	9.000	5.000	0.200	135	14.200	4×φ12.7mm	2	28.400	454.95

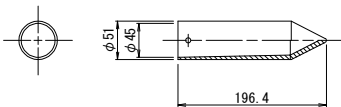
星型スペーサー S=1:2.5



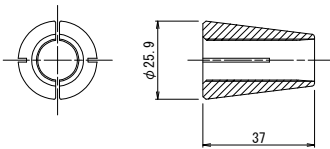
結束リング S=1:2.5



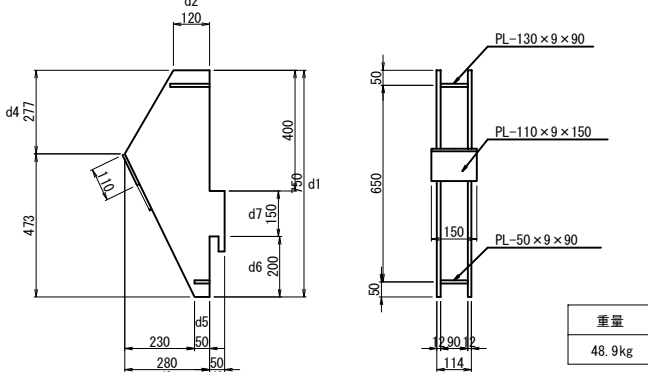
パイロットキャップ S=1:10



クサビ S=1:2.5
(12.7mm用)



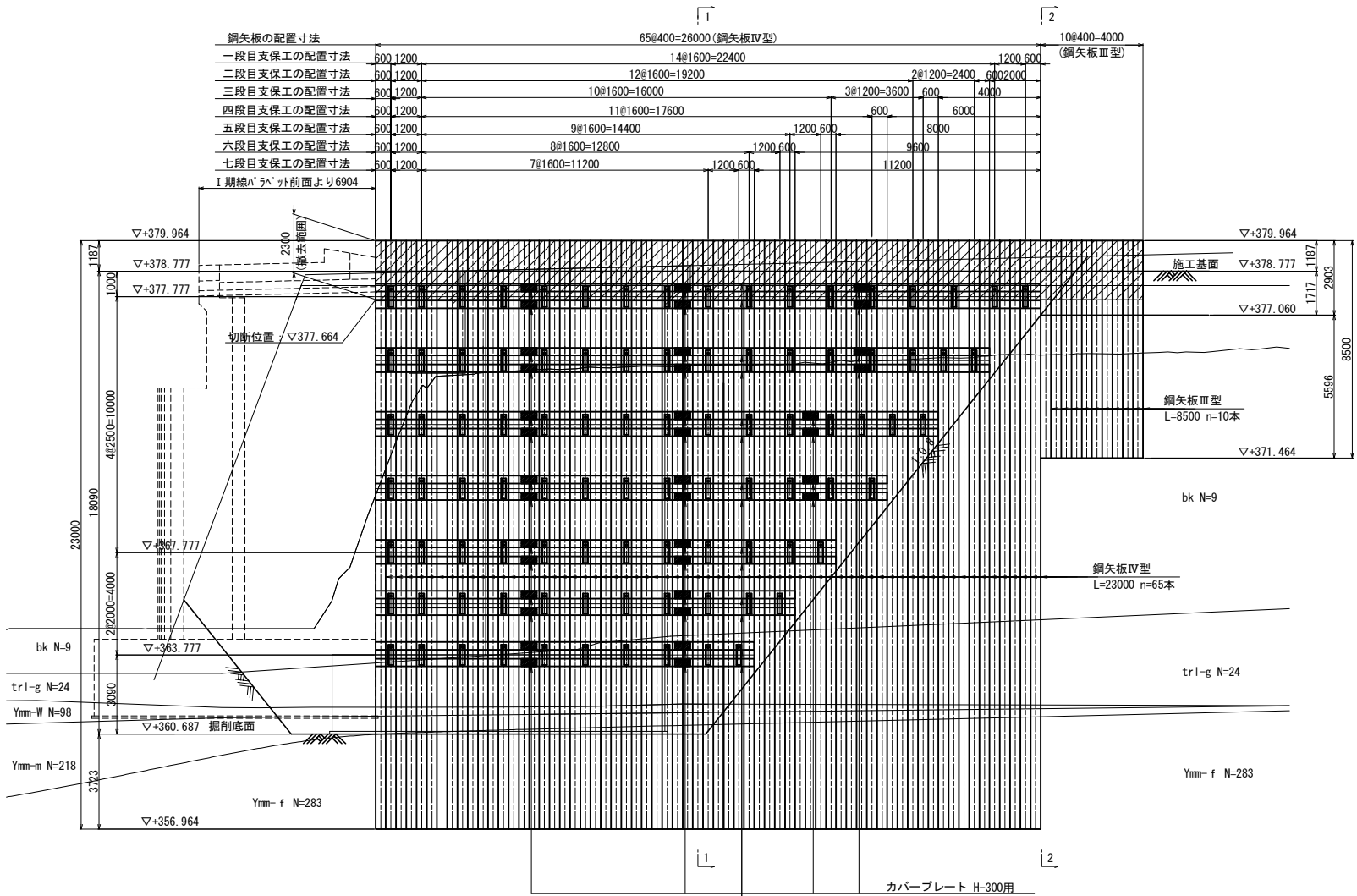
台座金物 S=1:25



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

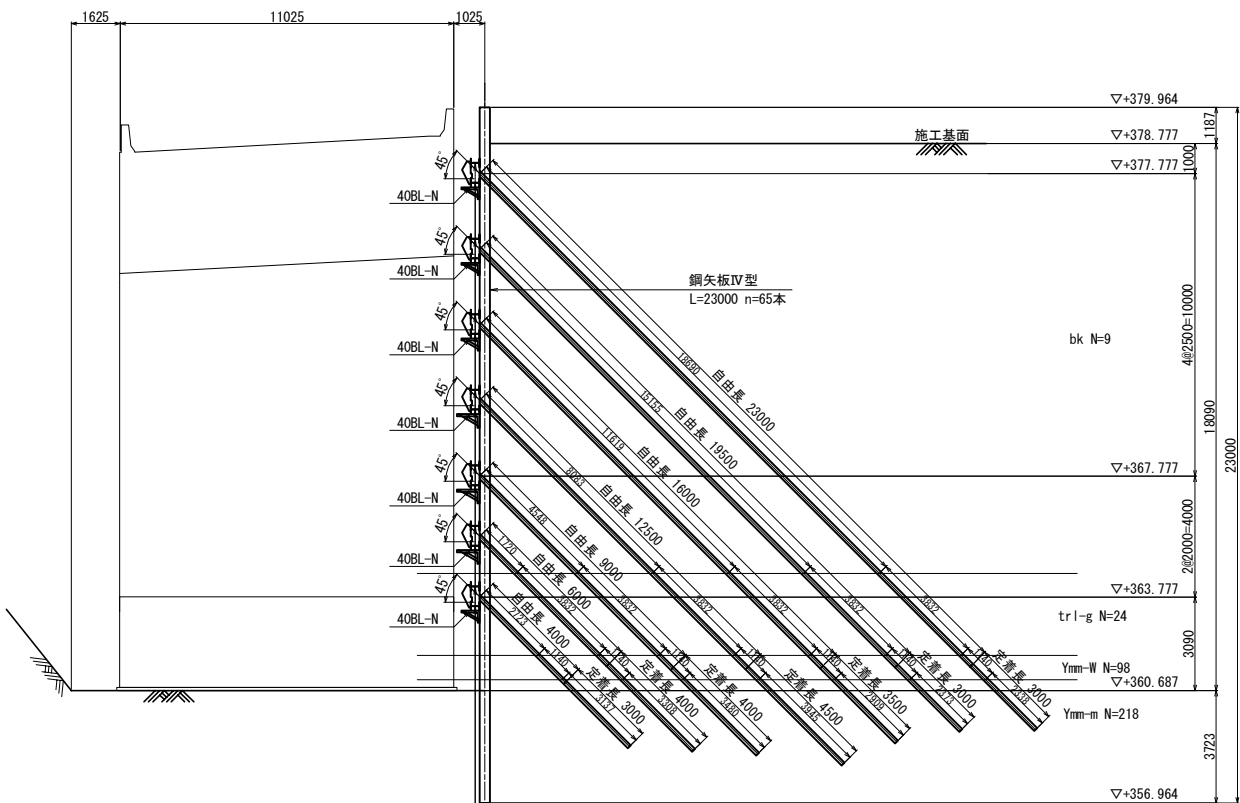
側面図

構造物掘削 特殊部 E 2



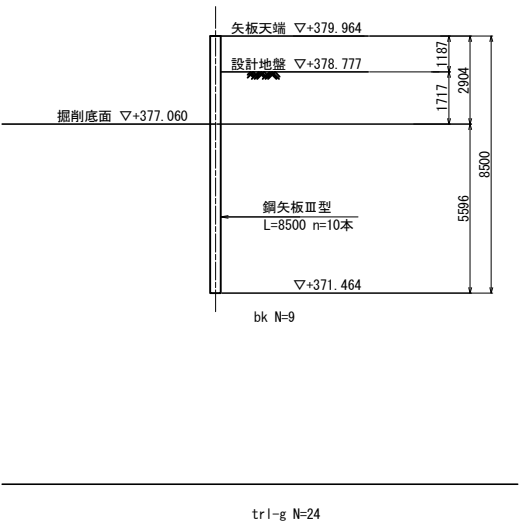
断面図

(1 - 1)



断面図

(2 - 2)

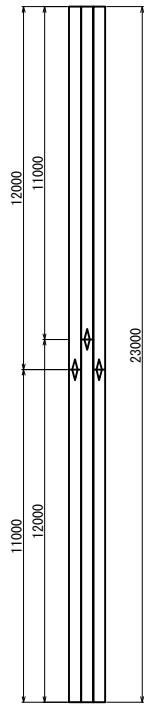


腹起し材 (一段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=26.000m 2本
(二段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=24.000m 2本
(三段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=22.000m 2本
(四段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=20.000m 2本
(五段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=18.000m 2本
(六段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=16.400m 2本
(七段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=14.800m 2本

腹起し材 (一段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=26.000m 2本
(二段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=24.000m 2本
(三段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=22.000m 2本
(四段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=20.000m 2本
(五段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=18.000m 2本
(六段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=16.400m 2本
(七段目) 2H-300×300×10×15 (SS400 加工材)
L=14.800m 2本

継手配置図

S=1:200



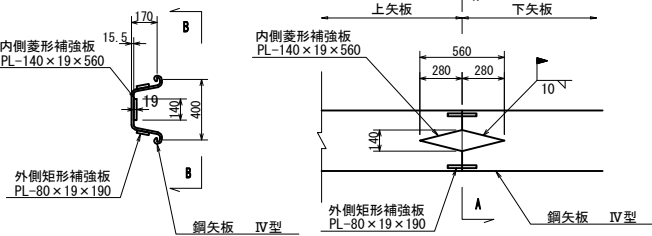
鋼矢板取付け詳細図

A-A断面図

s=1:40

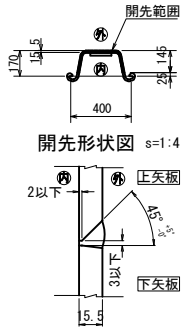
B-B断面図

s=1:40



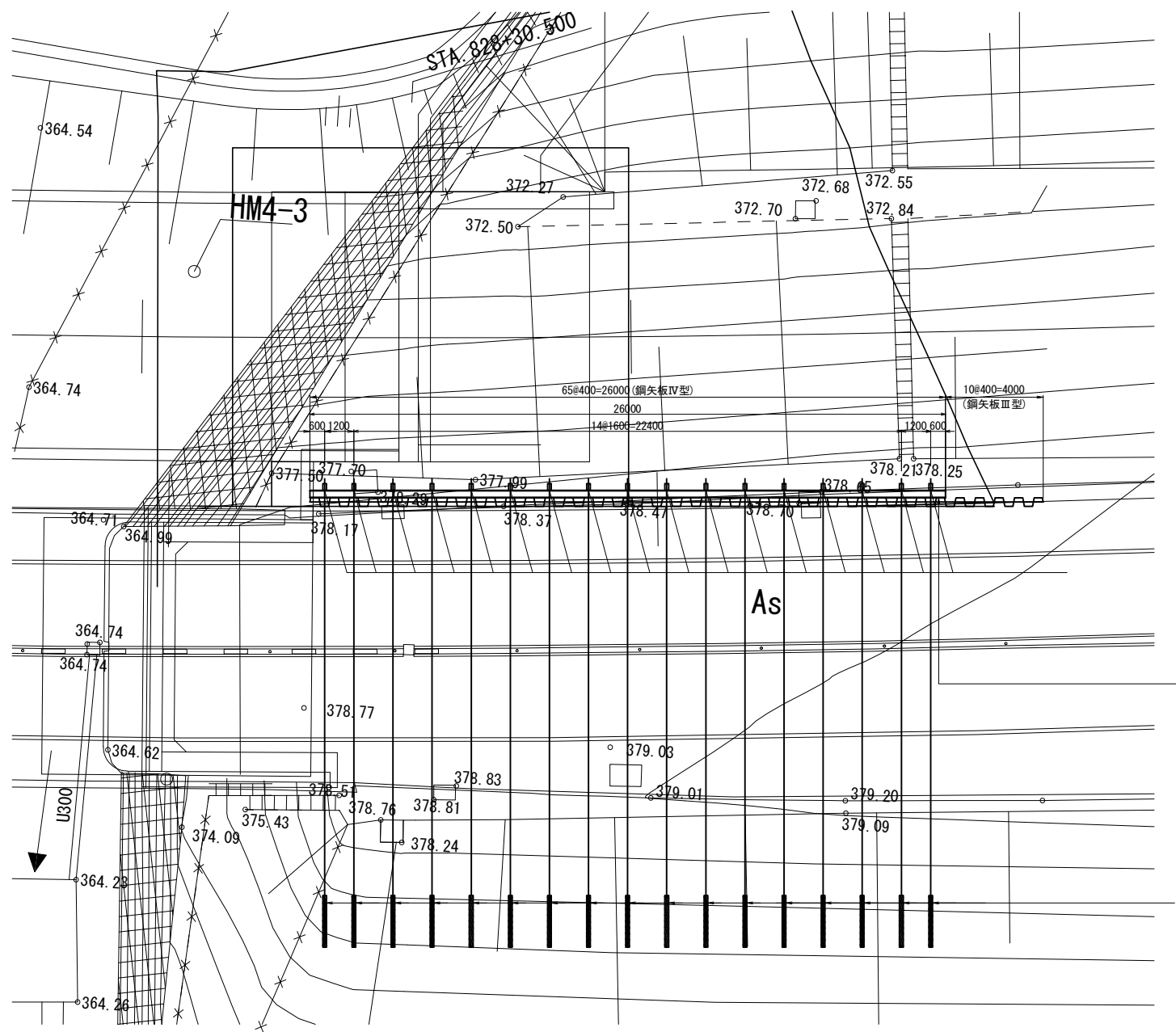
開先加工範囲図

s=1:40

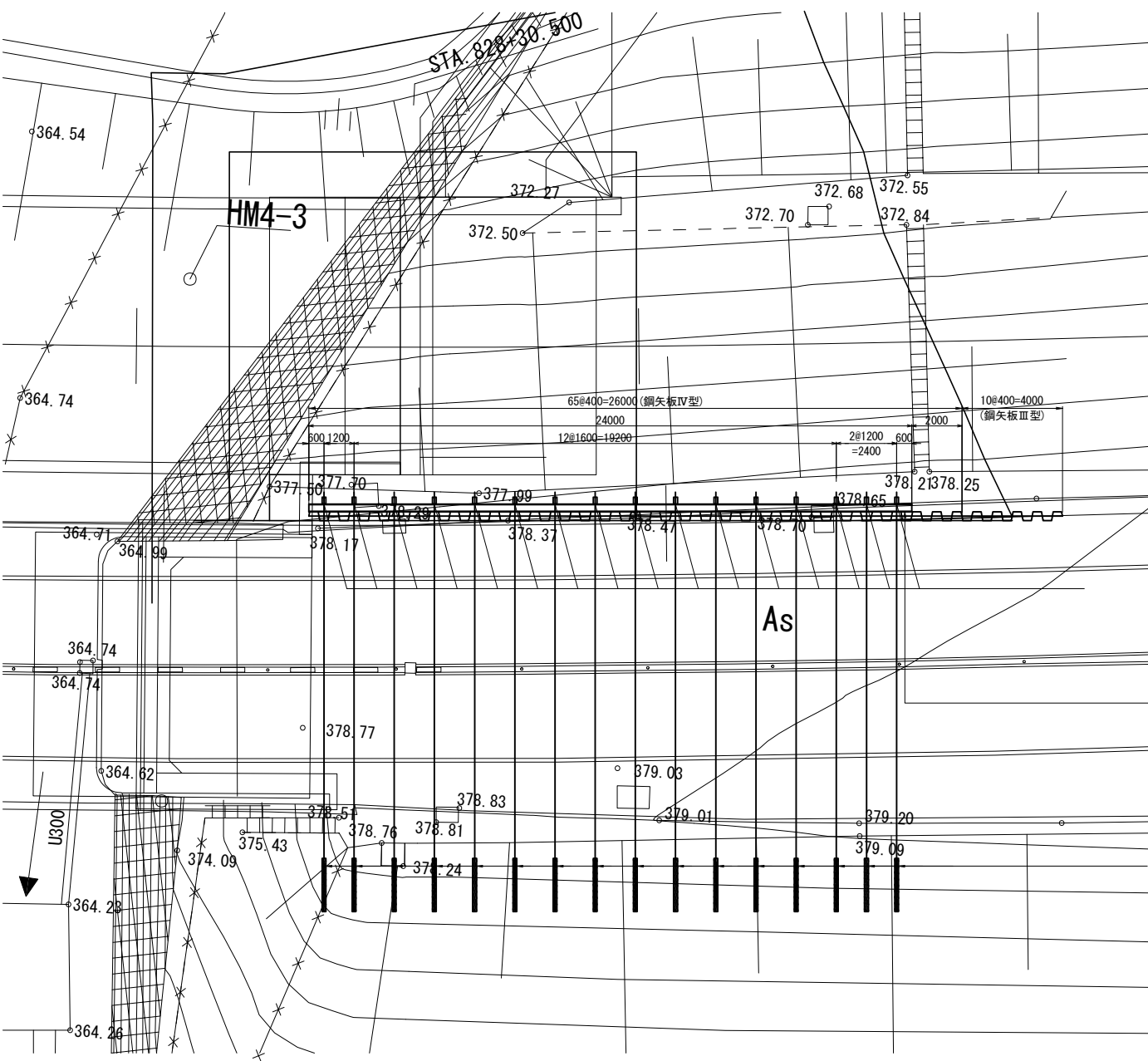


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図（一段目）

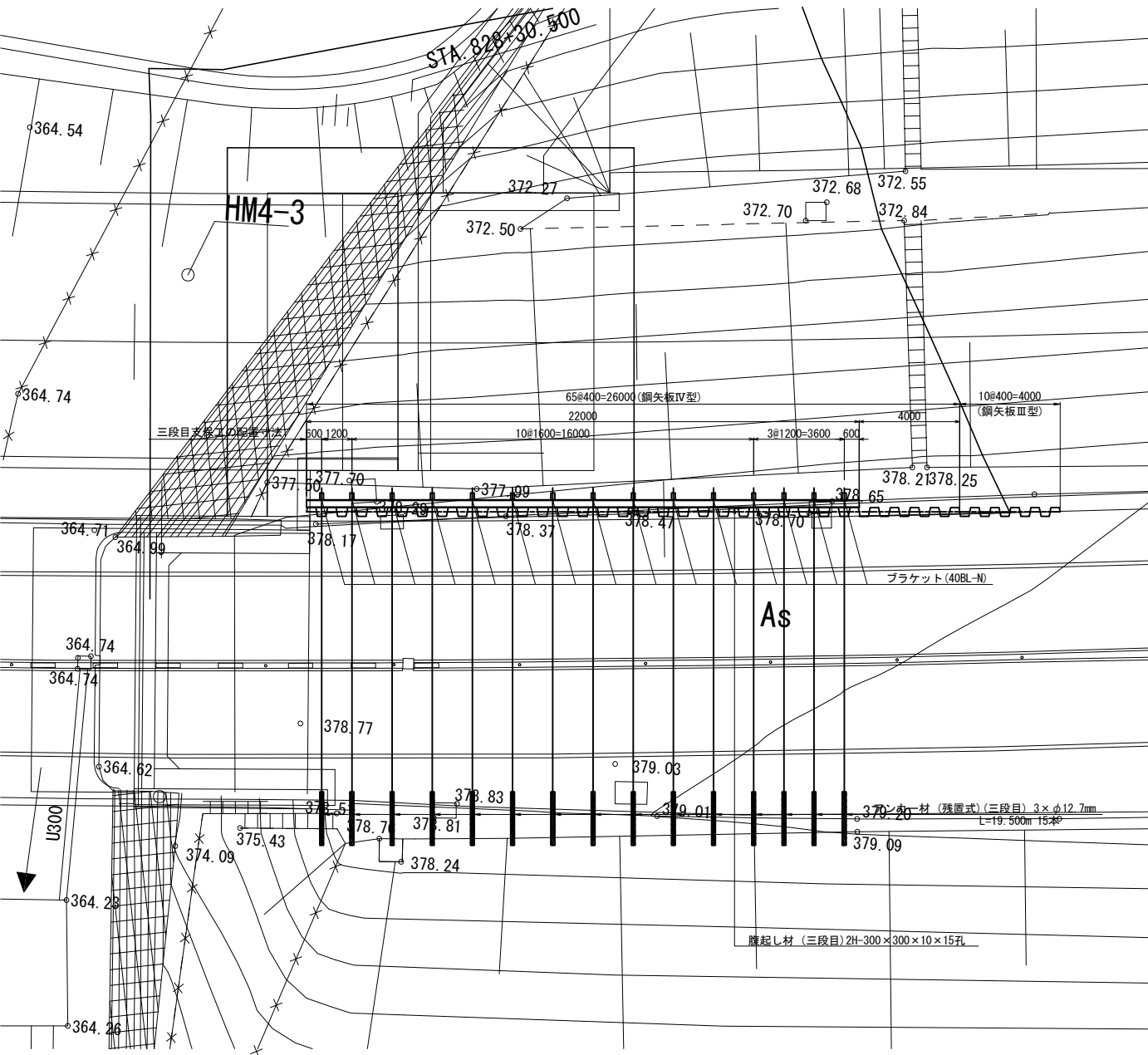


平面図（二段目）

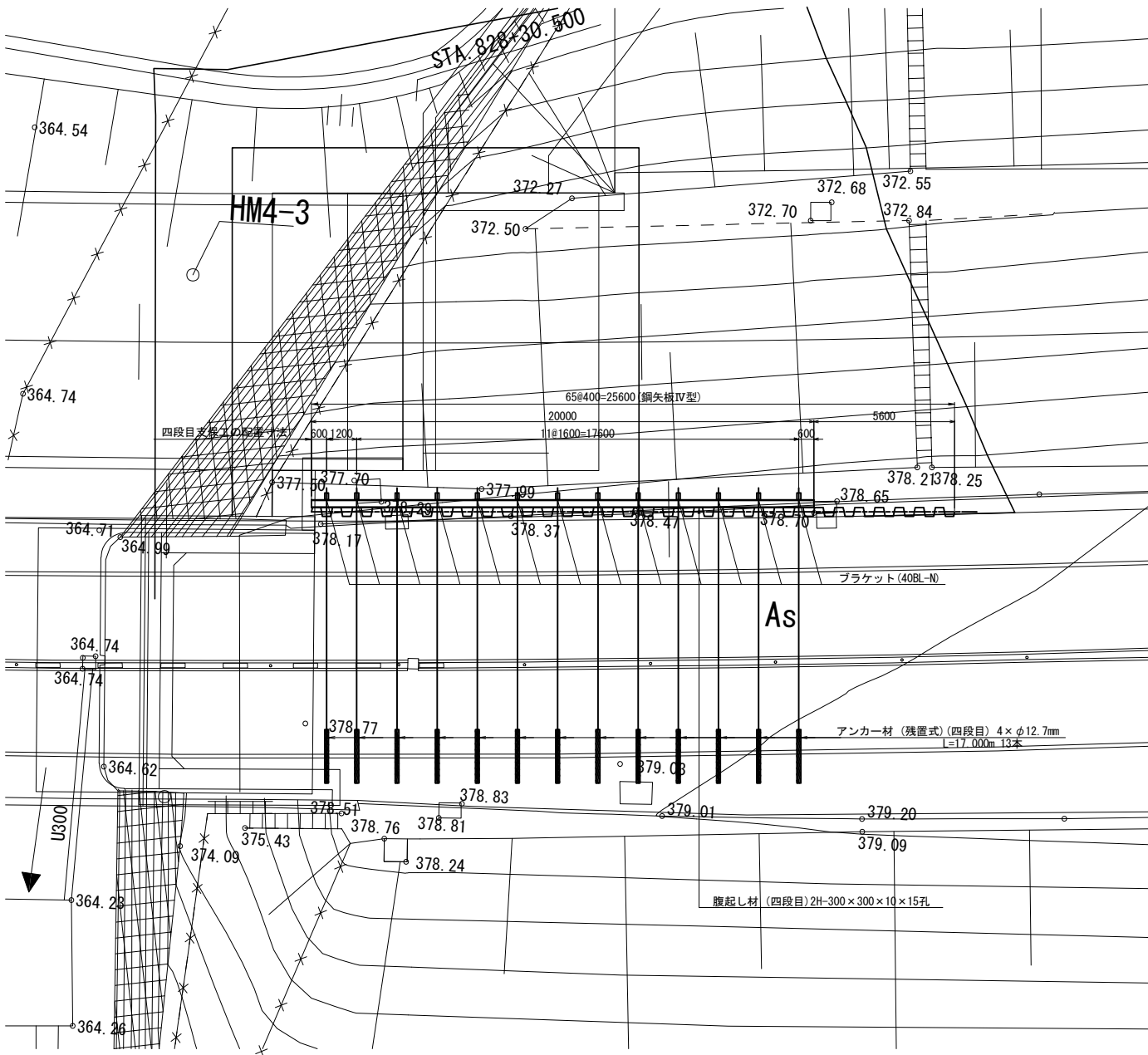


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図(三段目)

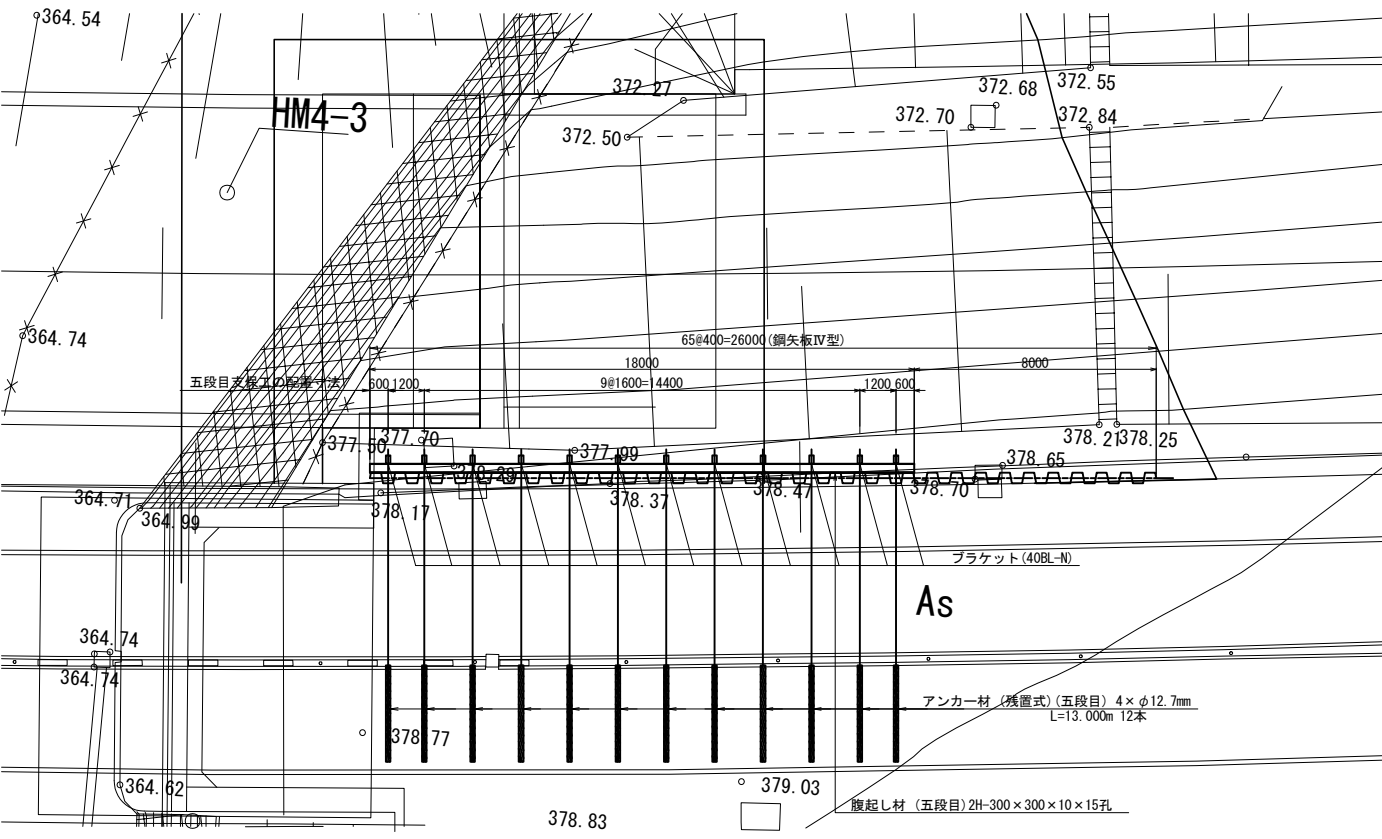


平面図(四段目)

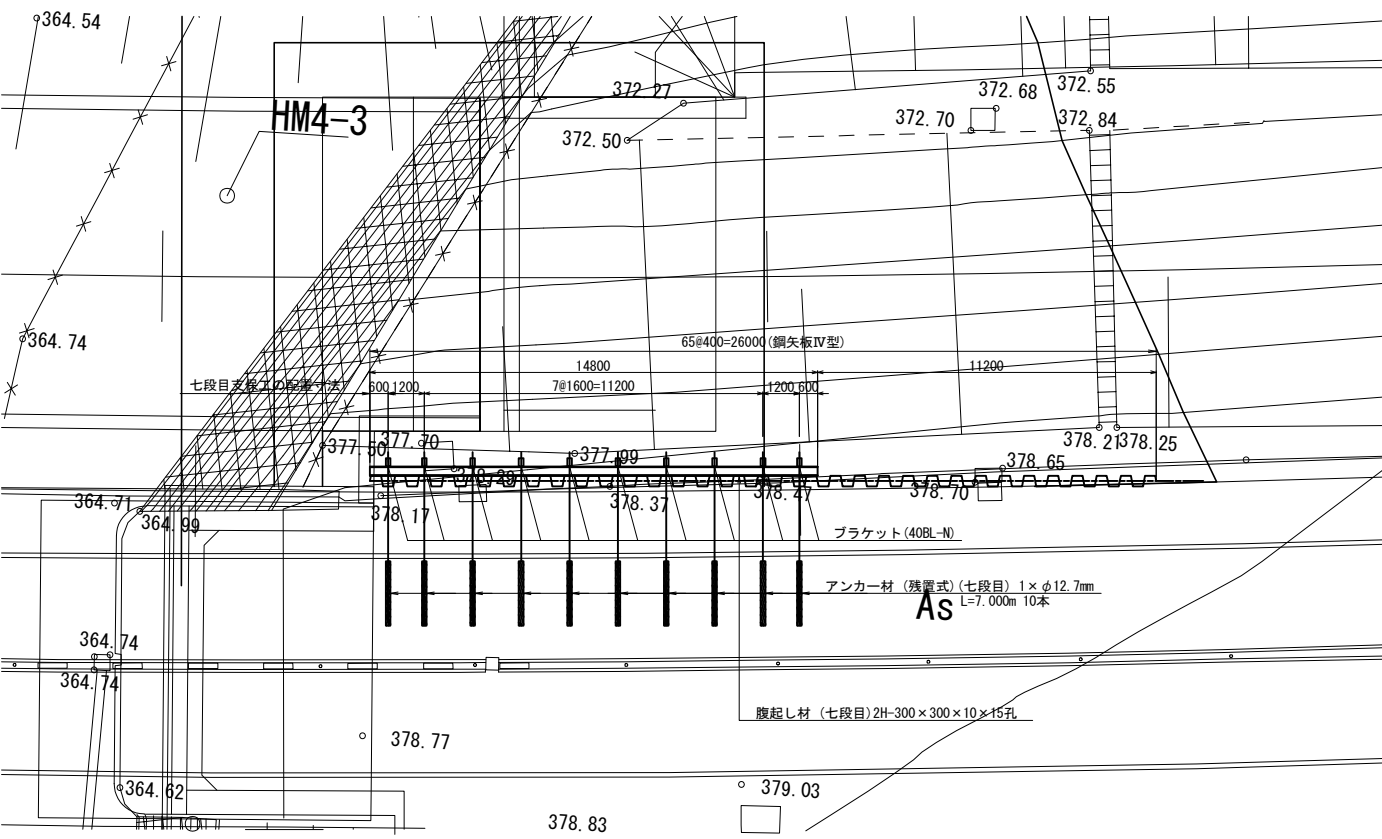


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 3）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

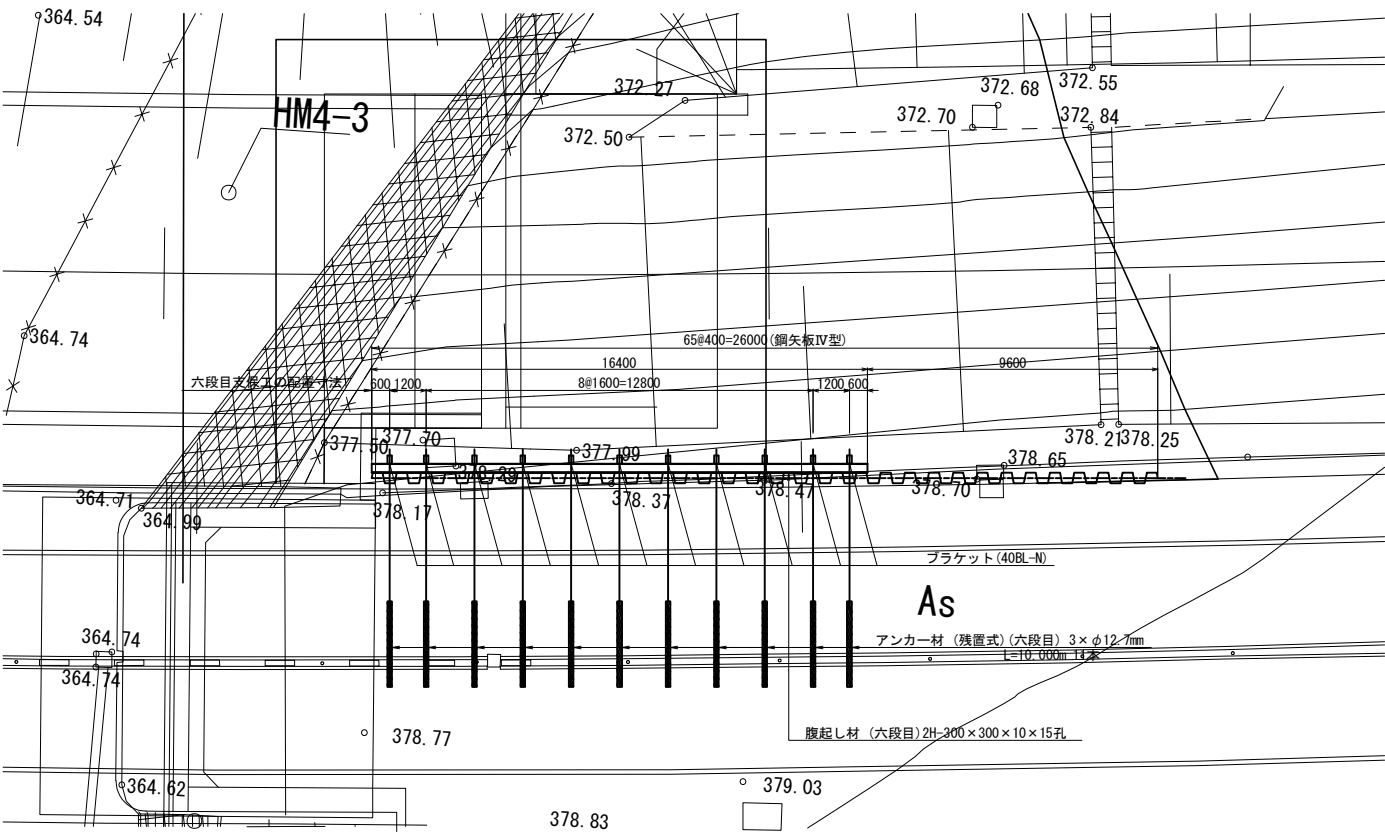
平面図(五段目)



平面図(七段目)



平面図(六段目)



材料表

項目		細目	単位	数量
腹起し	H-300 x 300 x 10 x 15 孔	L=26000	本	2
		L=24000	本	2
		L=22000	本	2
		L=20000	本	2
		L=18000	本	2
		L=16400	本	2
		L=14800	本	2
ブラケット	L-65 x 65 x 6	L=1650	本	94
台座	鋼製		組	94
カバープレート	H-300用		組	72

数量表

工種	項目	単位	合計	摘要
鋼矢板Ⅳ型 鋼矢板Ⅲ型	最大地盤N値 283	11.0m	枚	65 鋼矢板Ⅳ型
	9	12.0m	枚	65 鋼矢板Ⅳ型
		8.5m	枚	10 鋼矢板Ⅲ型
	打込み	23.0m	枚	65 継施工:1
ガス切断	鋼矢板Ⅲ型	L=2.3m	箇所	10
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.3m	箇所	65
スクラップ	鋼矢板Ⅲ型	L=2.3m	t	1.380
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.3m	t	11.377
継施工	PL-140 x 19 x 560		t	0.380
	PL-80 x 19 x 190		t	0.295
腹起し	H-300 x 300 x 10 x 15 孔		t	28.240
ブラケット	L-65 x 65 x 6		t	0.846
仮設アンカー (残置式)	1 x φ12.7mm	26.0m	本	17
	2 x φ12.7mm	22.5m	本	16
	3 x φ12.7mm	19.5m	本	15
	4 x φ12.7mm	17.0m	本	13
	4 x φ12.7mm	13.0m	本	12
	3 x φ12.7mm	10.0m	本	11
	1 x φ12.7mm	7.0m	本	10
台座	鋼製		t	4.597
カバープレート	H-300用		t	1.224

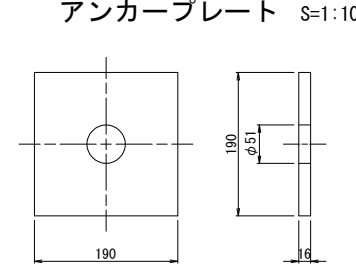
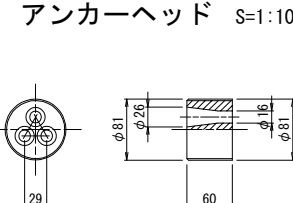
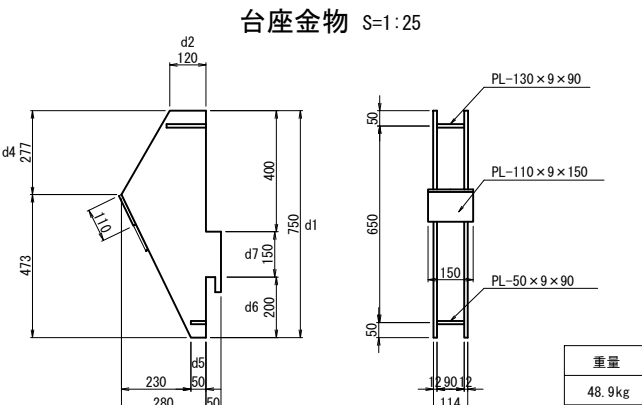
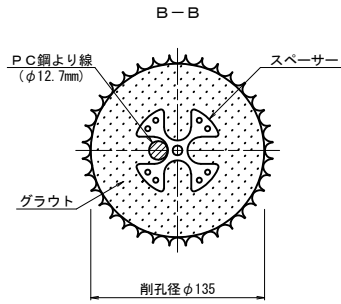
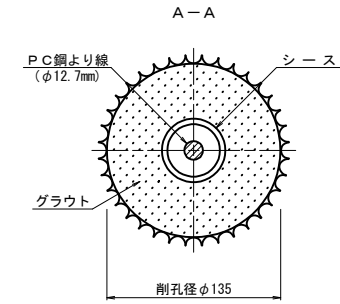
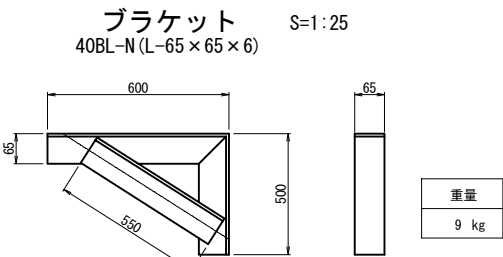
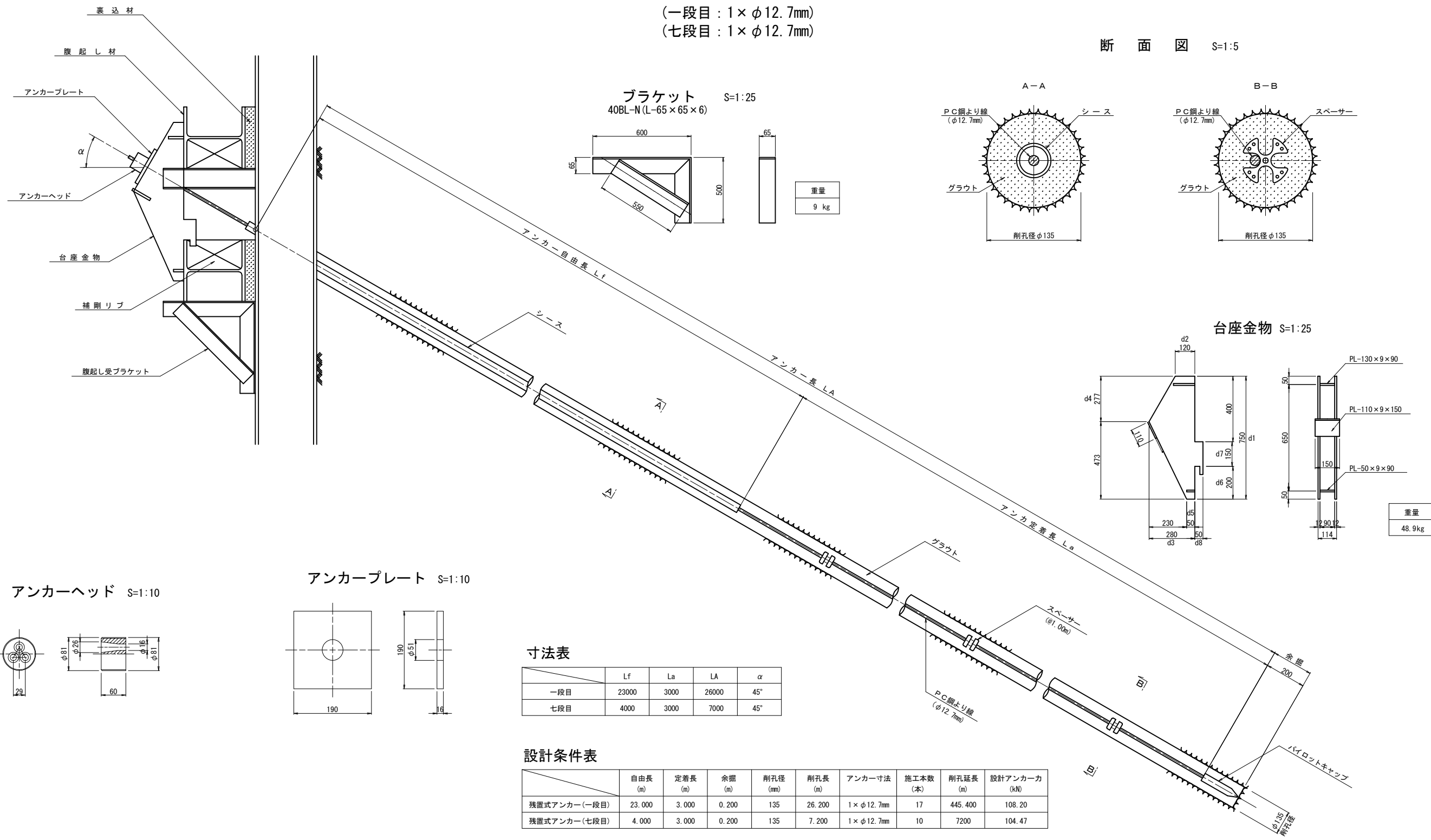
数量表

工種	項目	単位	合計	摘要
削孔長 (φ135)	礫質土	22.5m	本	17
		19.0m	本	16
		15.5m	本	15
		11.9m	本	13
		8.4m	本	12
	軟岩	5.6m	本	11
		2.7m	本	10
		3.5m	本	17
		3.5m	本	16
		4.0m	本	15
注 入	φ135	5.1m	本	13
		4.6m	本	12
		4.4m	本	11
		4.3m	本	10
		26.0m	本	17
		22.5m	本	16
		19.5m	本	15
		17.0m	本	13
		13.0m	本	12
		10.0m	本	11
		7.0m	本	10

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(一段目：1×φ12.7mm)
(七段目：1×φ12.7mm)

断面図 S=1:5

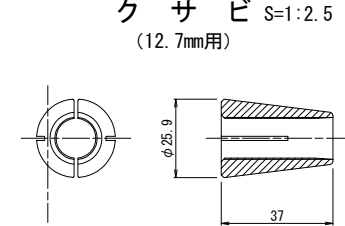
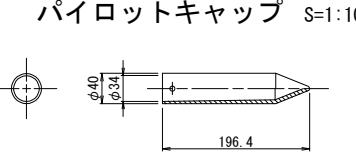
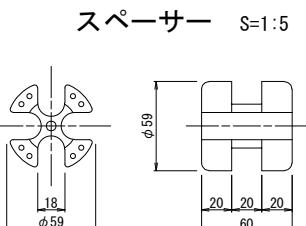


寸法表

	L_f	L_a	L_A	α
一段目	23000	3000	26000	45°
七段目	4000	3000	7000	45°

設計条件表

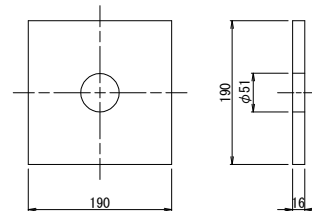
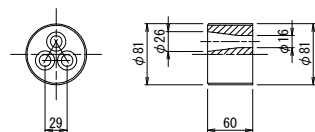
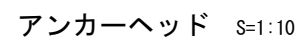
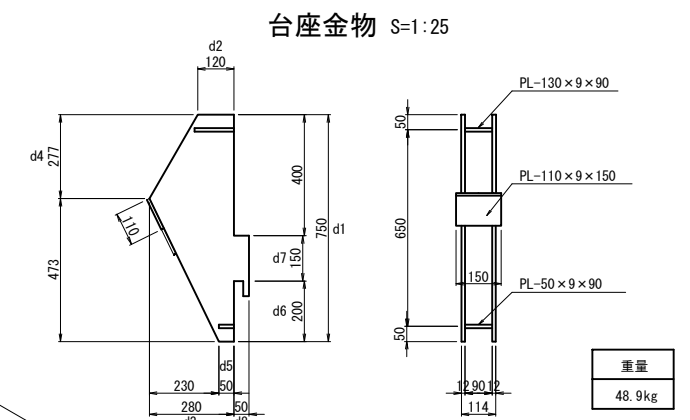
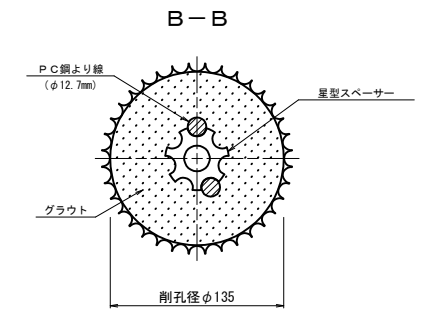
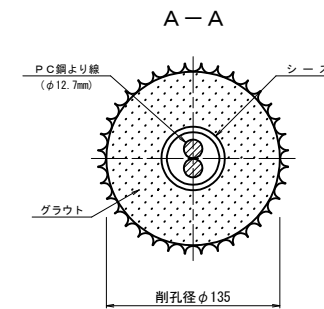
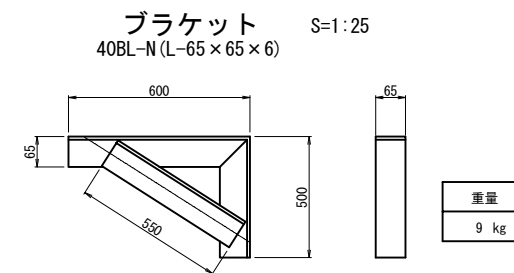
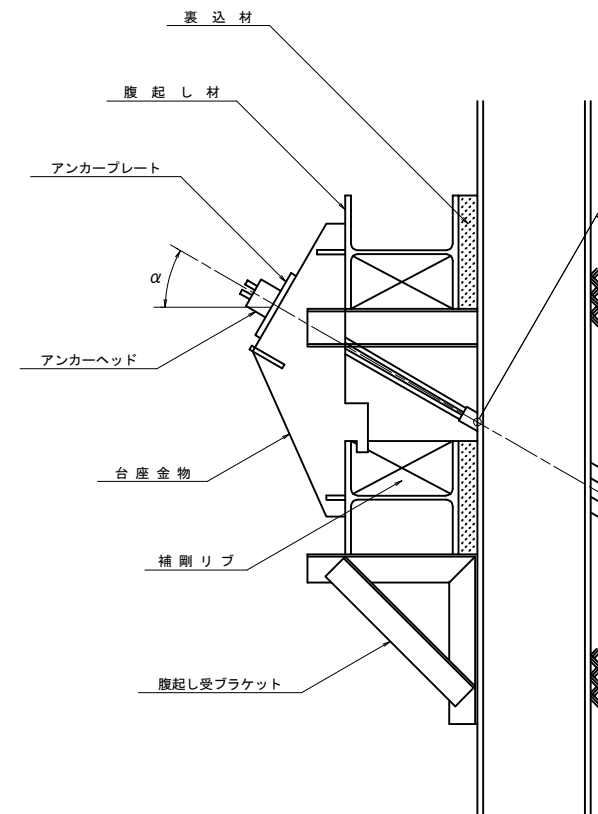
	自由長 (m)	定着長 (m)	余量 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(一段目)	23.000	3.000	0.200	135	26.200	1×φ12.7mm	17	445.400	108.20
残置式アンカー(七段目)	4.000	3.000	0.200	135	7.200	1×φ12.7mm	10	7200	104.47



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(二段目 : $2 \times \phi 12.7\text{mm}$)

断面図 S=1:5

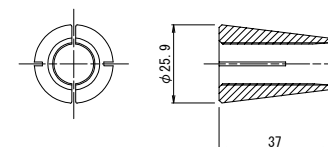
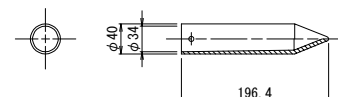
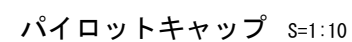
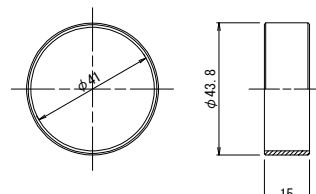
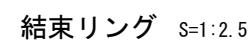
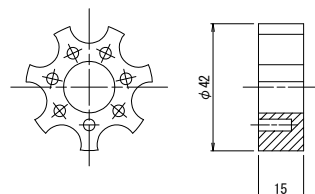
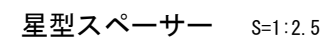


寸法表

	Lf	La	LA	α
二段目	19500	3000	22500	45°

設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余堀 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(二段目)	19.500	3.000	0.200	135	22.700	2×φ12.7mm	16	263.200	186.29



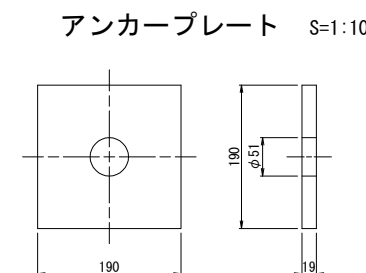
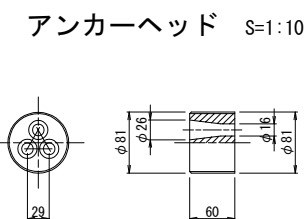
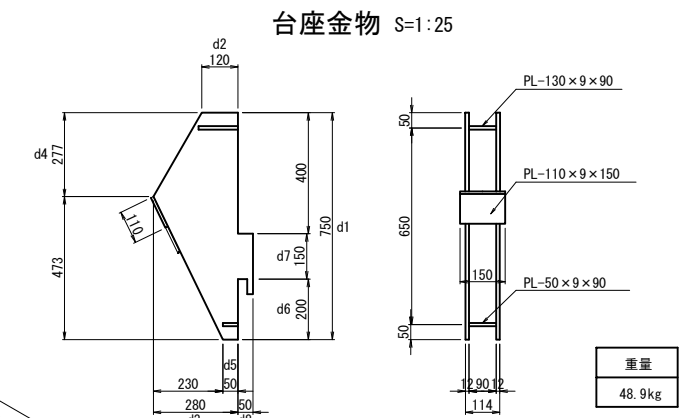
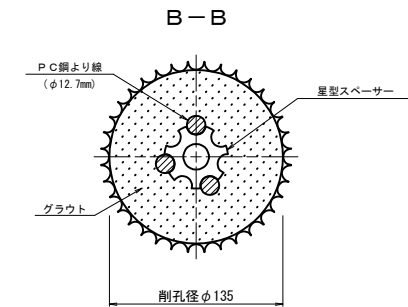
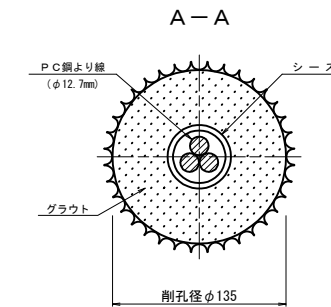
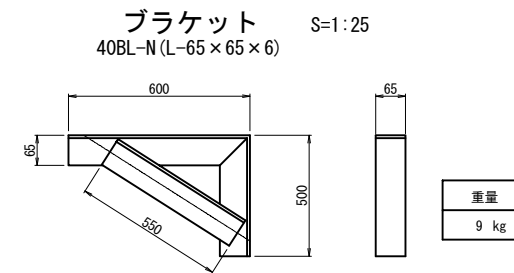
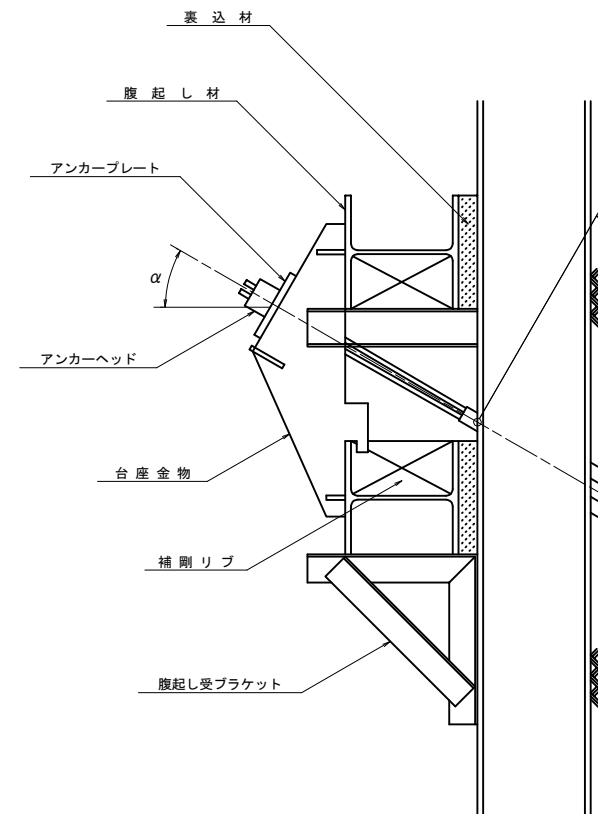
道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流鶴川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋樑構造研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図

(三段目 : $3 \times \phi 12.7\text{mm}$)

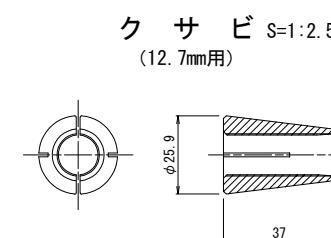
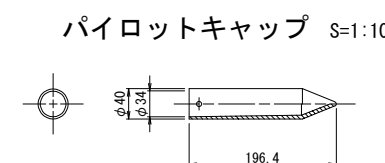
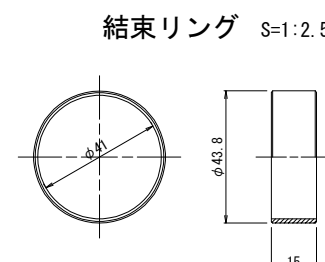
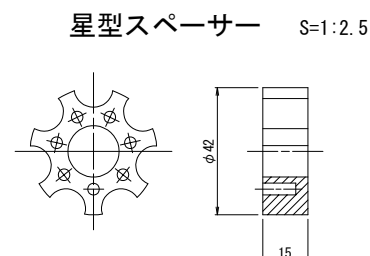
(六段目 : $3 \times \phi 12.7\text{mm}$)

断面図 S=1:5



	寸法表			
	Lf	La	LA	α
三段目	16000	3500	19500	45°
六段目	6000	4000	10000	45°

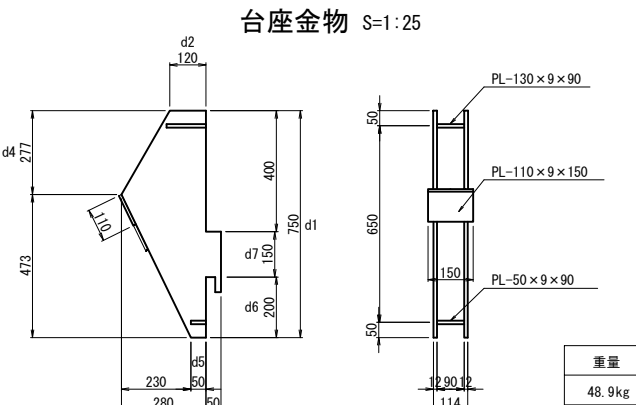
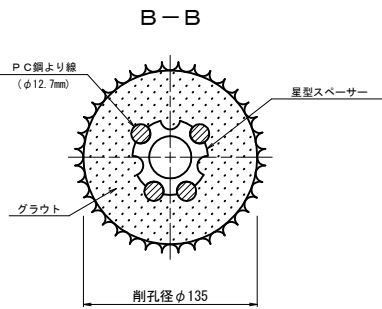
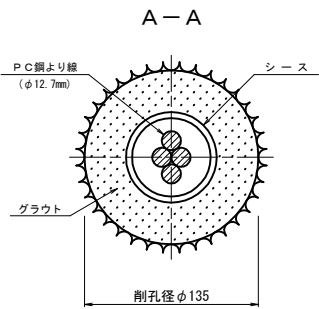
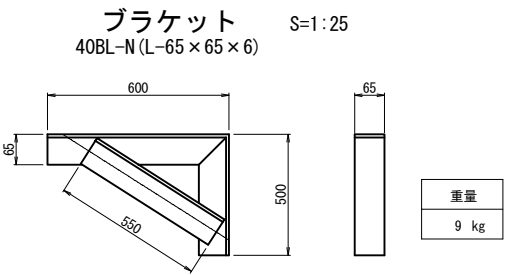
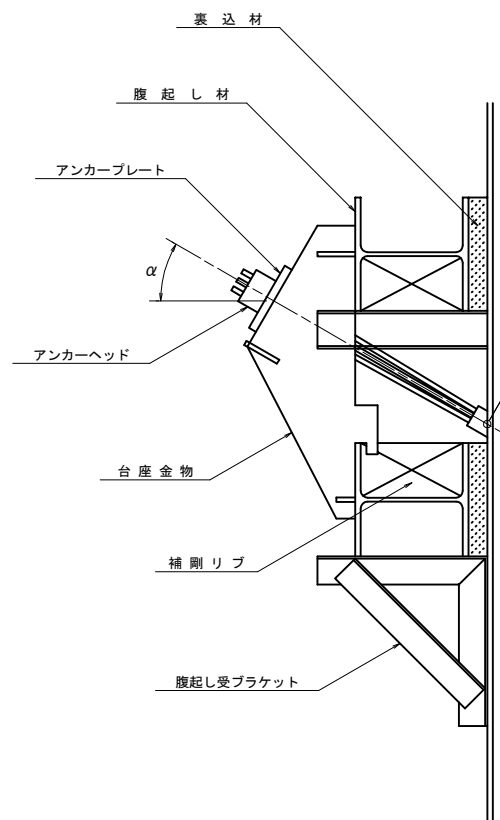
設計条件表	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	剛孔径 (mm)	剛孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	剛孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(三段目)	16.000	3.500	0.200	135	19.700	3×φ12.7mm	15	295.500	293.84
残置式アンカー(六段目)	6.000	4.000	0.200	135	10.200	3×φ12.7mm	11	112.200	342.38



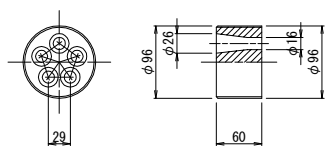
道東自動車道 占冠地区下道工事			
図面の種類		本流鶴川第四橋（下り線） A 2 橋台土留の工機台図（その 7）	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(四段目：4×φ12.7mm)
(五段目：4×φ12.7mm)

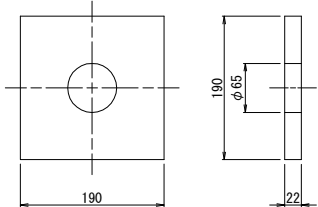
断面図 S=1:5



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



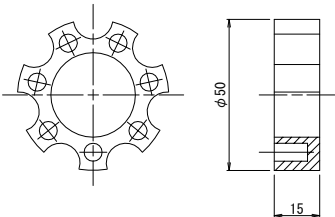
寸法表

	Lf	La	LA	α
四段目	12500	4500	17000	45°
五段目	9000	4000	13000	45°

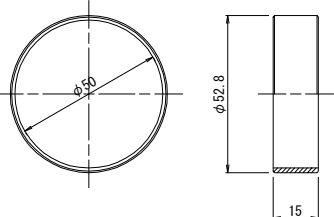
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(四段目)	12.500	4.500	0.200	135	17.200	4×φ12.7mm	13	223.600	429.76
残置式アンカー(五段目)	9.000	4.000	0.200	135	13.200	4×φ12.7mm	12	158.400	391.91

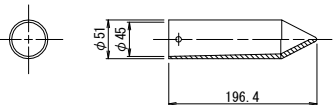
星型スペーサー S=1:2.5



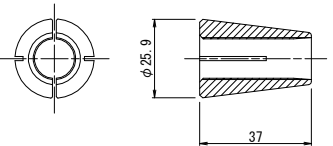
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



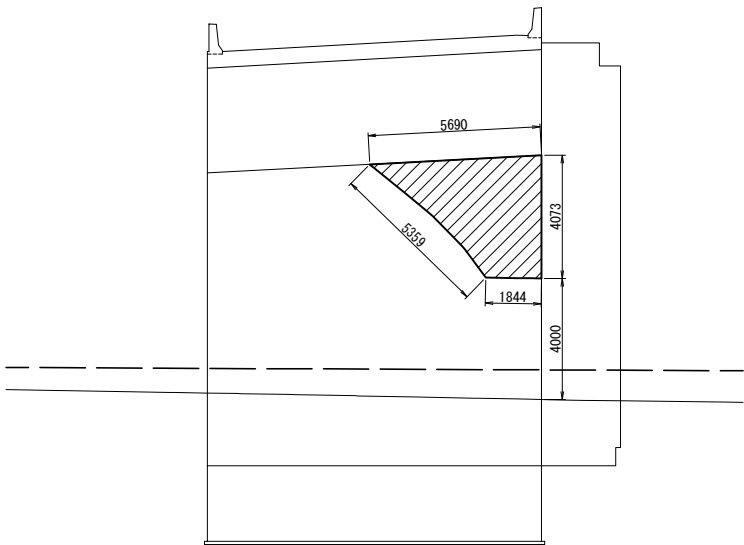
クサビ S=1:2.5
(12.7mm用)



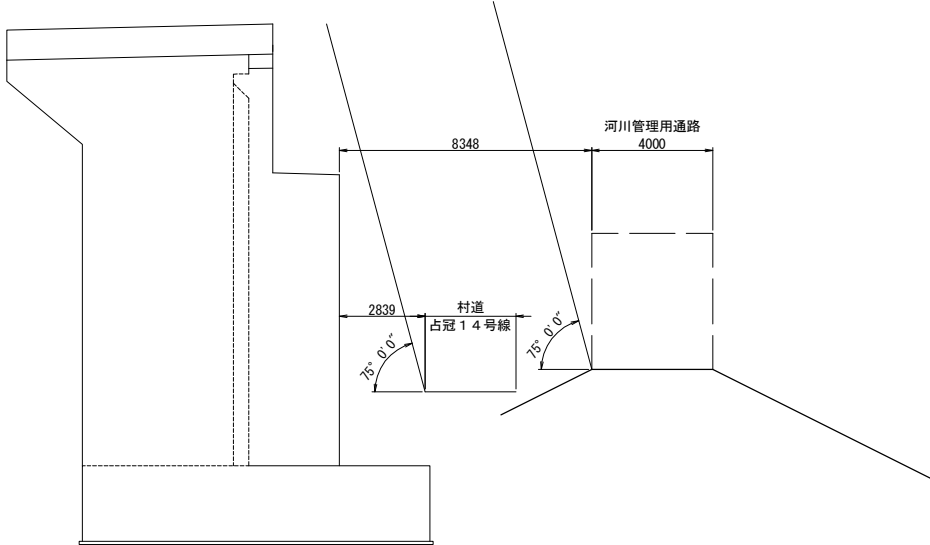
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第四橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

【A 1 橋台】

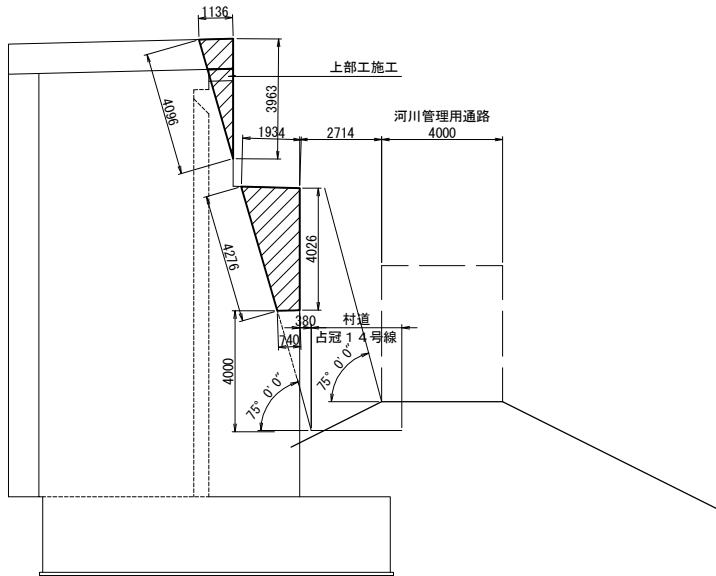
正面図（1-1）



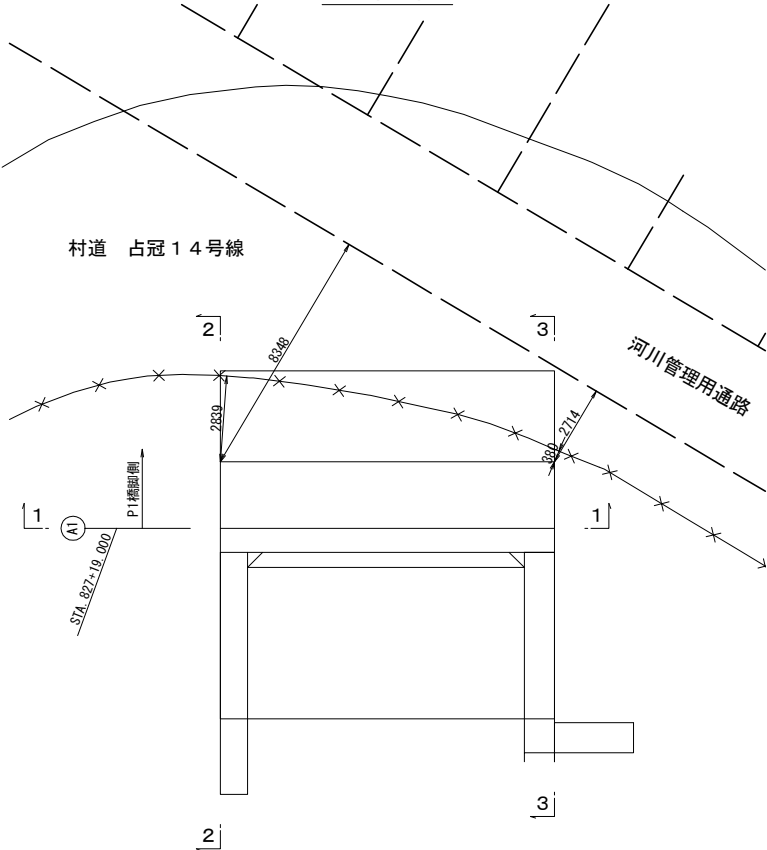
断面図（2-2）



断面図（3-3）




平面図



数量表

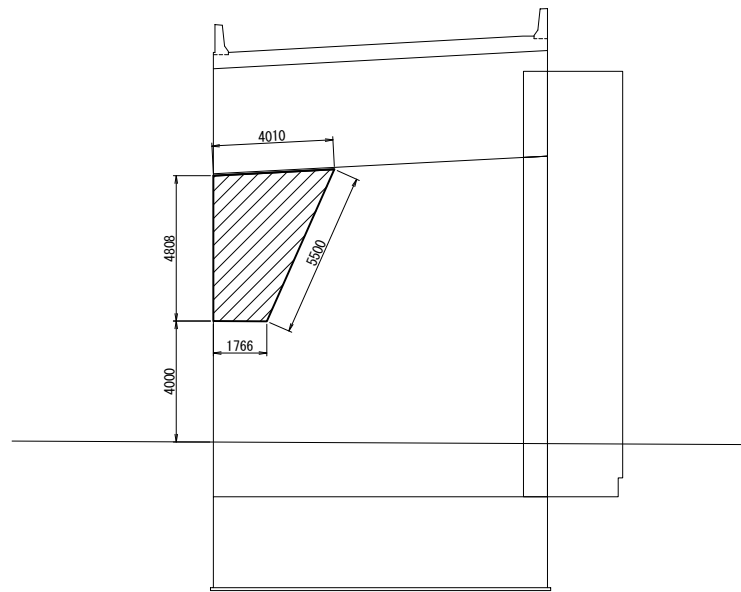
種 別	単位	数量
はく落防止対策工 A	m2	19.6

注) :  は、はく落防止範囲を表す。

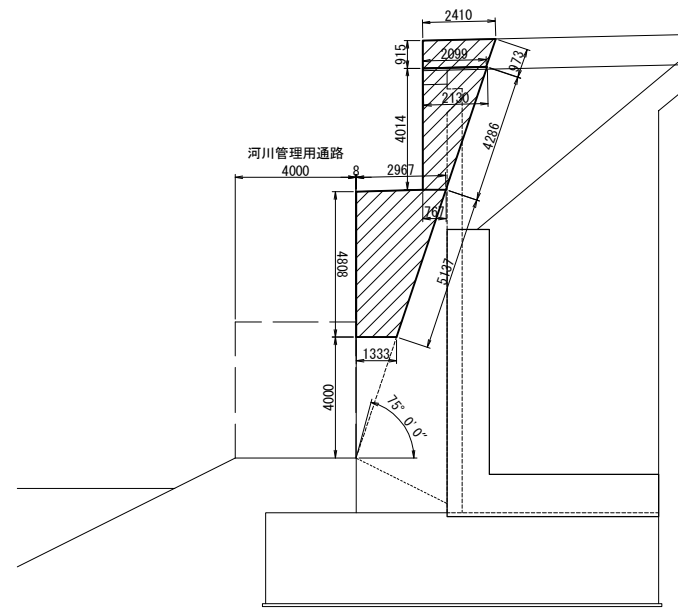
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第四橋（下り線） はく落防止対策工（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

【A 2 橋台】

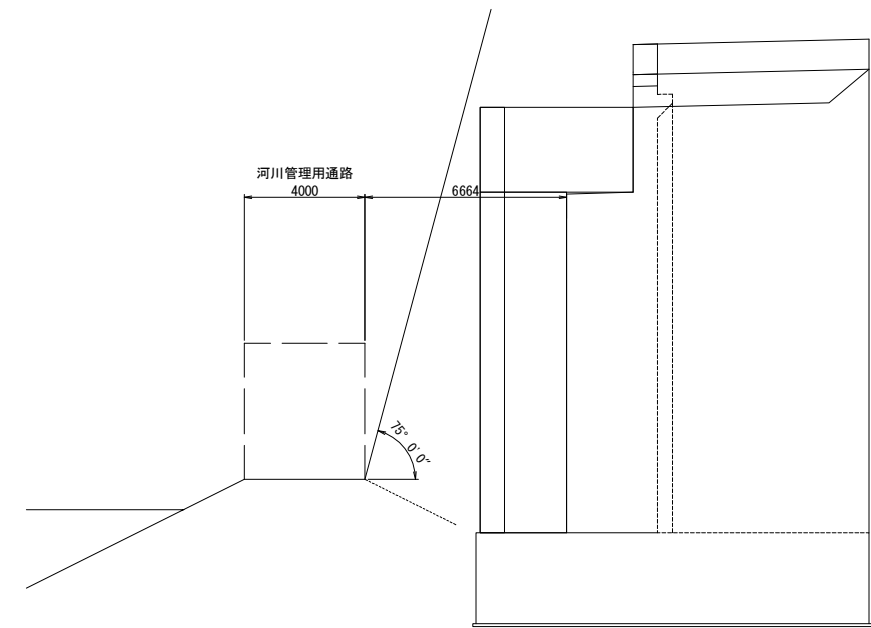
正面図(1-1)



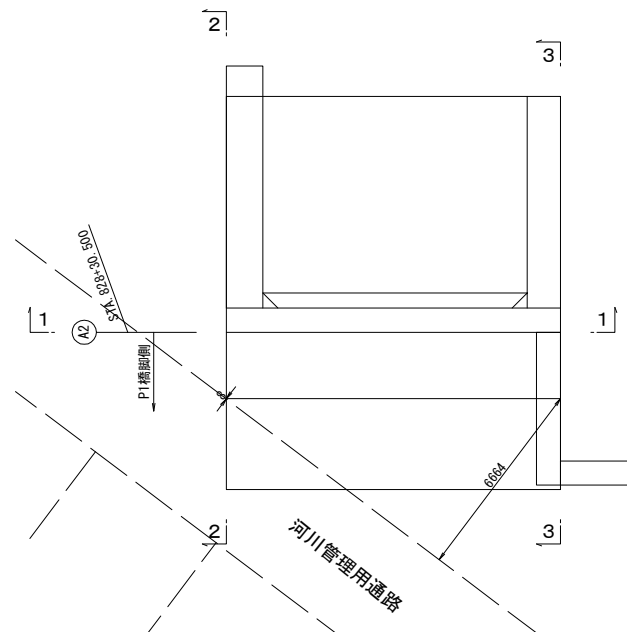
断面图(2-2)



断面図(3-3)



平面图



数量表

種 別	単位	数量
はく落防止対策工 A	m2	14.1

※ 2-2断面は、上部工事で施工予定

注): は、はく落防止範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流溝川第四橋（下り線） はく落防止対策工（その２）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		